

Shukujiri No.2 Site

宿尻第二遺跡

県道穴山バイパス建設に伴う

発掘調査報告書



2004

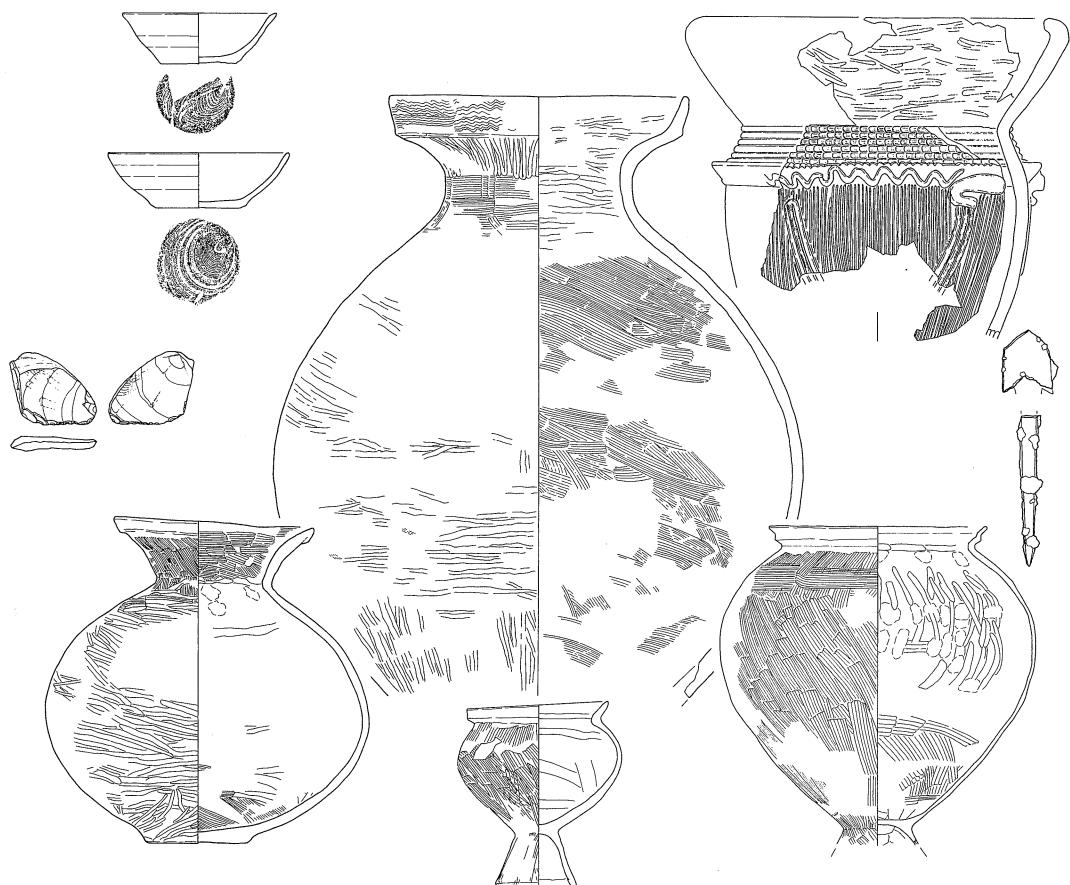
韮崎市教育委員会
峡北地域振興局

Shukujiri No.2 Site

宿尻第二遺跡

県道穴山バイパス建設に伴う

発掘調査報告書



序 文

韮崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡や関連のある武田八幡宮、願成寺、白山城跡や能見城跡があり、また治水遺構として勅使川旧堤防跡（将棋頭）など挙げ始めれば枚挙に暇のないほどあります。

このような中世以降の史跡もさることながら、中世以前の遺跡も数多く残っております。宿尻第2遺跡の所在する七里岩台地では、山梨県の考古学黎明期に調査され、博物館第一号をもつ坂井遺跡があります。近接する古墳時代の集落跡であります坂井南遺跡が1980年代に調査され、県内外から注目を集めています。宿尻第2遺跡も坂井南遺跡と同じく古墳時代の集落跡でありますが、遺跡の残りは類まれに良好であり、当時の建物の状況などに迫りうる資料が発掘調査の中で確認されています。

発掘調査地点は県道穴山バイパスとなり二度と見ることはできませんが、調査記録の集大成である本書により韮崎市の古墳時代の様子が浮かび上がるとともに、また問題点なども浮き彫りになることでしょう。それらについても当教育委員会では引き続き検討を加えていく所存であります。

遺跡の調査から本書の刊行が多くの方々のご理解とご協力の中で遅滞なく進みましたことをこの場をかりて感謝申し上げます。

韮崎市教育委員会
教育長 輿 石 薫

例 言

- 1 本書は県道穴山バイパス建設に伴い実施した韮崎市穴山町地内に所在する宿尻第2遺跡発掘調査報告書である。発掘調査は平成14年度に、整理作業を平成15年度に実施した。
- 2 発掘調査ならびに整理作業は峡北地域振興局と韮崎市教育委員会との間に協定を締結し、韮崎市教育委員会が事業を実施した。
- 3 本書の編集は閔間俊明がおこなった。執筆は第4章第1節は株式会社パリノ・サーヴェイが、同章第2節は河西学氏（山梨文化財研究所）が、同章第3節は内山幸子氏（日本学術振興会特別研究員）が、その他を閔間がおこなった。
- 4 発掘調査・整理作業に次の業務を委託した。
航空写真撮影・測量：（株）フジテクノ
炭化種実等分析：（株）パリノ・サーヴェイ
胎土分析：（財）山梨文化財研究所
- 5 本書で使用した地図は国土交通省国土地理院発行の地形図（1:25,000・1:50,000）、地勢図（1:200,000）、韮崎市発行の都市計画図（1:2,500・1:5,000）、韮崎市所有の地籍図（1:4,000）を原図に使用している。
- 6 本調査に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会において永久保管されている。
- 7 発掘調査から本報告書刊行までの間、以下の諸氏・諸機関から多大なご助言、ご教示、ご配慮を

凡 要

- 1 遺跡全体図をはじめとする測量データのX・Y座標数値は、平面直角第8系に基づく値である。各遺構平面図中の北を示す方位は、すべて座標上の北を示す。磁針方位は西に約6度傾く。
- 2 遺構および遺物の縮尺は原則として次のとおりである。
遺構 堪穴住居跡（使用時） 1:60
堪穴住居跡（完掘時・遺物ドット図） 1:90
土坑・炉・柱穴 1:60、1:40又は1:20
溝・全体図 任意
- 3 遺物 完形・図上復元土器 1:4又は1:6
小型石器 2:3
大型石器 1:3又は1:4

賜った。感謝申し上げたい。（順不同・敬称略）
石神孝子・大山祐喜・小野正文・小林健二・佐野隆・長谷川誠・平野修・村松佳幸・森原明廣・渡辺康彦・峡北地域振興局道路課・山梨県教育委員会学術文化財課・山梨県埋蔵文化財センター

8 組織 韮崎市教育委員会
教育課 生涯学習推進室
教育長 輿石 薫
課長 新藤 稔
室長 横森武千代（前任 長野栄太）
リーダー 山下孝司
調査担当 閔間俊明・秋山圭子（H14年度退職）
調査参加者（順不同・敬称略）阿部由美子・阿部恵美子・阿部純一・石原ひろみ・上野理江・上野慎司・内山こずえ・漆原弘子・小野初美・加藤歩美・木内純子・輿石翔一・土屋啓子・中島聰・深沢真知子・藤原和美・三井博貴・功刀貴也・功刀勇樹・堀内裕司・長田愛子・片山和江・斎藤浪江・嶋津佐代子・比奈田可つゑ・細川二三子・守屋道子・守屋真弓・山下千代子
整理作業参加者（順不同・敬称略）阿部由美子・阿部恵美子・阿部純一・石原ひろみ・上野理江・上野慎司・内山こずえ・漆原弘子・小野初美・加藤歩美・木内純子・輿石翔一・土屋啓子・中島聰・深沢真知子・藤原和美・三井博貴

例

- その他 任意
- 3 堪穴住居跡内遺物出土状況図のポイントは遺構内の層位を示す。▲：直上層、■：上層、△：下層、★：床面直上、○：付属施設覆土である。
 - 4 堪穴住居跡の一点破線は堅緻な貼床範囲を示す。ただし、全面に渡る場合にはあえて図示していない。
 - 5 やや薄いスクリントーンは炉もしくは炉内の赤化範囲を示し、濃いものは炭化物を多量に含む土壤範囲を示す。
 - 6 掘立柱建物跡の柱相関関係図のラインは推定線である。

目 次

序 文		
例 言		
凡 例		
目 次		
第 1 章	発掘調査の経緯と概要	1
	第 1 節 調査経過	1
	第 2 節 調査概要	1
第 2 章	遺跡の環境	1
	第 1 節 自然環境	1
	第 2 節 歴史環境	1
第 3 章	発掘された遺構と遺物	7
	第 1 節 壺穴住居跡	7
	第 2 節 掘立柱建物跡	14
	第 3 節 土坑	16
	第 4 節 溝	17
	第 5 節 遺構外の遺物	18
第 4 章	自然科学分析	110
	第 1 節 2 号壺穴住居跡内出土の炭化物	110
	第 2 節 土師器の胎土分析	111
	第 3 節 動物遺体について	116
第 5 章	成果と課題	118
	第 1 節 古墳時代前期の遺物について	118
	第 2 節 古墳時代前期の集落様相	122
	第 3 節 胡桃と桃の種子について	123

第1章 発掘調査の経緯と概要

第1節 調査経過

平成13年度に峠北地域振興局から主要地方道茅野小淵沢韋崎線穴山バイパス建設予定地の韋崎市穴山町字宿尻地内の埋蔵文化財包蔵地有無確認の依頼書が韋崎市教育委員会へ提出された。教育委員会では有無確認調査を平成13年8月に実施し、その結果周知の埋蔵文化財包蔵地である宿尻遺跡の一部であることを確認した。現在中央線により遺跡が大きく分断されていることから、宿尻第2遺跡として新たに遺跡台帳に登録した。

平成14年度に峠北地域振興局と韋崎市教育委員会の間で発掘調査に関する協定書を締結し、8月から現地での発掘調査を開始し、翌年2月に終了し、現地を引き渡した。出土品等の整理作業は平成15年度に実施した。

第2節 調査概要

バイパス建設業務進捗状況や発掘調査進行方法の関係から、調査範囲を便宜的に3区に区切り調査を

進めた。調査を円滑に進めるため、耕作土および客土を重機で掘り下げ、調査区内に一辺5mのグリッドを公共座標で設定し、遺物の出土する黒色土面から手作業により発掘を実施した。

調査区北側の範囲は、厚い客土のために遺存状況が良好であり、古代に堆積したと考えられる黒色土層が見られた。黒色土層中から平安時代・古墳時代の遺物が散見されたが、古代以前の遺構確認は困難であった。厚さ10から20cm程度の黒色土層を掘り下げ、暗褐色土が確認できたところで遺構の平面プランを確認することができた。

調査区中央は耕作により、北側で見られた黒色土層は攪拌されほとんど確認できない状況であった。暗褐色土層中で遺構の確認を行なったが、一部ソフトローム層面まで掘り下げて確認した地区もある。

調査区南側ではさらに耕作が著しく、耕作土をはいだ時点でソフトローム層からハードローム層面を検出する地区もあった。最南端では、台地が谷に向かい一段下がるが、西側に向かい古代の黒色土とは異なる灰色がかかった黒色土が見られ、縄文時代早期の遺物を中心に包蔵していた。

第2章 遺跡の環境

第1節 自然環境

宿尻第2遺跡は八ヶ岳山麓から延びる韋崎岩屑流で構成される七里岩台地上に占地する。七里岩台地は小円頂丘が点々とみられ、その高台に遺跡が所在する。近隣では宿尻遺跡、伊藤窪遺跡、坂井遺跡や坂井南遺跡など枚挙に暇がない。

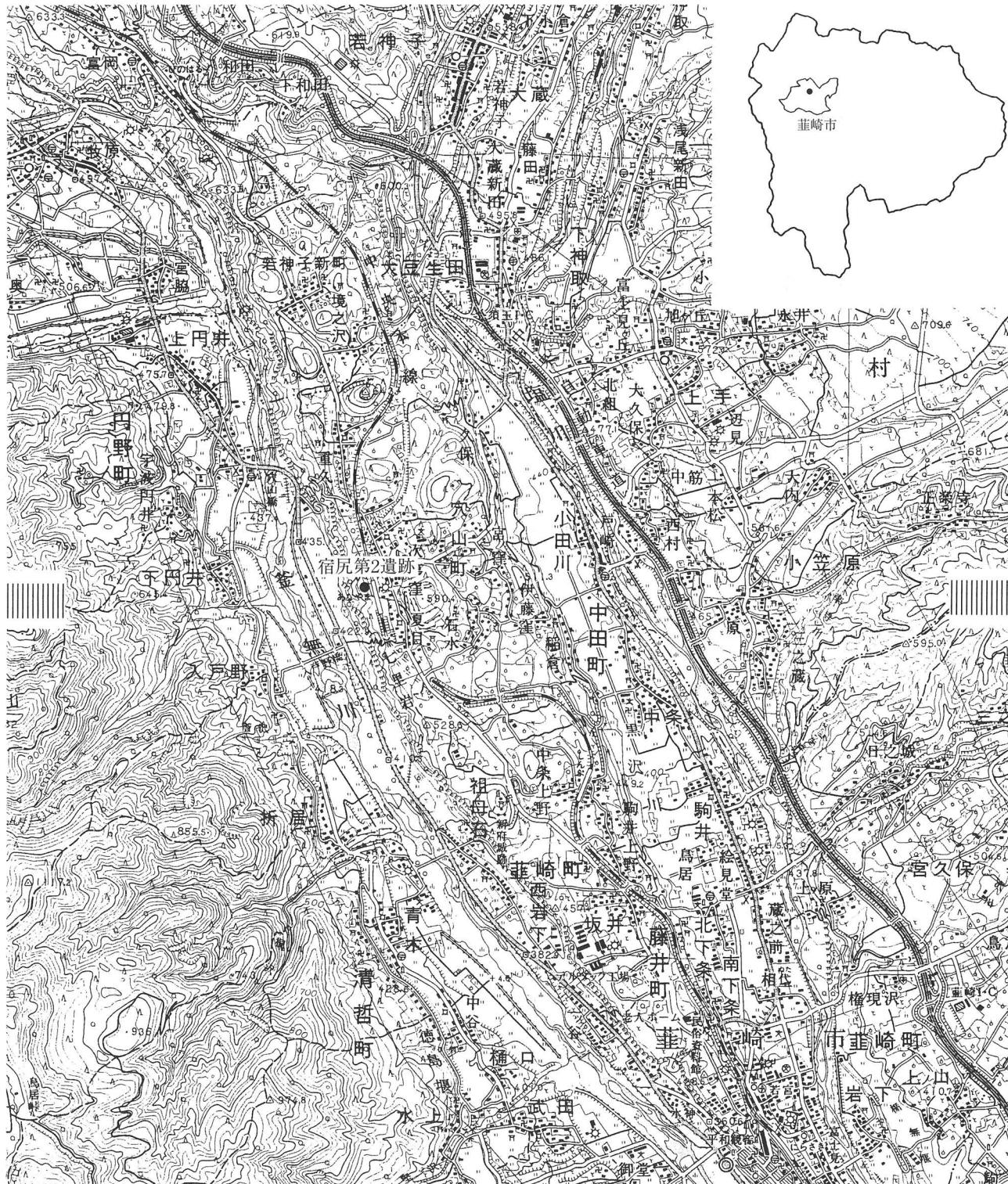
南方の能見山から流れる宿尻沢、北方の兜山から流れる沢に挟まれ、東から南西に向かい緩やかに傾斜する舌状台地上に位置する。西側は七里岩台地の断崖となっている（第4図）。沢幅は広くなく、七里岩の断崖に近いため地表面に當時水流があるわけではない。現在は宅地のほか畑地として土地利用がされている。東に茅ヶ岳、西に南アルプス鳳凰山、南に富士山そして北に八ヶ岳を臨むことのできる場所である。七里岩台地上では遺跡の所在する穴山町

あたりで気象の変化があり、北と南で冬は積雪量に違いが見られるなど変換地点といえる。

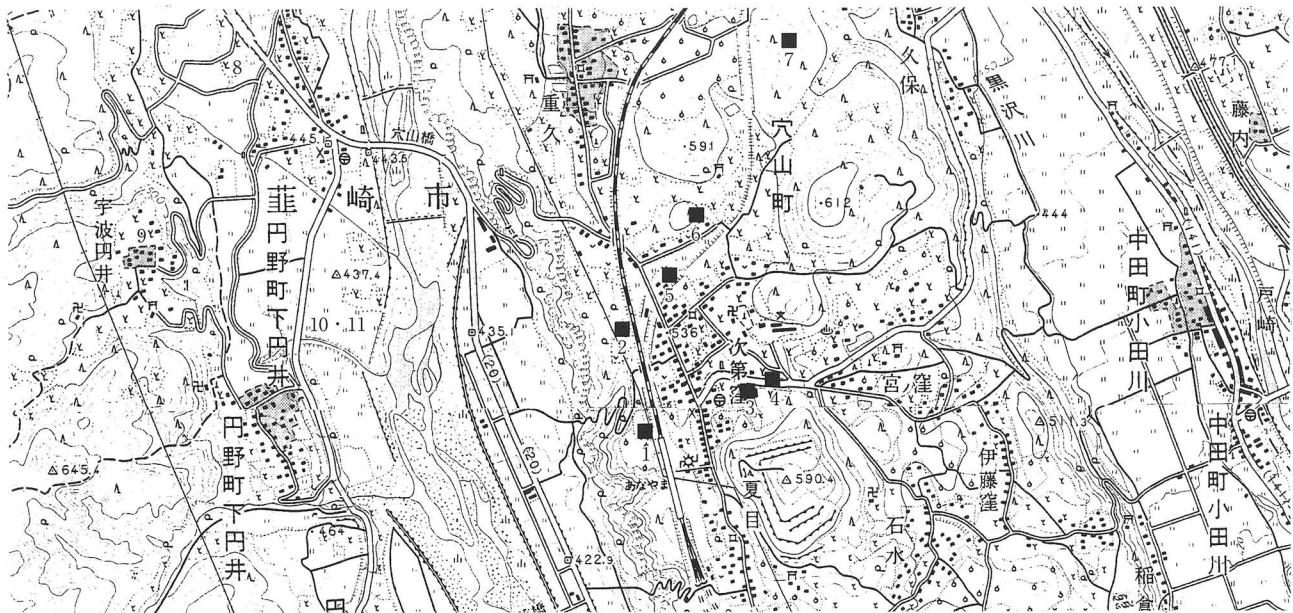
中央線により東西に区切られているが、東の宿尻遺跡と西の本遺跡は地形上、本来は同一遺跡として捉えることができる。ただ、県道が南北に横断する狭い丘陵部には現在のところ遺構・遺物は確認されていない。

第2節 歴史環境

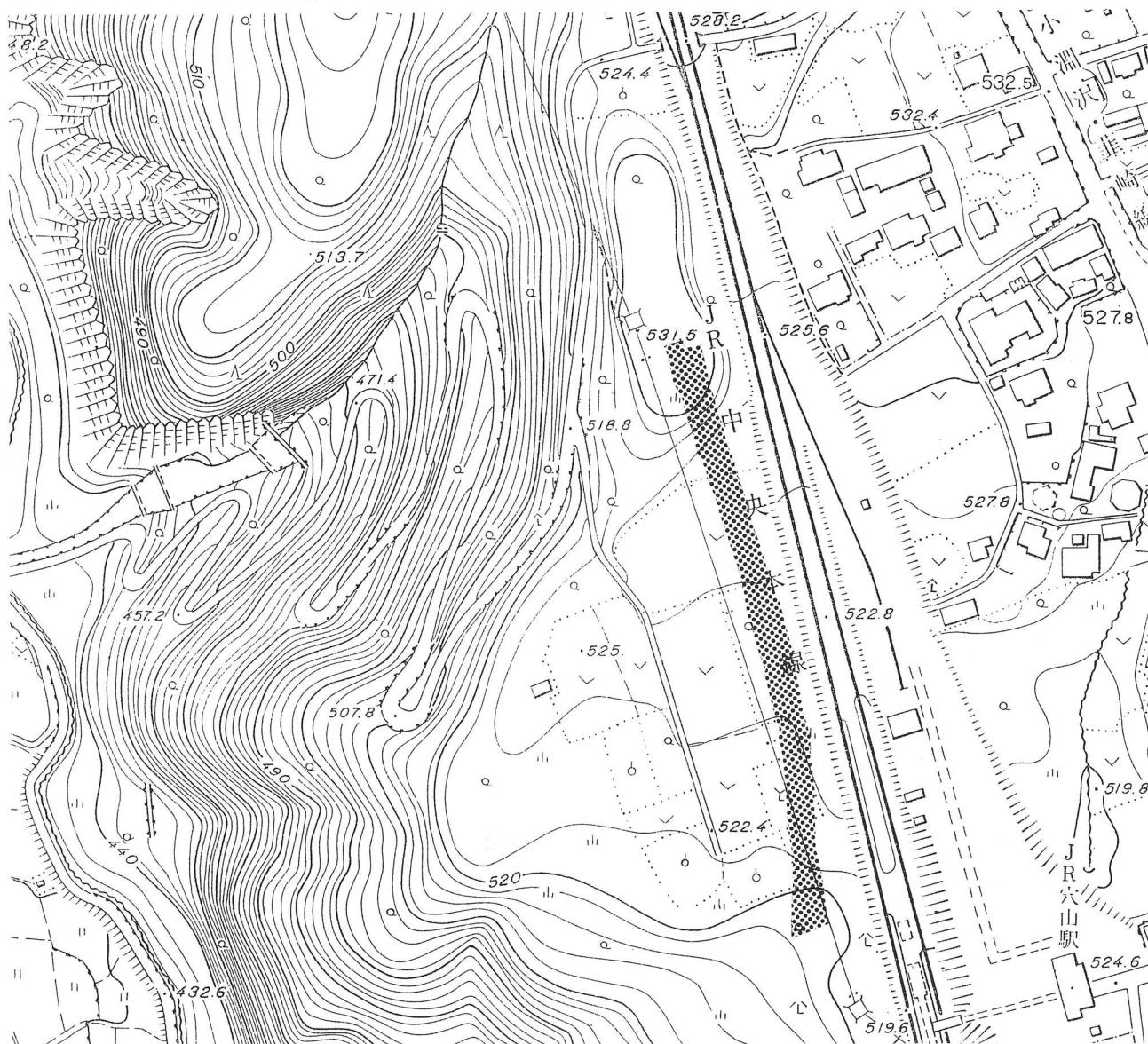
本遺跡は中央線の開設により集落から分断され、地元で西原と呼ばれ、開発行為もほとんど行なわれなかった。しかし、遺跡の所在する穴山町字宿尻周辺が人々の生活の場として使われ始めたのが、縄文時代にまでさかのぼることは、畑の耕作などで土器や石器などが発見され古くから知られていた（『韋



第1図 宿尻第2遺跡位置図 ($S = 1/50,000$)



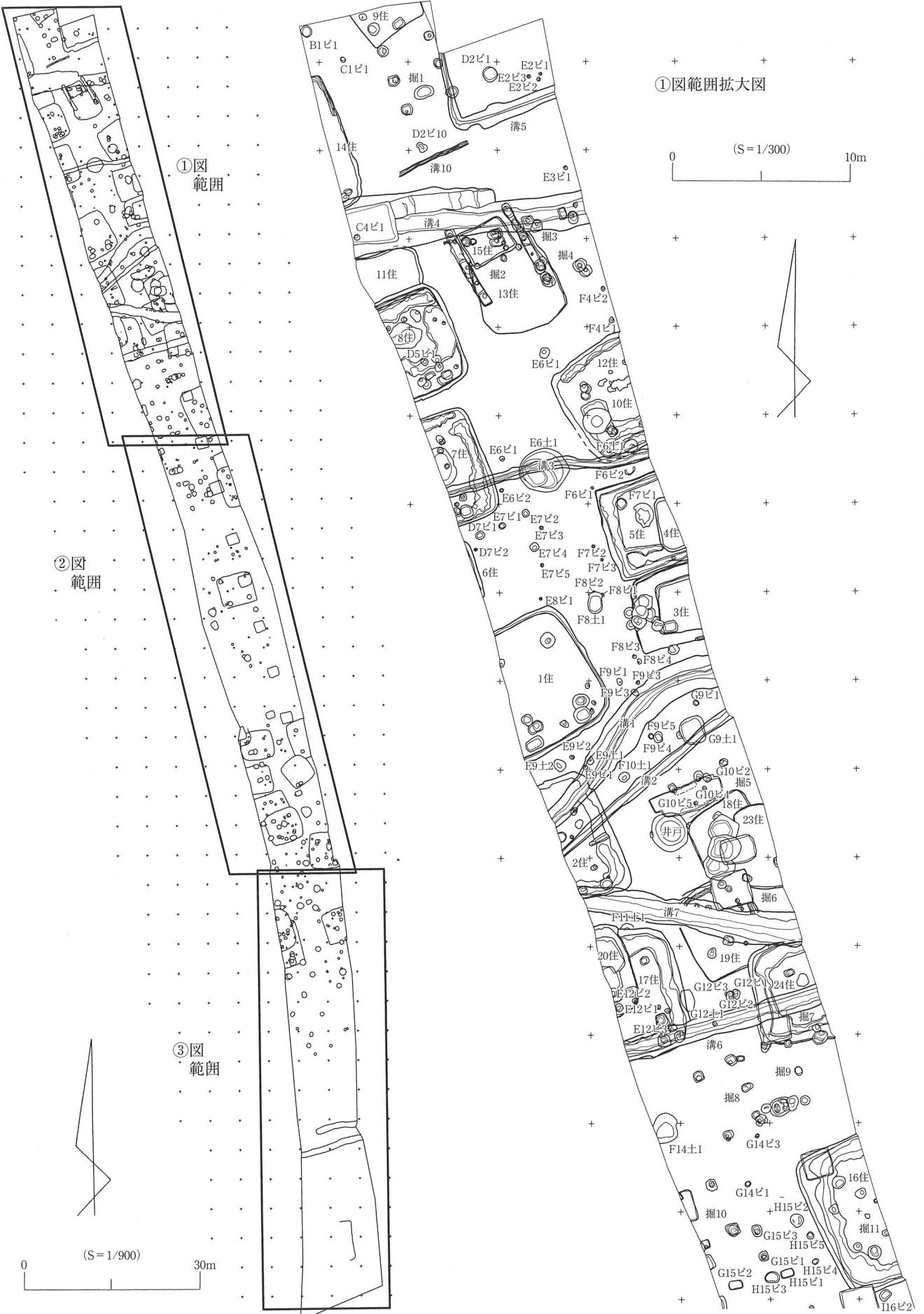
第2図 宿尻第2遺跡と周辺の遺跡 (S=1/25,000)



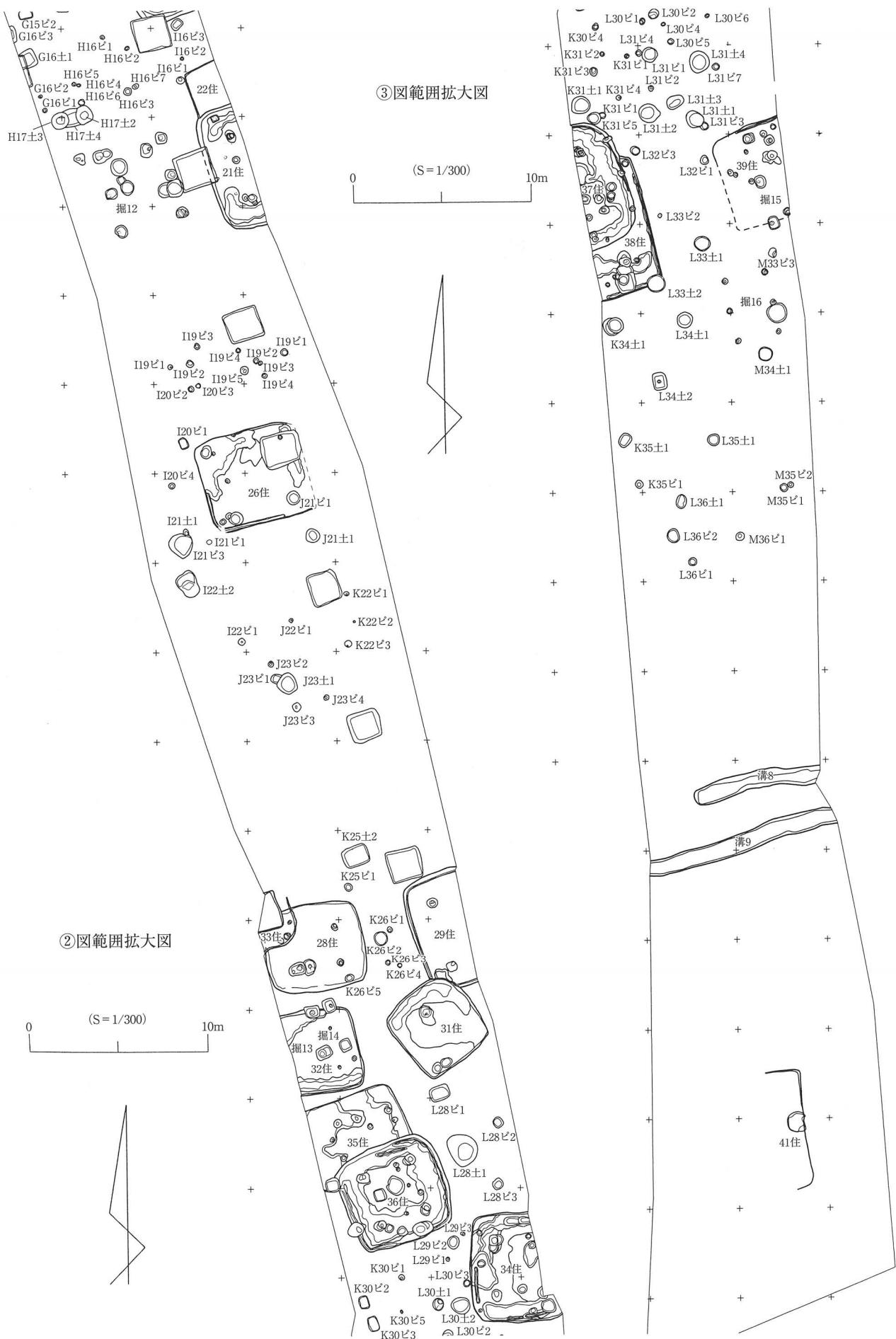
第3図 調査地点 (S=1/2,500)



第4図 宿尻第2遺跡周辺の微地形区分概要図 ($S=1/5,000$)



第5図 調査区全体図 (1)



第6図 調査区全体図 (2)

崎市誌』)。

本遺跡で人類の活動痕跡が確認できるのは縄文時代早期以降である。周辺では沢を挟み北側の次第窪遺跡(第2図2)の沢へ傾斜する南斜面で、押型文期・打越式期をはじめとする早期から前期初頭の遺物が出土している(秋山圭子2002『次第窪遺跡』韮崎市教育委員会)。この点は当遺跡での早期の遺物分布状況と一致し、当該期における活動戦略の一端を示していると考えられる。本遺跡出土資料は次第窪遺跡出土のものと型式差があり、さらなる周辺の状況を把握する必要がある。

中期に入り、活動痕跡が拡大していることは畑地などから発見される遺物の分布から想定でき、二度にわたる発掘調査により遺跡内容も把握され始めている(中山誠司1988『宿尻遺跡』山梨県教育委員会・閨間俊明1999『宿尻遺跡』韮崎市教育委員会)。中期(勝坂式)から後期(堀之内2式)の集落跡が存在し、台地上の平坦部はもとより沢へ落ち込む傾斜地にも生活範囲が及んでおり、地理的環境を活かし生活していたことを示唆している(同図3・4)。中期では七里岩台地上に考古学史的にも著名な坂井遺跡があり、釜無川をはさんで北西には石之坪遺跡を望むことも可能であり、当然当時において何らかの交流があったであろうが、現在のところその推測の域を出ない。

当遺跡のメインとなる弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての周辺の遺跡としては坂井南遺跡が知られている。方形周溝墓と住居跡で構成される遺跡であり、居住域と墓域との関連が指摘されている(伊藤正彦1997「坂井南集落」『坂井南遺跡Ⅲ』韮崎市教育委員会他)。

中世に入り穴山に武田義武が封され穴山氏を名乗る。穴山氏は河内領に移ることになるが、それまで桟敷場と呼ばれる次第窪地区と重久地区との境界付近にある場所に屋敷を構えていたことが『国志』により伝えられている。現在、推定地では土塁や郭などが東西約400m、南北約300mあり、遺構自体は『国志』の記述と同様である(同図7)。しかし、遺構が穴山氏であると証明する資料は皆無であり、『国志』段階で何を根拠として特定したのかの解明が待たれる。この他長坂氏屋敷跡(同図6)や大学屋敷(同図5)などをはじめとする土塁をもつ屋敷跡が穴山には数多く残る。また、中世から近世にかけての遺構として能見城防塁跡を挙げることができる。『国志』では武田勝頼が新府城在城時に機能していたとするが、武田氏滅亡後に発生した徳川氏と北条氏による天正壬午の戦いの際に徳川氏が築いたとする説(山下孝司1991「中世甲斐国における城郭の歴史的立地」『戦国大名武田氏』名著出版)もあり、結論を見ていらない。

第3章 発掘された遺構と遺物

古墳時代前半の建替え等を含めて竪穴住居跡39軒・掘立柱建物跡16棟、平安時代の竪穴住居跡2軒、溝10条などの遺構が確認された。発掘調査段階で確認して付した番号順に報告を行なう。遺構の時期については床面及び付属遺構内から出土している遺物を一次資料として用い、『山梨県史』による各時代の編年を使用した。竪穴住居跡覆土内から出土した遺物のうち、明らかに遺構に伴わない土器・土製品を除き報告した。これまで古墳時代の遺物として取り扱われることの少ない石器を再度出土状況から再検討するためには必要と考えたためである。古墳時代の石器の検討については第5章第1節で記す。

第1節 竪穴住居跡

古墳時代前期の竪穴住居跡39軒と平安時代の竪穴住居跡2軒を検出した。調査中ならびに本書作成段階の検討により竪穴住居跡とは断定できないものが2軒あり、これらについては欠番として報告する。

1号竪穴住居跡

一辺7.4m、確認面から床面までの深さ70cmの隅丸方形である。主柱穴は4本で、貯蔵穴と考えられる土坑を2基確認している。主軸はN-30°-W

である。1号土坑は貼床下で確認されたことから最低1回のメンテナンスが行なわれたといえる。また、南西の柱穴は3本あり、この柱のみ2回の位置換えが行なわれている。旧柱穴には柱痕が平面的に確認されており、柱を換える際に上屋全体に手をつけず、柱のみを換えるメンテナンスが想定できる。

竪穴内の中央よりやや北側に枕石を伴う地焼炉があり、その東側には直径30cm程度の円形地焼炉が2基ある。枕石は大型の直方体礫で、上面が丁寧に

磨かれており台石として使用されたものと考えられる。枕石を伴う比較的大型と伴わない小型には時間差の存在よりも、規模の点から機能差の可能性を指摘しておきたい。

南壁の東半分には床面から高さ約20 cm程度のベット状遺構がある。ベット状遺構の中央よりやや東側に土坑とピットがあり、ピットの東にはベット状遺構よりも一段高いマウンドがあり小ピットが壁に向かって斜めに作られている。堅穴内の出入りに関連すると考えられる。

S字甕B・C・D類相当が混在し、有段口縁壺、高杯、器台、壺や鉢で組成されている。肩部に横刷毛を持つ固体が多く、有段口縁壺が破片ではあるが認められる。このことからⅡ期の新しい段階からⅢ期の古い段階に位置づけられる。

石器は叩石・打製石斧・石匙が出土している。石匙は縄文時代の所産と考えられるが、それ以外は当住居の所属時期に伴う可能性もある。

2号堅穴住居跡

一辺7.4m、確認面から床面までの深さ70 cmの隅丸方形であり、周溝は壁に沿って全周し、床面は堅緻である。主柱穴は4本と考えられ、うち2本を確認した。主軸はN-24°-Wである。南側やや東よりに土坑があり、三連S字状口縁台付甕・高壙・敲打痕のある磨石が出土している。

堅穴内南東隅では炭化した桃・胡桃種子が大量に出土した（第4章第1節参照）。炭化物集中直下の床面に接した状態の礫があり、被熱により赤化していた。床面の焼けた状況は視覚的には確認できなかった。

東壁中央から堅穴中央部に向かい溝状の遺構を確認した。31号堅穴住居跡では仕切りと考えられるマウンドがあることから、他の堅穴で確認されていないが、間仕切り溝の可能性がある。堅穴の掘り方は中央部が高くなり壁側が深くなる。特に南側は深い。堅穴内覆土の観察から当住居跡に入れ子状の浅い堅穴住居跡が存在したことを確認した。2B号堅穴住居跡として遺物は取り扱うこととしたが、平面形態等の規模については資料化し得なかった。

2号堅穴住居跡では櫛描波状文やボタン状貼付文を持つものや三連式S字状口縁台付甕が出土していることからⅡ期の古い段階に位置づけられる。2B号堅穴住居跡はS字甕D類相当が出土していることからⅢ期の古い段階に位置づけられる。

3号堅穴住居跡

一辺4.3m、確認面から床面までの深さ40 cmの隅丸方形である。主軸はN-10°-Wである。北辺、西辺の一部と南辺の一部に周溝がある。堅穴内の中央から北に向かい堅緻な床が見られた。中央部には地焼炉がある。遺物は中央よりやや南西部と南壁沿いに床面に接した状態で出土している。貼り床の下には一回り小さい一辺3 mの堅穴住居跡がある。南西隅に長方形の土坑があり貯蔵穴と考えられる。掘り方は明瞭ではない。

西壁付近に床面下から重複する土坑群が確認されているが、遺物の出土はなく、底面をはじめとして全体的に不整形であることから、人為的な掘削によるものではないと考えられる。

S字甕B・C・D類相当が混在し、折返口縁壺、器台や甕で組成されている。1号堅穴住居跡と同時期のⅡ期の新段階からⅢ期の古段階と考えられる。

4号堅穴住居跡

一辺3.1m、確認面から床面までの深さ50 cmの隅丸方形である。主軸はN-30°-W南壁に平行して土手状の高まりがあり、それと直行するやや低い高まりが堅穴内中央に延びる。遺物は南西隅を中心に壙と羽釜が出土している。壙体部の調整が轆轤整形のみであり、直線的ではなくやや内湾することなどから、10世紀後半に位置づけられる。

石器としては板状の砥石が出土している。表面に対象物の痕跡が線状に観察できる。

5号堅穴住居跡

3号堅穴住居跡と重複関係にあり、当住居の方が後出である。一辺5.5m、確認面から床面までの深さ20 cmの方形である。主軸はN-18°-Wである。床面は脆弱で、周溝や炉などの付属施設はない。堅穴中央部が島状に高くなる掘り方であり、南側では2条の溝がめぐる状況であった。重複関係から3号住よりも新しいことは明らかであり、Ⅲ期と考えておきたい。

6号堅穴住居跡

東辺の一部を調査したのみである。確認面から床面までの深さは50 cmであり、一辺約3 m程度の隅丸方形と考えられる。主軸はN-17°-Wである。図化可能な遺物の出土はなく、時期は古墳時代前期である。

7号堅穴住居跡

一辺6.5m、確認面から床面までの深さ80 cmの隅丸方形であり、周溝は壁に沿って全周し、床面は堅緻である。主軸はN-20°-Wである。主柱穴は

4本と考えられ、そのうち東側の2本を確認した。いずれの柱穴も柱痕は認められず、柱穴上半部が広がることから、柱は住居廃絶時以降に抜き取られた可能性が高い。

東壁沿いのやや北側に南北に並ぶピットは柱痕などを確認できなかったが、屋外と竪穴内の出入りに関連する施設痕跡と捉えておきたい。炉は竪穴内中央よりやや北側に位置し、一部に粘土を貼った地焼炉である。南東主柱穴の南側に土坑がある。貯蔵穴と考えられ、一辺約70cmの隅丸の方形であり、高壙などが出土した。

竪穴の掘り方は中央部が高くなり壁側が深くなる。全周はせず、北東隅では溝が切れている。土坑内からボタン状貼付文のある装飾の明瞭な壺（7住1-1）が出土し、竪穴覆土からS字甕C類相当（7住-3）とD類に併行する台付甕（7住-4）が出土していることから、Ⅱ期の新段階からⅢ期の古段階と考えられる。

8号竪穴住居跡

一辺6.2m、確認面から床面までの深さ70cmの隅丸方形であり、周溝は壁に沿って全周し、床面は堅緻である。主軸はN-23°-Wである。主柱穴は4本と考えられ、うち東側2本を確認した。柱穴上半部が広がることから、柱は住居廃絶時以降に抜き取られた可能性が高い。炉は竪穴内中央よりやや北側に位置し、南側に2点の小礫が並列していた。

竪穴内中央部が島状に高くなる掘り方であり、壁際は幅40~90cmの溝がめぐる。

遺物は下層から床面にかけて出土した。特に、貯蔵穴のある南東隅からは生粘土塊2点なども床面に接して出土した。ただし、貯蔵穴の底面では出土していない。このことから、貯蔵穴内に土壤が堆積した後に土器が廃棄されたかまたは、貯蔵穴上面に蓋などの覆いが存在していたことも想定できる。特殊なものとして鉄鏃の茎部が床面で出土している。

S字甕C類相当が出土し、口唇部がやや膨らみ胴部最大径が下がり、C類の中でも新しい要素を持つ。D類相当の胴部に横ハケ目のないものも出土している。これらのことからⅡ期の新段階からⅢ期の古段階と考えられる。

9号竪穴住居跡

一辺3.3m、確認面から床面までは5cmを測る。主軸はN-37°-Wである。竪穴南部は搅乱（おそらく近代以降）により破壊されている。竪穴内中央部付近に堅緻な床面が確認されたが、全体的に脆

弱である。

出土遺物は極めて少なくまた、小破片であったことから報告していない。なお、脆弱な床面にめり込む状況で2個の幼児頭大程度の生粘土塊が出土した。出土遺物は小破片ではあるが古墳時代前期の所産である。

10号竪穴住居跡

一辺3.3m、Ⅲ層上面から床面までは50cmを測る。竪穴東部は調査区外へ広がっているが、東西辺の方が南北よりも長いことは間違いない、不整な長方形の平面形態と考えられる。主軸はN-12°-Wである。一部に堅緻な貼床が認められるが、全体的に脆弱である。柱穴などの付属施設の痕跡は一切検出されていない。

12号竪穴住居跡と重複関係にあり、当住居跡のほうが新しいことを土層観察により確認している。S字甕C類相当が出土しており、胴部最大径がやや下がることからⅡ期の新段階と考えられる。

11号竪穴住居跡

竪穴の北東部のみを検出したことから平面規模は不明である。確認面から床面までは30cmを測る。主軸はN-14°-Wである。床面は部分的に堅緻な部分があるが全体的に脆弱である。2箇所で不整な円形の地焼炉が認められたが、地山まで熱を強く受けた状況ではなかった。

8号竪穴住居跡と4号溝と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古いことが土層断面により確認された。出土資料が少ないが、S字甕B・C類相当が出土していることからⅡ期であり、8号住との重複関係から古段階と考えられる。

12号竪穴住居跡

一辺6.3mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面までは約70cmを測る。主軸はN-31°-Wである。周溝はほぼ全周するが、北側で途切れる箇所がある。床面は堅緻である。主柱穴は4本と考えられ、南東の柱穴は調査区外に存在するとと思われる。貼床を掘り下げ後に主柱穴に重複した状況でピットが確認された。深いものと浅いものがあり、旧柱穴および旧柱抜取り痕と捉えておきたい。南西の旧柱穴覆土からは土器片中央部に穿孔した土製紡錘車が出土している。

炉は竪穴内中央部よりやや北側に位置し、床面をやや窪めた不整形な地焼炉である。

竪穴の掘り方は中央部が高くなり、壁際が深くなる。北側では幅50cm、南側では幅50cmの南壁に

並行するものと南西隅でL字状に屈曲する深い溝が検出された。

L字状溝の西壁中央付近で直径約150 cm、深さ約1 mの土坑を検出した。土坑内からの遺物出土はなく、所属時期について不明確な点が多いが、周辺で古墳時代前期以外の遺構が平安時代のものを除き確認されていないことから、当竪穴の建築時に何らかの意図を持って掘削された土坑と考えておきたい。竪穴建築に関する祭祀的行為であるか、竪穴建築構造的なことに関連するのかなどを検討するまでのデータは得られず、また葦崎市の同時期の遺構でこのようなものは管見ではなく、土坑の意味については今後の課題としておきたい。

10号竪穴住居跡と重複関係にあり、土層観察により当竪穴の方が古いことを確認している。装飾壺（12住-9）や肩がやや張るS字甕（12住-1）が出土している。これらのことからⅢ期の古段階と考えられる。

13号竪穴住居跡

東西約4.5m、南北6 m以上の不整な長方形形態であり、確認面から床面までの深さは20 cmである。主軸はN-23°-Wである。貼床、竪穴ほぼ中央から地焼炉及び明瞭ではないが壁の立ち上がりが認められたことから竪穴住居跡として調査を行なった。柱穴や貯蔵穴を確定することは困難であった。

15号竪穴住居跡、2・3・4号掘立柱建物跡及び4号溝を重複する。15号住→2号掘立→13号住→3・4号掘立の順で新しいと考えられる。2号掘立と13号住は、13号住の方がやや南に広がるもの、ほぼ同じ主軸方位であり、2号掘立の布掘の溝の間に貼床が確認されていることから、同一遺構の可能性もあるが、建物上屋構造の検討を加えていない現段階では、別遺構と捉えておくこととする。出土資料からⅡ期と考えられる。

14号竪穴住居跡

竪穴東部の一部分のみを検出した。一辺7.6mの隅丸方形と考えられ、Ⅲ層上面から床面までは25~40 cmを測る。主軸はN-21°-Wである。北東隅から東壁の中央部まで周溝が検出された。南東隅の土坑は貼床の下で確認されたものである。

S字甕の肩がやや張ること（14住-1）と櫛描波状文施文の甕（14住-3）が出土していることからⅡ期の古段階以前と考えられる。

15号竪穴住居跡

東西2.7m、南北2.1mの長方形である。13号住お

よび溝4を調査中に確認したものである。13号住の床面から深さ60 cmを測る。主軸はN-31°-Wである。床面は堅緻であるが、竪穴掘削後に貼床とした状況ではなく、掘削した状況をそのまま生かして床としている。炉や柱穴などの付帯施設は確認していない。

13号住、3号掘立および溝4よりも古いことが土層観察で確認している。Ⅱ期の所産と考えられる。

16号竪穴住居跡

南北8.7mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面までは80 cmを測る。主軸はN-25°-Wである。周溝は確認されている範囲では全周している。北側の周溝上面には炭化物粒子と焼土粒子を多量に含む層が、周溝に平行して確認できており、壁を押さえていた材が焼けた可能性がある。床面は堅緻で、主柱穴は4本と考えられるがそのうち西側2本（ピ1・2）を確認した。炉は竪穴内ほぼ中央に小型の地焼炉を検出している。

ピ1の西側（マ3）、ピ2の東側（マ1）および西壁の南（マ2）よりにマウンド状の高まりが認められた。マ1・3は掘り下げると下部から床面が検出され、また床面ほど堅緻ではなくピットの掘り方もしくは抜き取り痕の外周を回ることから、使用時ではなく、竪穴廃絶後の堆積と考えられる。柱を抜き取る際に掘削した土壤の可能性もあるが、類例を確認していない。マ2はやや脆弱ではあるが上面は硬く、階段状であることから竪穴内の出入りに使用した施設として捉えておきたい。

竪穴の掘り方は中央部が高くなり壁際が深くなる。コーナー周辺ではやや幅が広がる。

S字甕の口縁端部が肥厚していることからⅡ期の新段階と考えられる。

17号竪穴住居跡

南北7.3mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面までは60 cmを測る。周溝はコーナー周辺で途切れる。主軸はN-13°-Wである。床面は堅緻である。主柱穴は4本と考えられ、そのうち東側2本（ピ2・3）を確認した。柱穴の掘り方は隅丸のほぼ方形であった。炉は不整形な地焼炉で竪穴内ほぼ中央に位置する。

炉から南壁の間（マ1・3）と東壁ほぼ中央（マ2）にマウンド状の高まりが認められた。マ1・3の上面は床面ほど堅緻ではないことから、住居廃絶後に堆積したものと考えられる。16号住のマ1・3とは異なり主柱穴の抜き取りが確認されていないこ

とから、別の要因を考える必要がある。可能性としては土屋根や土壁であるが、スサなどの混入が見られず、内部はしまりが弱いため、土壁というよりも土屋根の可能性があろう。土屋根の場合、自然による屋根への堆積の可能性もあるが、土壤がローム主体であることから人為的に土屋根として土を盛ったものと考えられる。

竪穴南東隅付近で土坑2基を検出し、土1からは小型丸底壺（17住-2）が柱痕に近接した状況で出土している。竪穴の掘り方は中央部が高くなり壁際が深くなる。東西方向のものがやや幅が広い。

20号住、溝6と重複する。当住居がいずれよりも古いことを土層観察で確認している出土資料等からⅡ期の新段階の所産と考えられる。

18号竪穴住居跡

東西3.9m、南北4m程度の隅丸方形であり、Ⅲ層上面から床面までは25cmを測る。床面はやや堅緘であり、周溝は北壁沿いにのみ確認できた。炉は中央よりもやや北西側で2箇所のやや窪みのある地焼炉を確認した。

竪穴の掘り方は全体的に凸凹している状況である。掘り方調査時にG11土3・4とG10土2を確認した。不整形であり、堆積土壤が逆転する箇所が観察できることから当住居構築以前の風倒木痕と考えられる。

19・23号住、G11土1・2と重複する。G11土1・2より古い。土層観察により23号住より新しいが、19号住とは重複部にG11土1が所在することから確認可能な状況ではなかった。

内外面ハケ目調整で肩部に幅広粘土帶の貼付文のある壺（18住-4）などが出土している。ⅡからⅢ期の所産と考えられる。

19号竪穴住居跡

東西4.2m、南北5.2mの隅があまり丸くならない方形であり、確認面（Ⅲ層中）から床面までは20cmを測る。主軸はN-27°-Wである。床面は脆弱であり、周溝は北側のみで確認した。重複する溝7により南側の床面は削平された状態での確認である。主柱穴は4本で、19住ピ2・5・6とG11ピ6で構成されると考えられる。南側の東西主柱穴（ピ2・5）間に焼土が見られたが、規模が小さく、地山が熱を受けた状況は認められなかつことから、主体となる炉ではないと考えられる。

18号住・24号住・溝7と重複し、溝7よりも古いが、24住との重複関係を捉えるには至らなかつた。

図示した遺物はないが、古墳時代前期の所産である。

20号竪穴住居跡

南北5.7mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面までは65cmを測る。主軸はN-17°-Wである。周溝は一部途切れる箇所もあるが、ほぼ全周する。竪穴中央部で堅緘な貼床が見られる。東壁際のほぼ中央に不整形なマウンド状の高まり（マ1・2）がある。いずれも17号住ほど厚みではなく、上面も堅緘ではないが、土屋根等を想定しておきたい。

掘り方調査時に調査区の際から柱穴（ピ1）を確認した。おそらくこれが主柱穴の1本と考えられる。部分的な調査ではあるが、竪穴の掘り方は東西に並行する3本ほどの幅広の溝が掘削されている状況であり、当遺跡の他の住居で見られるドーナツ型のものとは異なる。17号住と重複し、当住居の方が古い。

出土資料などからⅡ期の新段階からⅢ期の古段階の所産と考えられる。

21号竪穴住居跡

南北7.0mの隅丸方形であり、Ⅲ層上面から床面までは65cmを測る。主軸はN-16°-Wである。床面は堅緘である。北西隅には炭化物粒子と焼土粒子を多量に含む土が薄く堆積していた。周溝は調査区内では全周する。

主柱穴は4本と考えられそのうち西側2本（ピ1・2）を確認した。ピット確認面からやや下げた段階で柱痕が認められたことから柱全部を抜き取るような行為はなかったものと考えられる。柱穴からは柱痕を避けるような状況で大型の礫がそれぞれ出土した。それらは接合し1個の礫となる。何らかの意図で持ち込まれた礫が、故意または偶然割れ、柱穴へ埋設したものと考えられる。

竪穴南西隅には土坑があり、口縁部の一部と底部を欠き、胴部に穿孔のある甕（21住-1）が礫と共に出土している。この甕の頸部内面に二次的な熱によるアバタ状の剥落及び赤化が著しく認められることから、火を使用する道具（直接器内に対象物を入れて煮沸する以外）として転用された可能性が高い。

竪穴の掘り方は中央部を島状に高く残し、西壁中付近で掘り方の溝は途切れた状況であった。

21住-4・5はいずれも焼成粘土塊であるが、平坦面を形成し、内面の割れ口に幅2.5cm程度のものが挟まっていた状況が観察できる。スサなどの混

入は認められず出土量も少ないが、壁土や屋根土の可能性を指摘しておく。

22号住と重複し、本住居の方が新しい。ⅡからⅢ期の所産と考えられる。

22号竪穴住居跡

平面規模の不明な方形で、Ⅲ層上面から床面までは20 cmを測る。主軸はN-20°-Wである。床面は極めて脆弱であり、壁の立ち上がりも弱い。周溝などの付帯施設は確認し得なかった。

竪穴の掘り方は全体が凸凹した状況であった。図示しえる出土遺物はない。21号住と重複し、本住居の方が古いことを覆土観察で確認している。このことからⅡからⅢ期の所産と考えられる。

23号竪穴住居跡

南北4.9mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面までは35 cmを測る。主軸はN-9°-Wである。床面は竪穴中央部を中心に堅緻である。竪穴内での場の使われ方の違いに起因する可能性がある。周溝は北壁の西側にのみあり、炉は小型の地焼炉であり、竪穴内の南西部に位置する。

18号住と重複し、当住居の方が新しい。ⅡからⅢ期の所産と考えられる。

24号竪穴住居跡

南北5.8mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面までは60 cmを測る。主軸はN-10°-Wである。床面は全体的に堅緻であり、周溝は確認していない。4本主柱穴と考えられ、そのうち西側の2本(ピ1・2)を確認した。炉は竪穴内中央よりやや北側で窪みのある地焼炉であった。

竪穴の掘り方は、中央が島状に高くなる。南北壁に平行する溝の幅が広く、西壁で溝は狭い。

溝6・7より古く、19号住との重複関係を捉えるには至らなかった。

S字甕の口縁部端部が肥厚し、横ハケ目があることからⅡ期の新段階と考えられる。

25号竪穴住居跡

住居番号を飛ばしたことにより欠番とする。

26号竪穴住居跡

東西5.6m、南北5.3mの隅丸方形で、確認面から床面までは20 cmを測る。主軸はN-16°-Wである。周溝は西壁と南壁で確認した。床面は全体的に堅緻であるが、南側主柱穴を結ぶラインを挟んでやや脆弱であった。炉は竪穴内中央よりやや北側で、不定形でやや窪みのある地焼炉であった。主柱穴は4本と考えられ、そのうち3本(ピ1・2・

5)を確認した。南東部分にあったであろう柱穴は縄文時代のJ21ピ1と重複していたものと考えられるが、平面プラン確認時には認められなかった。北西隅に土坑があり、脚部の欠けた高壙が出土した。

竪穴の掘り方は北西隅周辺が三角形状に掘り窪められ、東壁付近でやや幅のある溝状であった。

26住-3は不整に磨かれた礫である。やや透き透る黒で斑点が見られる。

S字甕B・C類相当と丁寧なミガキのある椀形高壙が出土していることからⅡ期の古段階と考えられる。

27号竪穴住居跡

調査時に縄文時代中期の遺物がやや集中したことから竪穴住居跡として捉えたが、調査進行により縄文時代の土坑であると断定したことから、本住居番号は欠番とし、K21グリッド内1・2号土坑(K21 SD 1・2)として扱う。

28号竪穴住居跡

東西5.5m、南北5.0mの隅丸方形で、確認面から床面までは25 cmを測る。周溝は北壁の中央付近と南壁の中央から西壁の中央にかけて確認した。古墳時代前期の所産である。

29号竪穴住居跡

南北6.5mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面まで80 cmを測る。主軸はN-17°-Wである。周溝はほぼ全周する。床面は全体的に堅緻であるが、北西主柱穴(ピ1)の東側に脆弱な部分が認められた。主柱穴は4本と考えられそのうち西側の2本(ピ1・2)を確認した。ピ1からは小型甕がほぼ完全な形で覆土中層よりやや高いレベルで出土した。平面的にアタリとずれていることと柱痕自体未確認であることから、柱設置時のものが解体に伴うものであるかは断定することはできない。

ピ2から南西隅にかけてロームを主体としたマウンド状の高まりを確認した。竪穴の内から外に向かってスロープ状にあがるものであり、出入り口施設の可能性が高い。竪穴の掘り方は中央部が島状に高まり、壁際が深くなる。

30・31号住居と重複し、30住→29住→31住の順に新しいことを土層断面などから確認した。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

30号竪穴住居跡

貼床のみの確認であり規模などは不詳である。29・31号住居と重複し、30住→29住→31住の順に新しいことを土層断面などから確認した。重複関係か

らⅡからⅢ期の所産と考えられる。

31号竪穴住居跡

東西4.6m、南北4.8mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面まで30cmを測る。主軸はN-39°-Wである。周溝や柱穴はなく、南西隅に隅丸長方形の土坑

(土1)がある。竪穴内の西側に幅30cm、高さ8cmの土手がL字型にあり、東西80cm、南北240cmの空間を構成している。空間内の床面はやや脆弱である。

炉は竪穴内中央からやや北側に位置する。北側がやや深くなる楕円形で、中央部に枕石がある。土1近くの南壁には階段状にロームが固められたブロックがあり、出入り口施設の可能性がある。

竪穴北東隅付近に有段口縁壺の頸部～口縁部部分を伏せた状態で出土している。

29・30号住居と重複し、30住→29住→31住の順に新しいことを土層断面などから確認した。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

32号竪穴住居跡

南北4.8mの隅丸方形で、確認面から床面まで30cmを測る。主軸はN-14°-Wである。床面は竪穴内中央付近が特に堅緻であり、それ以外はやや脆弱である。4本主柱穴と考えられ、そのうち東側2本(ピ1・2)を確認した。柱痕と掘り方が同一規模であり、当住居以外の柱穴の掘り方が柱痕よりも明らかに大きいことと異なる。

地焼炉として床面が赤化している場所は3箇所であった。ピ1の東側(マ1)と南壁の東より(マ2)にマウンド状の高まりが認められた。調査区境界付近で、やや大型の炭化材が出土しており、焼失住居跡と捉えることができる。竪穴の掘り方はC字状である。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

33号竪穴住居跡

竪穴南東部隅のみの確認である。確認面から床面までは15cmを測る。床面はやや堅緻であった。28号住やJ26土1と重複し、J26土1より古く、28号住よりも新しいことを確認している。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

34号竪穴住居跡

東西5.4m、南北6.2mの隅丸方形で、Ⅲ層上面から床面まで45cmを測る。主軸はN-2°-Wである。周溝は北壁中央付近から南壁中央付近まで認められた。床面は全体に堅緻である。主柱穴は4本と考えられそのうち北東隅を除き確認した(ピ1・

2・6)。ピ1の底面からS字状口縁台付壺の口縁部片が出土している。

炉は竪穴内中央からやや北東に偏った位置にあり、不整な楕円形をした浅い掘り込みの地焼炉である。北側に大型の扁平な礫、その周辺に小型の礫2点が据えられていた。ピ6の南側に方形土坑(土1)があり、大型の壺がほぼ1個体分出土した。土坑の東側から土坑内部へ崩れ落ちた様な状況であった。竪穴の掘り方は中央部を島状に残す。

出土資料からⅡ期の新段階からⅢ期の古段階の所産と考えられる。

35号竪穴住居跡

東西5.6m、南北4.8mの隅丸方形で、確認面から床面までは5cmを測る。主軸はN-27°-Wである。床面は竪穴内中央から南東隅及び北西隅にかけて堅緻である。炉は竪穴内ほぼ中央に位置し、大型の地焼炉1基と小型の地焼炉3基を確認した。

床面確認段階での柱穴の確認は困難であった。掘り方調査時に確認したピ3・4・6が位置関係から主柱穴であった可能性が高い。36号住と重複し、貼床が36号住の平面プランの上面まで広がることから、当住居の方が新しい。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

36号竪穴住居跡

東西5.8m、南北5.6mの隅丸方形であり、東壁がやや丸みを帯び膨らむ。確認面から床面までは30cmを測り、床面は全体的に堅緻である。主軸はN-21°-Wである。主柱穴は4本(ピ7・9・12・14)であり、北西隅のピ7を除き、旧柱穴がやや西側に存在していたことが確認でき、柱自体が東側へ移動したこととなり、竪穴の東壁がやや弧状になることと関連する可能性もある。

炉は竪穴内中央からやや北側に寄る。円形で浅いすり鉢状を呈し、南側に2個の礫を配している。

北東隅と東壁中央付近には木端状の細かい炭化材が集中して床面に接した状態で出土した。南東隅からやや北よりにはロームを主体としたマウンド状の高まりが確認できた。

南東隅の主柱穴(ピ14)と南壁の間には底面が2段ある楕円形の土坑(土2)があり、覆土から口縁部を欠く小型壺が出土している。掘り方は中央部を島状に残すが、壁に平行してやや狭い溝が巡ることが特徴的である。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

37号竪穴住居跡

南北7mの隅丸方形であり、確認面から床面までは40cmを測る。主軸はN-20°-Wである。竪穴内ほぼ中央に位置する炉から北側で床面は堅緻であるが、南側半分は耕作による搅乱で床面は壊されていた。周溝はほぼ全周するものと考えられる。主柱穴は4本と考えられそのうち東側の2本（ピ1・6）を確認した。床面には炭化物と焼土を多量に含む土がブロック状に数箇所に見られた。

東壁に沿って約2mの間隔で壁を削りこむようなピットが3基確認できた（ピ13・2・14）。確認したのは周溝調査時であり、住居廃絶後のものとは考えられない。掘立柱建物跡の可能性もあるが、柱間比率を考慮した場合、東ないしは西側に想定される位置に柱穴は確認されていない。以上のことから、当住居に関連する施設と捉えておく。また、掘り方調査時に確認したピ15も一連のピット群と関連する可能性がある。

竪穴内南東隅付近にやや不整な円形の貯蔵穴と考えられる土坑があり、礫や土器片などとともに白色の粘土塊が1点出土した。掘り方は竪穴内中央部を島状に残すものである。東壁の掘り方溝は壁に接していない。

38号住と重複し、覆土堆積状況から当住居の方が新しい。出土資料からⅡ期の新段階からⅢ期の古段階の所産と考えられる。

38号竪穴住居跡

南北5mの方形であり、確認面から床面までは20cmを測る。主軸はN-13°-Wである。床面は全体的に脆弱であった。周溝は竪穴内南東隅を軸にL字形に確認した。主柱穴は4本と考えられそのうち東側の2本（土1・37住ピ10）を確認した。

土1から南壁にかけて3基の土坑（土3・4・2）と2基のピット（ピ1・2）が重複している。土2→土1→土3の順序で掘削されたことが覆土堆積状況から捉えることができたが、その他の遺構の重複関係については明確に判断することができる状況ではなかった。土1は主柱穴と考えられるが、出土状況図にあるように遺物が折り重なって出土していることから、遺物は柱の抜き取り時に廃棄された可能性が高い。掘り方は竪穴内全体に床面からやや深く掘削されている程度であった。37号住と重複し、覆土堆積状況から当住居の方が古い。

出土資料からⅡ期の新段階からⅢ期の古段階の所産と考えられる。

39号竪穴住居跡

北側の壁際のみを平面的に捉えることができた。調査区の土層堆積状況から、南北約5.6mの方形であったと推定できる。主軸はN-18°-Wである。主柱穴は確認できず、周溝は北壁沿いのみを確認した。炉は不整形な地焼炉である。想定される竪穴内部から15号掘立をはじめとする複数のピットを確認したが、床面の状況が判然としなかったため、前後関係に関しては判断することができなかった。

出土資料からⅡからⅢ期の所産と考えられる。

40号竪穴住居跡

調査区内の土層観察により把握したものである。北東隅周辺の一部が調査区内にかかっていたものと考えられるが、平面プラン確認時には把握し得なかった。

覆土の状況から古墳時代前期と考えられる。

41号竪穴住居跡

南北6.7mの方形であり、確認面から床面までは最大で20cmを測る。主軸はN-83°-Eである。東壁のほぼ中央にカマドがある。坏（41住-1）は見込み部に同心円暗文・体部に放射状暗文が見られる。皿（41住-2）は同心円暗文であり、体部にヘラ削りなどの整形はされていない。以上のことから9世紀代の所産と考えられる。

第2節 掘立柱建物跡

合計16基の掘立柱建物跡を確認した。掘立柱建物跡としての並びを把握し得なかつたが、同規模の柱穴跡を調査区内で検出しており、確認以上の掘立柱建物跡が存在していたことと考えられる。また、各掘立柱からの出土遺物はほとんど無く、遺物からの時期決定は困難であり、遺構の重複関係による前後関係及び柱内の覆土から判断し、古墳時代前期の所産であると結論付けた。

1号掘立柱建物跡

1間×2間（2.7m×3.7m）の掘立柱建物跡であるが、中央よりやや南に焼土粒子をやや多く含む土坑があり、掘立柱建物跡の付帯施設の可能性が高い。柱穴の掘り方は若干ゆがんではいるが方形であり、南西隅の柱穴を除き、柱のアタリが明確に確認できた。9号竪穴住居跡と隣接し、同時存在は考えにくいが、その前後関係の把握は困難であった。

2号掘立柱建物跡

確認段階では2条の溝と捉えていた遺構であるが、調査の中で布掘りの掘立柱建物跡であることを

確認した。主軸はN-29°-Wである。

3・4号掘立柱建物跡と重複関係にあるが、その前後関係については不明である。4号溝よりは古く、13号竪穴住居跡よりは新しいことが土層観察により把握できている。

西側溝は幅50cm、長さ5mであり、深さ50cmの長方形の掘り込みが3箇所ある。3箇所の掘り込みにはそれぞれアタリが確認でき、そのうち一番北側については一つの掘り込みに3箇所のアタリを認めることができ、建替えなどが想定される。浅い掘り込みに2箇所のアタリがあり、5本の柱により構成されていたと考えられる。

東側溝は幅50cm、長さ4.5mであり、深さ80cmの長方形の掘り込みが4箇所ある。4箇所の掘り込みにそれぞれアタリが確認でき、浅い掘り込みに1箇所アタリがあり、計5つのアタリを確認した。以上のことから、2間×4間の掘立柱であったと考えられ、西側溝北部は建替えがされたといえる。

土層観察による柱痕の確認はし得なかったが、溝内には明瞭ではないが版築状であった。

本来、このような建物跡には棟持柱跡が付随する事例が多いが、調査の中では確認し得なかった。溝ノ口遺跡（静岡県掛川市）SH01にその類例を求めることができる（井村広巳・松本一男2000『溝ノ口遺跡』掛川市教育委員会）。

3号掘立柱建物跡

1間×2間（3.5m×4.0m）の掘立柱建物跡である。柱穴の掘り方は隅丸の長方形もしくは方形であり、すべてに柱穴にアタリが確認できた。主軸はN-73°-Eである。

2・4号掘立柱建物跡と重複関係にあり、2号との関係は不明であるが、4号よりは新しいことを柱穴の確認順序から把握した。4号溝より古く、13号竪穴住居跡よりは新しい。

4号掘立柱建物跡

1間×2間（3.2m×4.3m）の掘立柱建物跡である。柱穴の掘り方は隅丸の長方形もしくは方形であり、すべての柱穴にアタリが確認できた。主軸はN-75°-Eである。

5号掘立柱建物跡

本書を作成検討中に掘立柱建物跡として捉えたものである。主軸はN-60°-Wである。

1間×2間（2.4m×3.2m）の掘立柱建物跡と考えられる。柱穴6基のうち北側の3基と南側の1基を確認している。柱穴の掘り方は円形であるが、本

来は隅丸の方形もしくは長方形であったと考えられる。4基のうち2基にアタリが確認できた。

18号竪穴住居跡の貼床を剥がした段階で南側の1基を確認したことから、18住よりも古いといえる。

6号掘立柱建物跡

本書を作成検討中に掘立柱建物跡と想定したものである。主軸はN-62°-Wである。

1間×2間（-×4.0m）の掘立柱建物跡と想定される。柱穴は北側の2基のみである。その他については、調査区外ならびに7号溝により壊されていると仮定した。23号竪穴住居跡と重複するが、柱穴が貼床下で確認されていることから、23号住よりも古いといえる。

7号掘立柱建物跡

本書を作成検討中に掘立柱建物跡と想定したものである。主軸はN-28°-Wである。

1間×2間（-×3.9m）の掘立柱建物跡と想定される。柱穴は北西隅と南西隅の2基のみである。いずれの柱穴にもアタリを確認した。その他については、調査区外ならびに24号竪穴住居跡建築時に壊されたと仮定した。

8号掘立柱建物跡

1間×2間（3.7m×4.2m）の掘立柱建物跡である。主軸はN-64°-Eである。柱穴の掘り方は隅丸の方形であり、全ての柱穴にアタリが確認できた。24号竪穴住居跡と9号掘立柱建物跡と重複関係にある。24号住よりは新しいが、9号掘立との前後関係は確認しえなかった。ただし、8号掘立の柱穴では土層観察で柱痕が認められ、9号掘立では認められていないことから、9号掘立の柱を抜き取り後に8号掘立の建築した可能性がある。

9号掘立柱建物跡

1間×2間（3.0m×3.4m）の掘立柱建物跡である。主軸はN-16°-Wである。柱穴の掘り方は隅丸の方形または円形である。北側2基の柱穴でアタリを確認できた。24号竪穴住居跡と8号掘立柱建物跡と重複関係にある。24号住より新しい。8号掘立との前後関係は不明確であるが、8号掘立の項で述べたとおり、9号掘立の方が古い可能性がある。

10号掘立柱建物跡

1間×2間（2.9m×3.8m）の掘立柱建物跡である。主軸はN-62°-Eである。柱穴の掘り方は隅丸の方形であり、検出した4本のいずれにもアタリを確認した。西側は調査区外へ広がると考えられる。

11号掘立柱建物跡

1間×2間（2.5m×3.8m）の掘立柱建物跡である。主軸はN-58°-Eで、柱穴の掘り方は不整な円形である。東側は調査区外へ広がると考えられる。16号竪穴住居跡と重複する。貼床を剥がした段階で柱穴を確認したことから、11号掘立の方が古い。

12号掘立柱建物跡

2間×2間（4.2m×6.8m）の総柱掘立柱建物跡である。主軸はN-73°-Eである。東西の柱間が3.6mと3.2mで同一ではないことから、中央の柱並びと東の柱並びもしくは中央の柱並びと西の柱並びによる1間×2間の2軒の掘立柱建物跡であることも想定できる。ただし、東西方向の柱並びが3列平行していることから、調査区の限定された現段階では総柱掘立建物跡と捉えておくこととする。

21号竪穴住居跡と重複する。貼床を剥がした段階で柱穴を検出したことから、12号掘立の方が古い。

13号掘立柱建物跡

1間×2間（-×5.0m）の掘立柱建物跡と想定される。主軸はN-15°-Wである。東側の南北柱通りのみの確認であり、西側の調査区外へ広がると考えられる。柱穴の掘り方は隅丸の方形であり、検出した3本全てにアタリが確認できた。28・32号竪穴住居跡および14号掘立柱建物跡と重複関係する。28・34号住の貼床を剥がした段階で柱穴を確認したことから、各住居跡よりも古い。14号掘立との前後関係は不明であるが、隣接し重なり合う部分が多いことから建替えによるものと考えられる。

14号掘立柱建物跡

13号掘立柱建物跡と同一規模であるが、主軸方位がやや西に傾く。主軸はN-24°-Wである。

15号掘立柱建物跡

1間×2間（-×5.0m）の掘立柱建物跡と想定される。西側の南北柱通りのみの確認であり、東側は調査区外へ広がると考えられる。主軸はN-17°-Wである。柱穴の掘り方は隅丸の方形であり、検出した3本のうち2本にアタリを確認できた。39号竪穴住居跡と重複し、39住の掘り方を調査中に柱穴を検出したことから、本掘立の方が古い。

16号掘立柱建物跡

1間×2間（2.4m×3.5m）の掘立柱建物跡である。確認面がIV層であり、柱穴の上部は削平されていると考えられる。主軸はN-12°-Wである。柱穴の掘り方は円形であり、南東隅の1本を除きアタ

リが確認できた。

柱穴掘り方構造が単純なものである。ただし、上部が削平されているため、確認した円形プランのみで構成されるのか、他の掘立柱建物跡と同様に一回り大きい掘り方が存在したかは不明である。

遺物の出土はないが、規模の類似する掘立柱建物跡が遺跡内で確認されていることや周辺の耕作土や包含層から出土する遺物が古墳時代前期のものが多いことから、古墳時代前期以降の所産とする。

第3節 土坑

縄文時代10基、古墳時代2基などを確認した。各遺構の時期別出土破片数・重量は住居以外出土遺物重量破片数表に示したとおりである。以下に微細図等掲載の遺構について報告を行なう。

E 6 グリッド内 1号土坑（E 6土1）

直径2.5m、Ⅲ層上面から底面まで60cmを測る円形の土坑である。底面は西側でやや急に立ち上がり、東側で緩やかである。底面の一部および底面付近で炭化物粒子や焼土粒子がブロック状に集中する箇所があった。脚部径13cmの大きいS字状口縁台付甕をはじめ、遺物は確認面から底面まで出土した。溝3に切られる。出土遺物から古墳時代前期の所産である。

G11グリッド内 1号ピット（G11ピ1）

直径50cm程度で、確認面から底面まで20cmを測る円形のピットである。確認面で礫が出土し、その下部から甕の大型破片が出土した。出土遺物から古墳時代前期の所産と考えられる。

G12グリッド内 1号土坑（G12土1）

フラスコ型の土坑であるが、開口部は崩落したものと考えられる。出土遺物はないがその形態から縄文時代として間違いない。

H17グリッド内 2・3・4号土坑（H17土2・3・4）

確認時は楕円形の土坑を捉えたが、半裁したところ3つの土坑が重複していたことを確認した。

土2は直径1m、確認面から底面まで1mを測る円形の土坑である。底面はほぼ平であり、土坑断面形態はバケツ型である。曾利V式の土器片が中心に出土している。土3は直径90cm、確認面から底面まで85cmを測る円形の土坑である。断面形は土2に類似する。底面からやや浮いた状況で曾利V式の土器片が出土している。土4は東西推定1.6m、南北1m、確認面から底面まで40cmの楕円形の土坑

である。土2・3に切られていることから曾利V式以前の所産である。

H17グリッド内1号土坑（H17土1）

直径90cm、確認面から底面まで50cmの円形土坑で、断面形態は底が平坦でバケツ型である。覆土中層から曾利V式の土器片が出土している。

K21グリッド内1・2号土坑（K21土1・2）

確認時に27号竪穴住居跡として調査したものであるが、調査により開口部付近で重複する2つの土坑であると分かったことから住居内施設と関連しない土坑と捉えることとした。

土1は直径1m、確認面から底面まで80cmの円形土坑で、断面形態は底の平坦なバケツ型である。曾利I式の大型な破片、V式の土器片および叩き石などの石器が出土している。覆土下層から中層で曾利V式が出土していることからその時期に所属すると考えられる。同一レベルで曾利I式の破片も出土している。これは流れ込みを想定するような大きさではないことから、曾利V式段階に、故意に曾利I式段階の土器片を土坑内へ入れた可能性を指摘しておきたい。土2は直径1m、確認面から底面まで60cmの円形土坑で、断面形態は底の平坦なバケツ型である。

K31グリッド内1号土坑（K31土1）

直径1m、確認面から底面まで60cmの円形土坑で、断面形態は底の平坦なバケツ型である。覆土観察では土坑中央付近に直径20~30cmの柱状の存在する可能性が認められたが、周辺で組み合うものがないことから土坑として捉えた。覆土や出土遺物から縄文時代の所産である。

L31グリッド内1号土坑（L31土1）

直径1m、確認面から底面まで50cmの円形に近い隅丸方形で、断面形態は底の平坦なバケツ型である。覆土や出土遺物から縄文時代の所産である。

L31グリッド内2号土坑（L31土2）

直径1m、確認面から底面まで70cmの円形で、断面形態は底の平坦なバケツ型である。覆土下層から磨石と楔形石器が出土している。覆土や出土遺物から縄文時代の所産である。

L31グリッド内3号土坑（L31土3）

東西1m、南北70cm、確認面から底面まで30cmの楕円形で、断面形態は皿状である。焼土が覆土中層付近で西側を中心に広がっており、土坑内で火を用いた可能性が高い。

K34グリッド内1号土坑（K34土1）

近代以降の浅い土坑に一部壊されている。長軸85cm、短軸75cm、確認面から底面まで35cmの円形で、断面形態は底の平坦なバケツ型である。底面から北西方向に口を向けた状況で曾利V式の深鉢形土器が出土した。土器は口縁の1/8を欠いている。出土状況から存在していない部分は土器埋設時にはすでにない状態であったことが想定される。土器には補修孔2点があるが1点は貫通しているが1点は未貫通である。

F10グリッド内井戸

調査区内で唯一の井戸跡である。地籍図や現況の検討により道の脇に存在していたことが分かる。

直径1mの円形の穴を水が湧き出す深さ約4.5mまで掘り下げている。掘り込みの壁の東西に対になって幅14cm、奥行き20cmの窪みがある。おそらく階段の代わりとして使用したのである。壁には工具痕が認められた。

上部構造は大型の礫を小型の礫で楔を打つようにして数段積み上げたものである。土坑上面に直径20cm程度のピットが1対ある。これは水を汲み取るための施設をかけた柱穴であると考えられる。

使用年代は不明であるが、道が国鉄建設により無くなったことから、概ねその時期に廃絶したものであろう。

連続方形土坑

1辺約2mの方形、底面は平坦で、壁が直線的に立ち上がる土坑が南北に約7mの等間隔に10基で1列(75m)、約7m隔てて西に平行して1列を確認した。

溝6・7よりも新しく、覆土はI~IV層が混ざったような土であり、人為的に埋め戻したものと考えられる。現在の地割りは明治28年には存在したものである。連続方形土坑の出土遺物で最も新しいものは昭和時代であることから、土地区画を越えて掘削されたことは間違いない。周辺で聞き取りを行なったがそのことを知る方は残念ながらいなかった。

第4節 溝

古墳時代から平安時代の溝1条、近・現代の溝6条を確認した。近・現代の溝については地境あるいは道の側溝と考えられる。

1号溝（溝1）

幅約2m、深さ約1mで、平面形態はカーブを描いている。断面形態は底面ですぼまり、開口部に向

けてラッパ状に大きく広がるロート状の形態をしている。覆土から1953年とプリントされた磁器製の碍子が出土しており、1953年以降に溝に覆土が堆積したことがわかる。

2号溝（溝2）

幅約60 cm、深さ約55 cmで、直線的な溝である。1号溝とほぼ平行し、地籍図上に存在する道と場所がほぼ一致する。このことから1・2号溝は道の側溝として掘削されたものと考えられる。

3号溝（溝3）

幅約60 cm、I層から掘りこまれており深さ70 cmを測る。開口部はラッパ状に大きく広がり、底部に向かい傾斜が強くなる。覆土から近・現代の溝と考えられる。

4号溝（溝4）

東西に伸びる溝である。東側は幅1.9mで深さ80 cmであるが、調査区のほぼ中央部で確認面から階段状に西に向かって下がる溝が並列する。溝と階段状の合流部で溝は一段下がり、西側へ伸びる。いずれの遺構も土層観察では重複関係ではなく、同時に機能していたものといえる。水の流れていたことを示す砂粒の堆積や鉄分の付着は認められない。

覆土上層に平安時代の遺構覆土と同質の土が含まれている点及び古墳時代の竪穴住居跡を壊している点から、古墳時代に機能し平安時代まで溝内の土壤堆積が継続したか、平安時代に機能していたものと考えられる。なお、覆土中から平安時代の遺物の出土はなく、大型の砥石が溝底面から出土した。

5号溝（溝5）

調査区内でL字形に曲がる溝である。幅30~90 cm、深さ約80 cmで、V字状の断面形態である。覆土から近・現代の溝と考えられる。

6号溝（溝6）

幅約1.2m、底面幅約30 cmで深さ約60 cmの溝である。断面形態は台形であるが、側壁の途中で傾斜変換があり二段掘り込み状となっている。覆土から近・現代の溝と考えられる。

7号溝（溝7）

幅約1.5m、底面幅約45 cmで深さ約80 cmの溝である。断面形態は台形であるが、側壁の途中で傾斜変換があり二段掘り込み状となっており、溝6と形態的に類似する。覆土から近・現代の溝と考えられる。

8・9号溝（溝8・9）

いずれも幅約1 m、深さ約15 cmで断面形態は皿

形をしており平行して存在している。現在ほとんど使用されることのない道が調査区外へ延び、その道と連動することから、道に伴う側溝と考えられる。覆土から近・現代の溝と考えられる。

10号溝（溝10）

幅約20 cm、深さ約10 cmの溝である。溝4を除く溝1~9の覆土と比較して、ロームブロックなどの混入が見られず、それらの溝とは時期が異なるものと考えられるが、出土遺物がなくまた掘り込み層位を確認し得なかったことから時期特定には至っていない。

第5節 遺構外の遺物

調査区内の遺構以外または遺構に明らかに伴わない遺物が出土している。それらを時代ごとに以下に報告する。各遺物についての詳細は観察表に譲りここでは時期ごとの傾向を報告することとする。

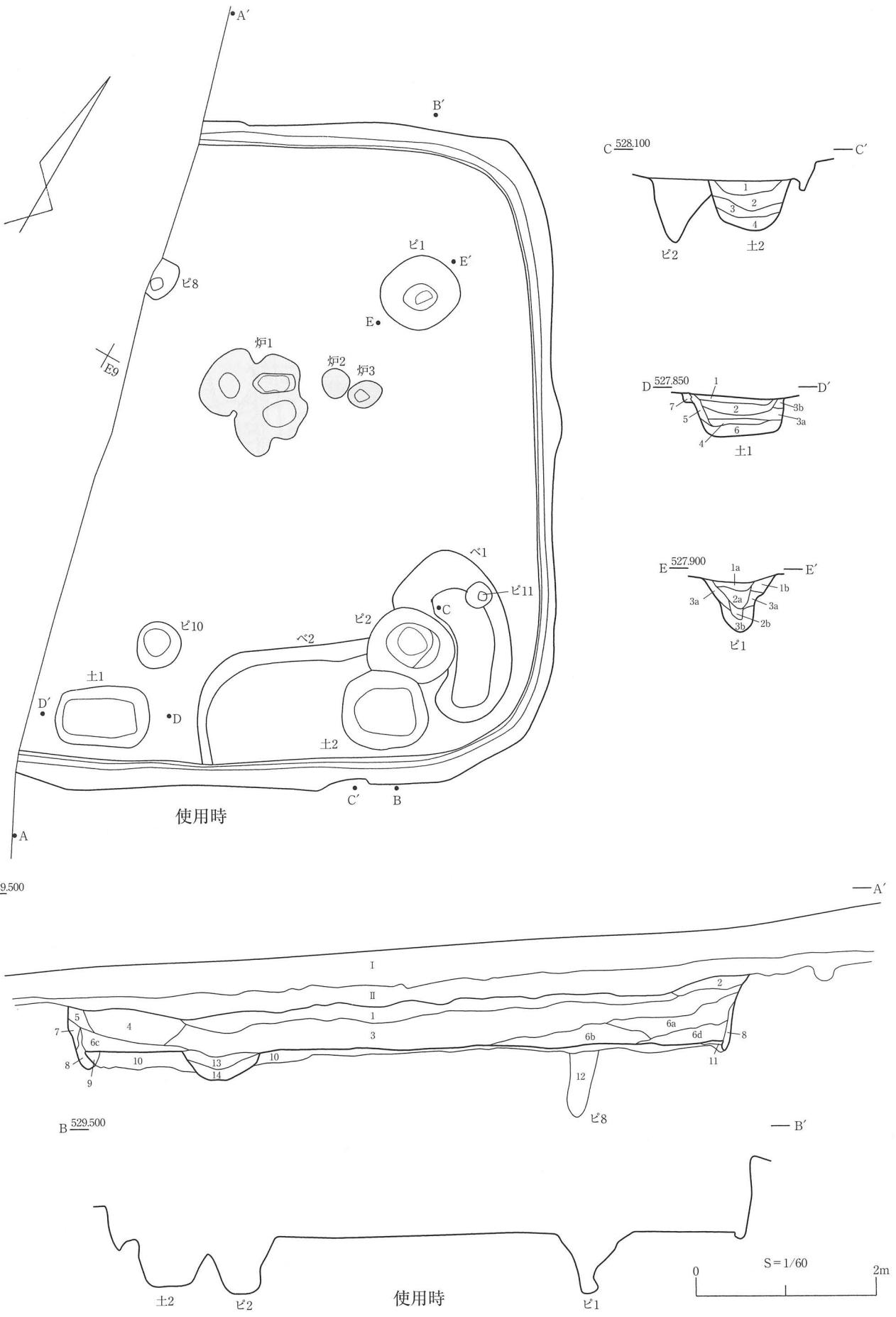
縄文時代：早期から前期の遺物は調査区南端の沢に向かって落ち込む斜面に堆積する黒色土中から出土している。時期はやや遡るが当遺跡の北に位置する次第窪遺跡からも同様な地形から早期末葉の土器が出土地している。いずれも遺構は伴わざ遺物のみである点と出土する土器の時間的幅が短いことが共通している。

中期の遺物は調査区南半分を中心に出土した。特に曾利V式及び加曾利E4式資料が量的に多い。土坑などの存在とともに、縄文時代における宿戸遺跡の集落内での調査範囲の土地利用形態を示している。

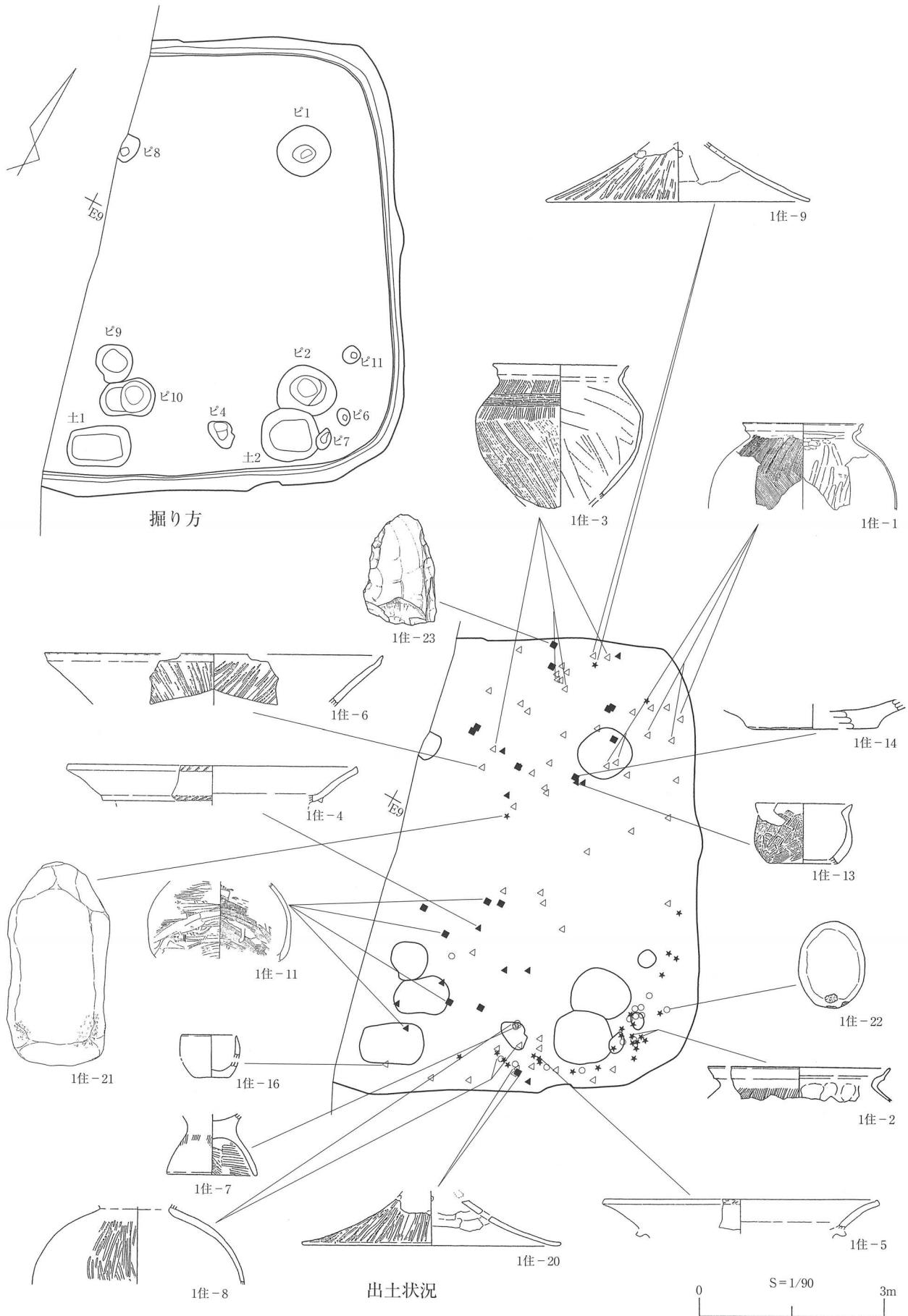
後期は称名寺式・堀之内式が出土しているが量的には少ない。

弥生時代：櫛描波状文の施文された甕などが出土しているが、極めて少ない。

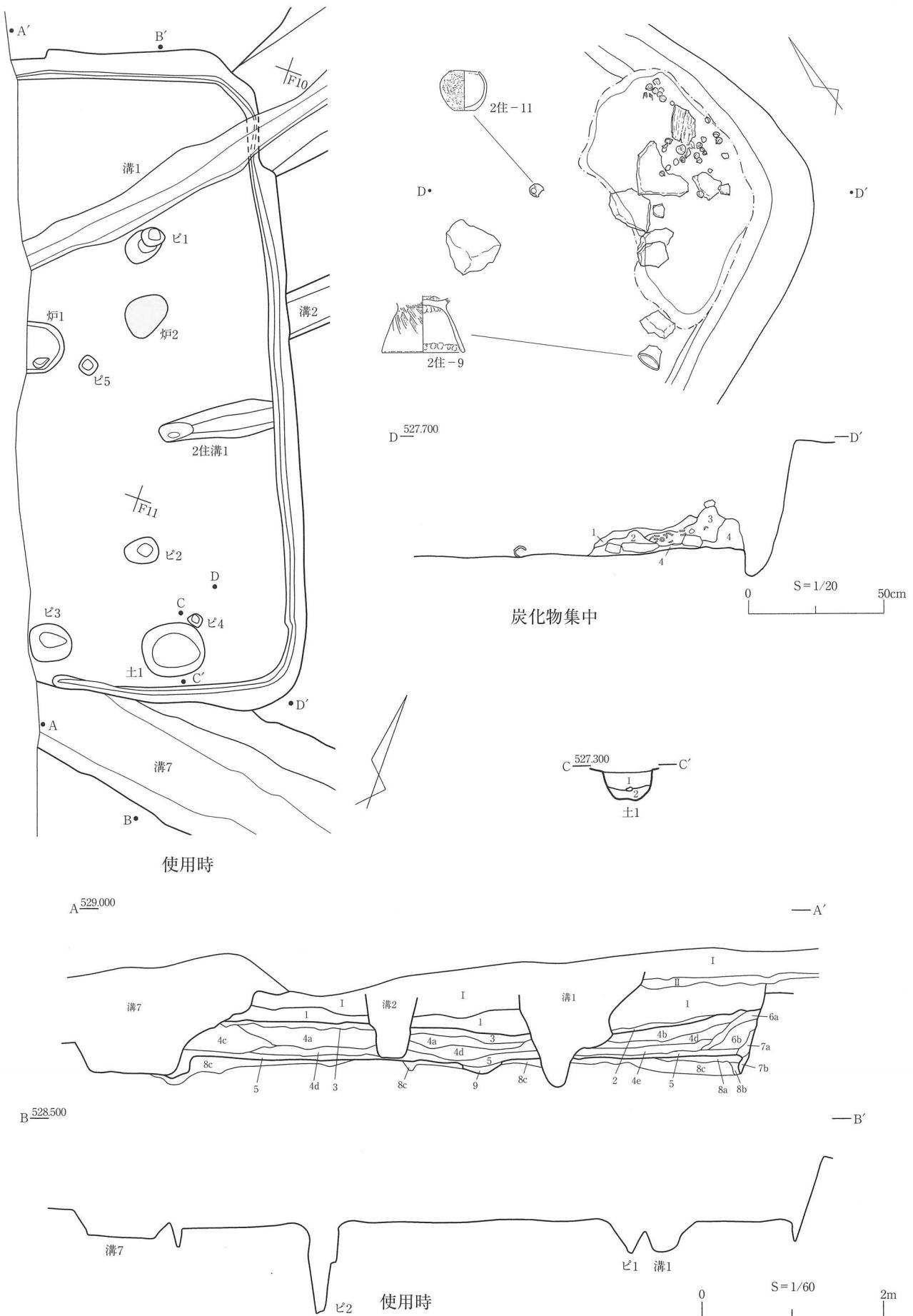
古墳時代・平安時代：遺構外からの出土は少なく、竪穴外での土器の使用や廃棄などはほとんど行なわれなかつたものと考えられる。掘立柱建物跡の内部に当たる部分でも遺物の出土は稀であった。



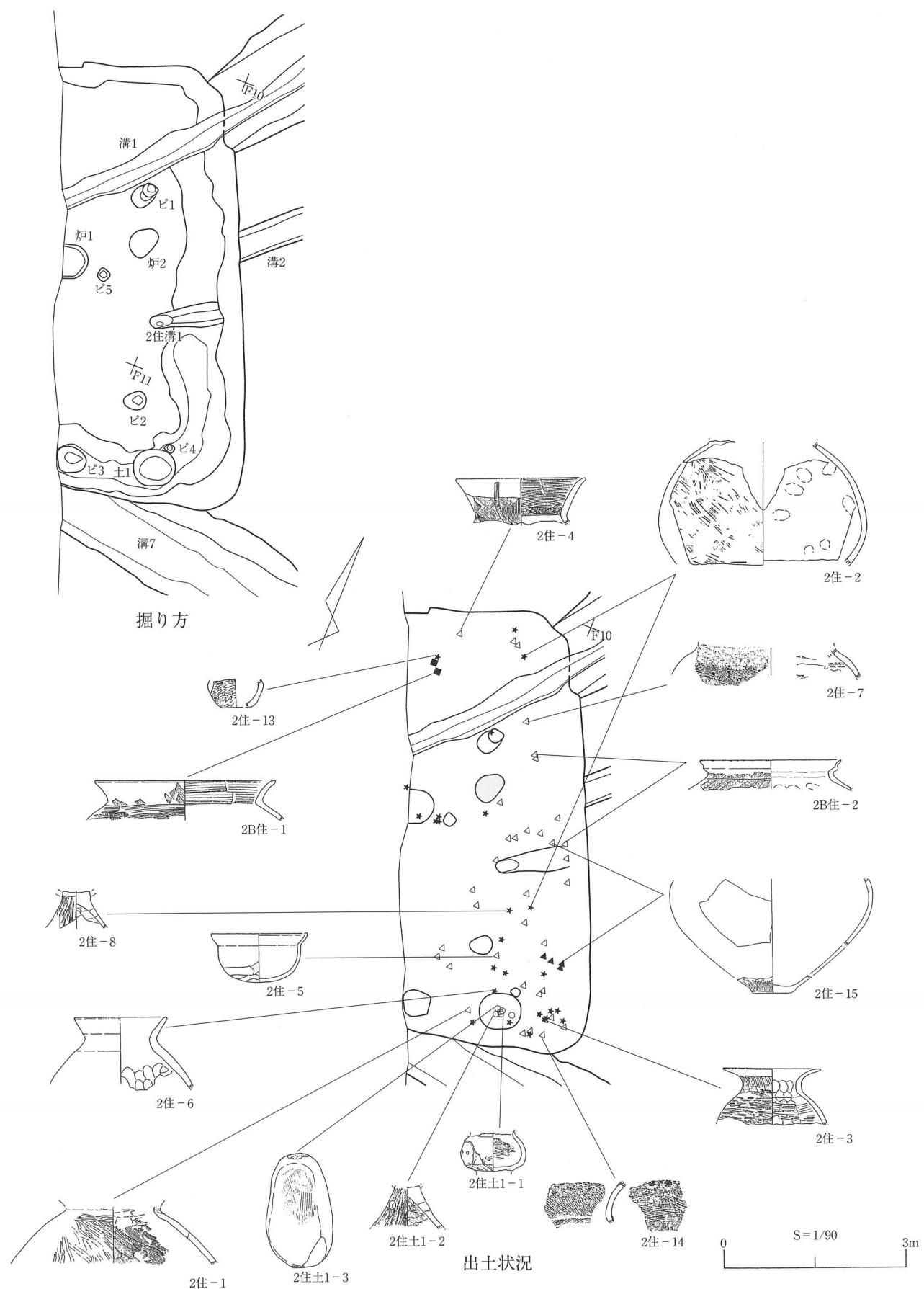
第7図 1号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



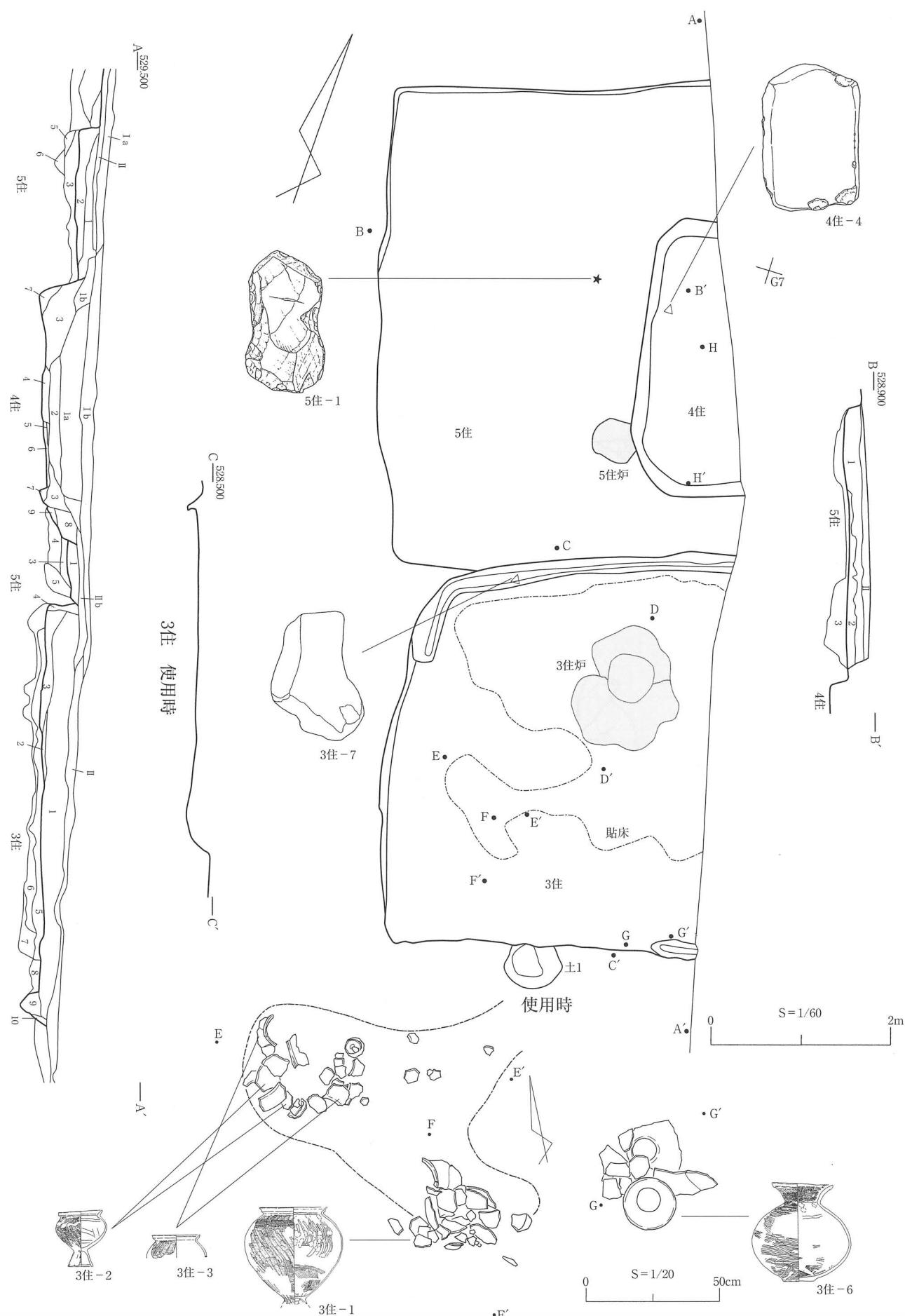
第8図 1号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



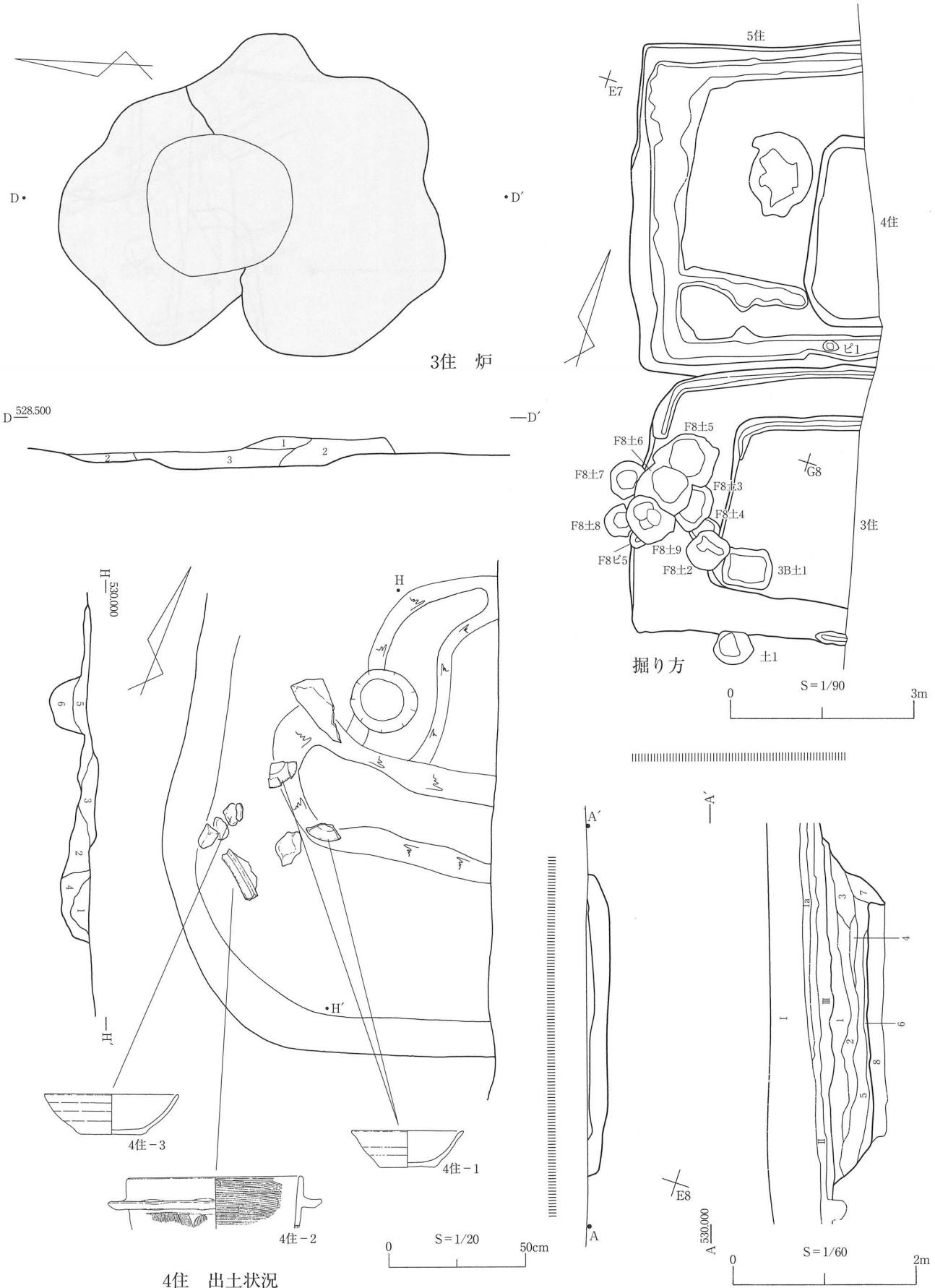
第9図 2号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



第10図 2号竪穴住居跡 平・断面図 (2)

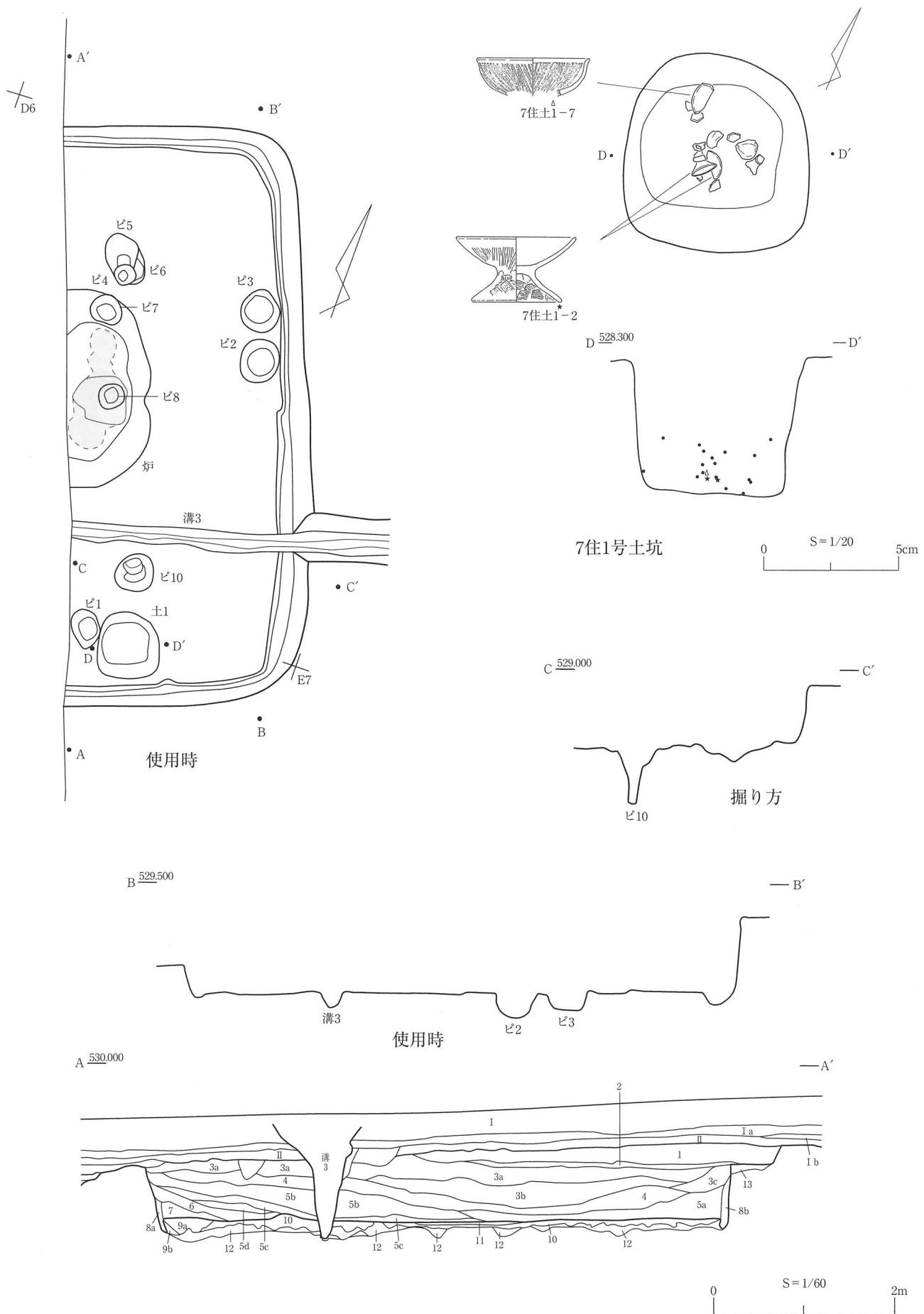


第11図 3・4・5号竪穴住居跡 平・断面図 (1)

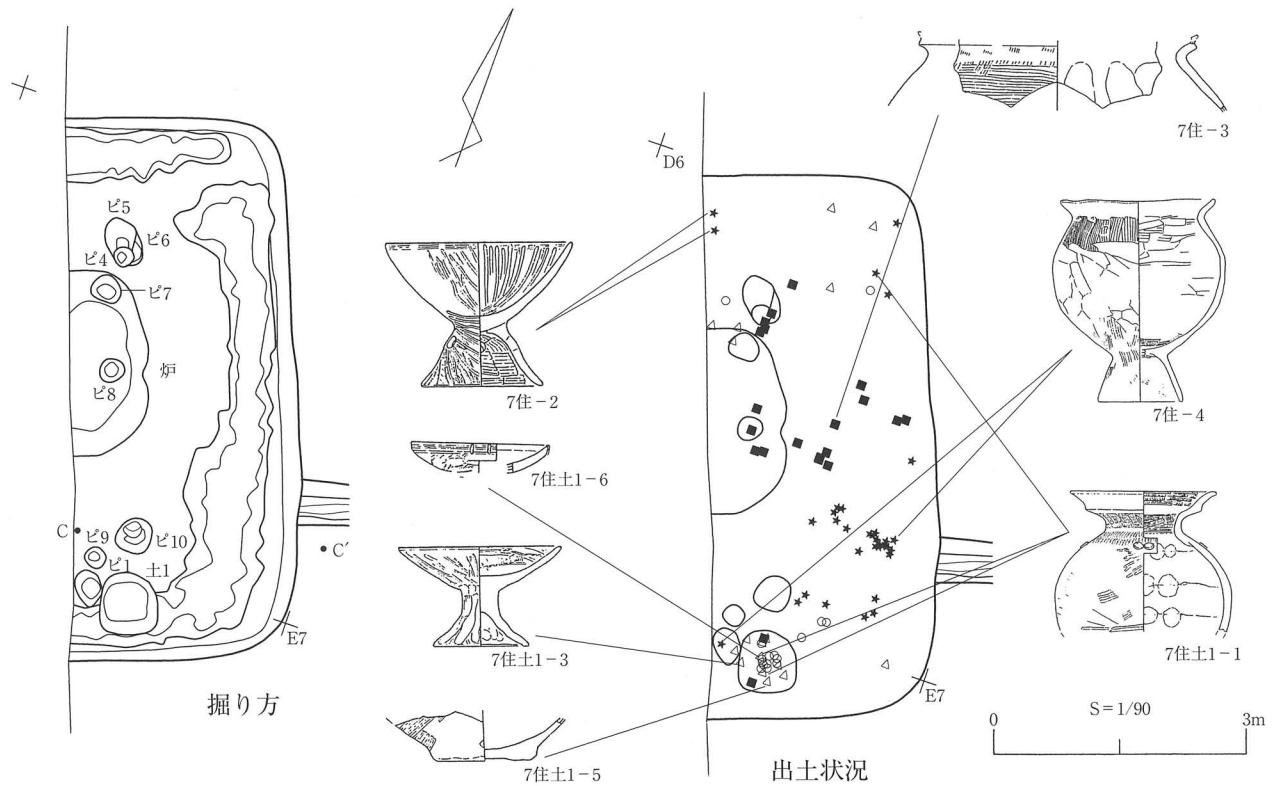


第12図 3・4・5号竪穴住居跡 平・断面図 (2)

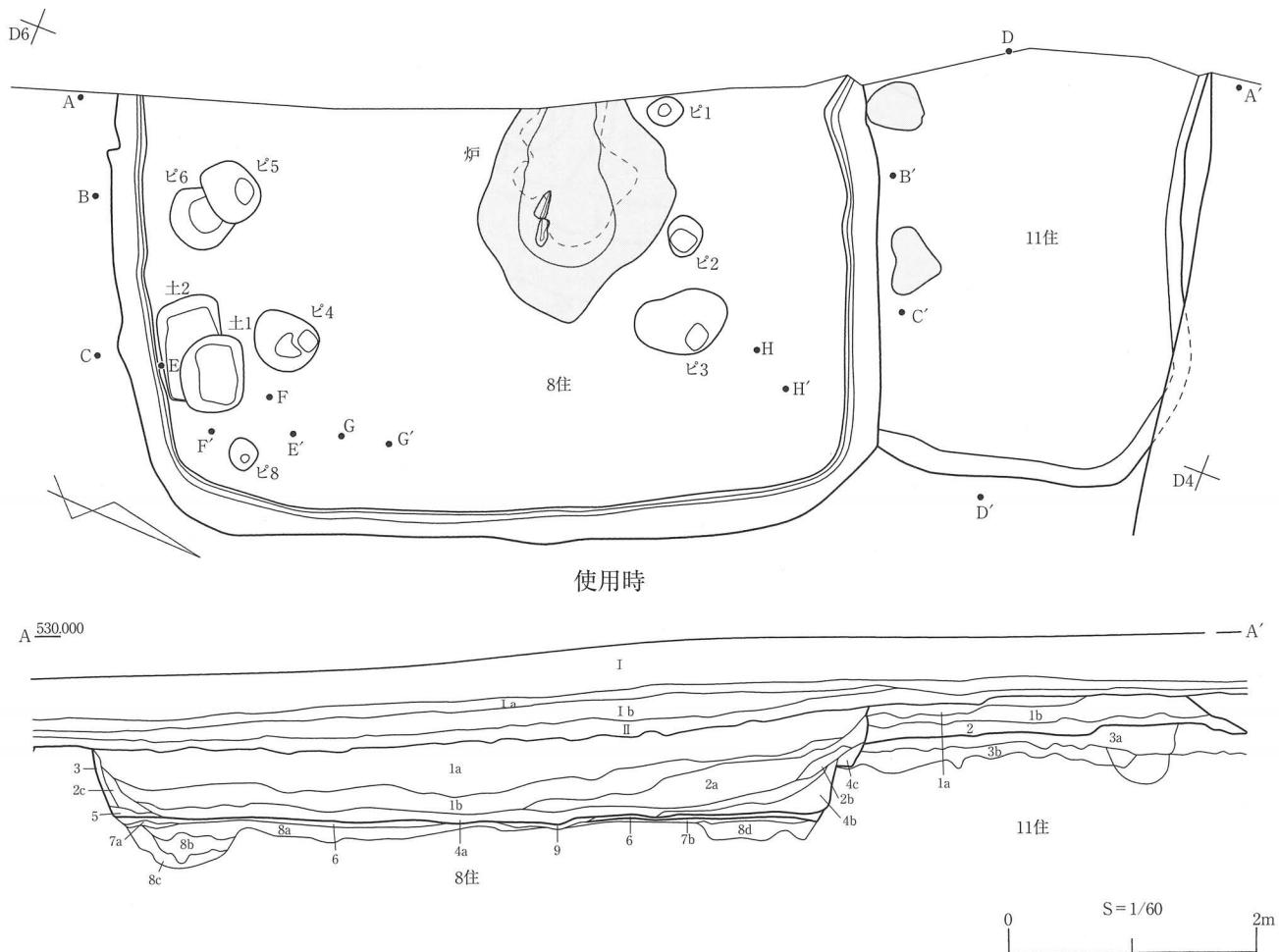
第13図 6号竪穴住居跡 平・断面図



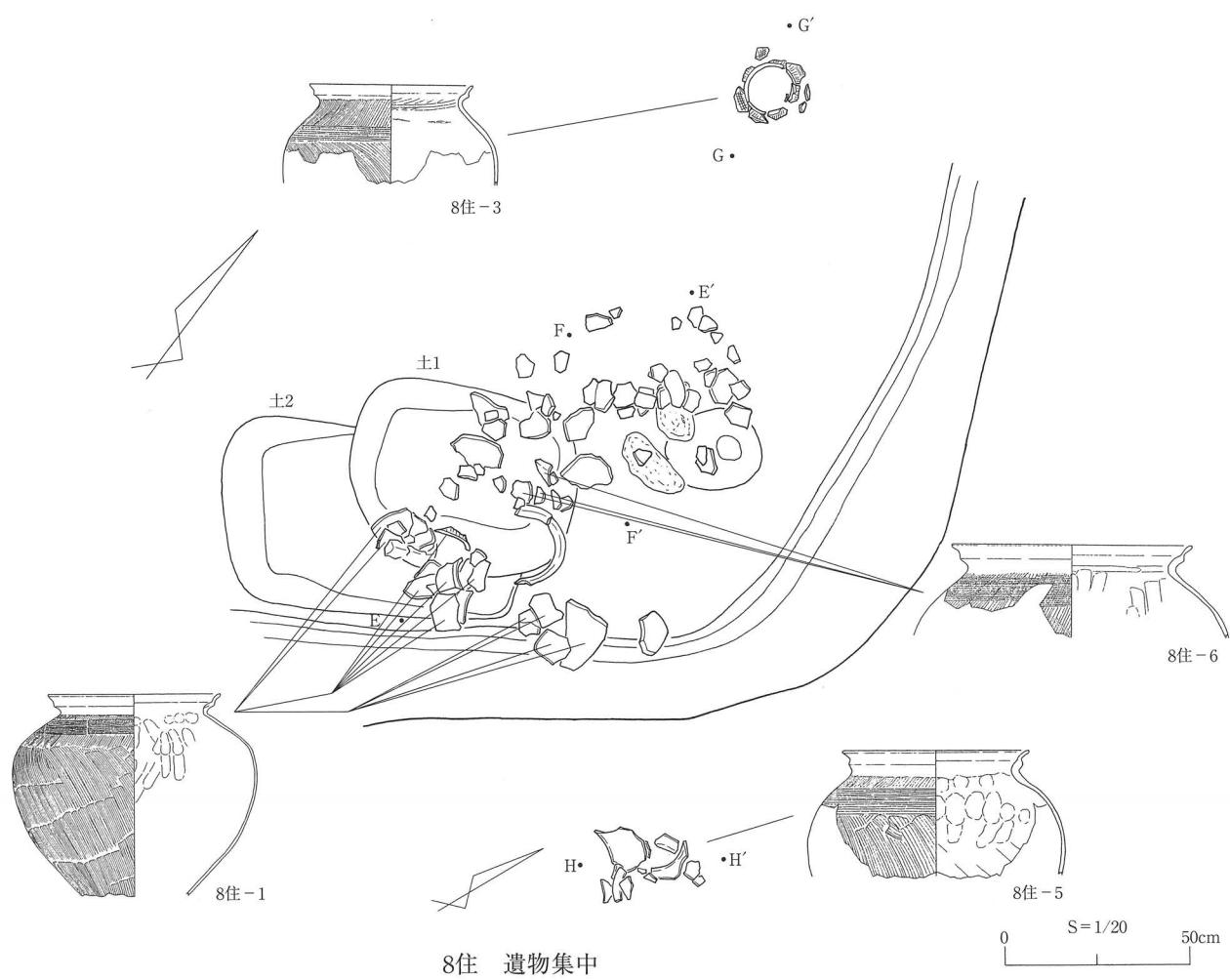
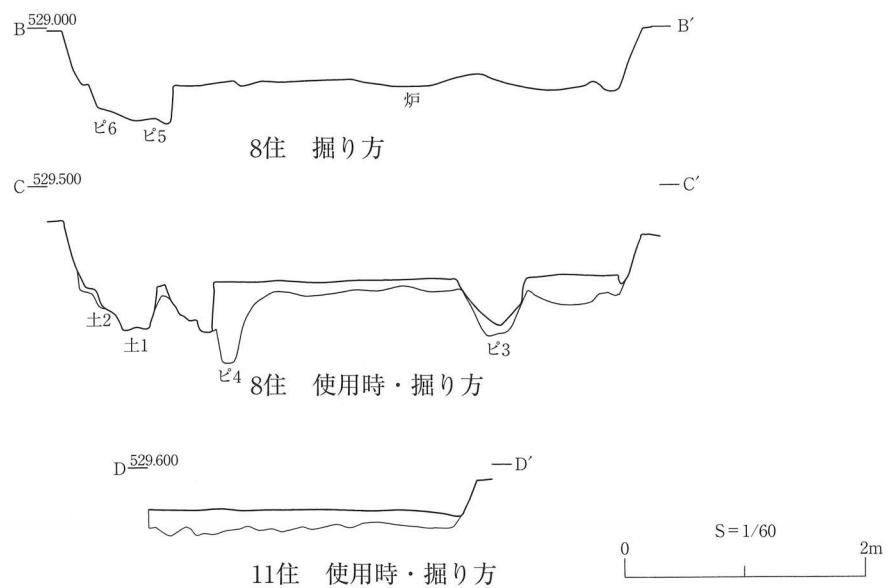
第14図 7号竖穴住居跡 平・断面図 (1)



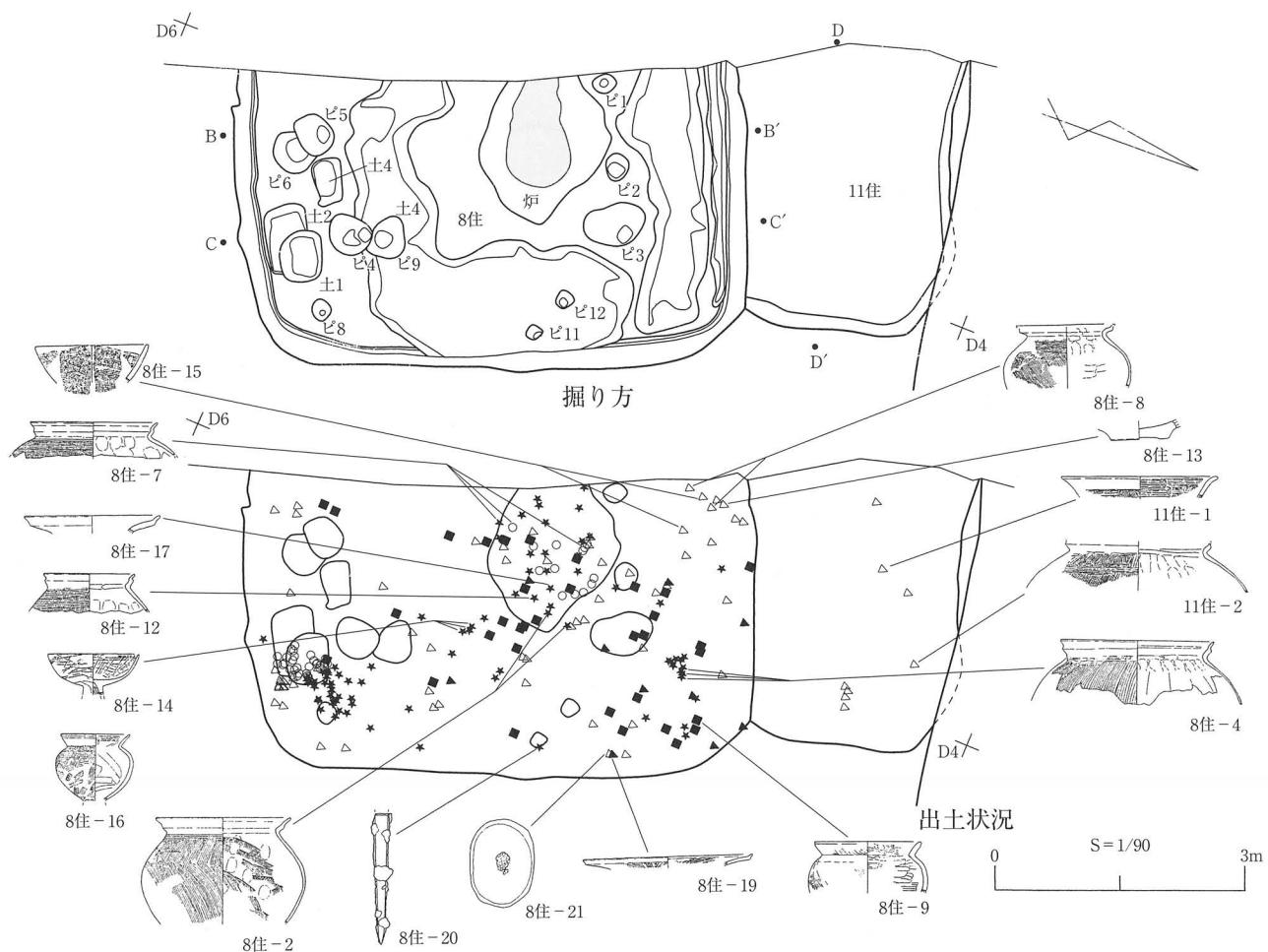
第15図 7号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



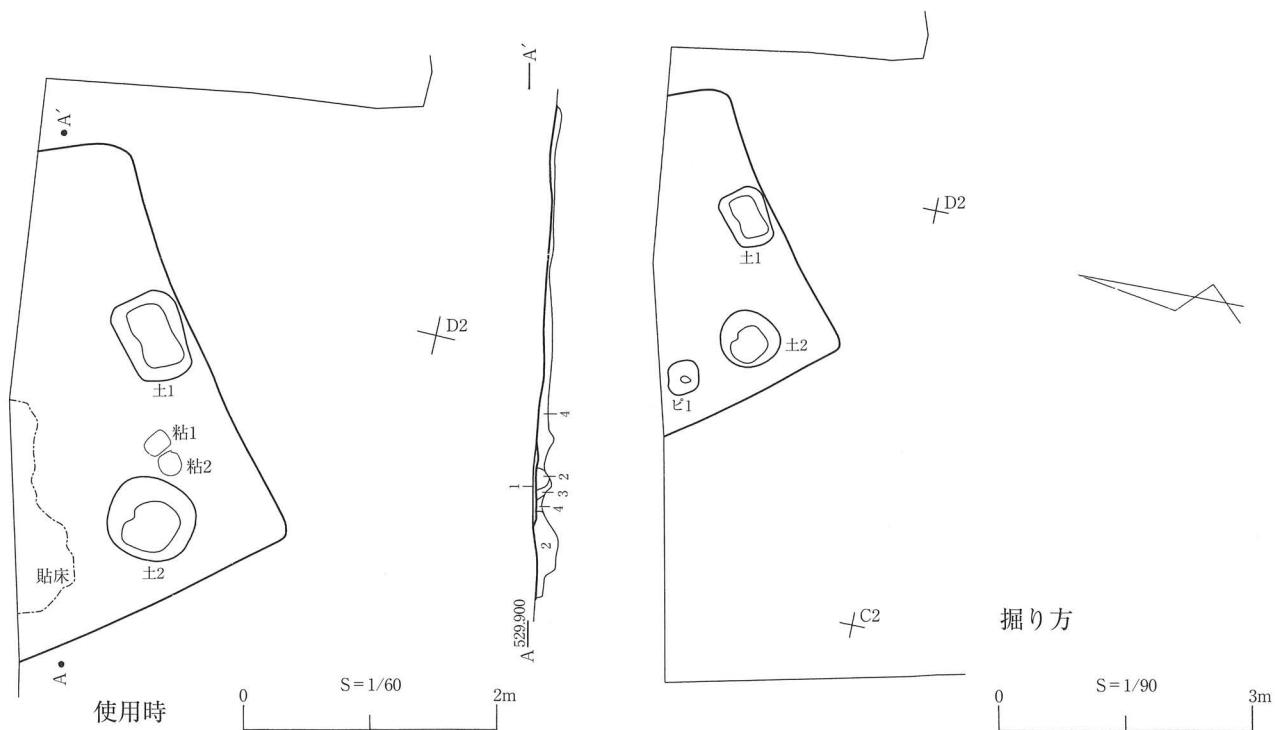
第16図 8・11号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



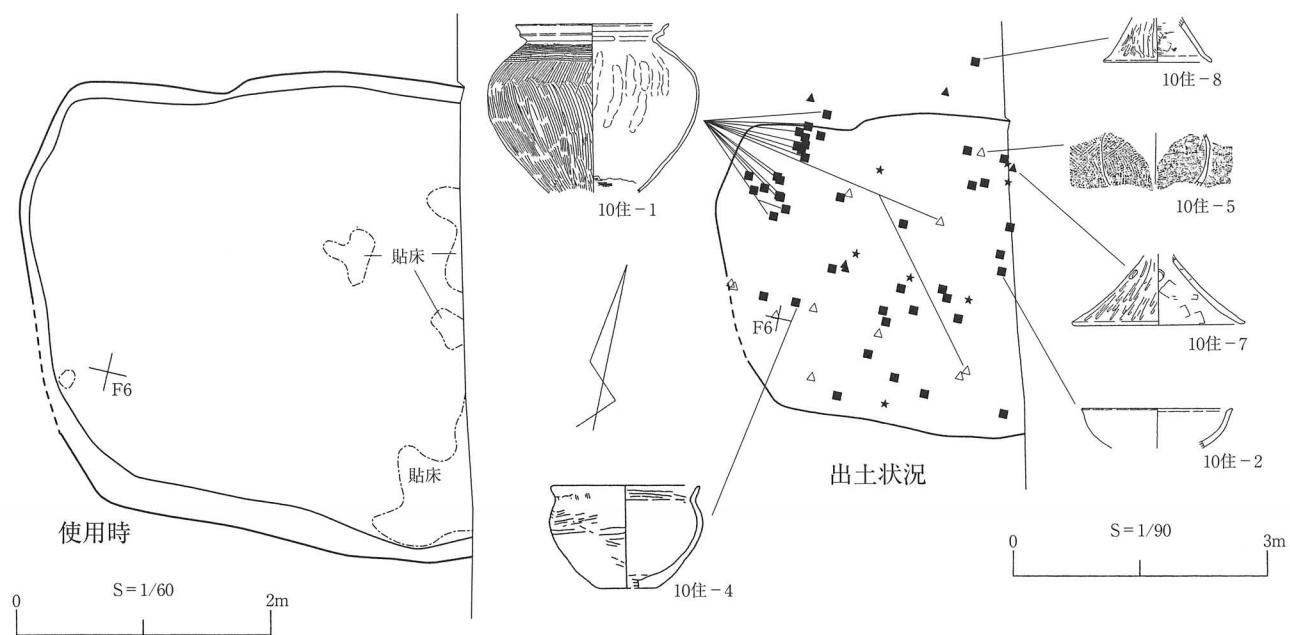
第17図 8・11号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



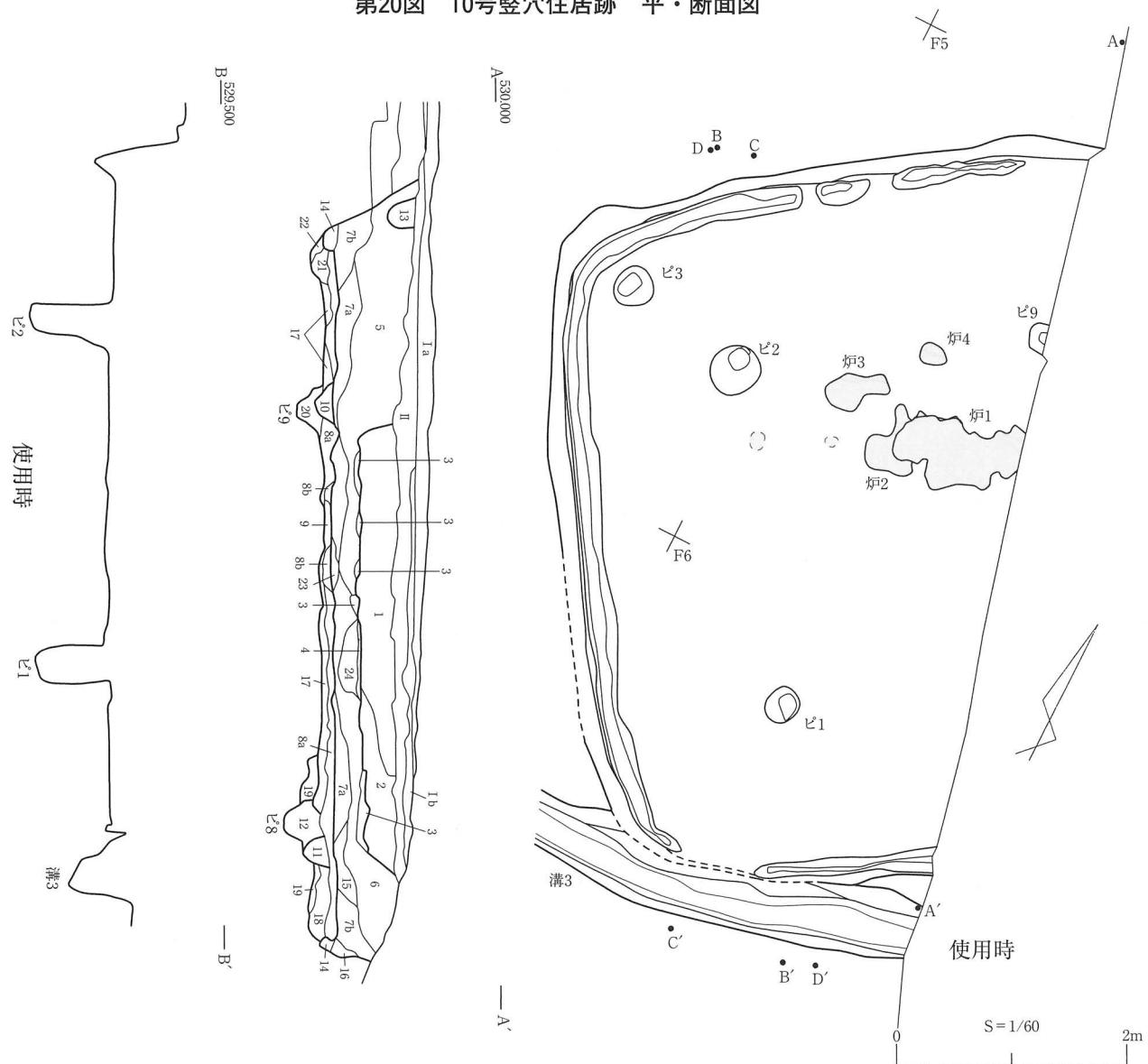
第18図 8・11号竪穴住居跡 平・断面図 (3)



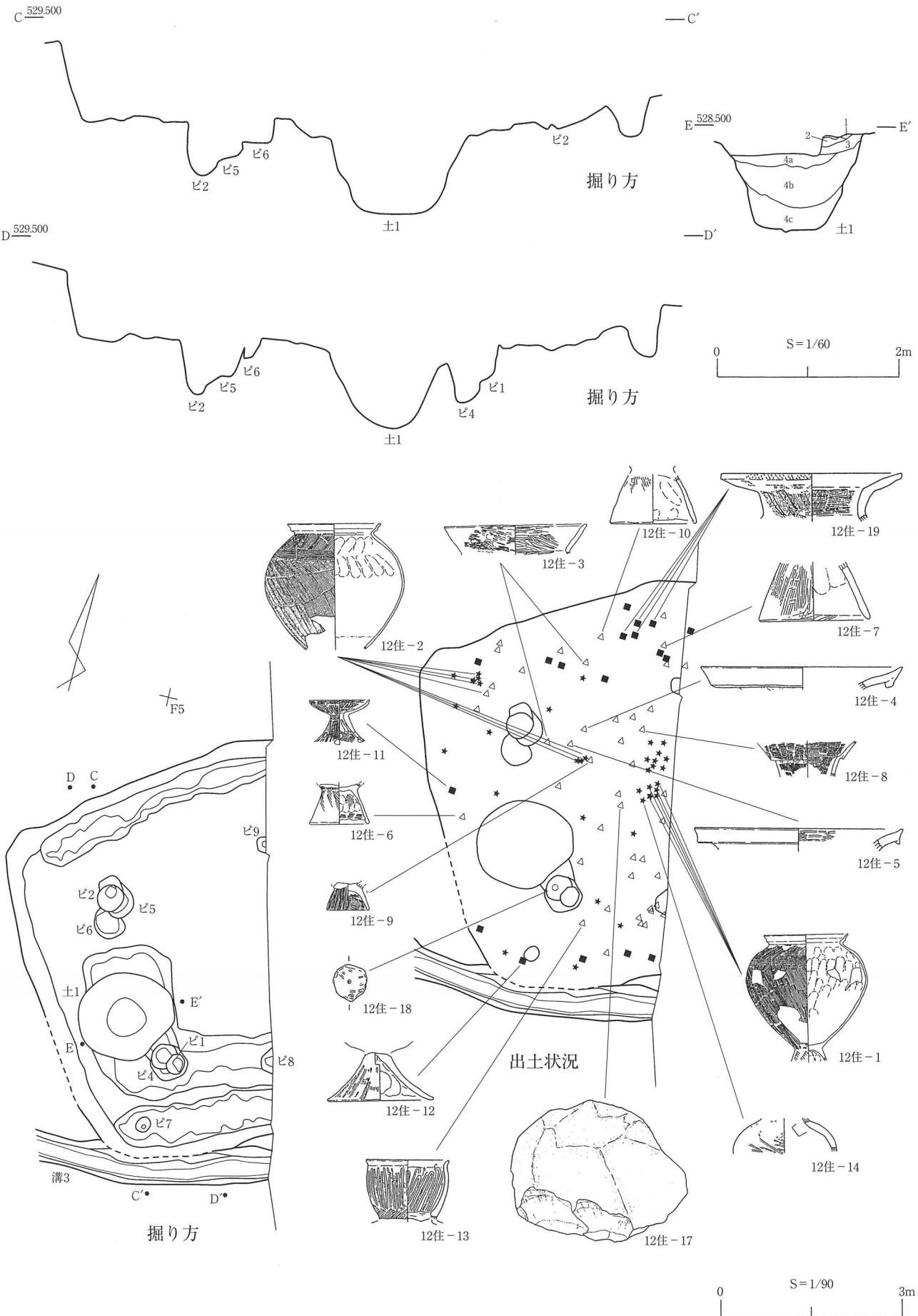
第19図 9号竪穴住居跡 平・断面図



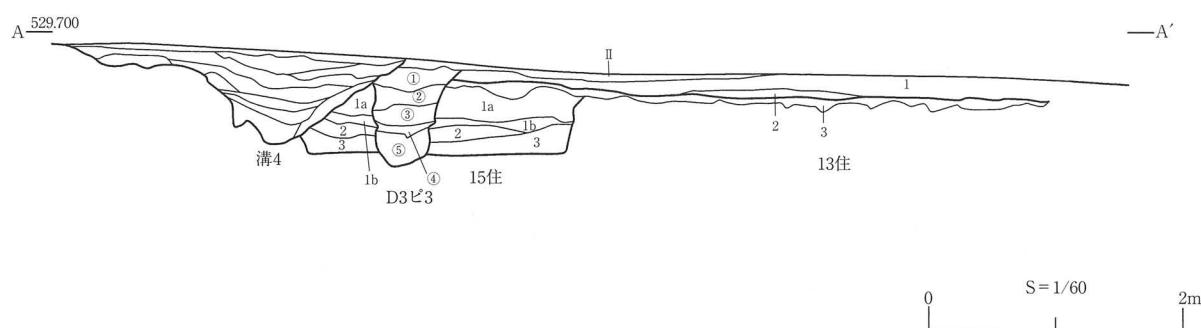
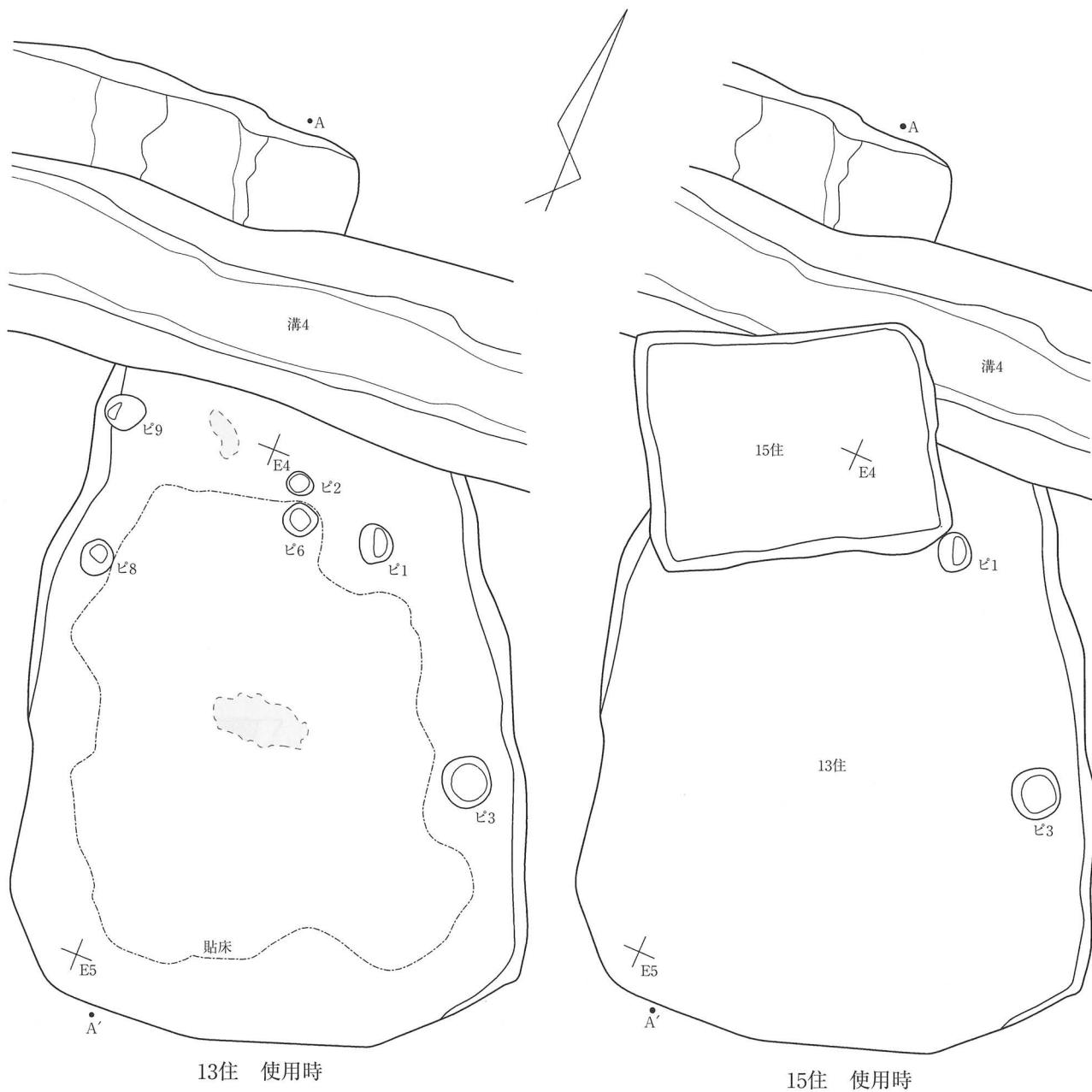
第20図 10号竪穴住居跡 平・断面図



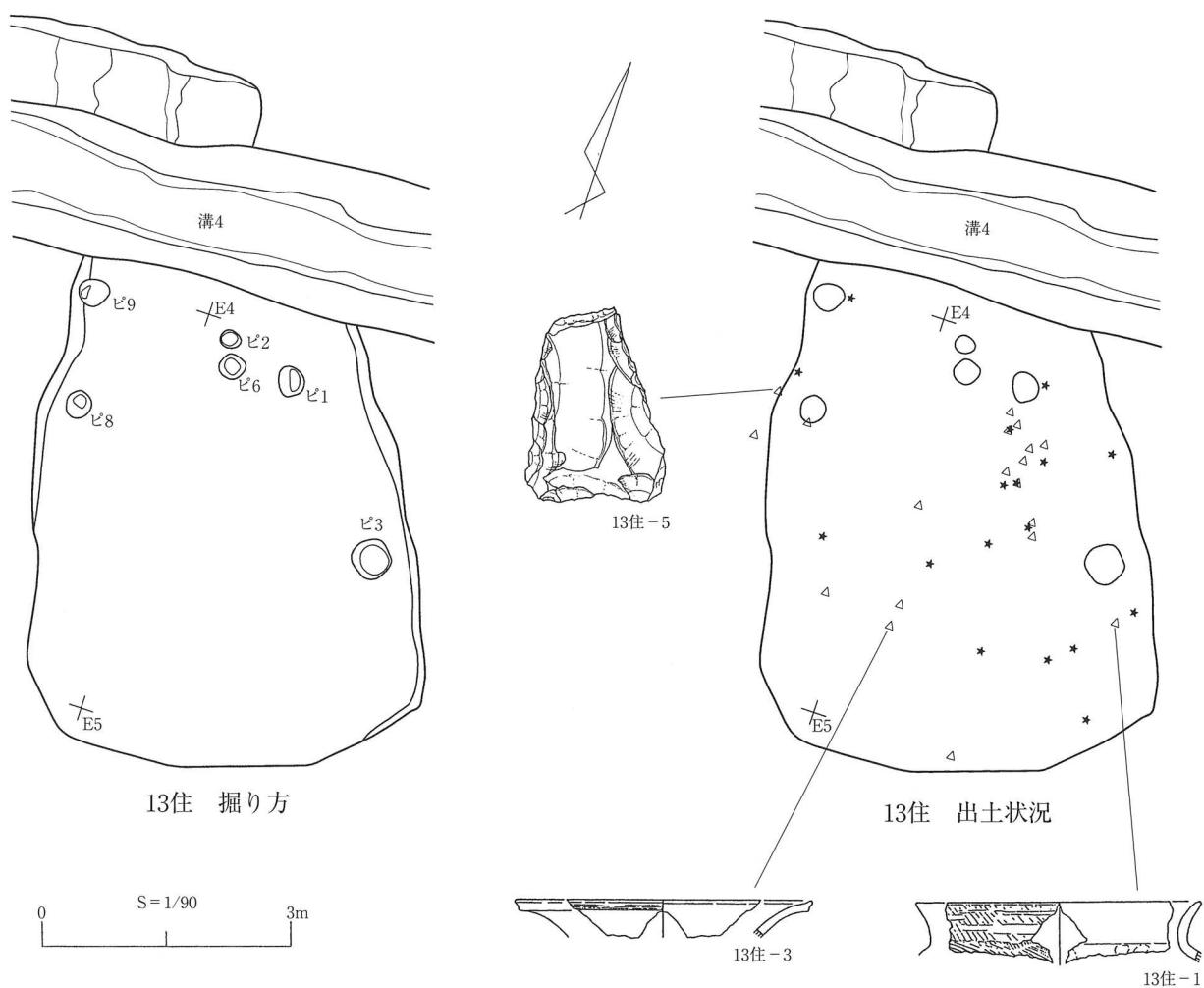
第21図 12号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



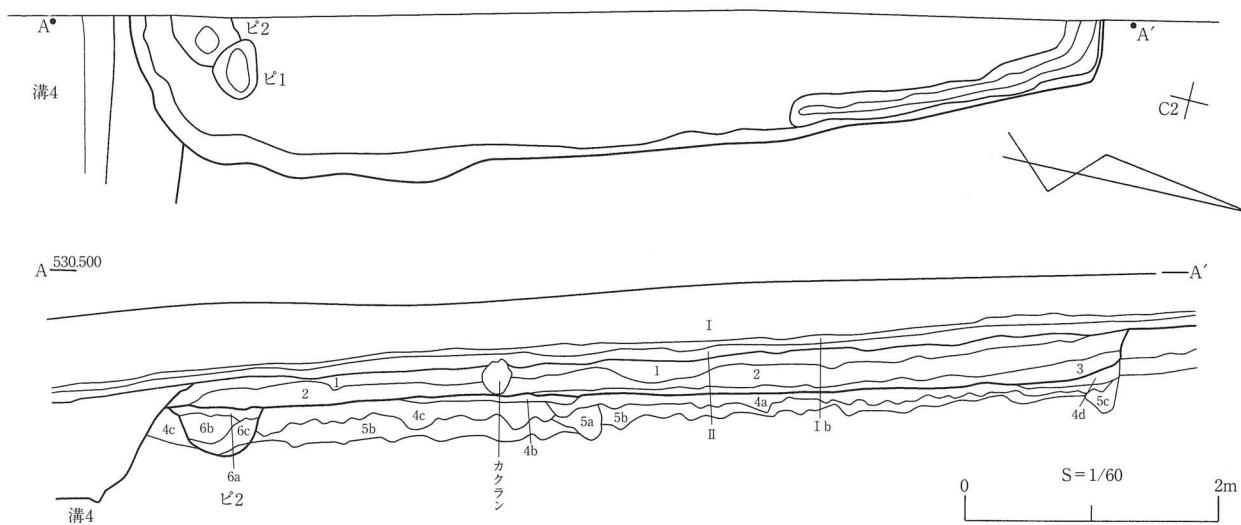
第22図 12号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



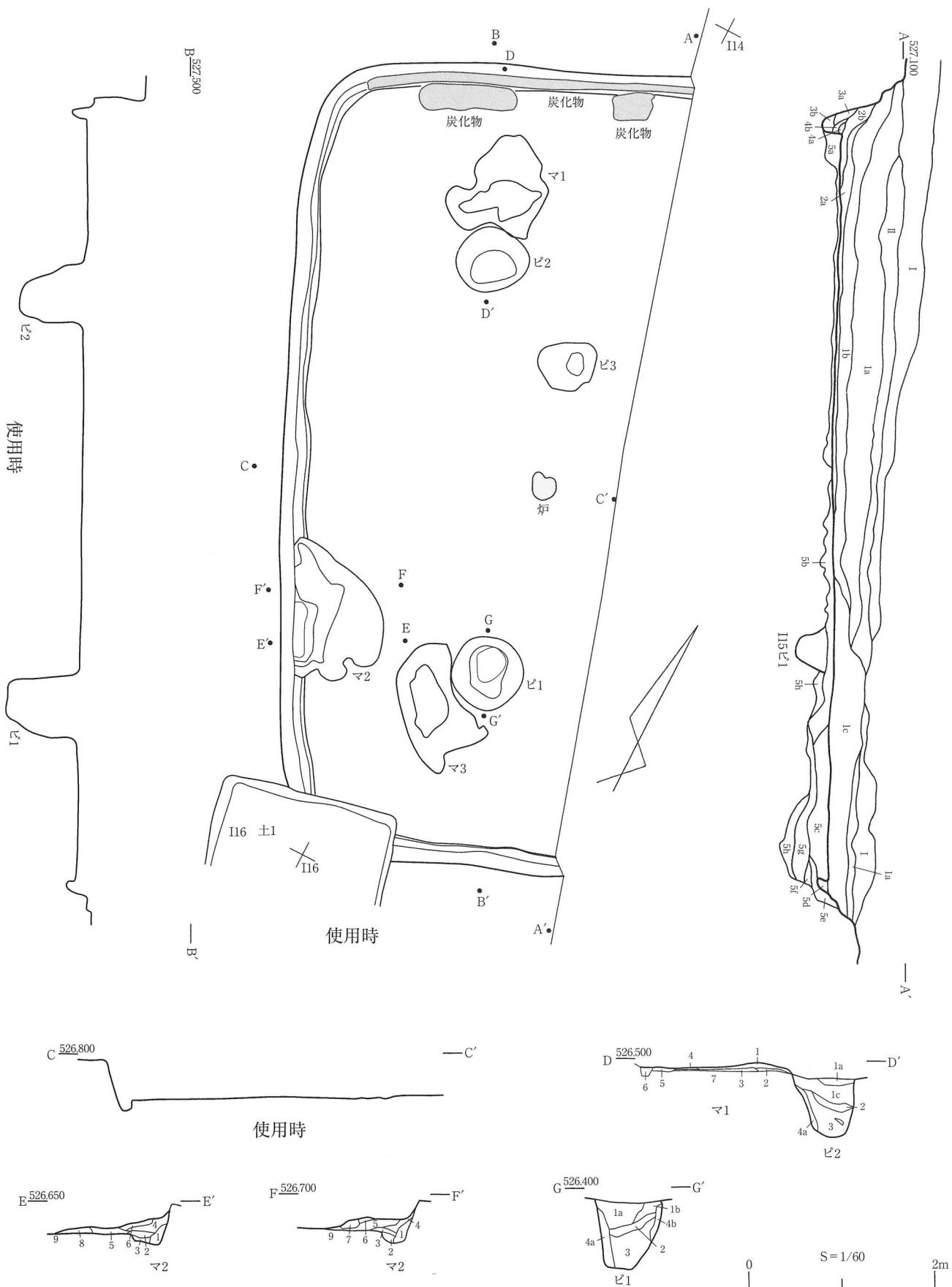
第23図 13・15号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



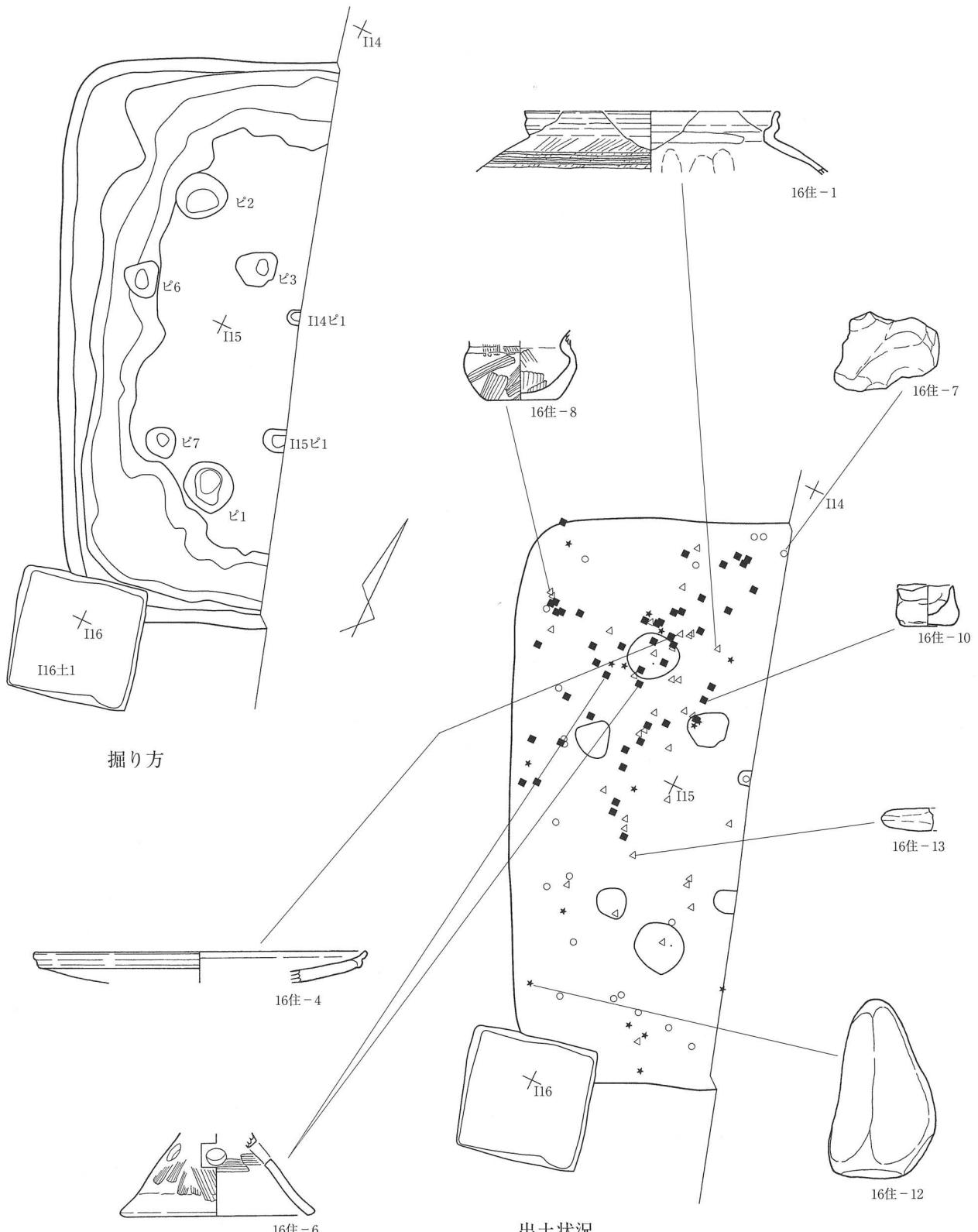
第24図 13・15号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



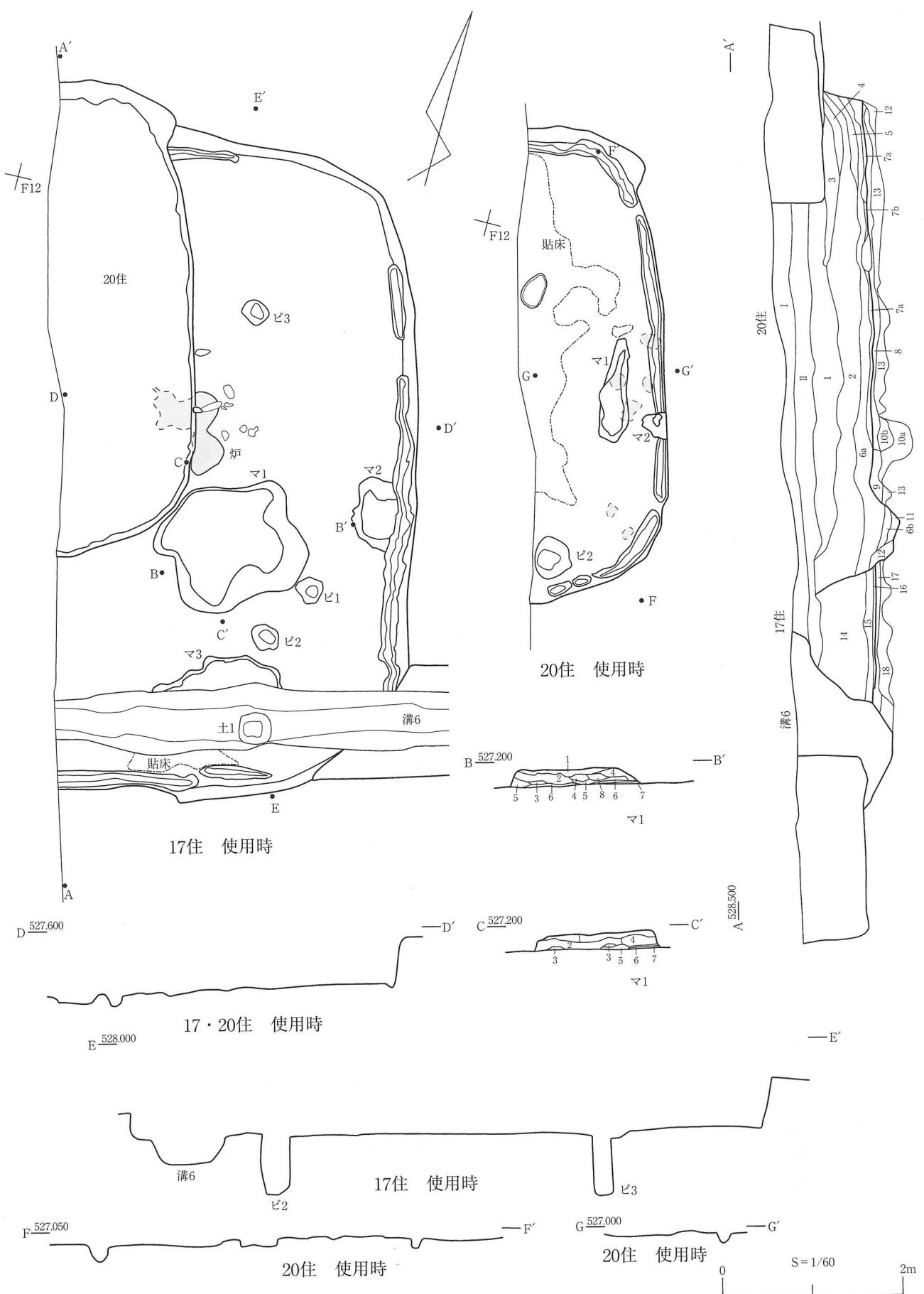
第25図 14号竪穴住居跡 平・断面図



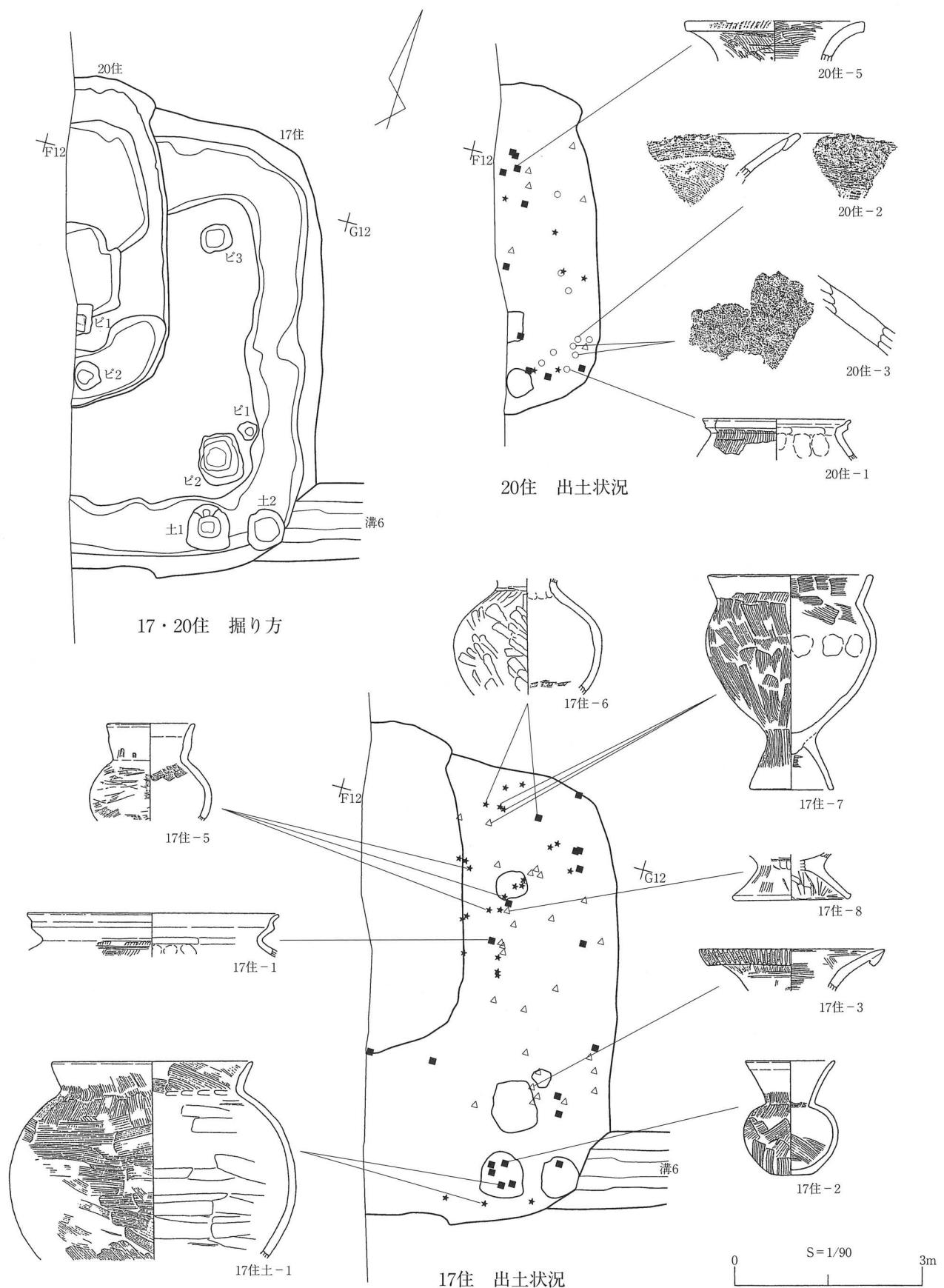
第26図 16号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



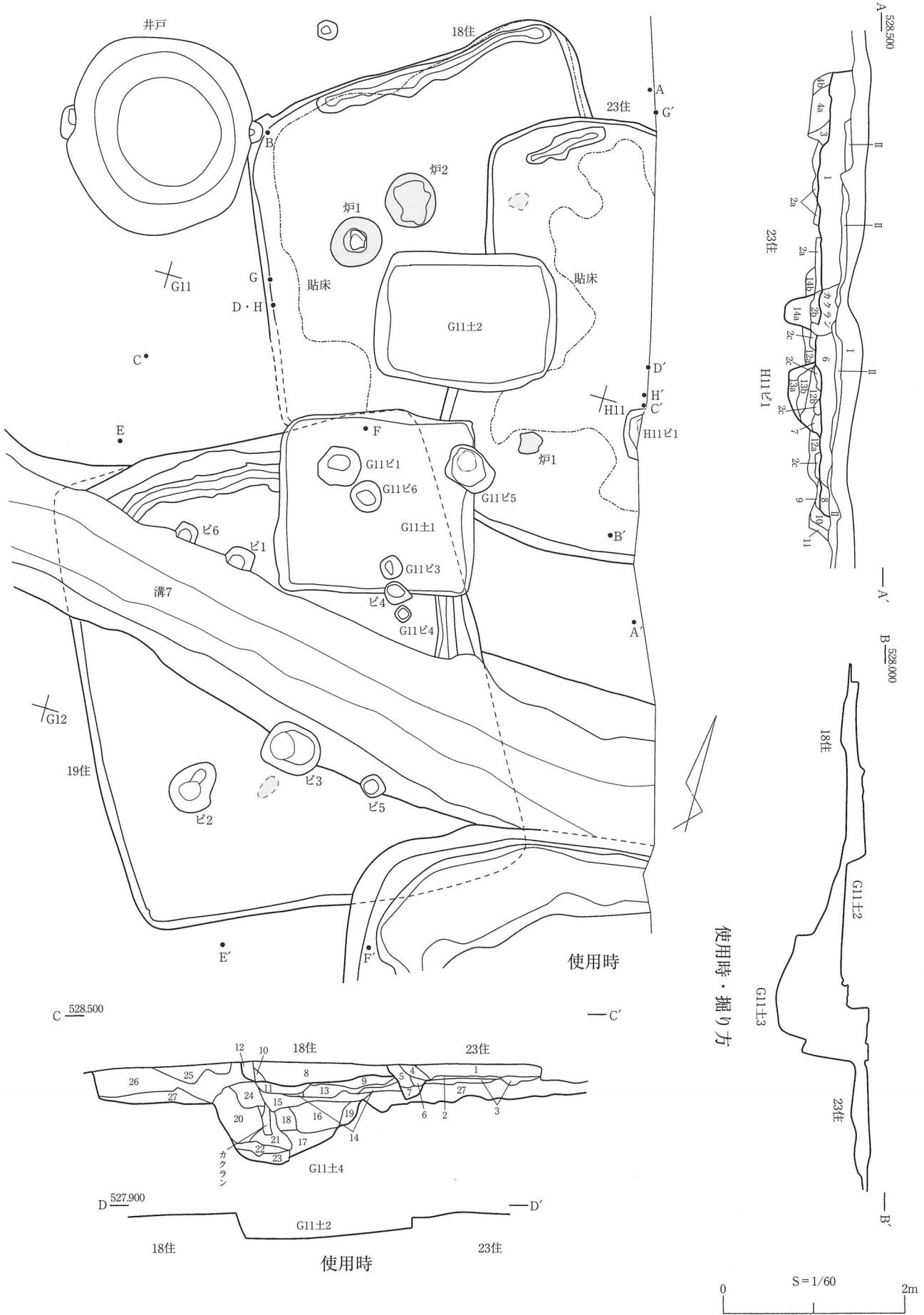
第27図 16号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



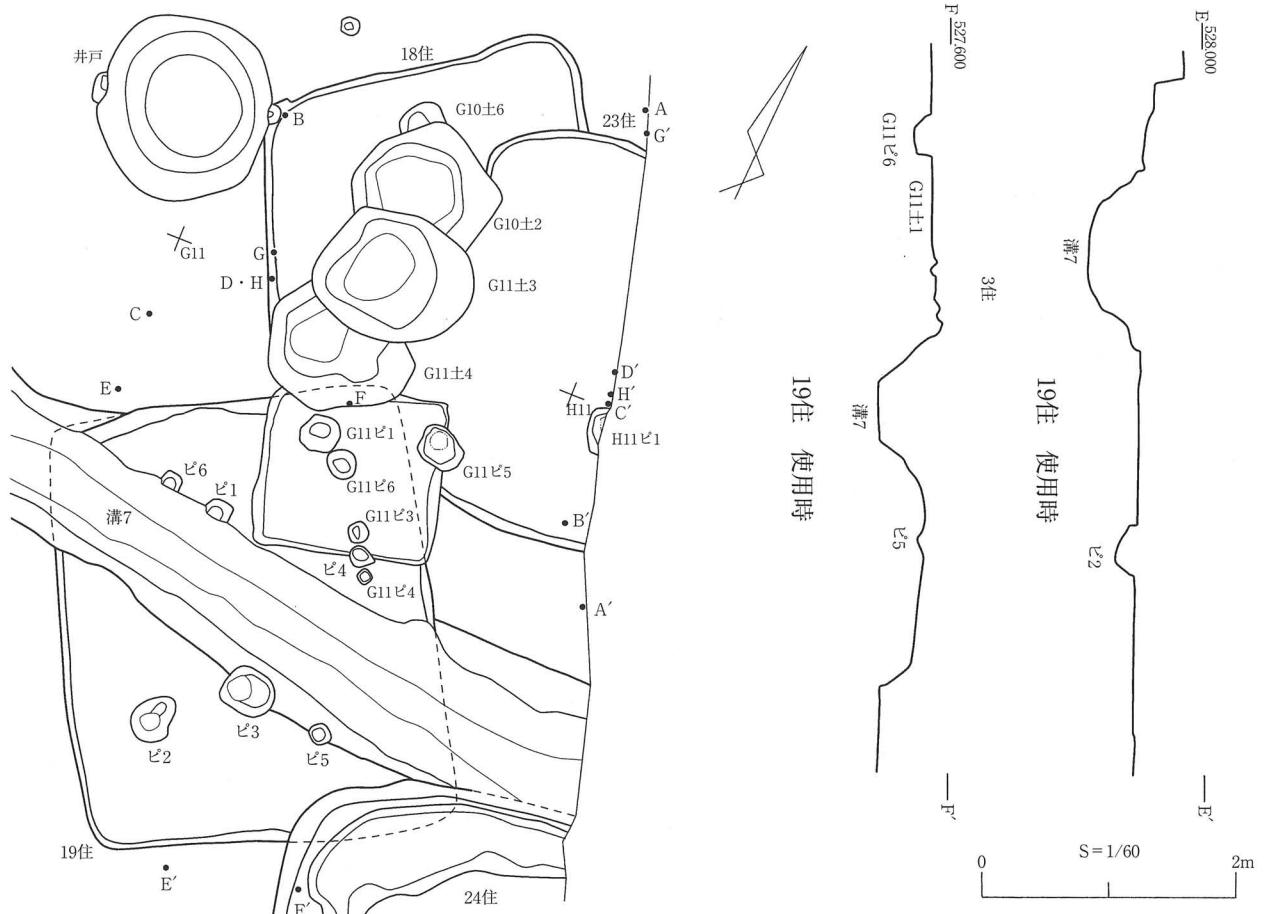
第28図 17・20号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



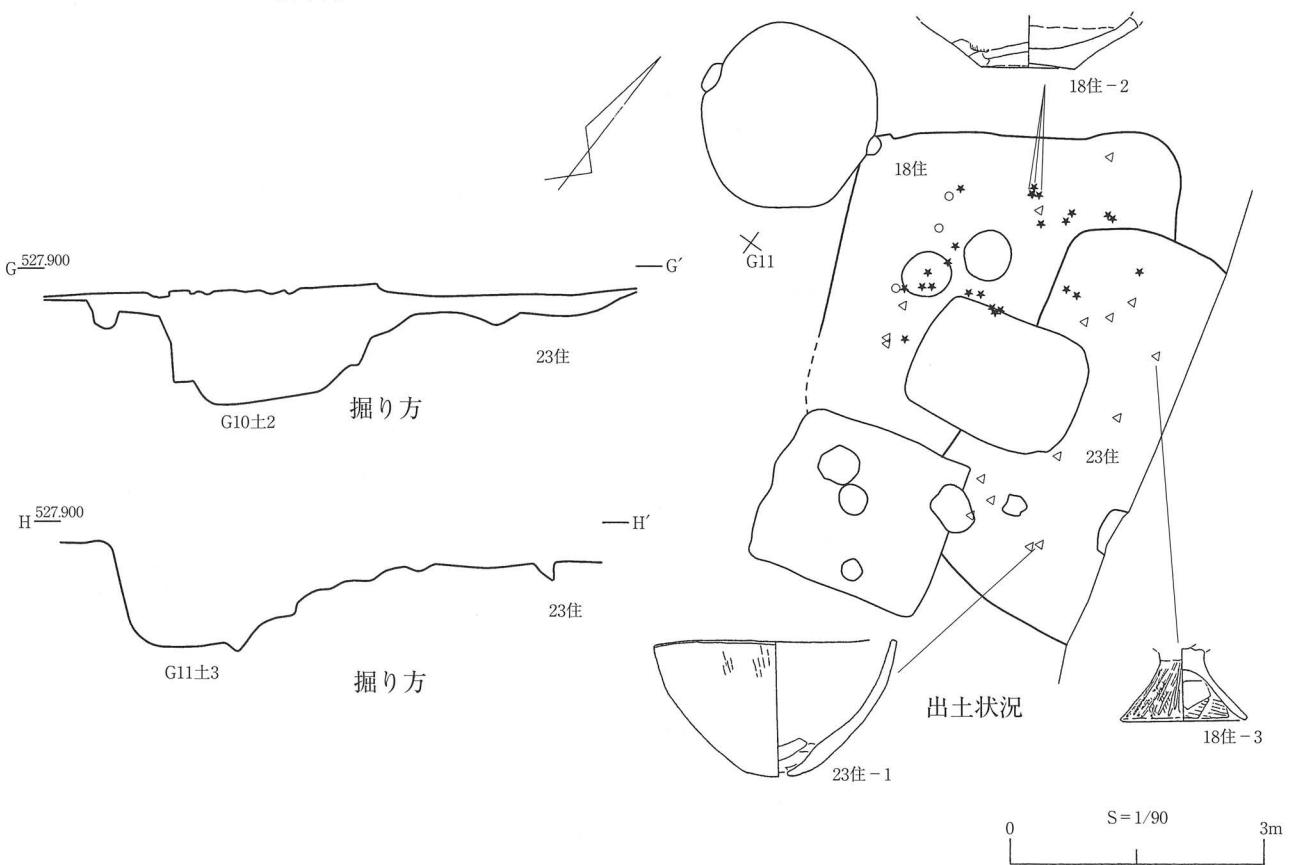
第29図 17・20号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



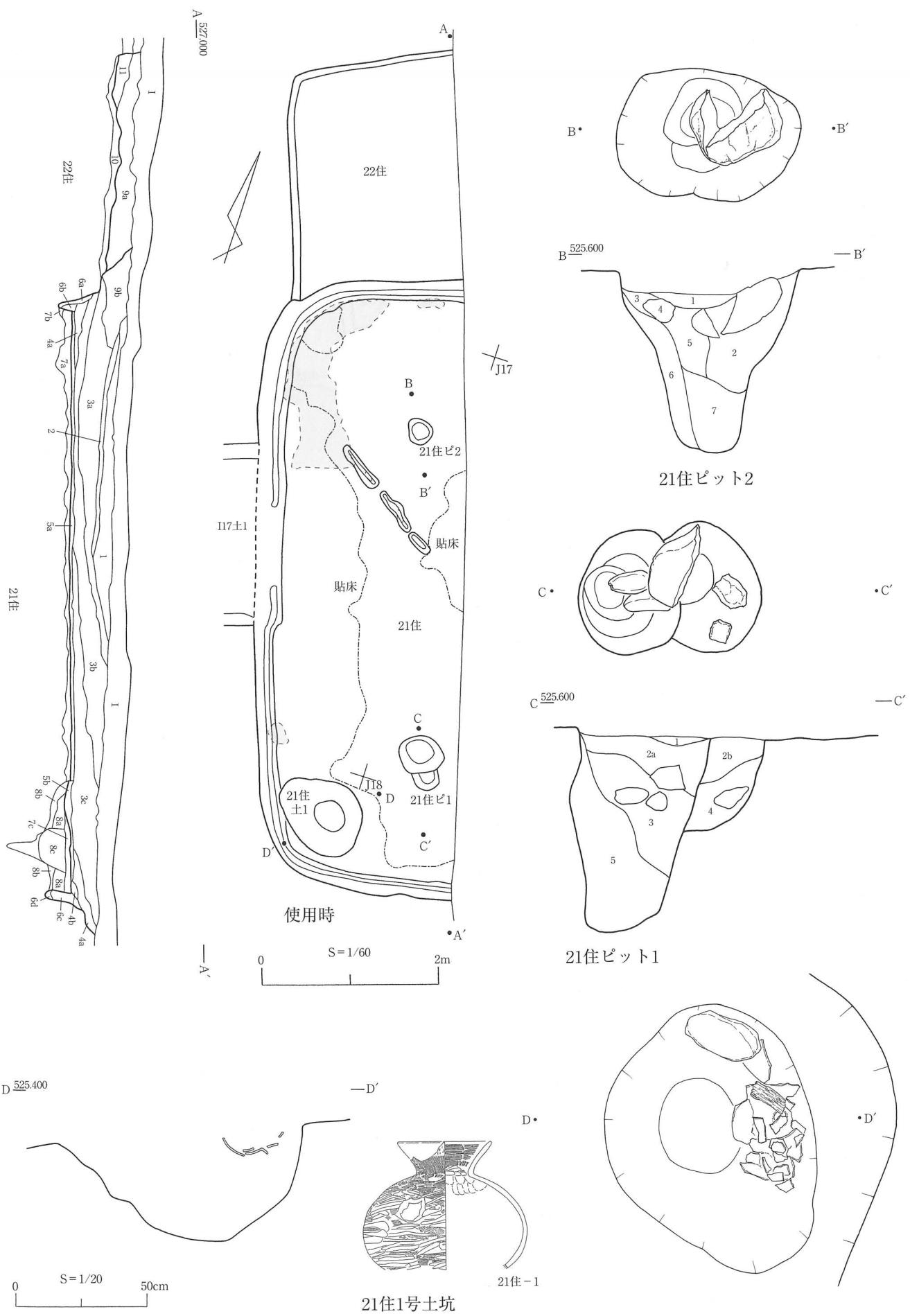
第30図 18・19・23号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



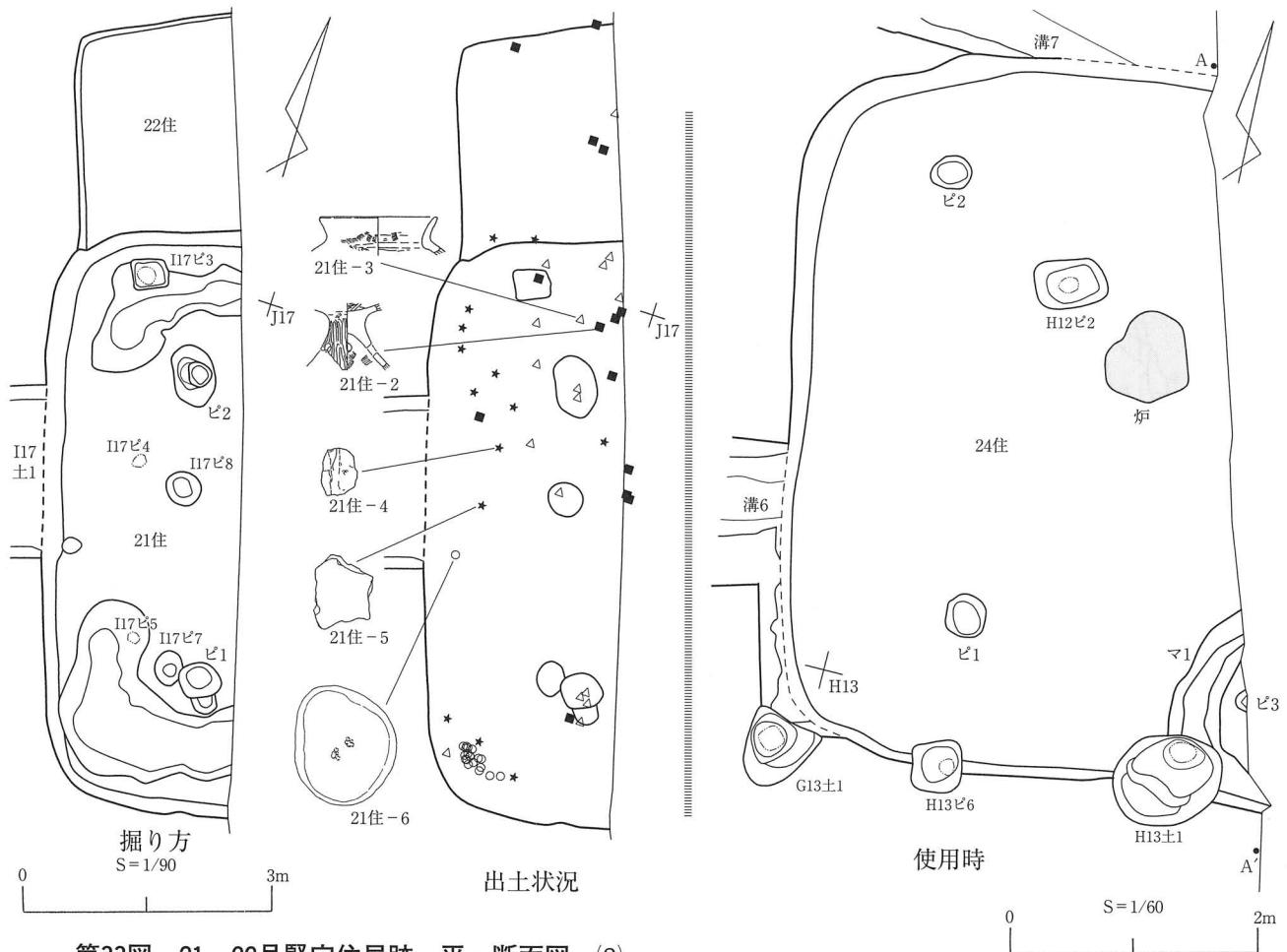
掘り方



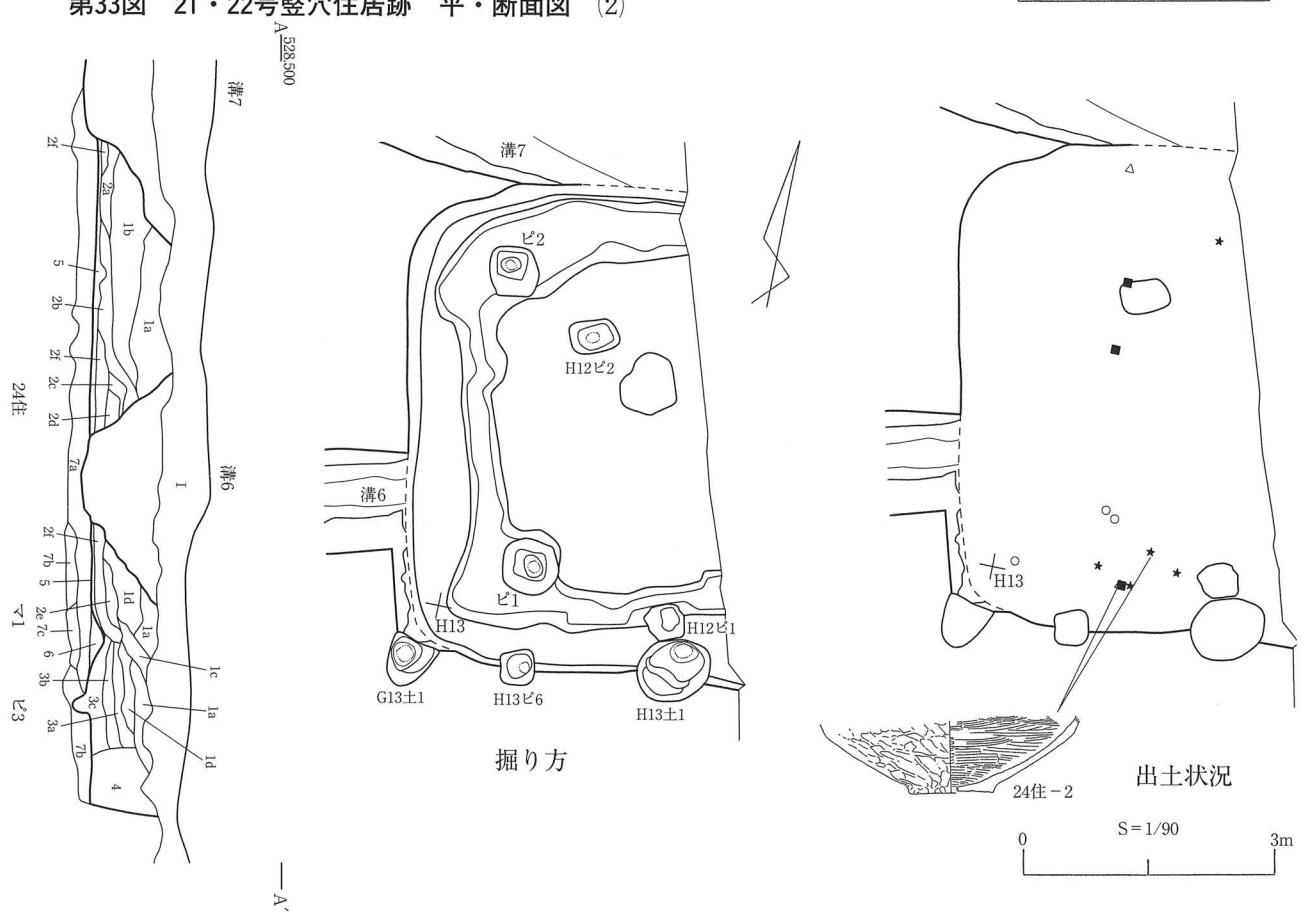
第31図 18・19・23号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



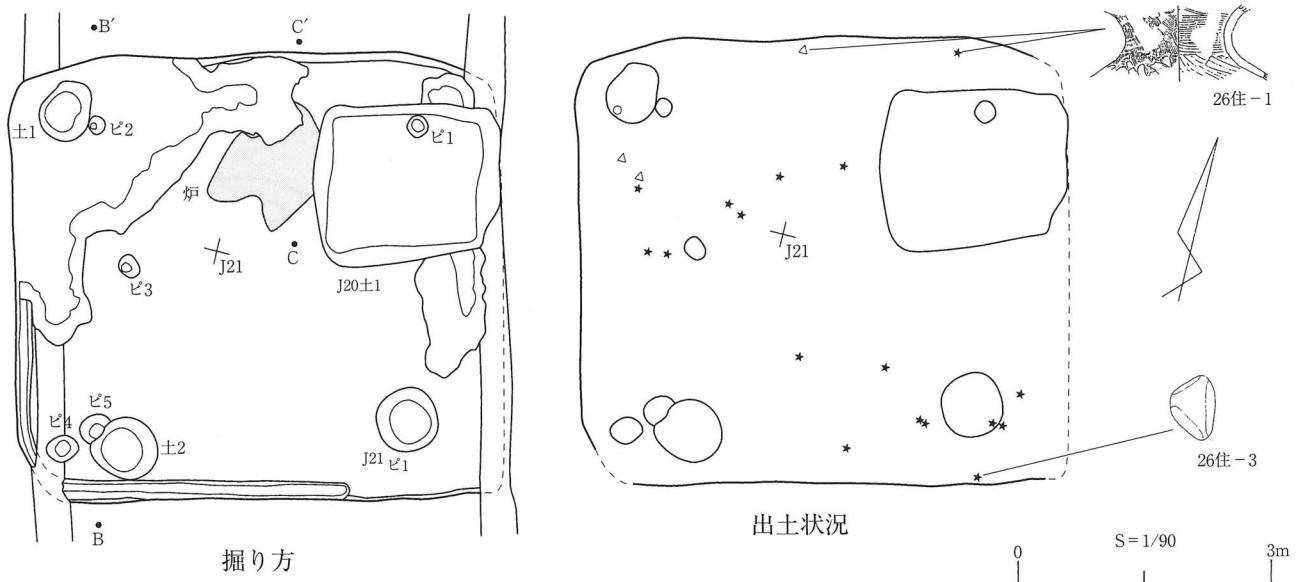
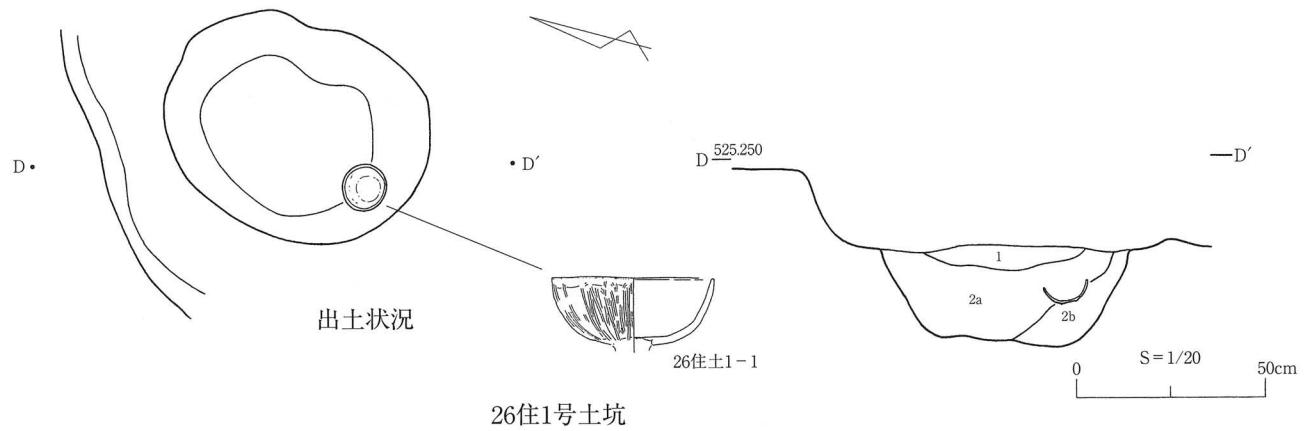
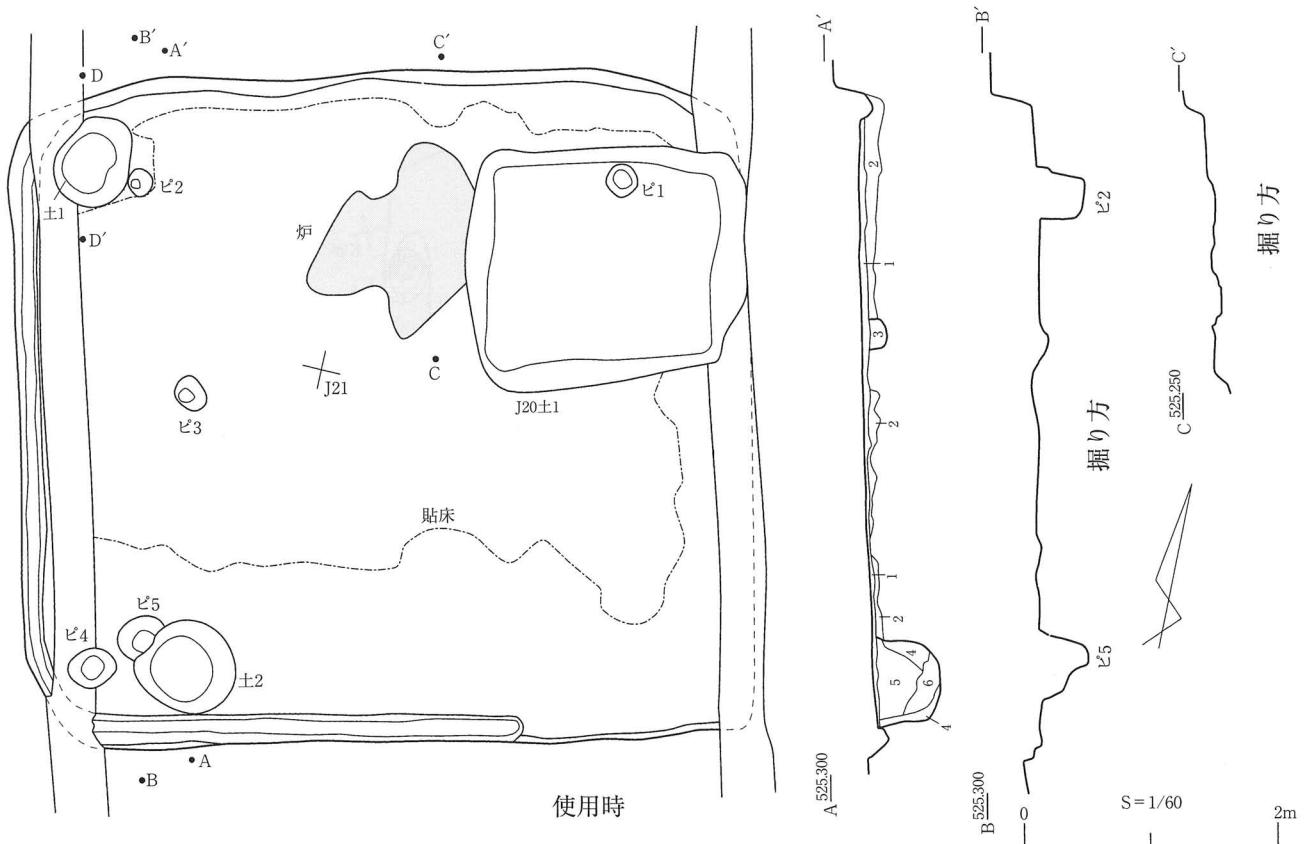
第32図 21・22号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



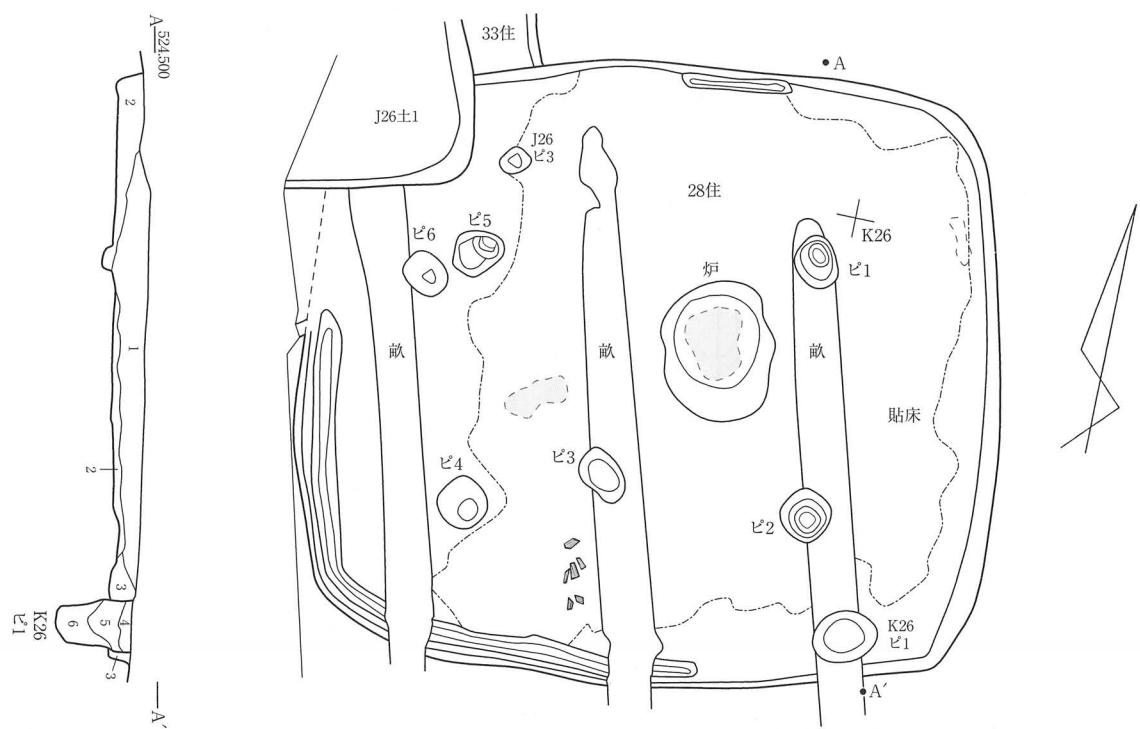
第33図 21・22号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



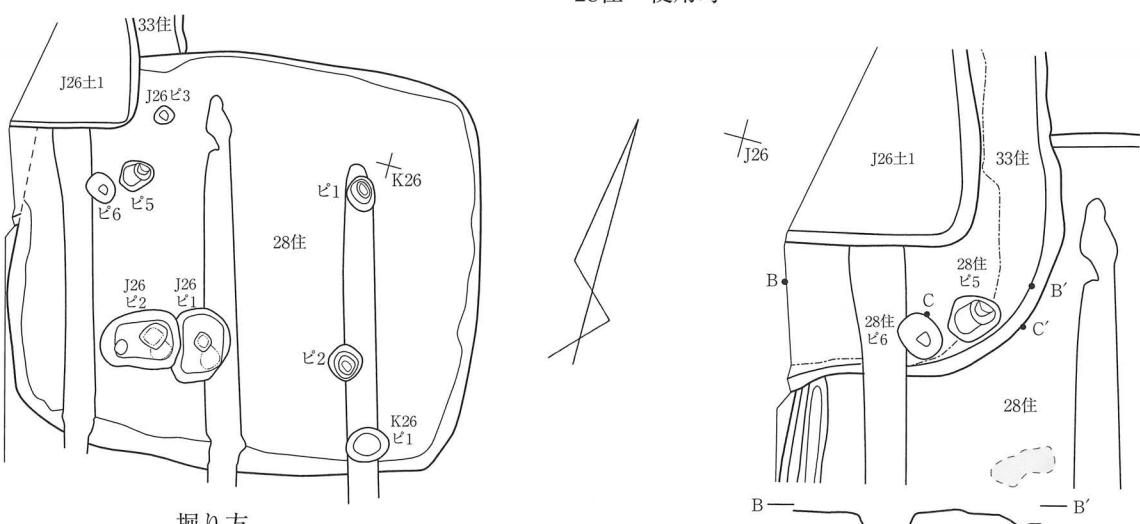
第34図 24号竪穴住居跡 平・断面図



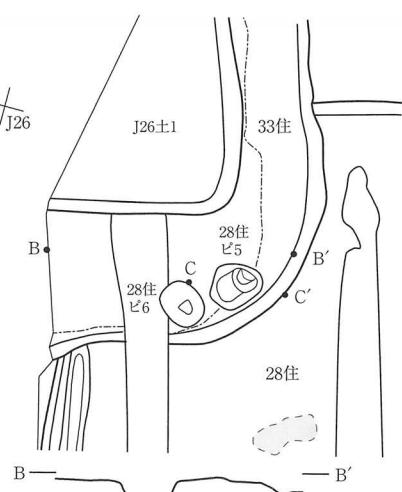
第35図 26号竪穴住居跡 平・断面図



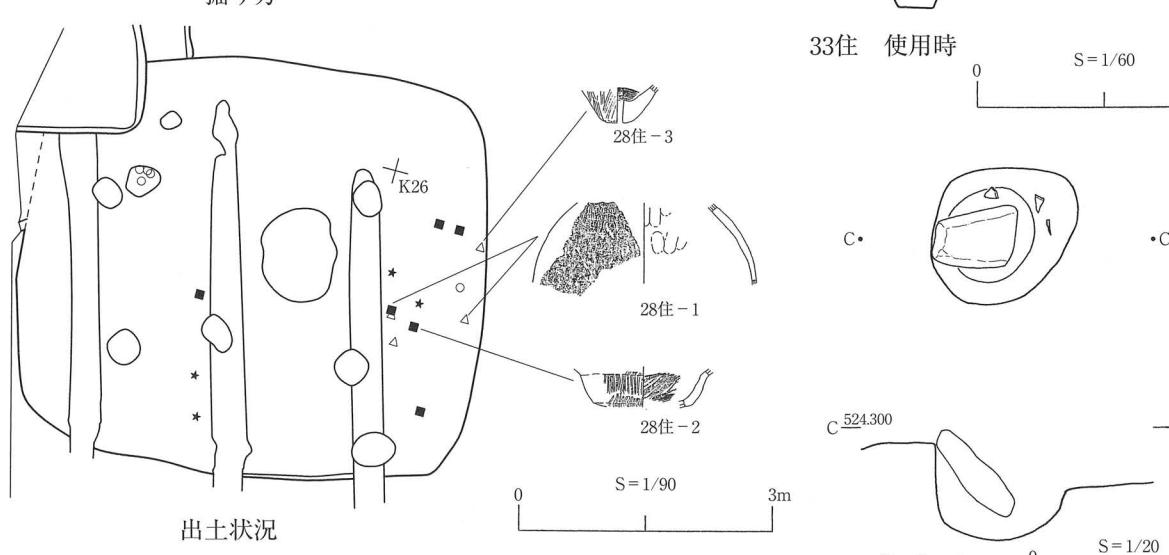
28住 使用時



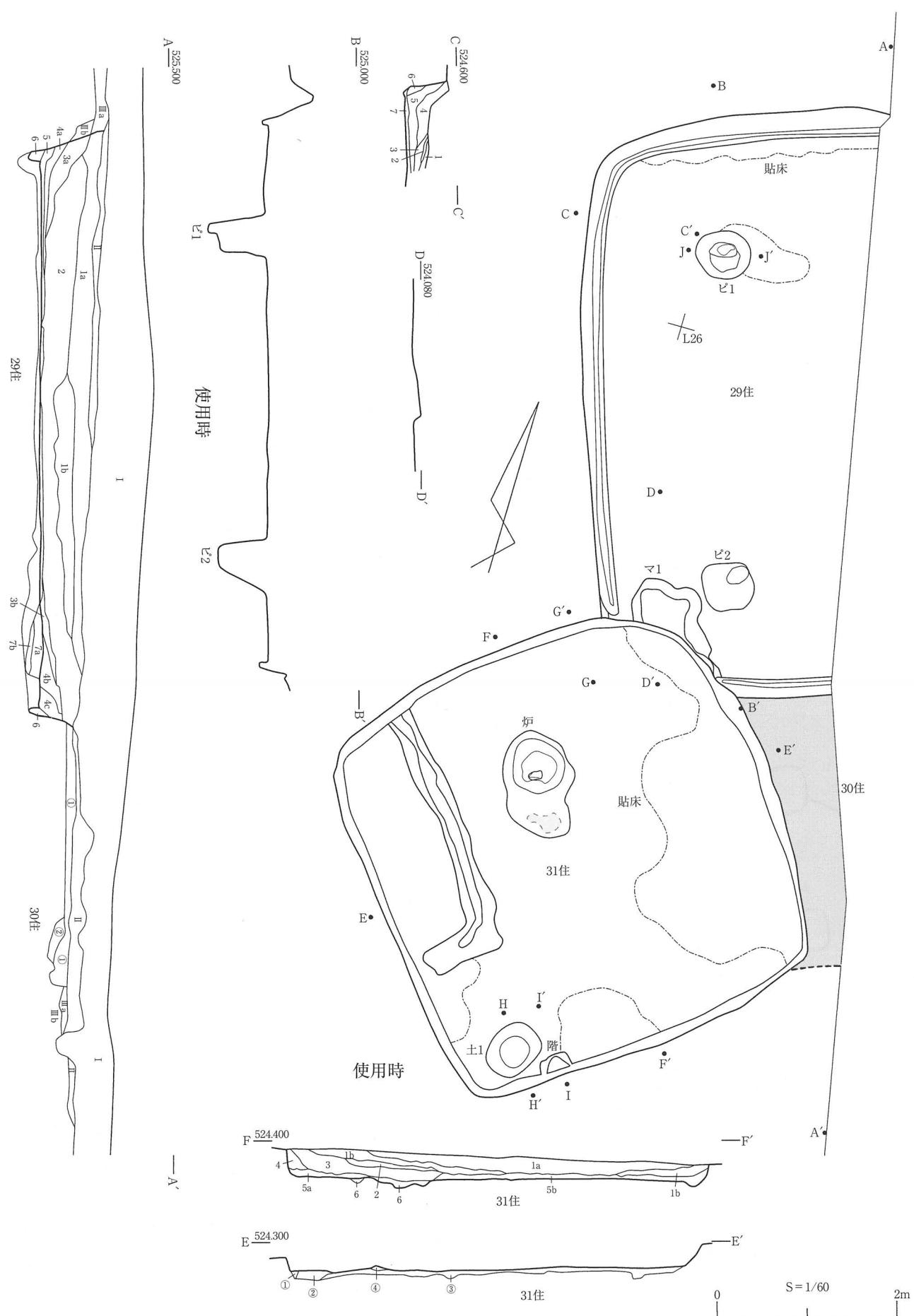
掘り方



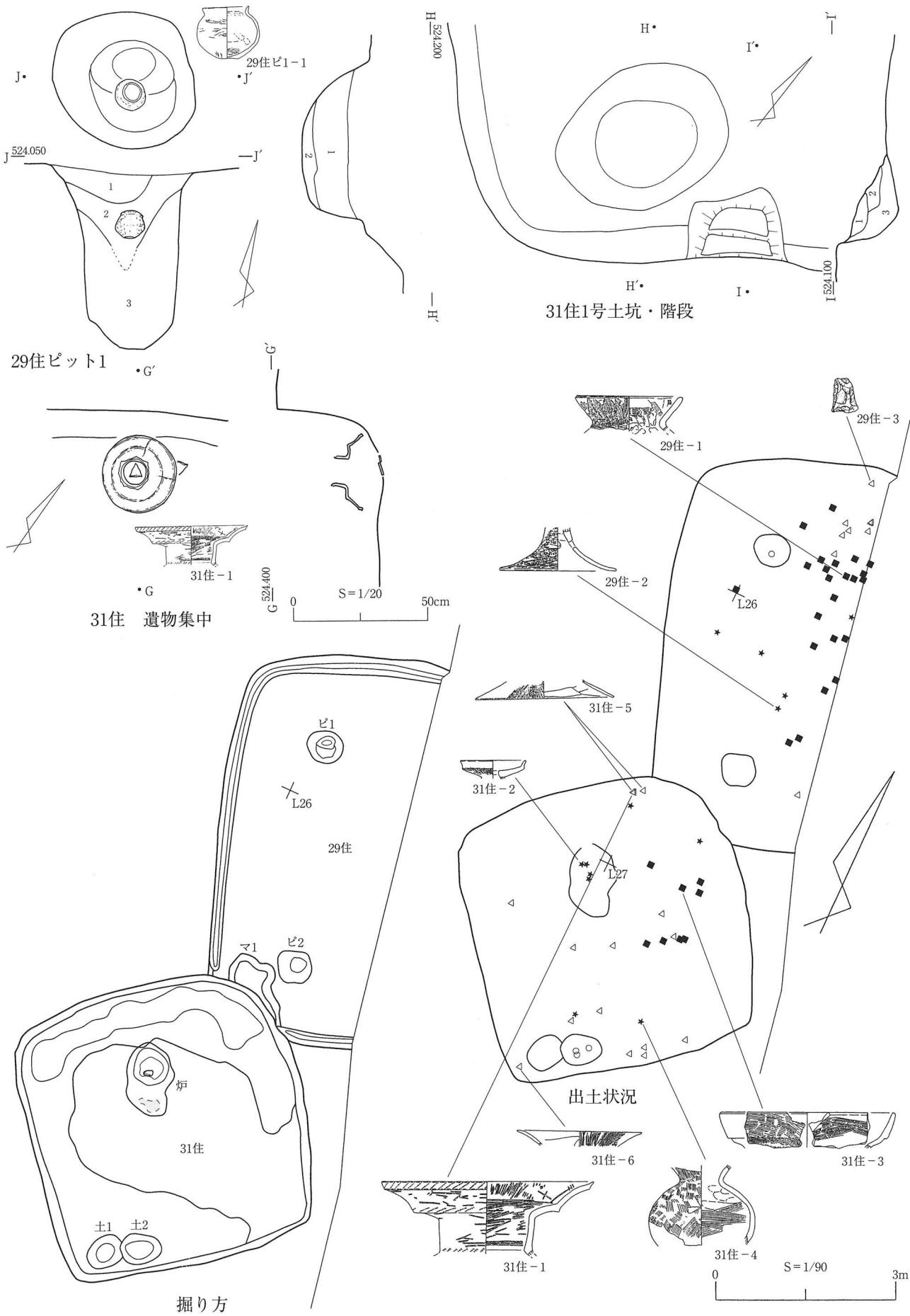
33住 使用時



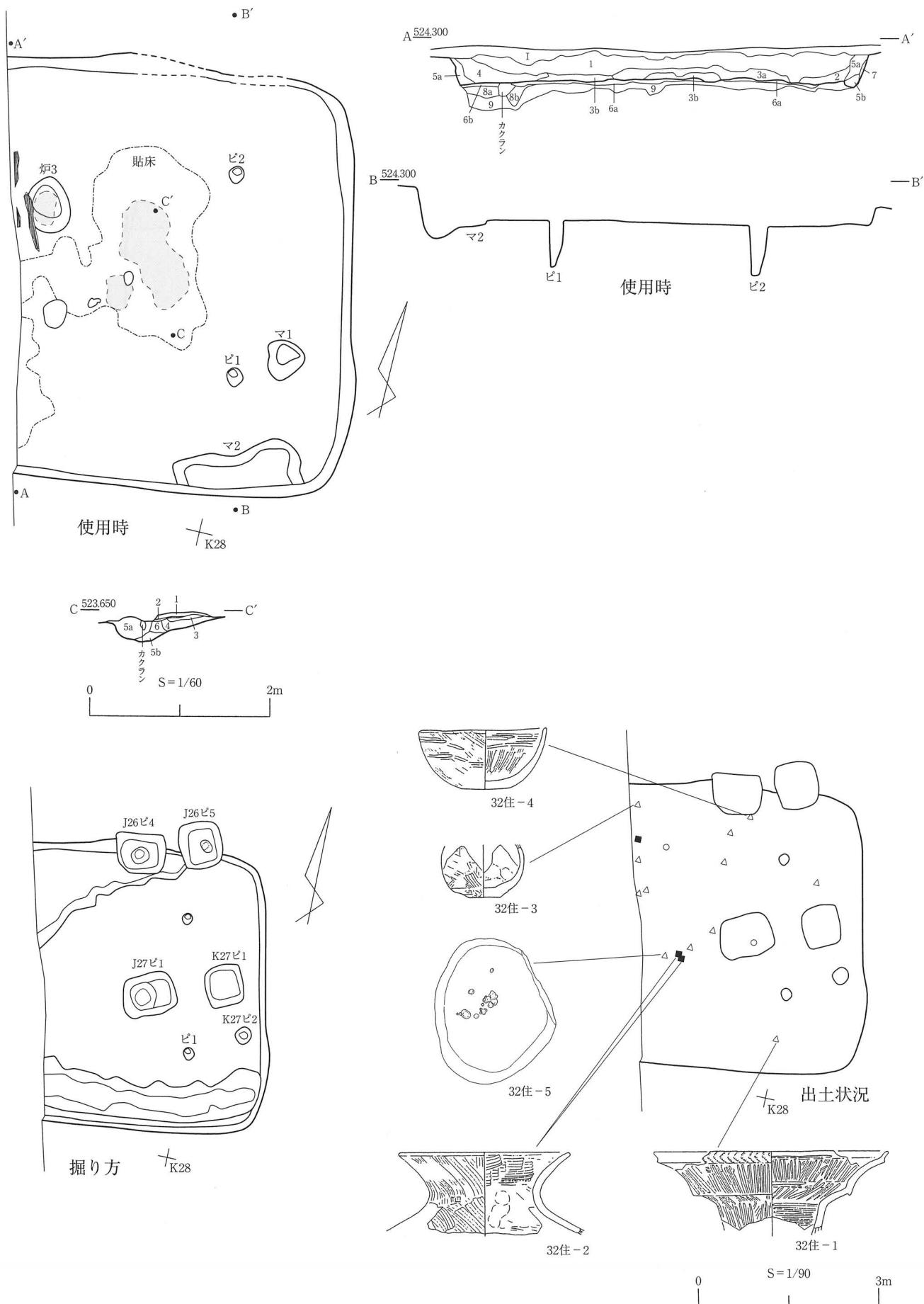
第36図 28・33号竪穴住居跡 平・断面図



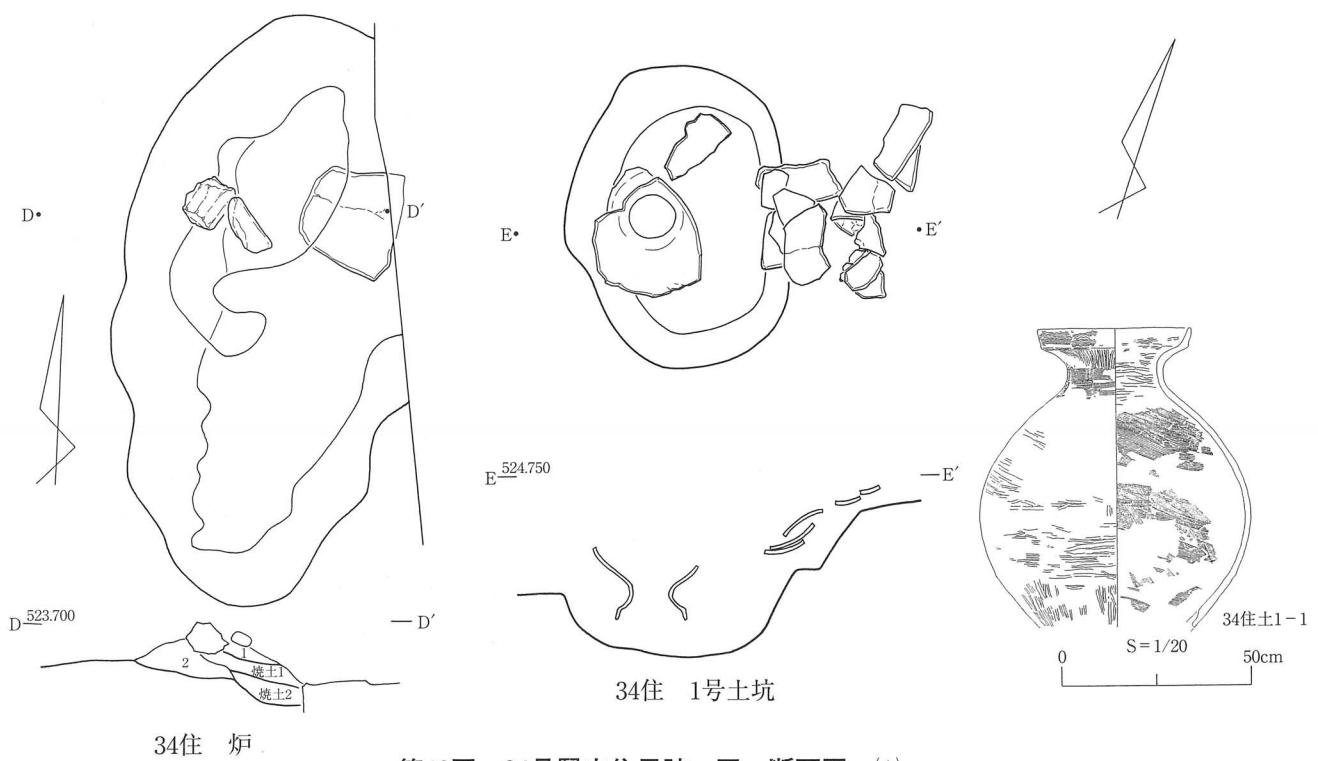
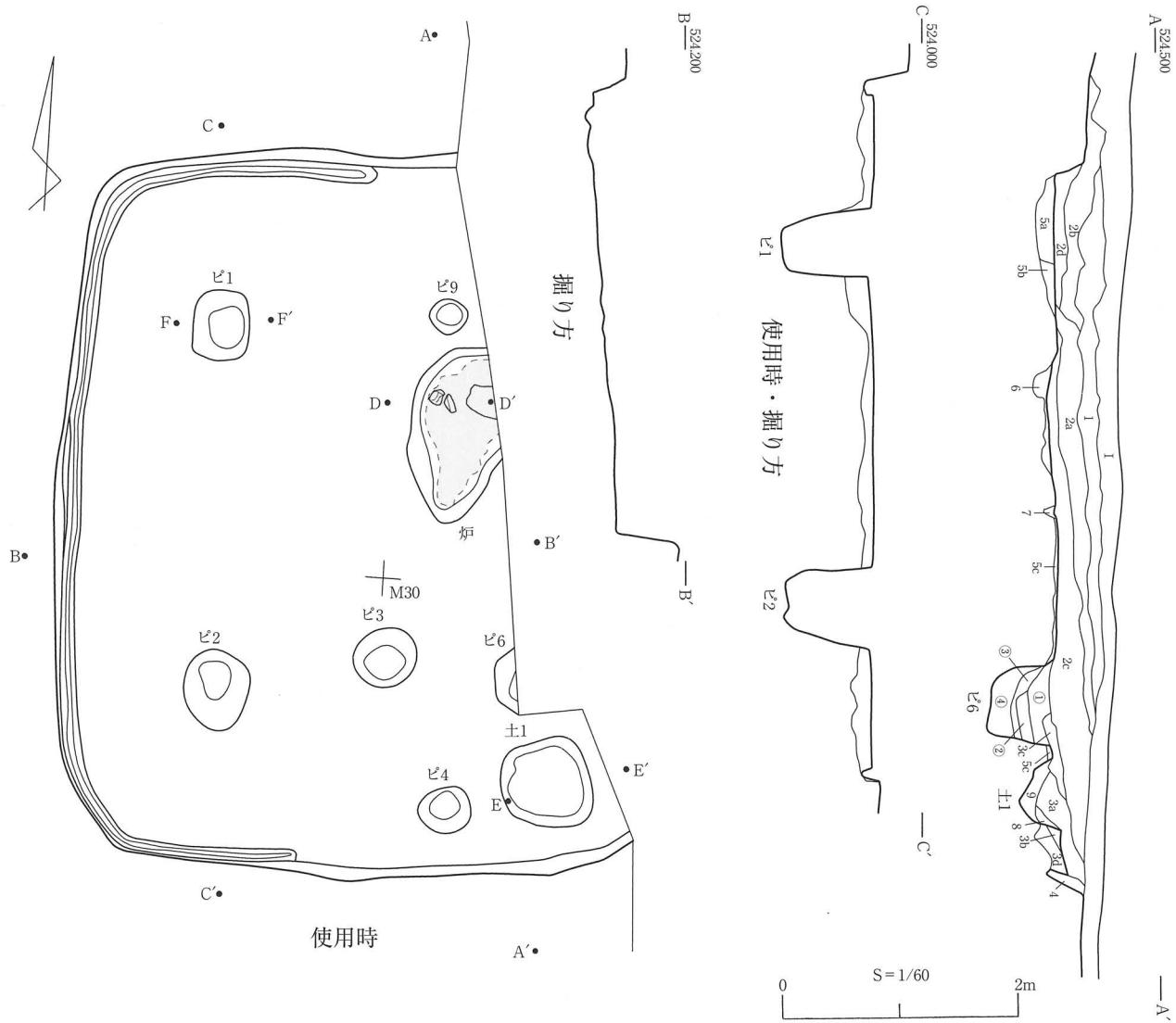
第37図 29・31号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



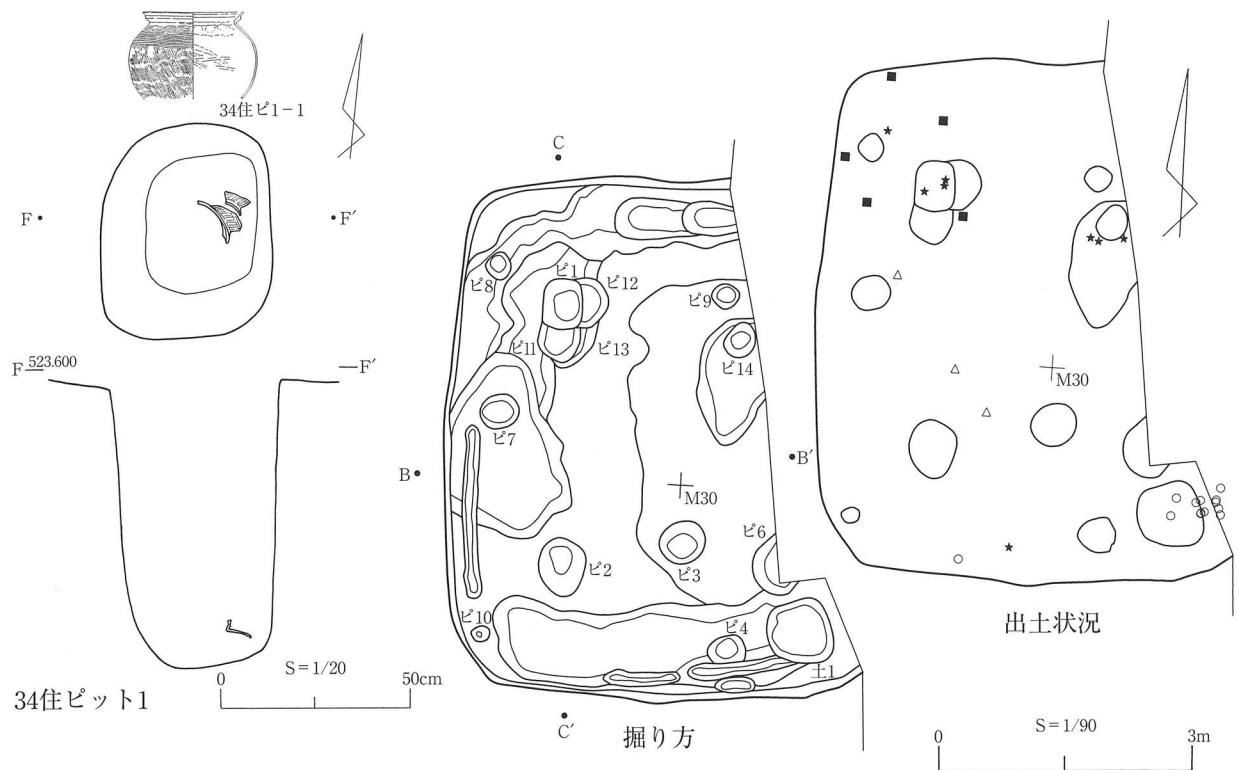
第38図 29・31号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



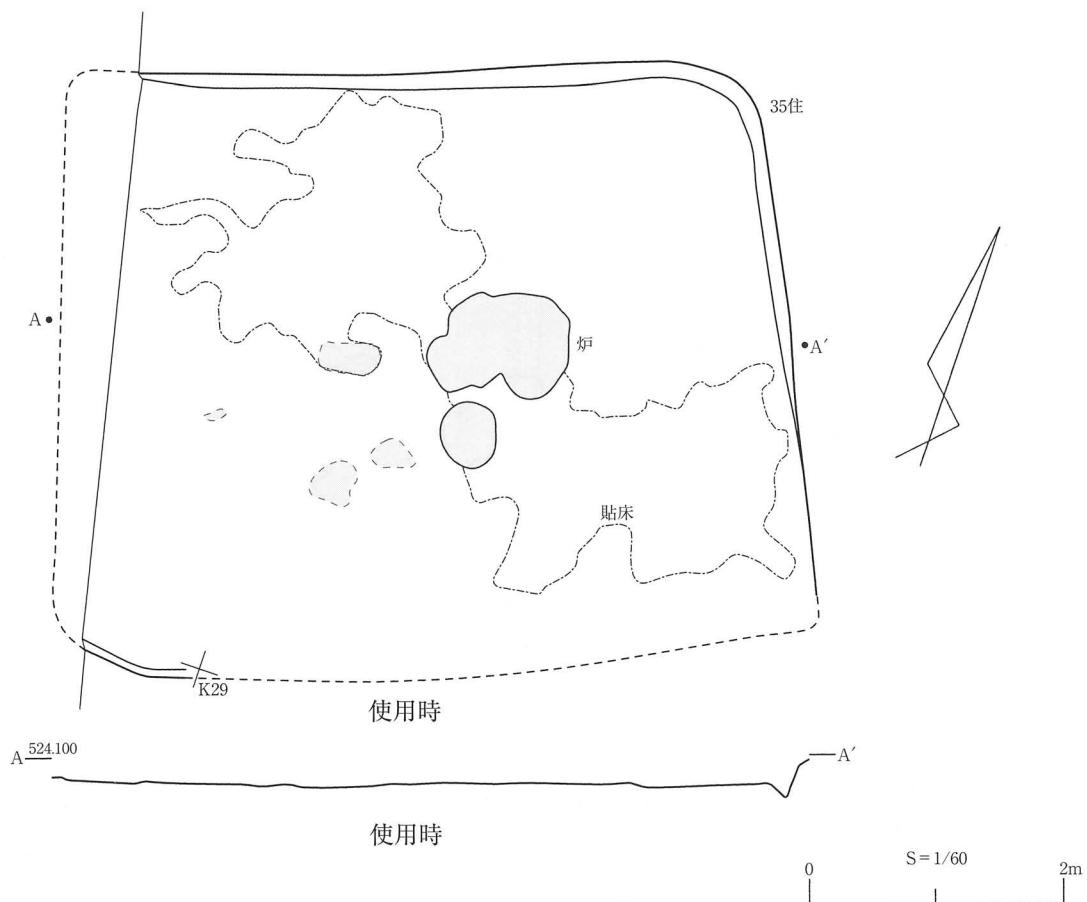
第39図 32号竪穴住居跡 平・断面図



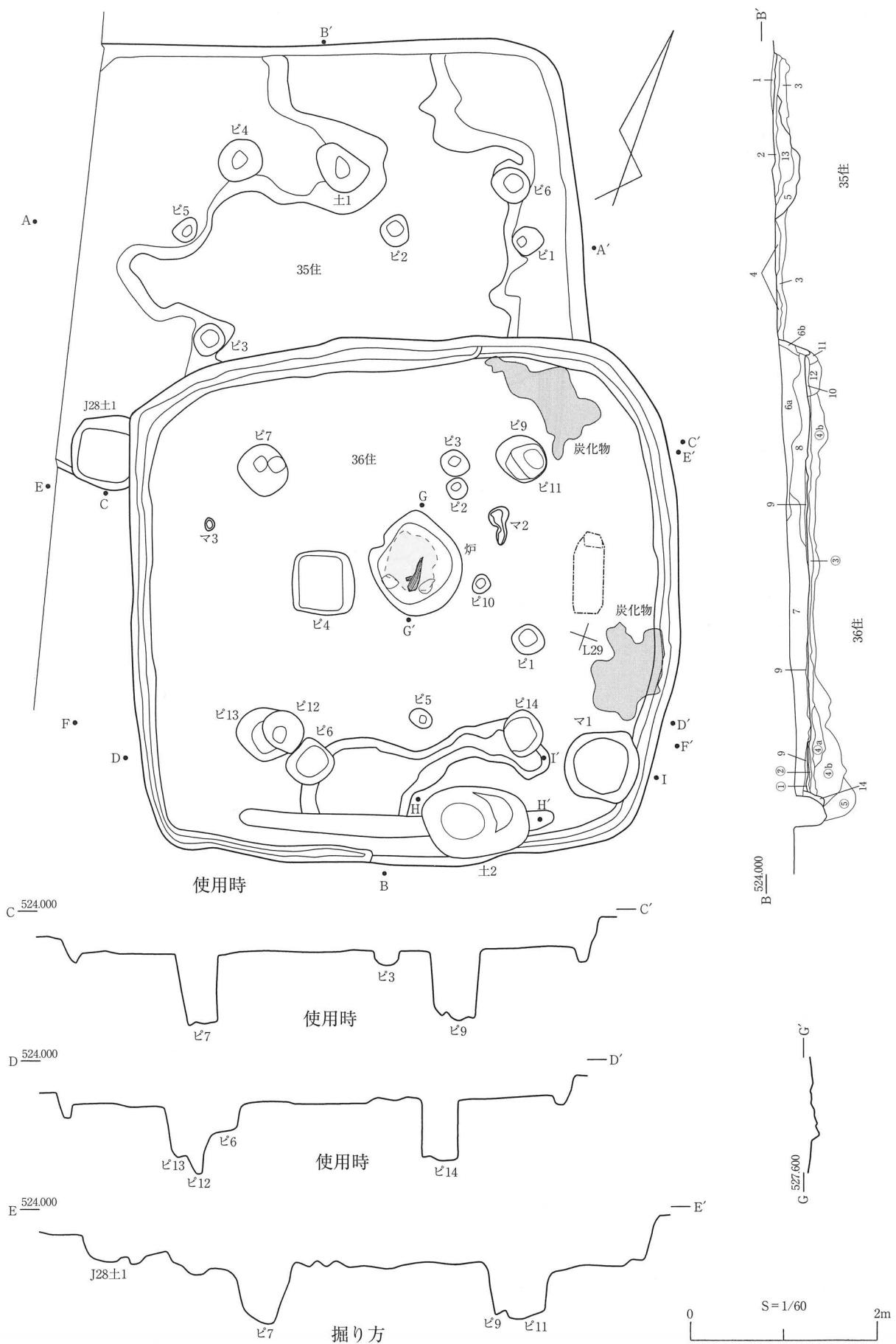
第40図 34号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



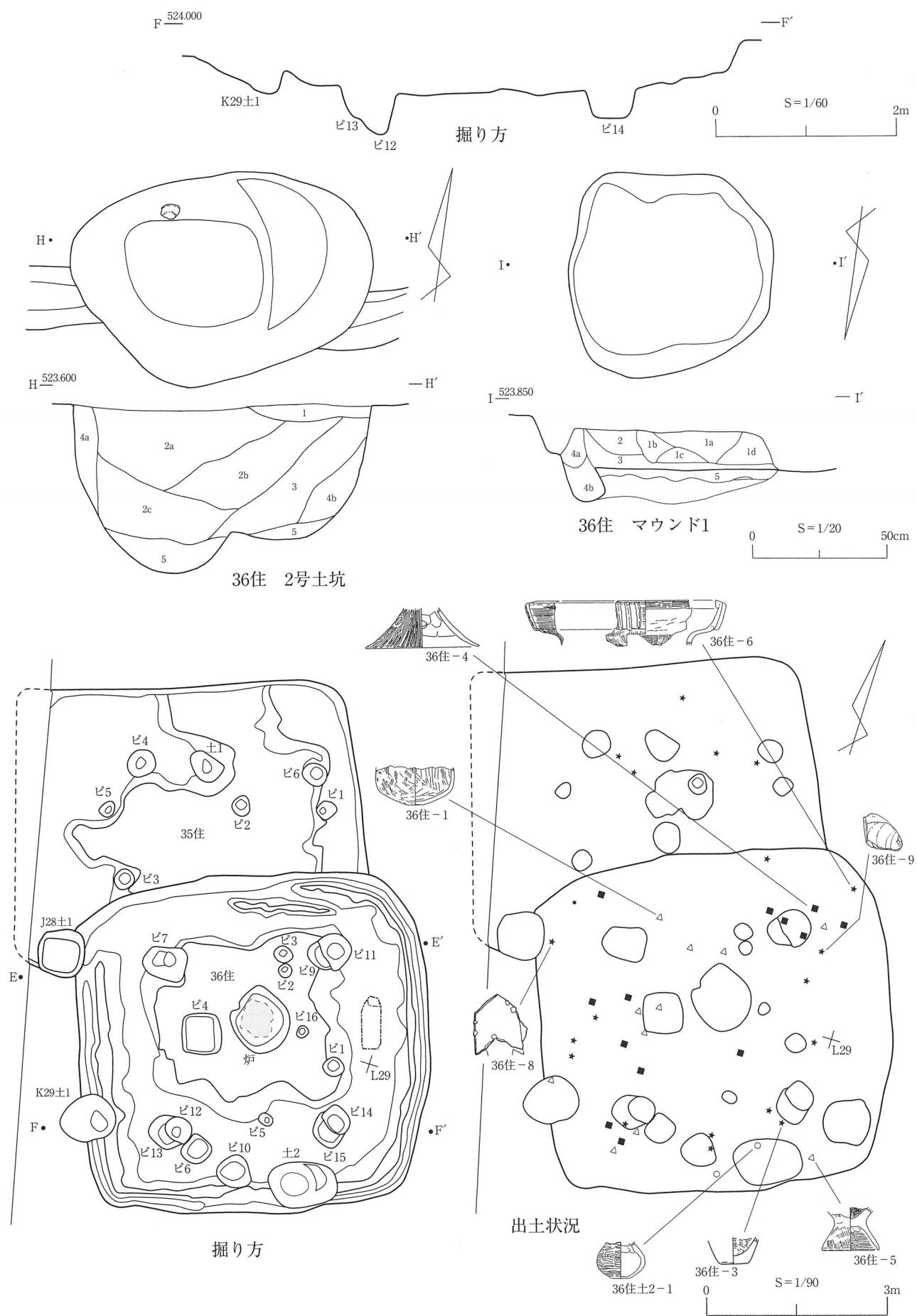
第41図 34号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



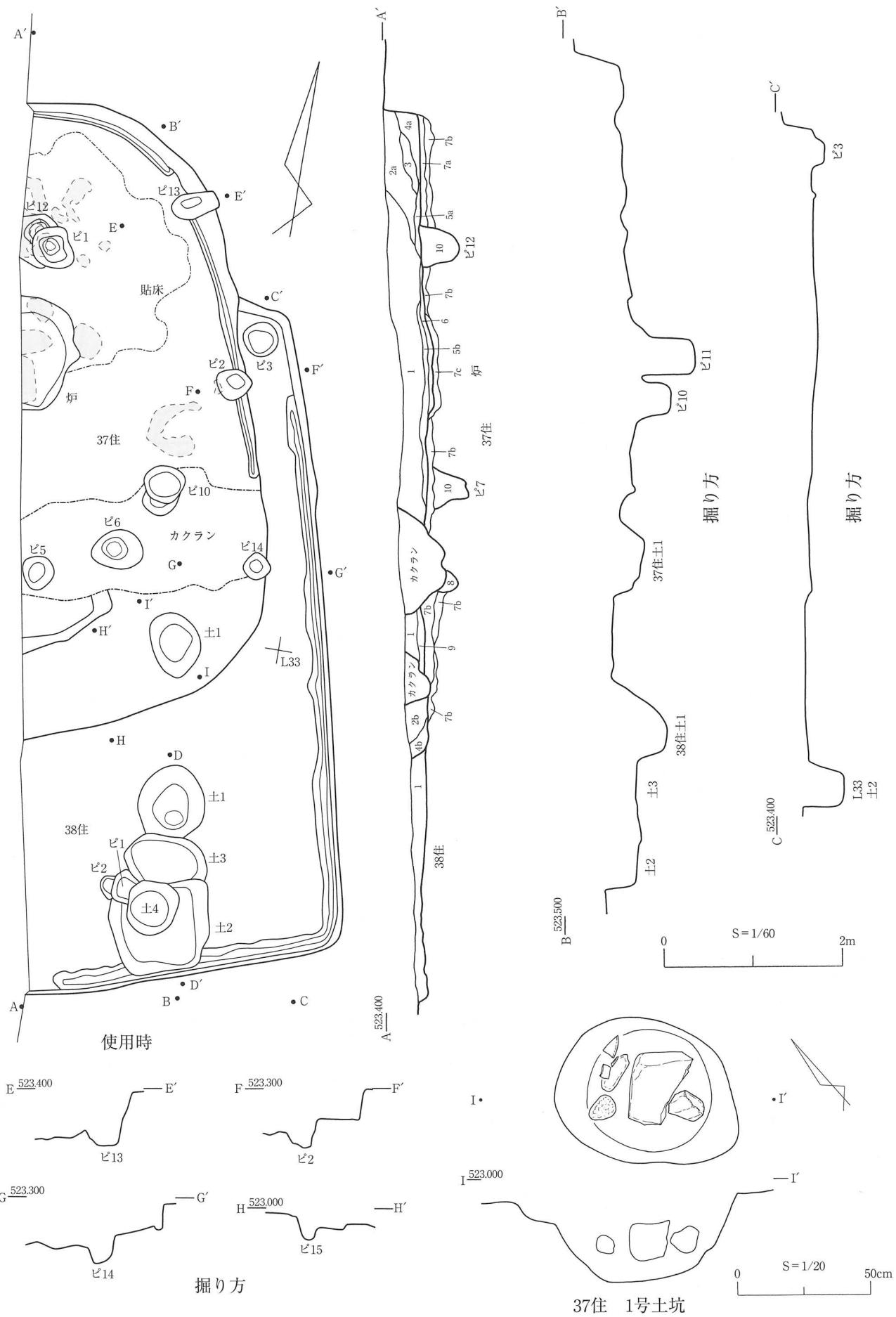
第42図 35号竪穴住居跡 平・断面図



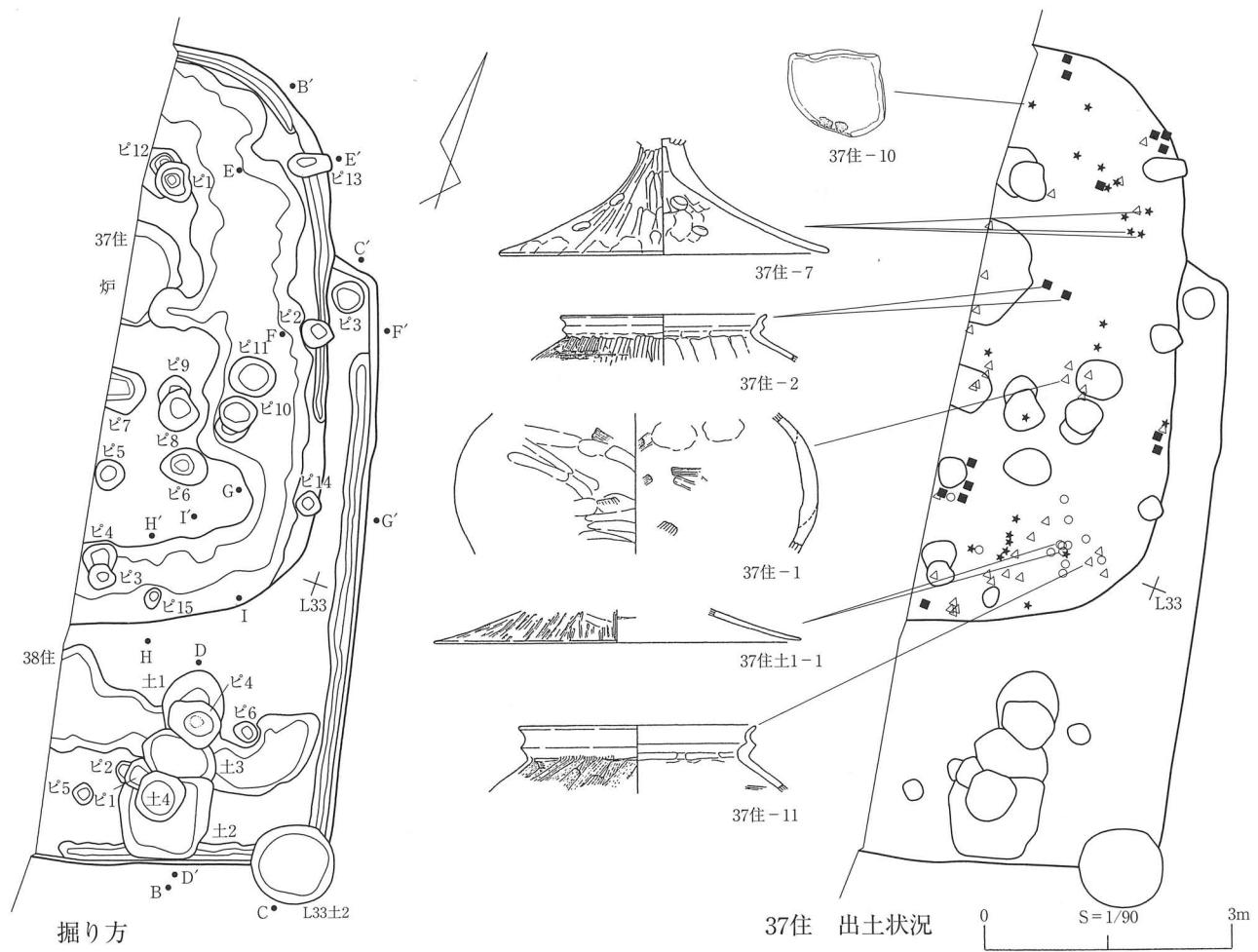
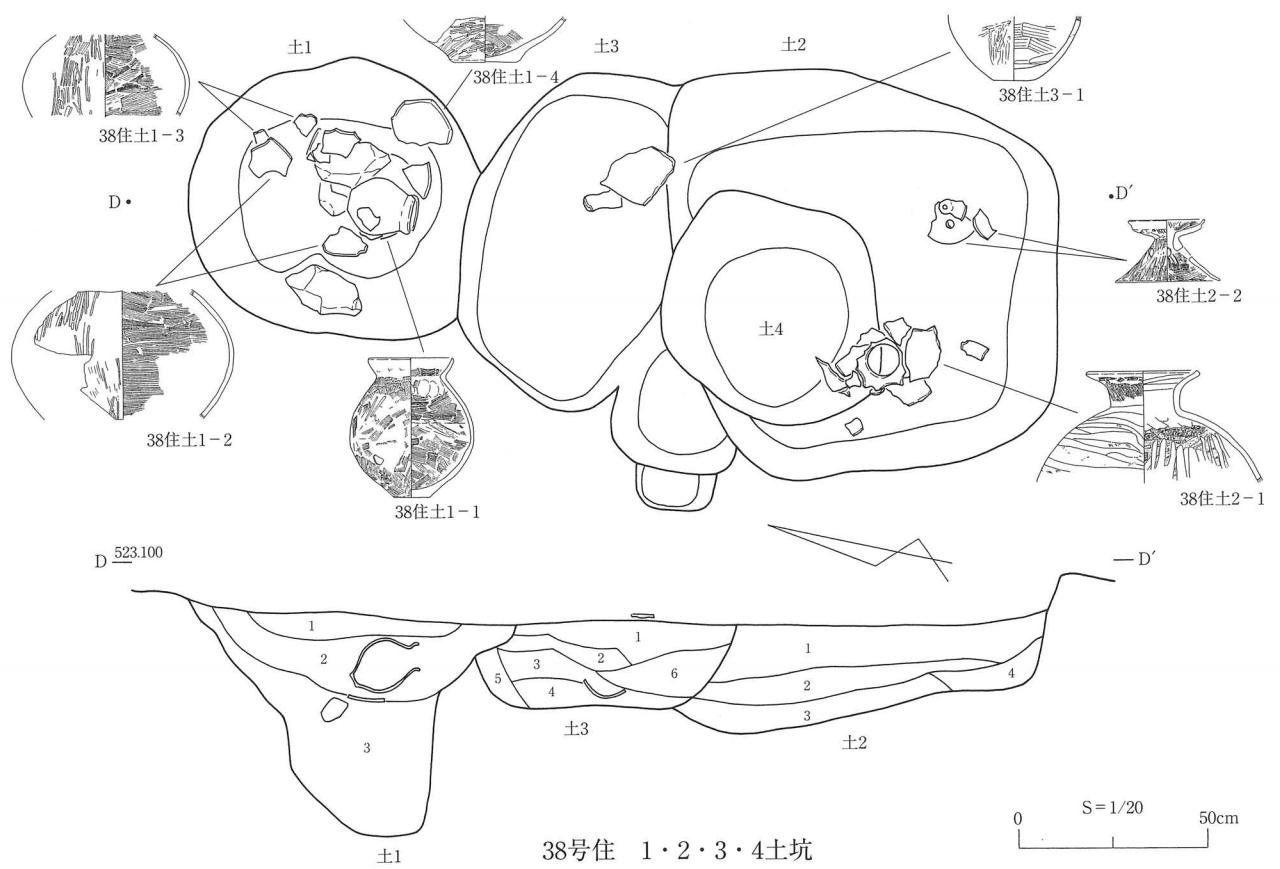
第43図 35・36号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



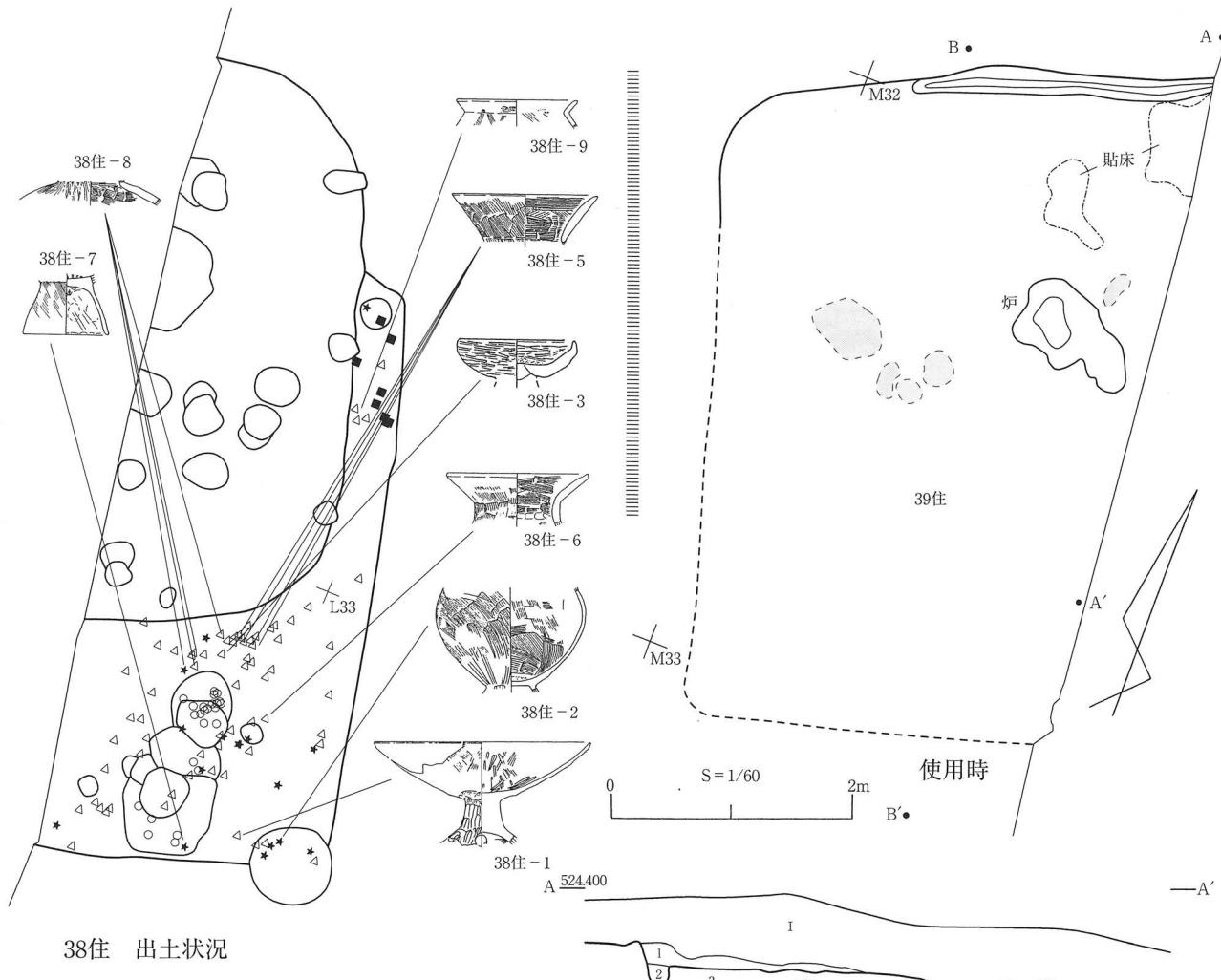
第44図 35・36号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



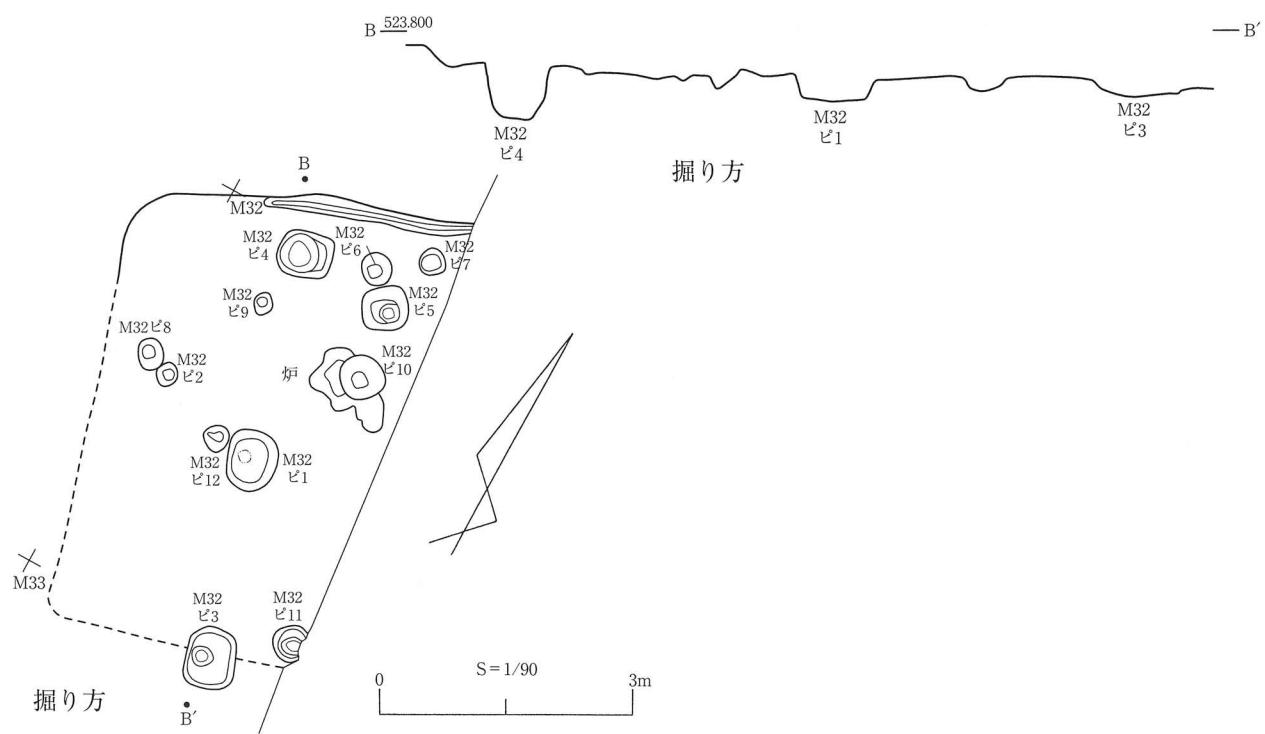
第45図 37・38号竪穴住居跡 平・断面図 (1)



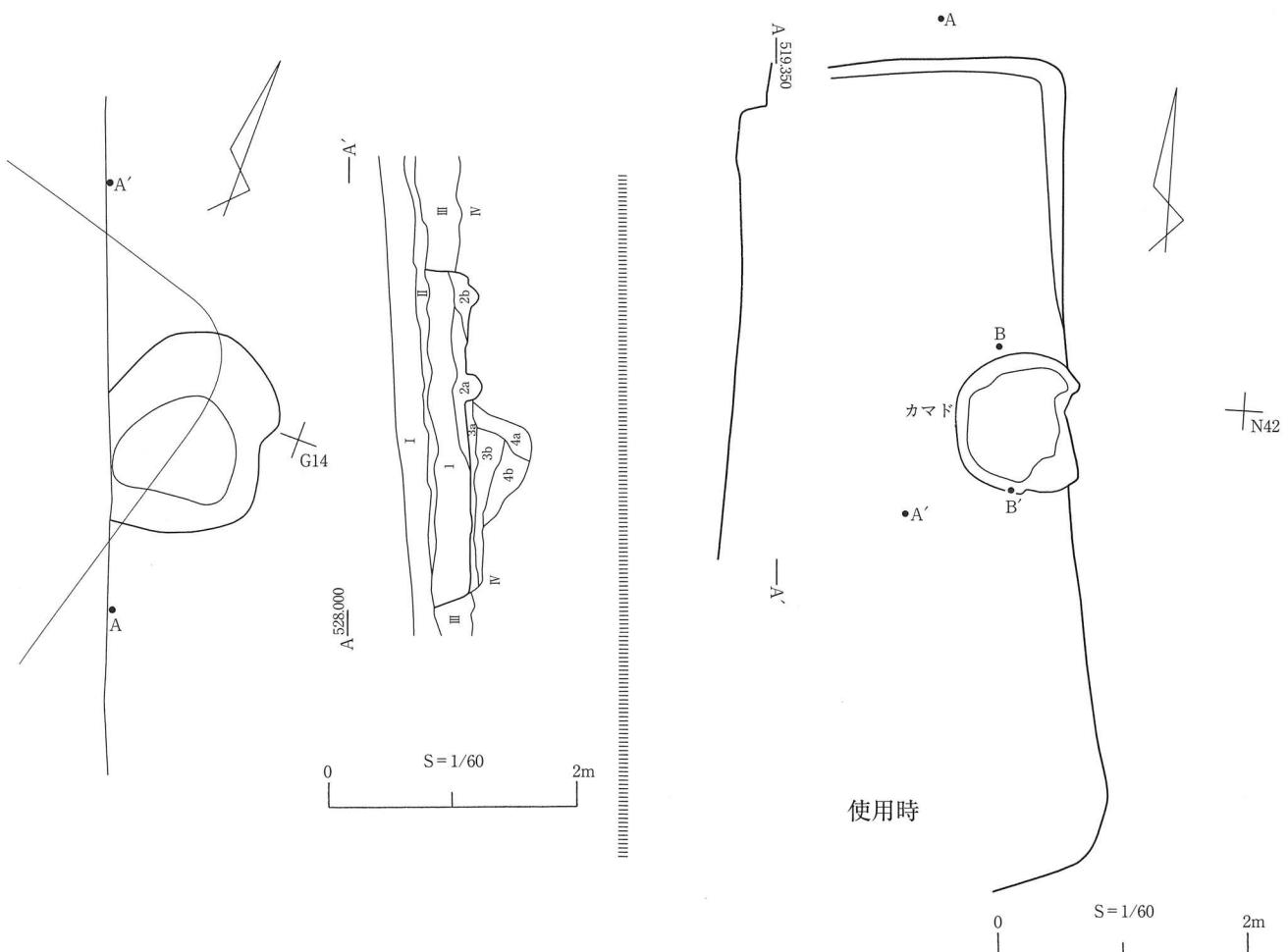
第46図 37・38号竪穴住居跡 平・断面図 (2)



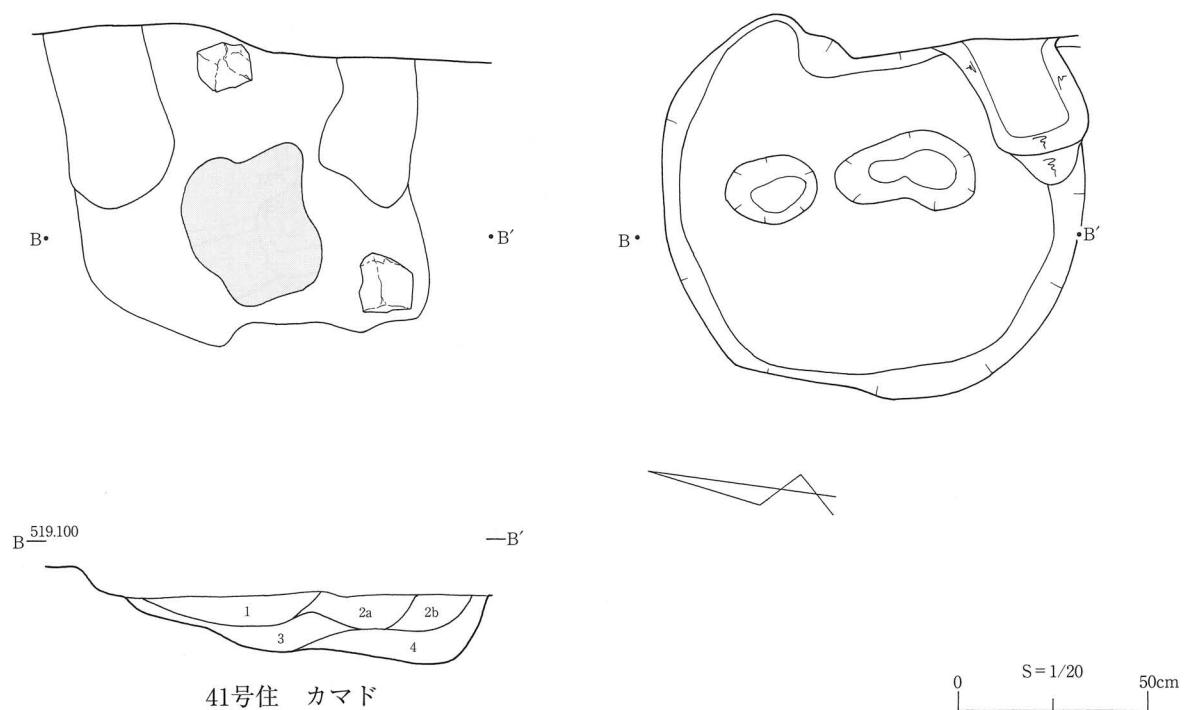
第47図 37・38号竪穴住居跡 平・断面図 (3)



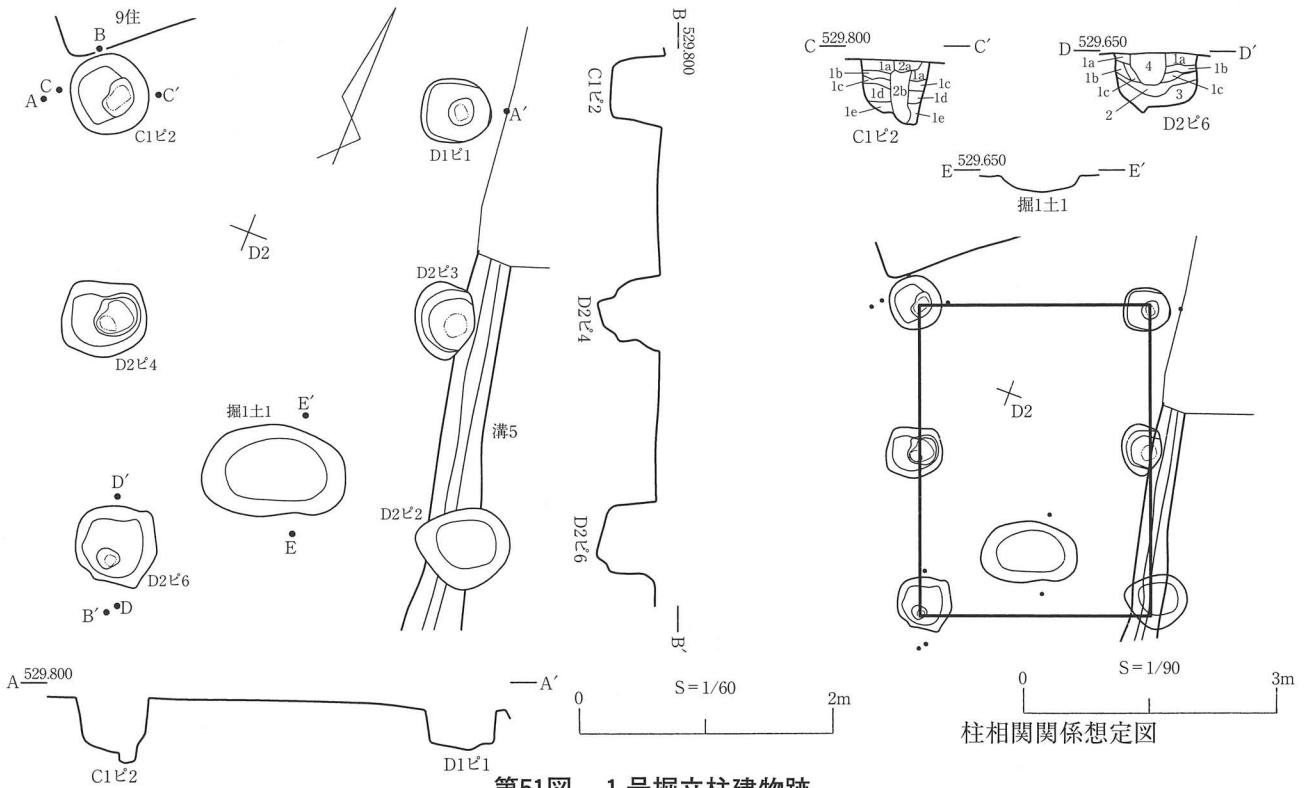
第48図 39号竪穴住居跡 平・断面図

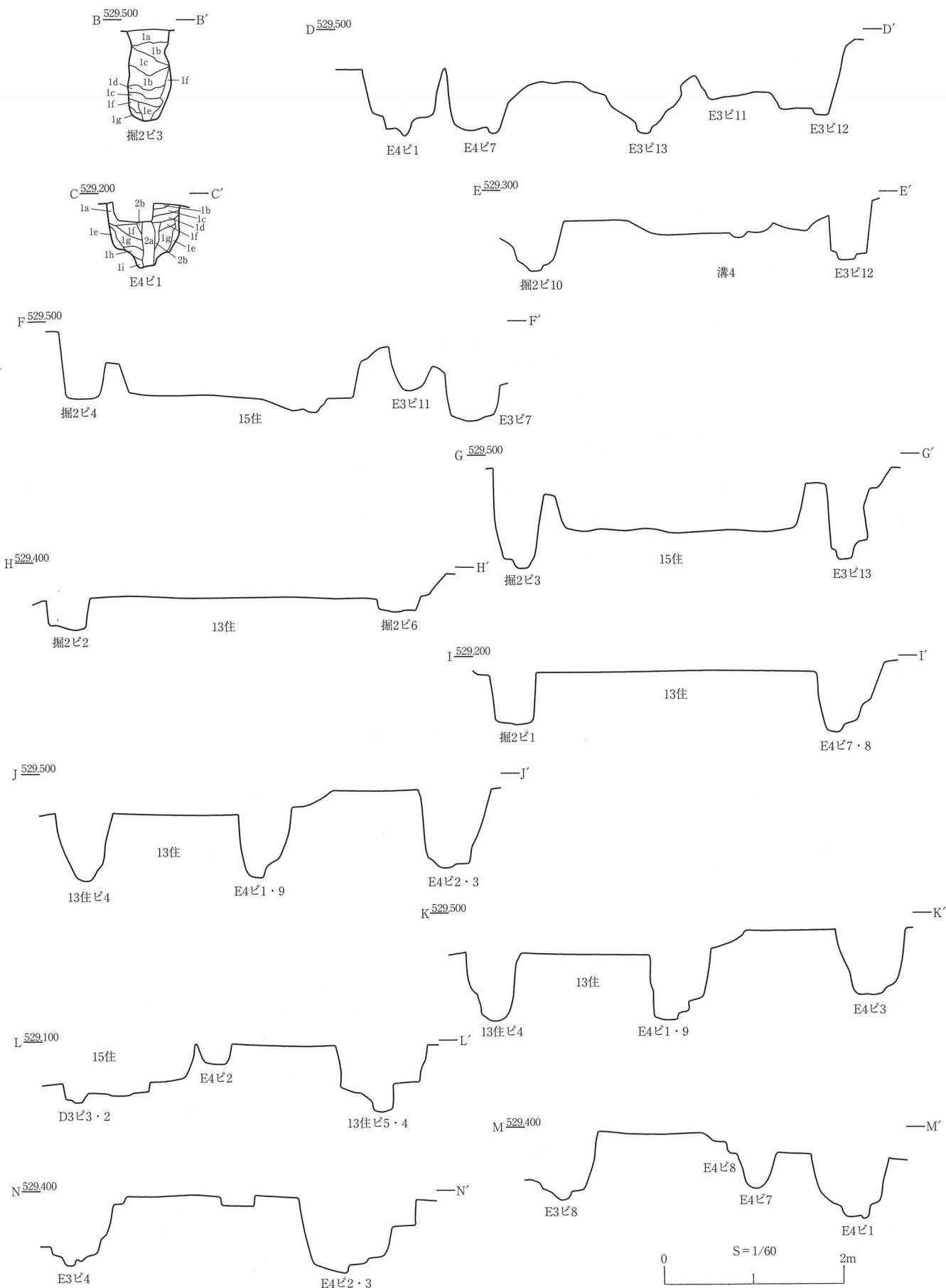


第49図 40号竪穴住居跡 平・断面図

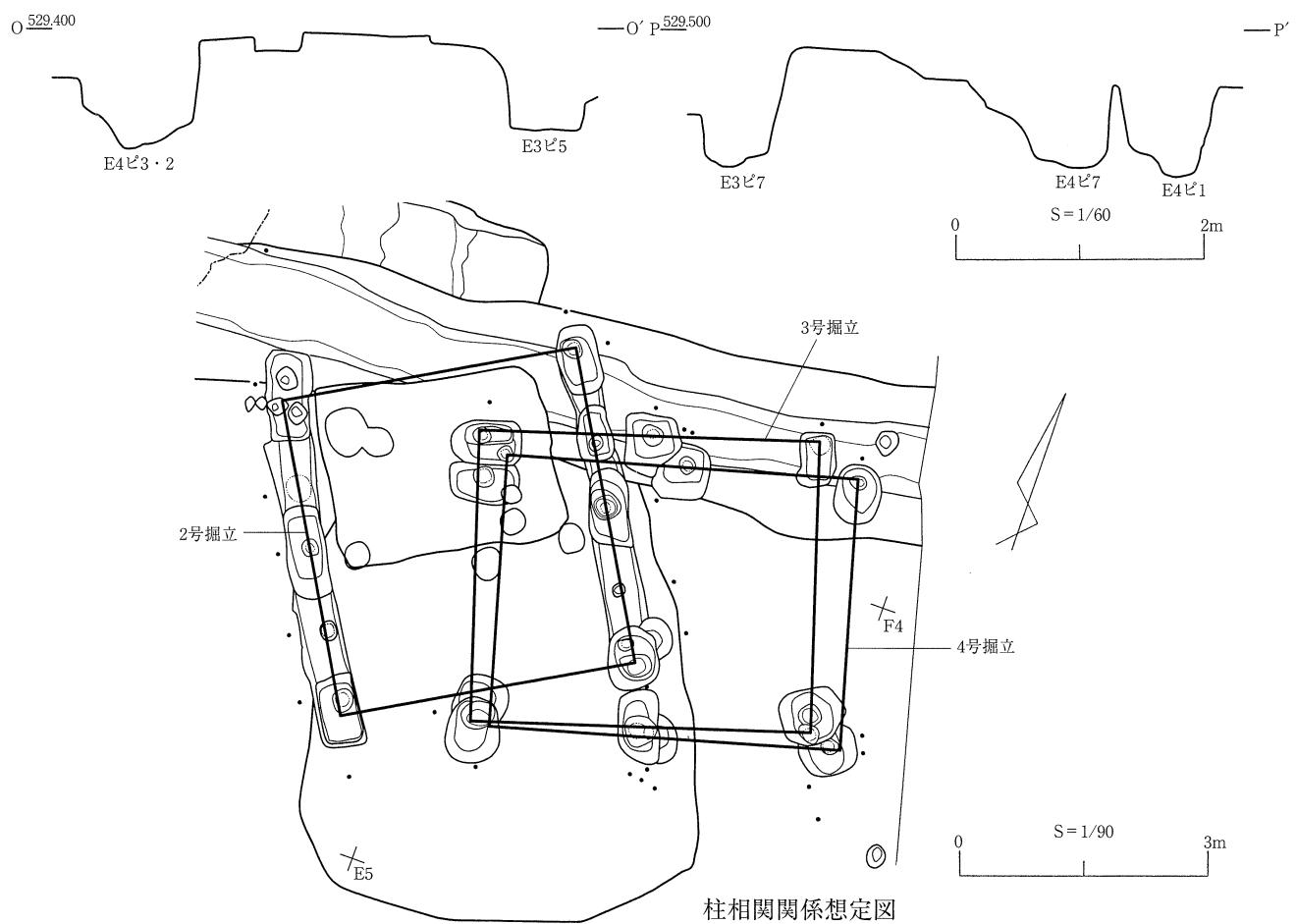


第50図 41号竪穴住居跡 平・断面図

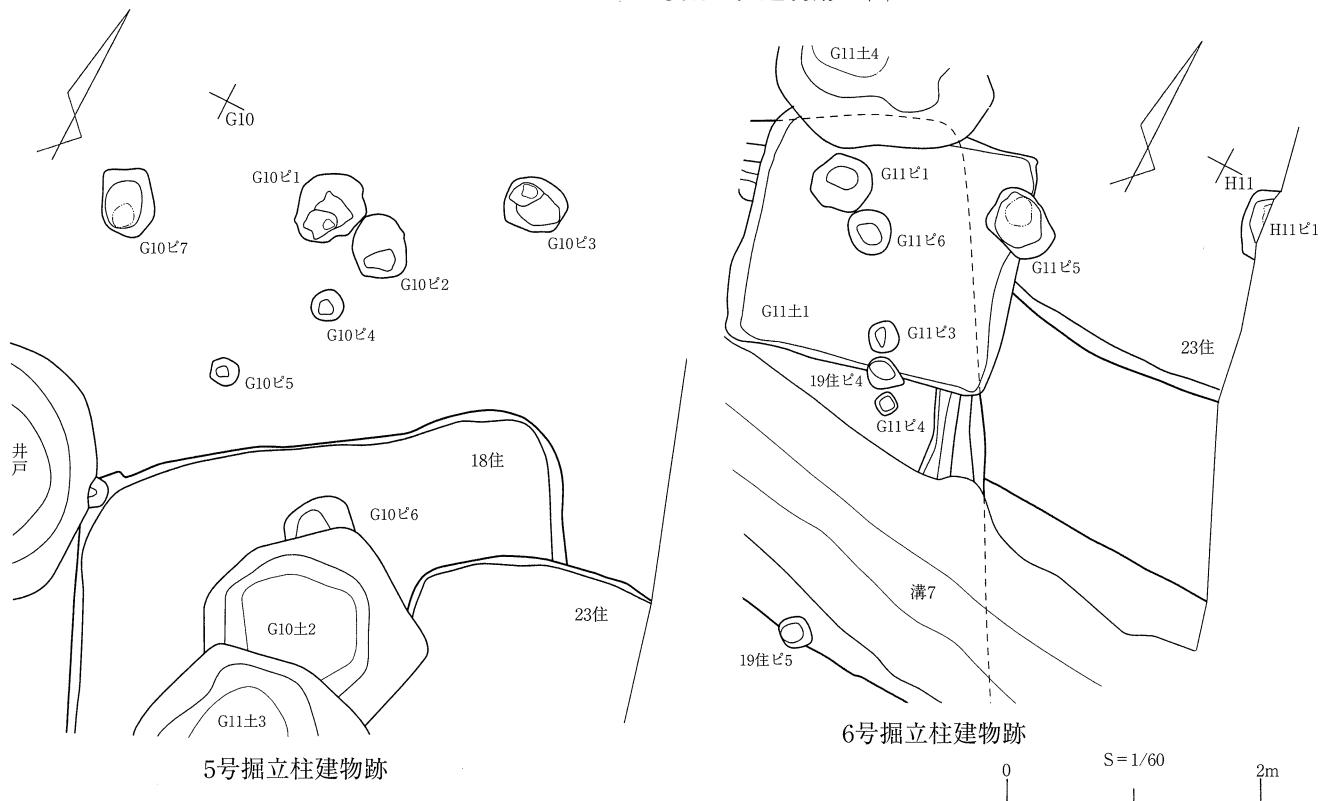




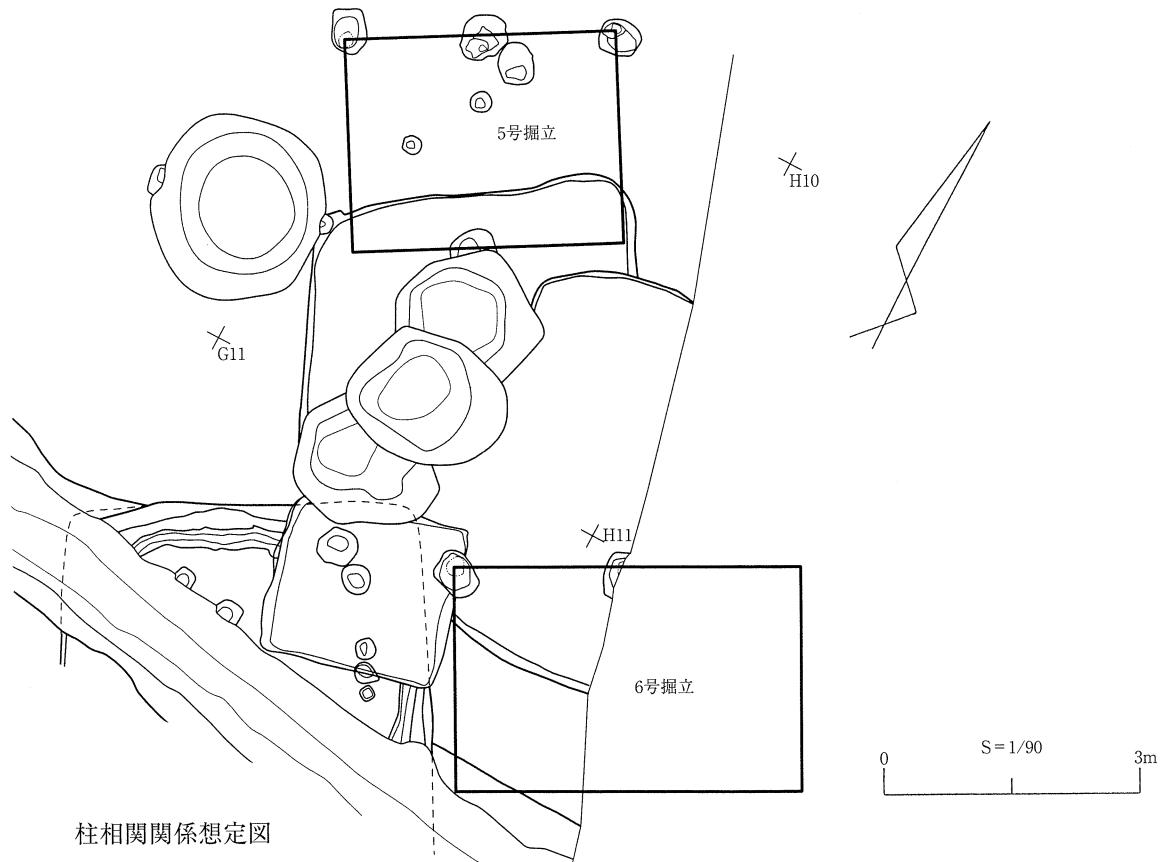
第53図 2・3・4号掘立柱建物跡 (2)



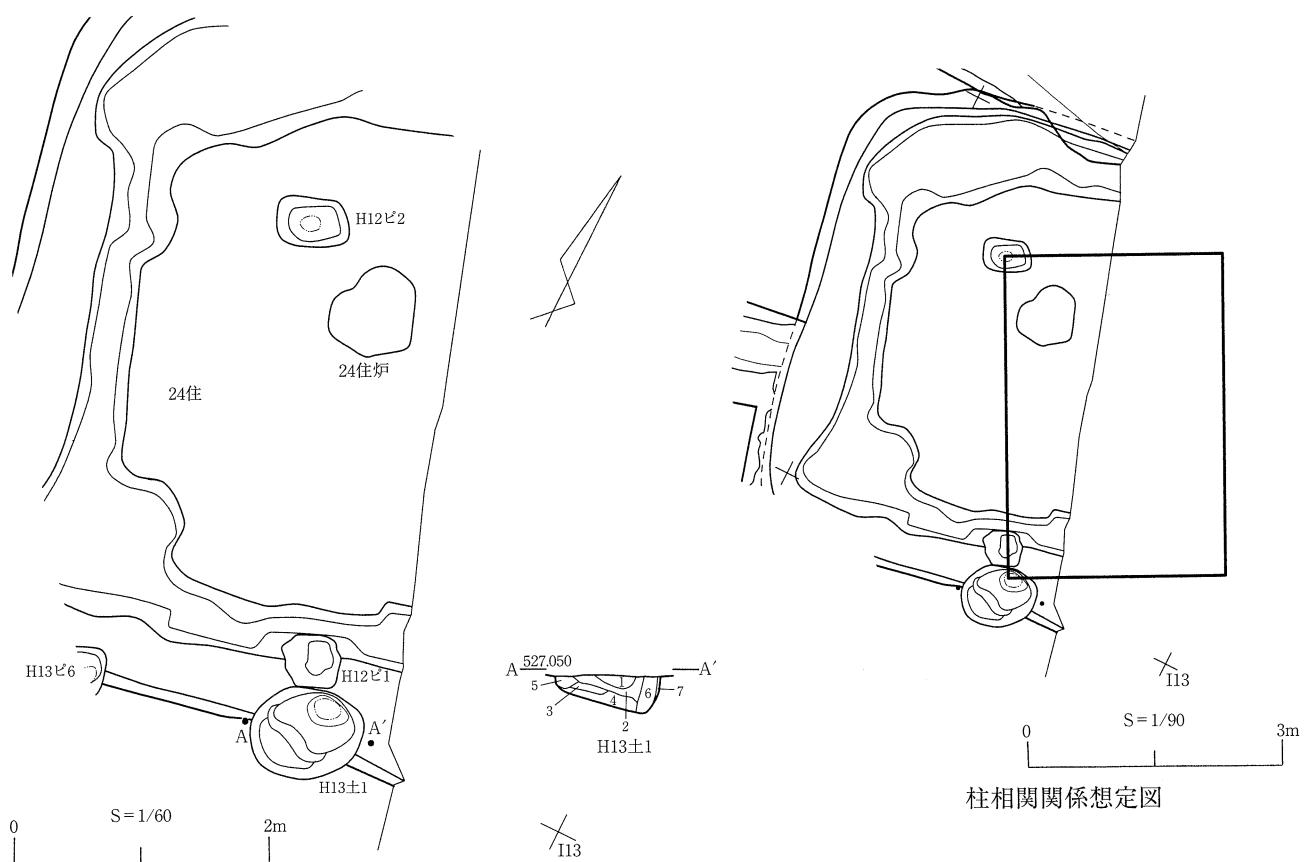
第54図 2・3・4号掘立柱建物跡 (3)



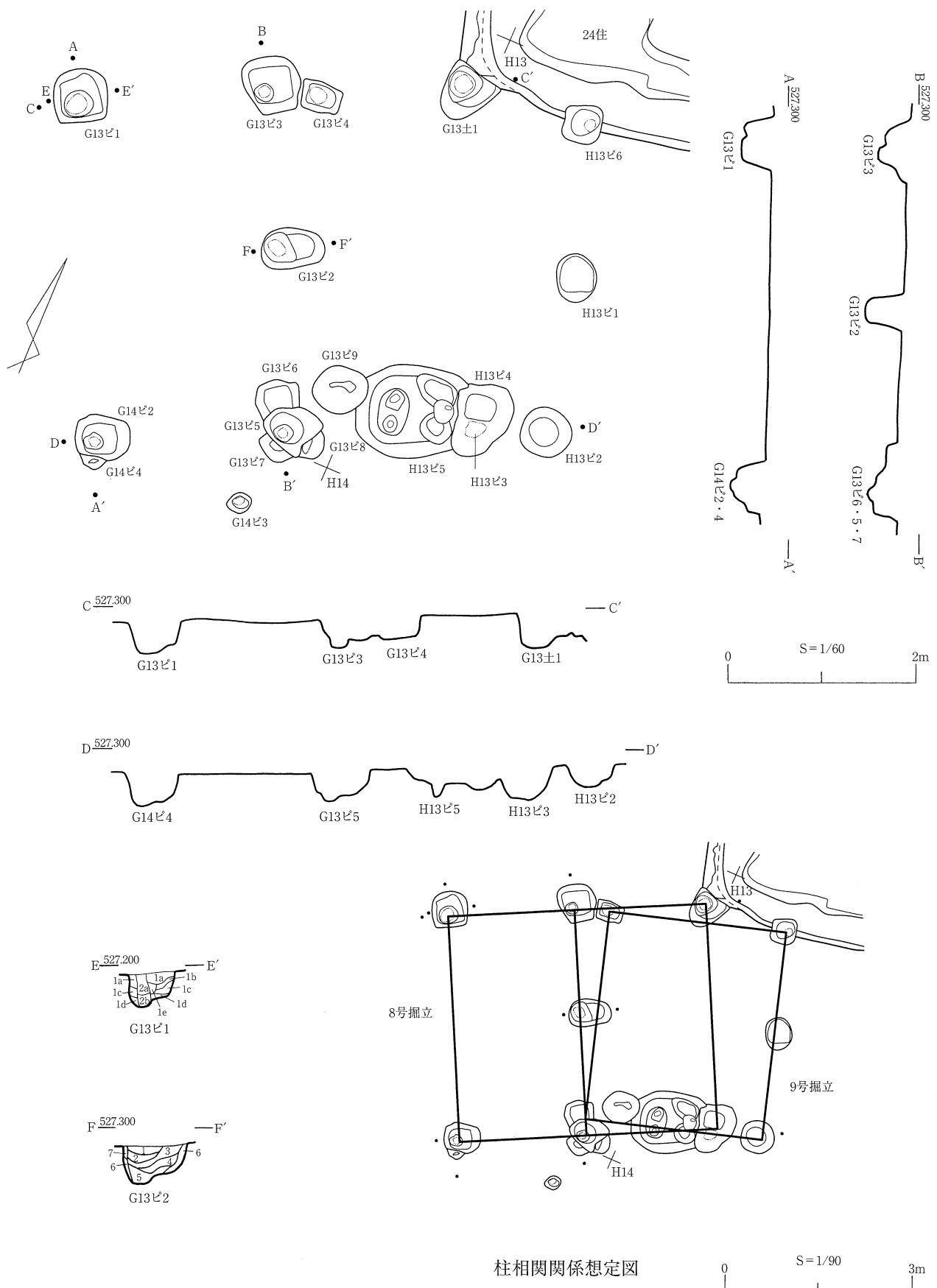
第55図 5・6号掘立柱建物跡 (1)



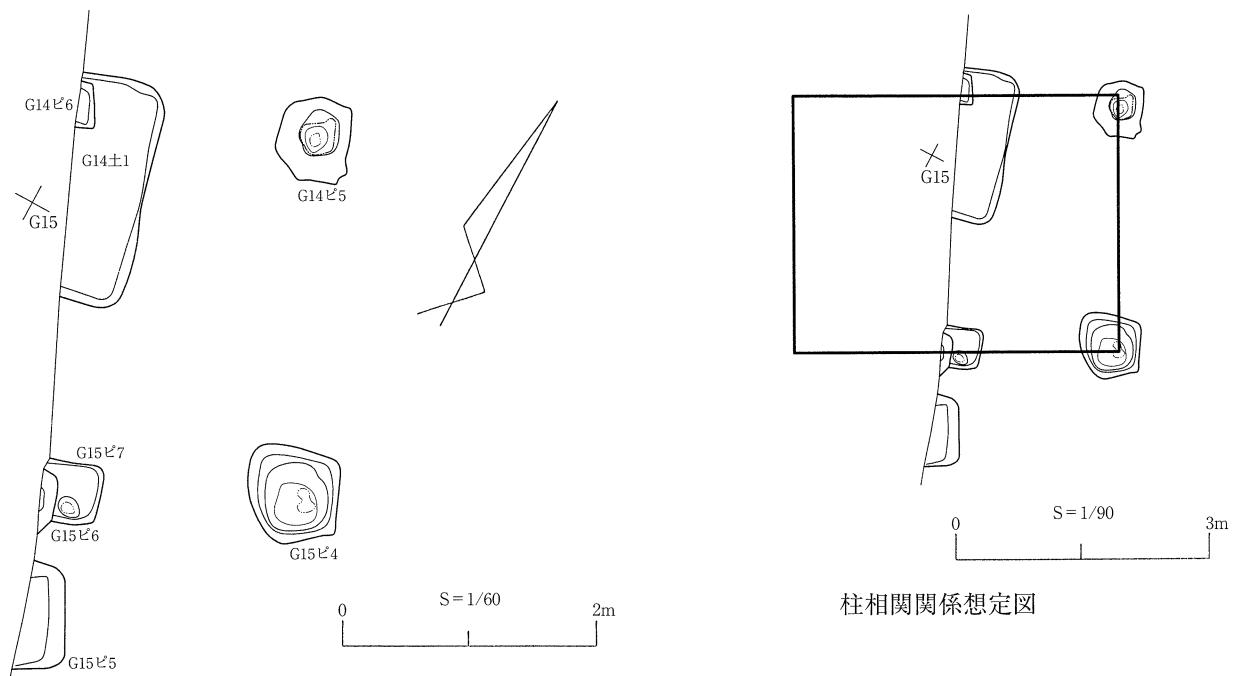
第56図 5・6号掘立柱建物跡 (2)



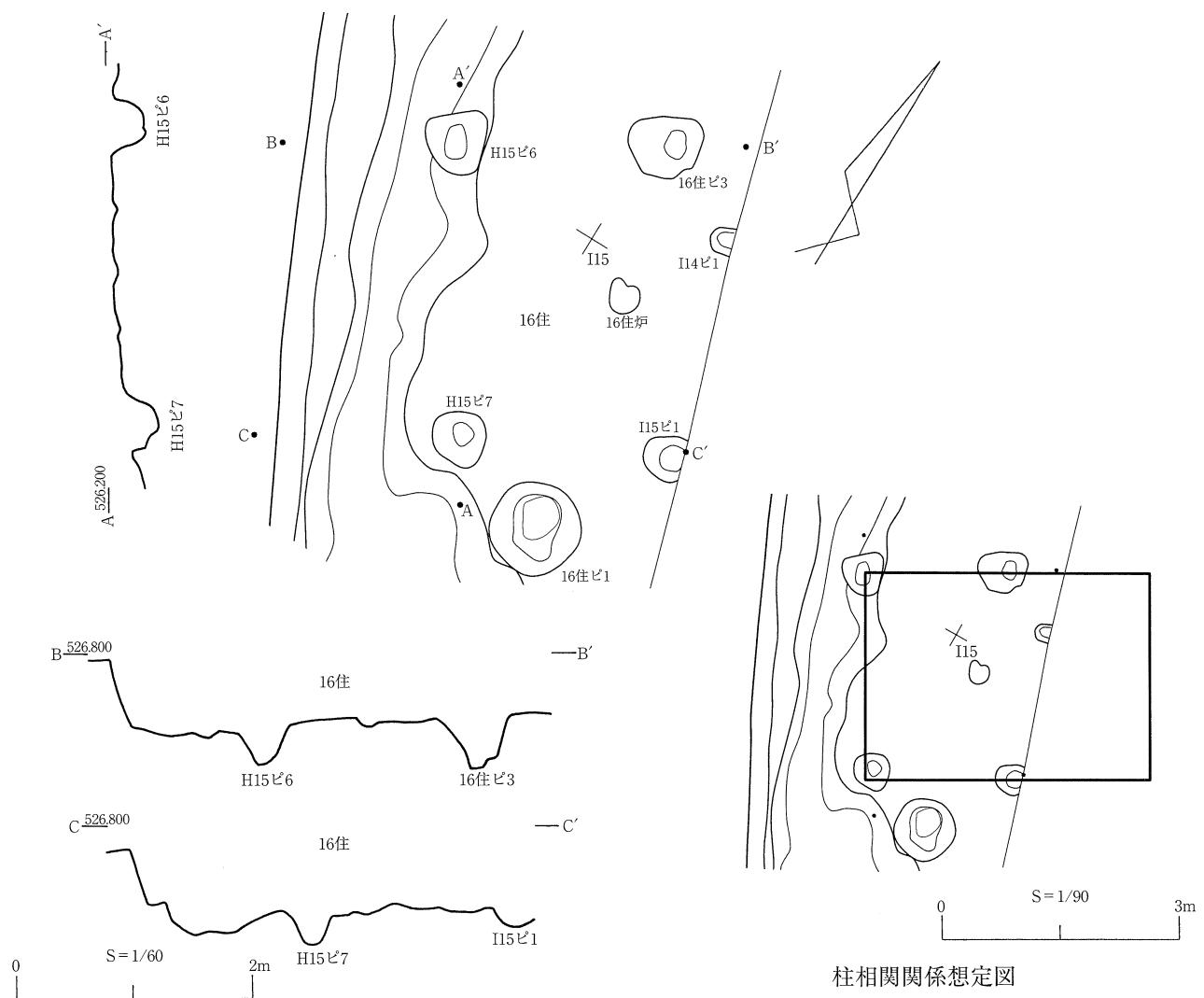
第57図 7号掘立柱建物跡



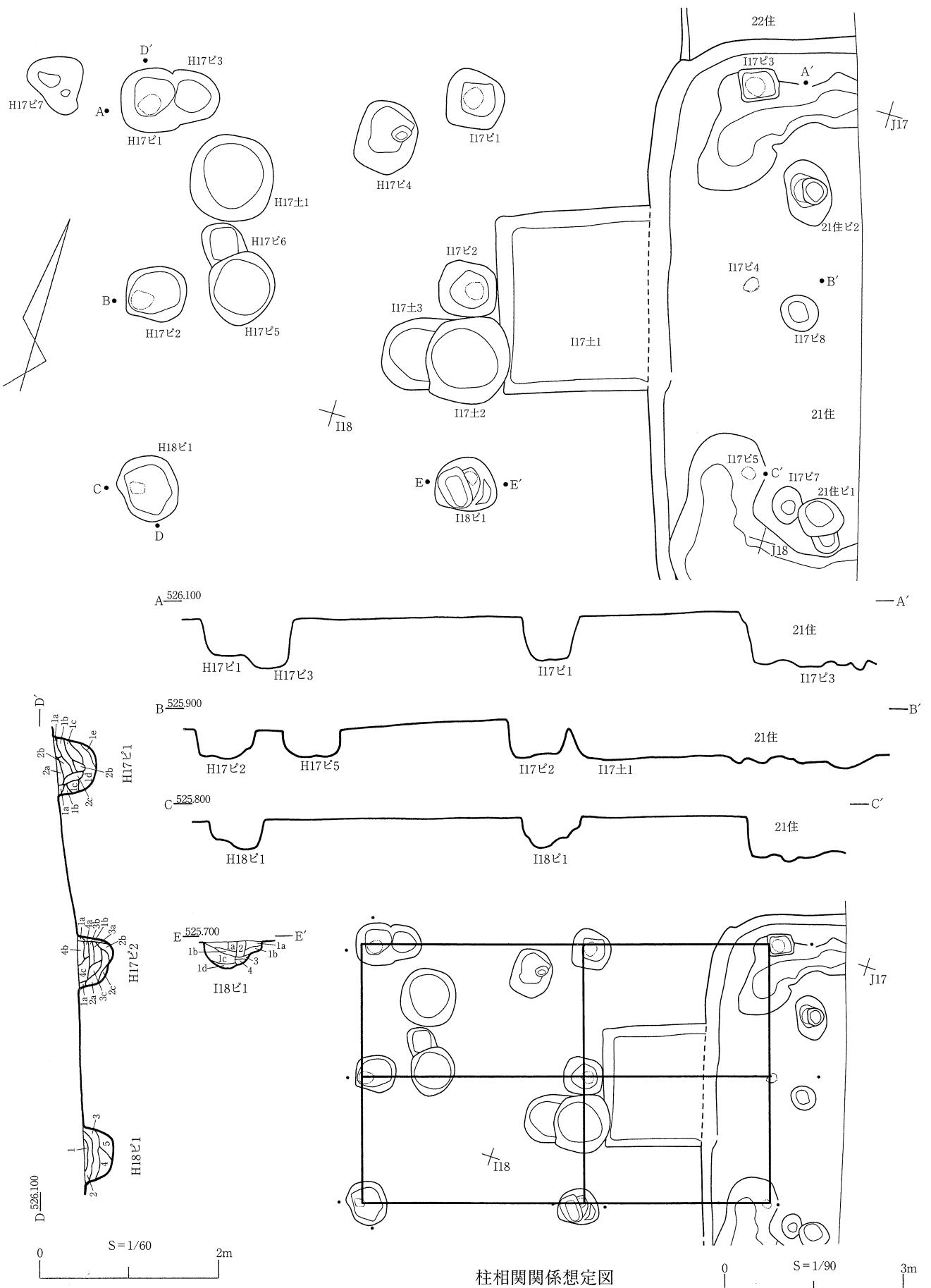
第58図 8・9号掘立柱建物跡



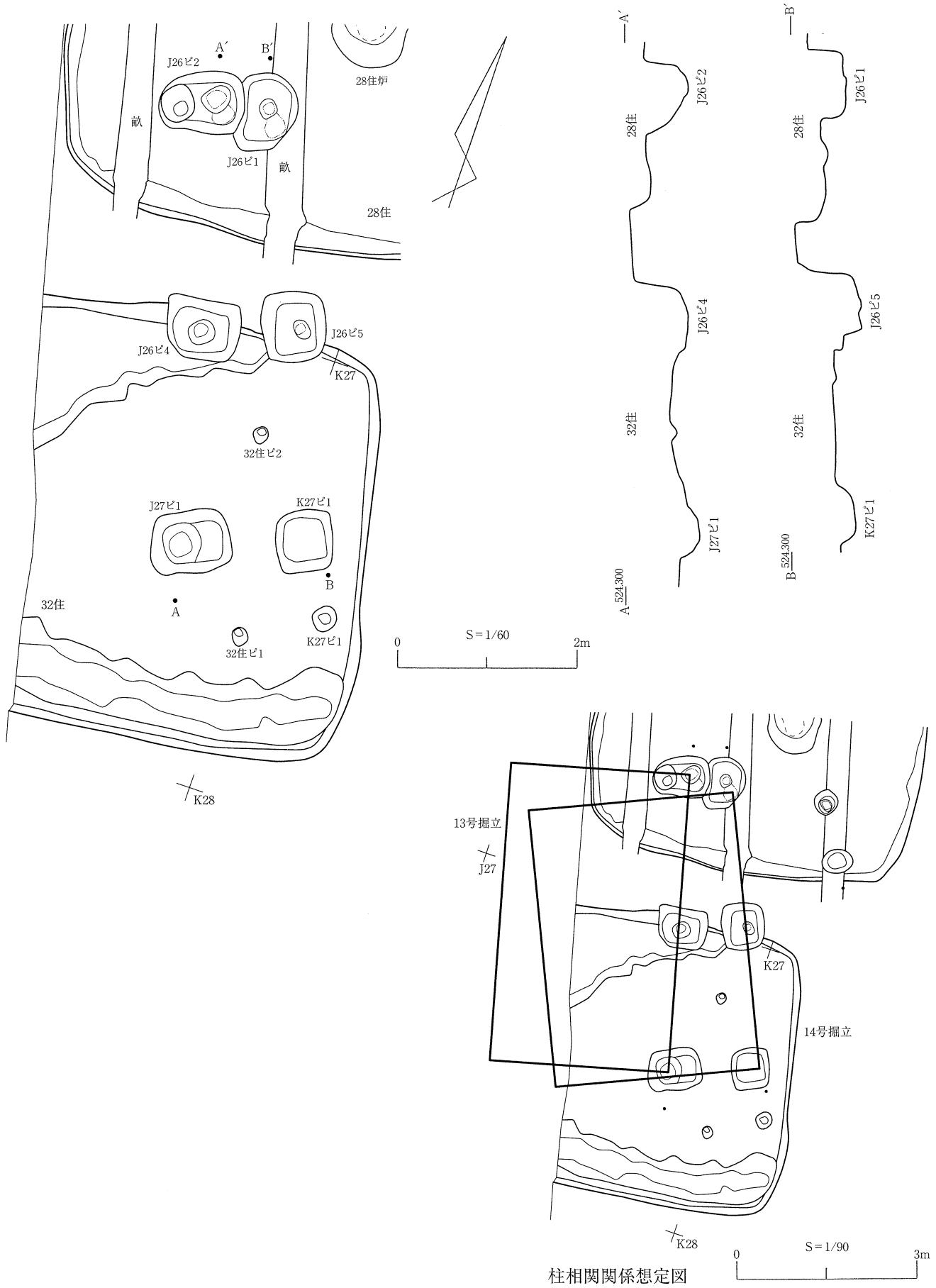
第59図 10号掘立柱建物跡



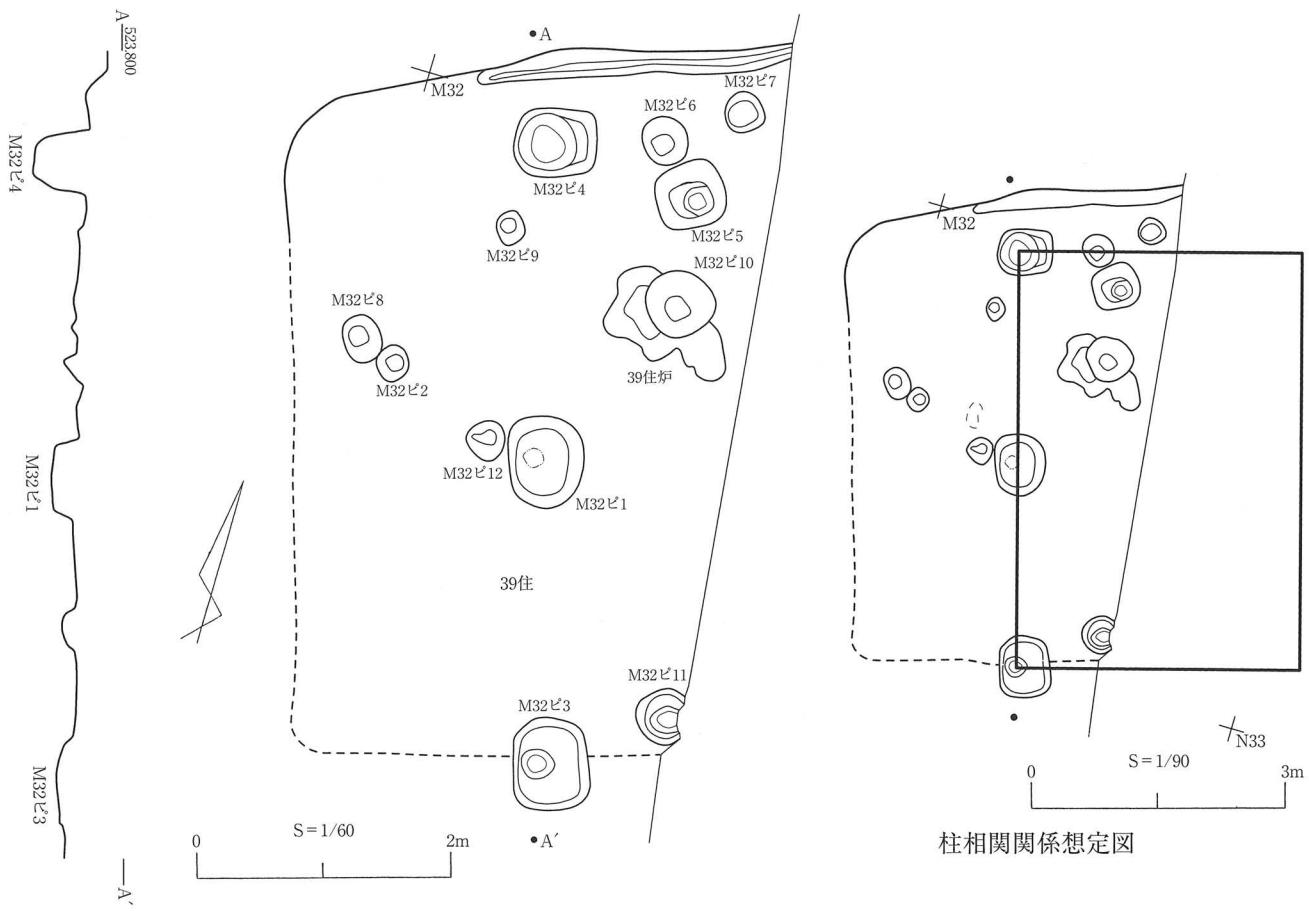
第60図 11号掘立柱建物跡



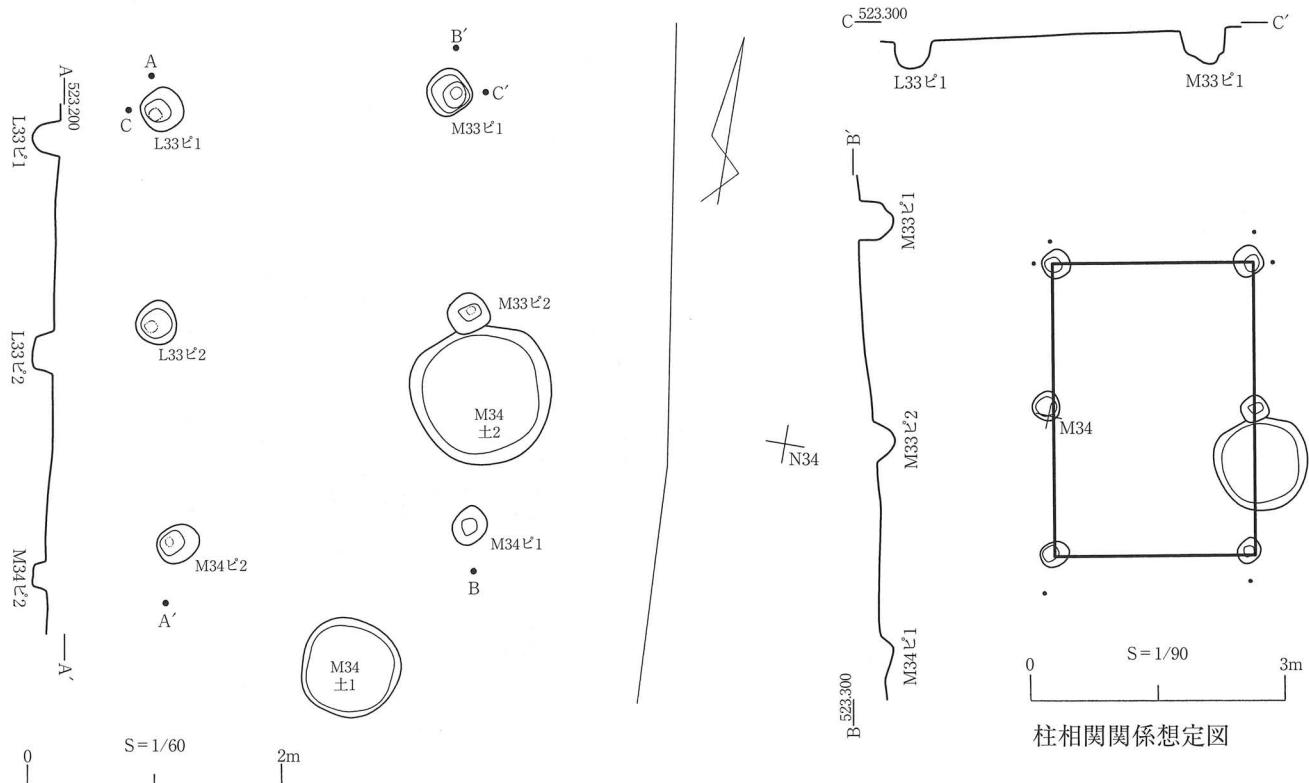
第61図 12号掘立柱建物跡



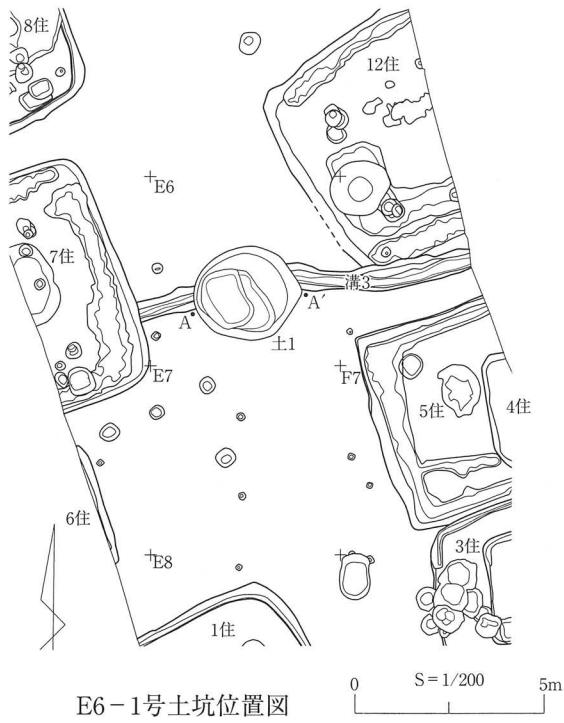
第62図 13・14号掘立柱建物跡



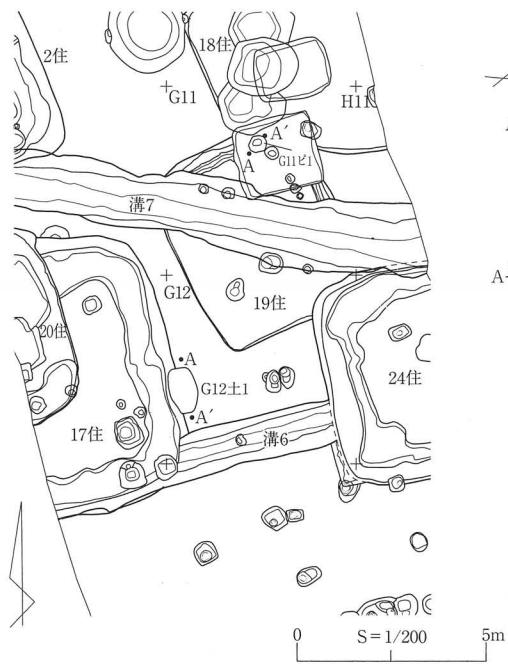
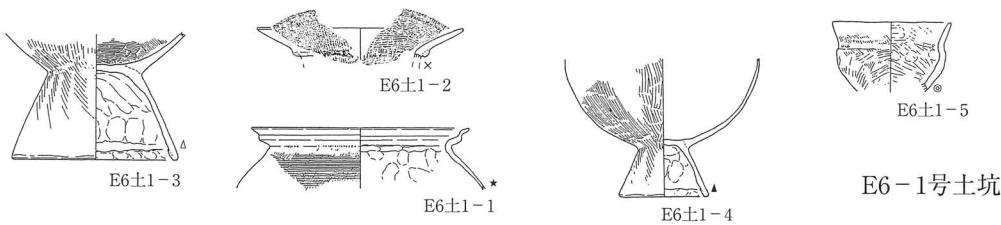
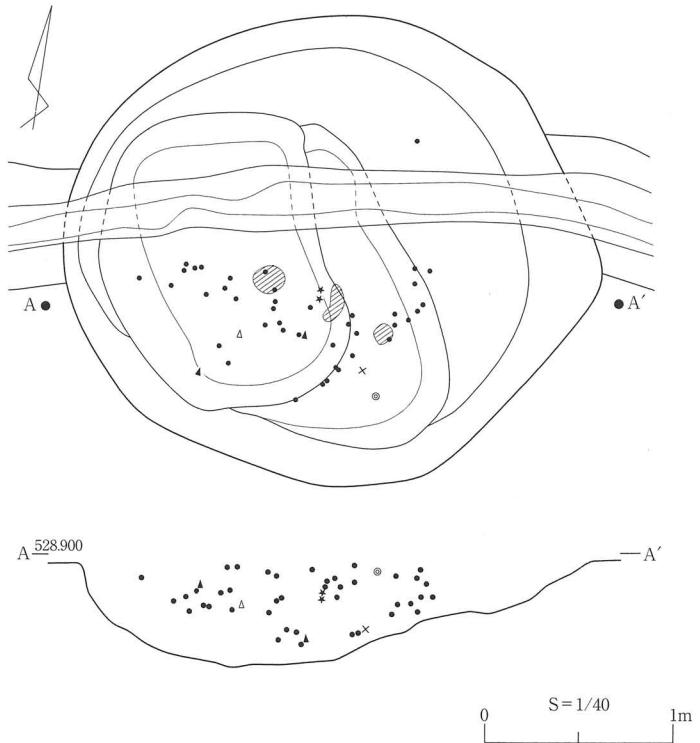
第63図 15号掘立柱建物跡



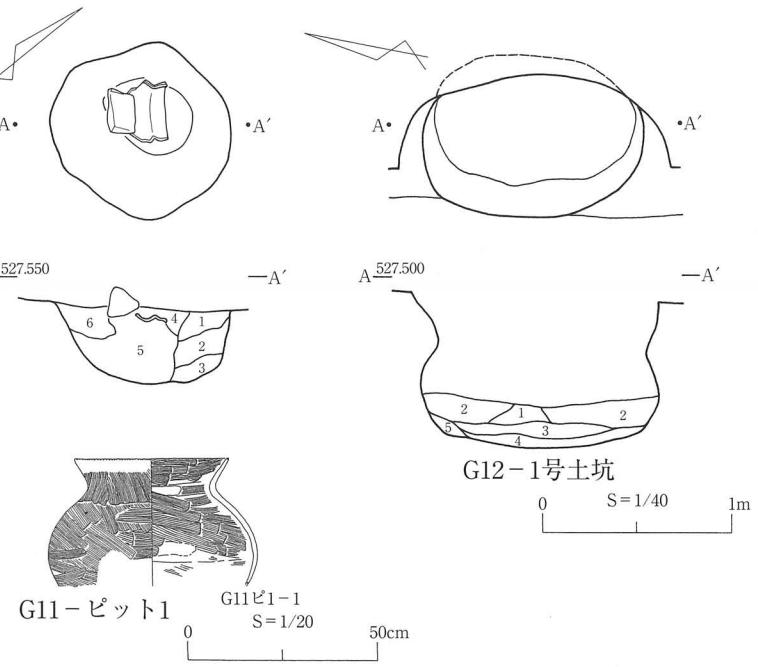
第64図 16号掘立柱建物跡



E6-1号土坑位置図

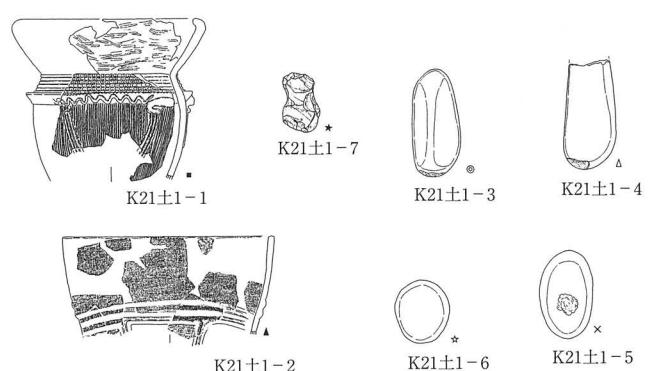
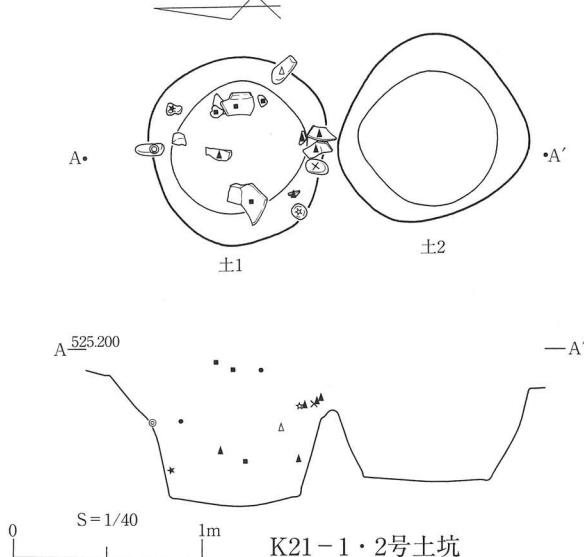
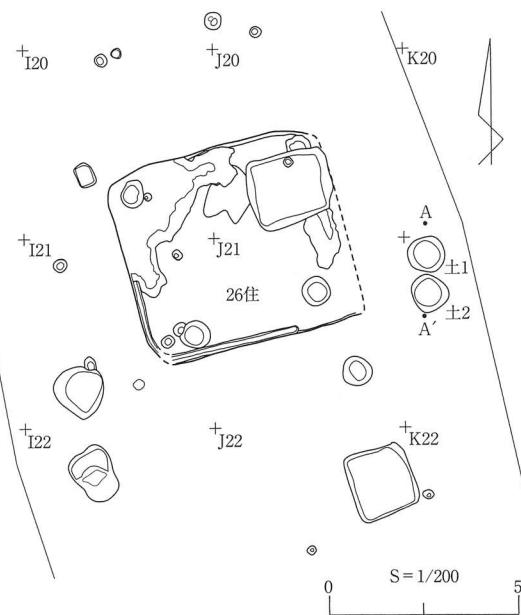
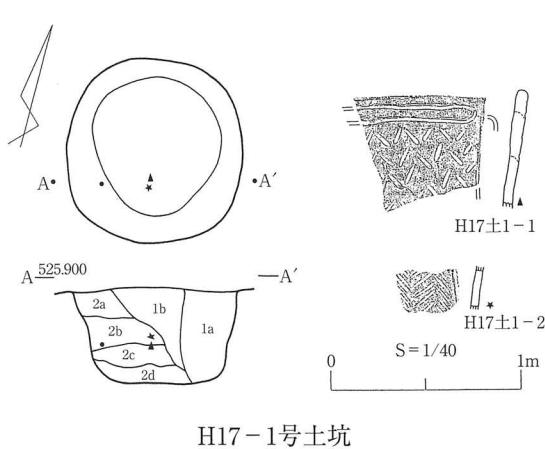
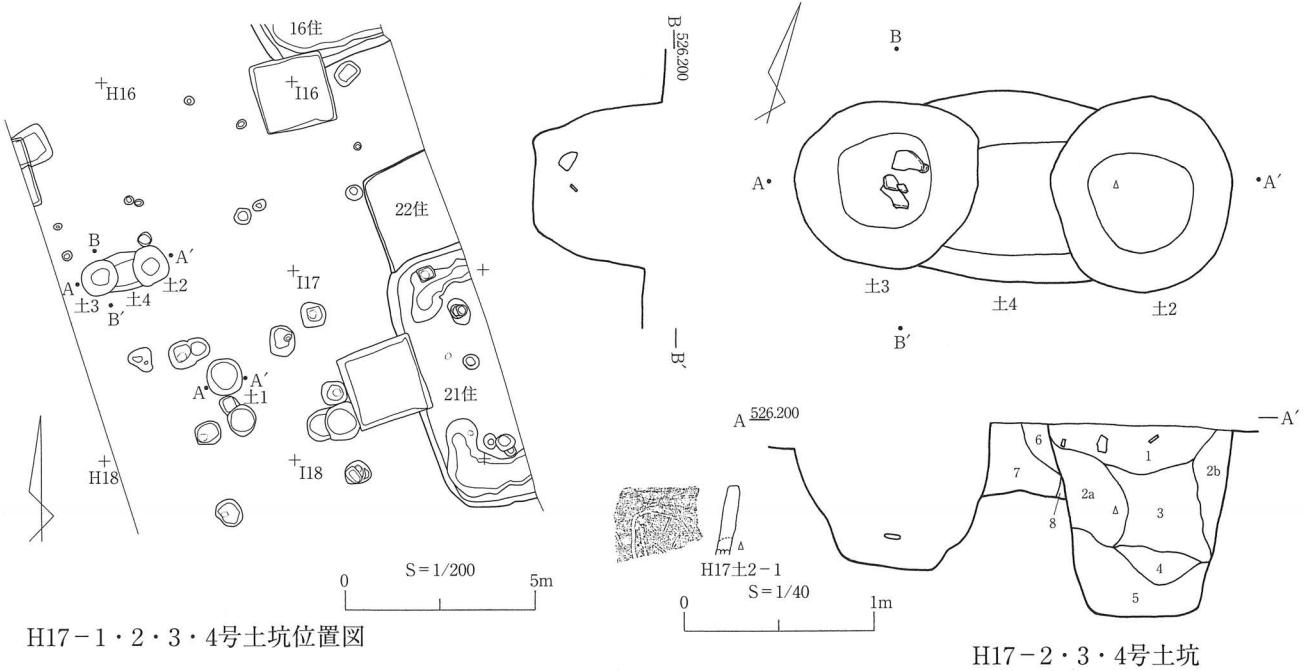


G11-ピット1・G12-1号土坑位置図

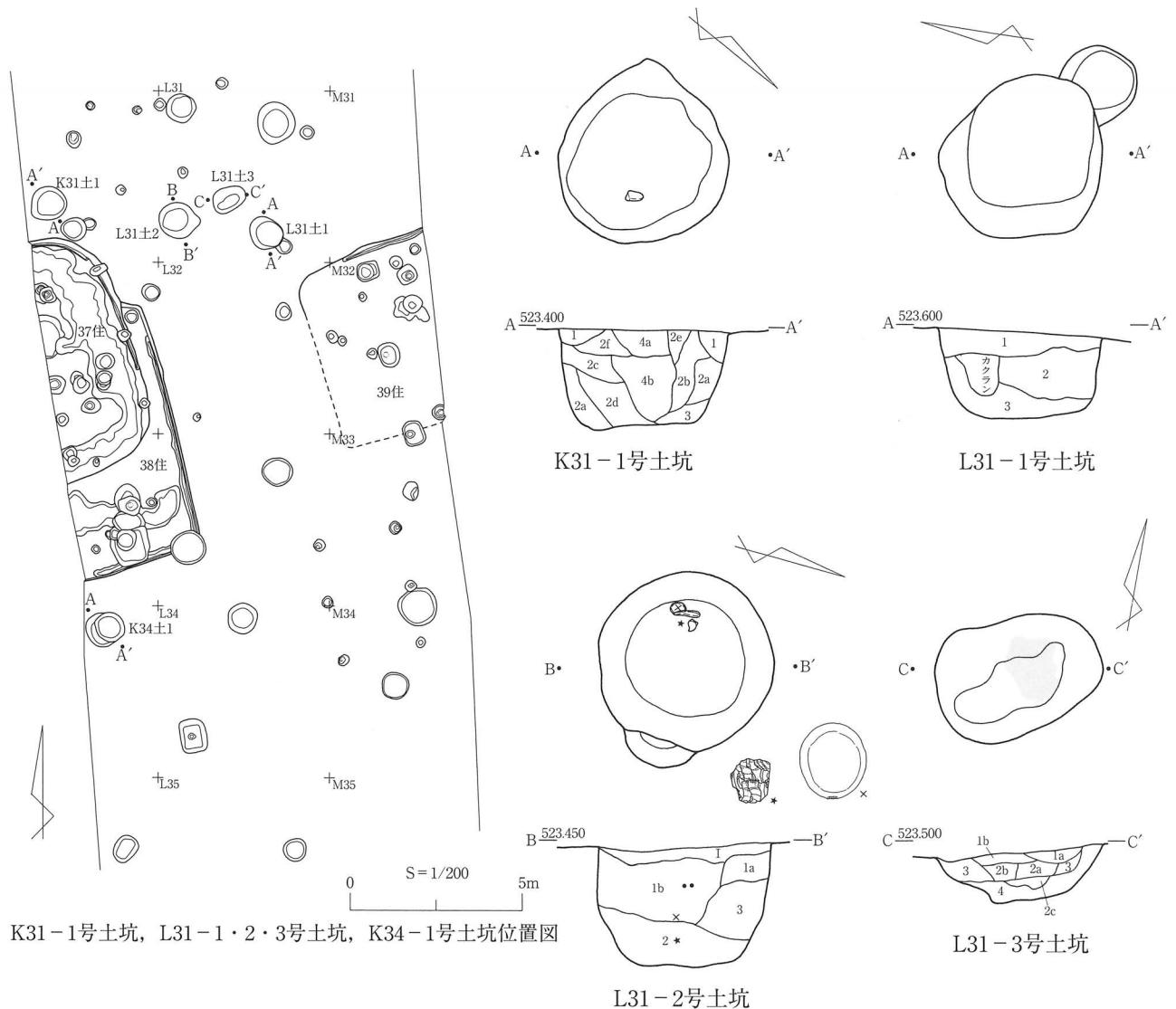


G11-ピット1
G11-ピット1-1
 $S=1/20$
50cm

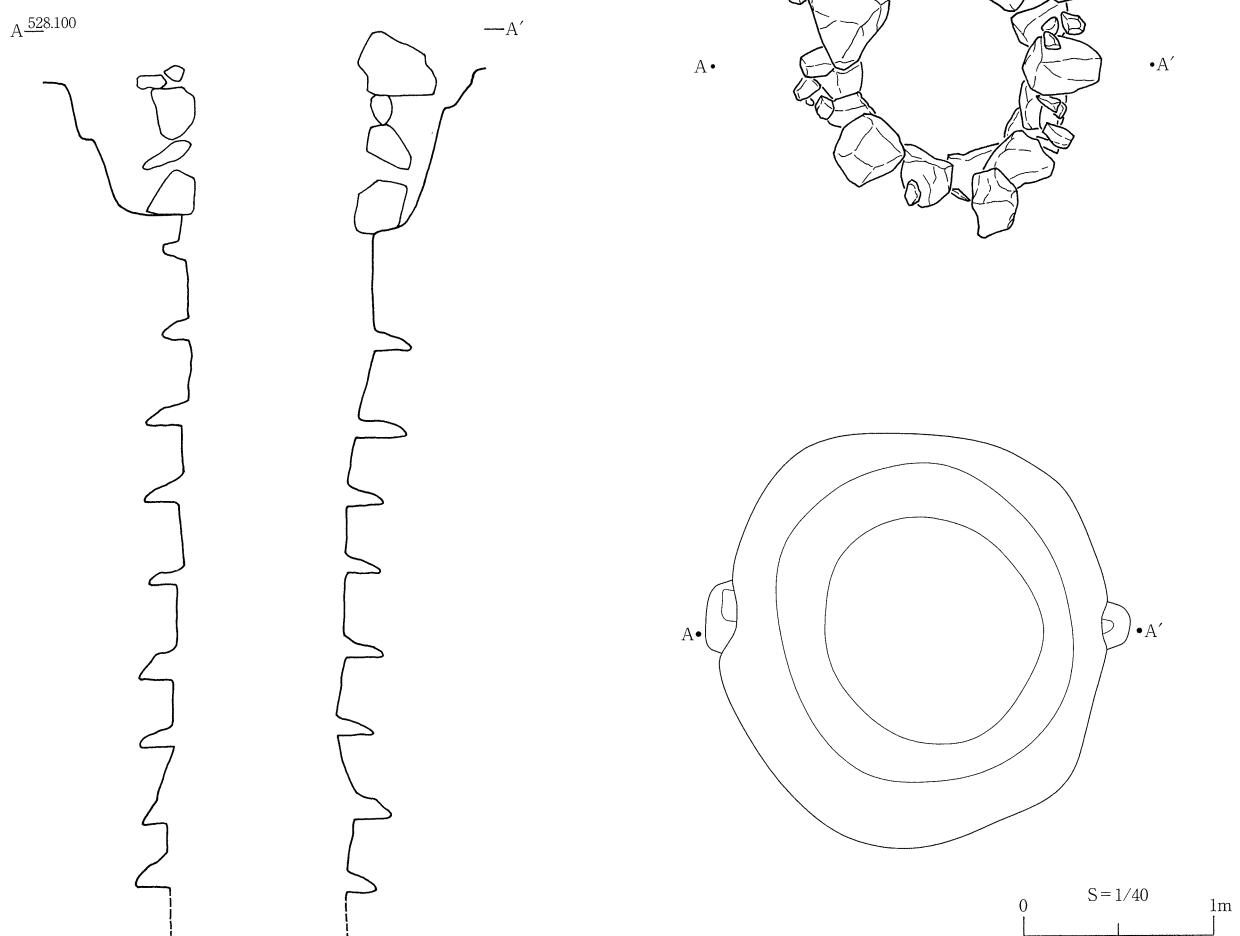
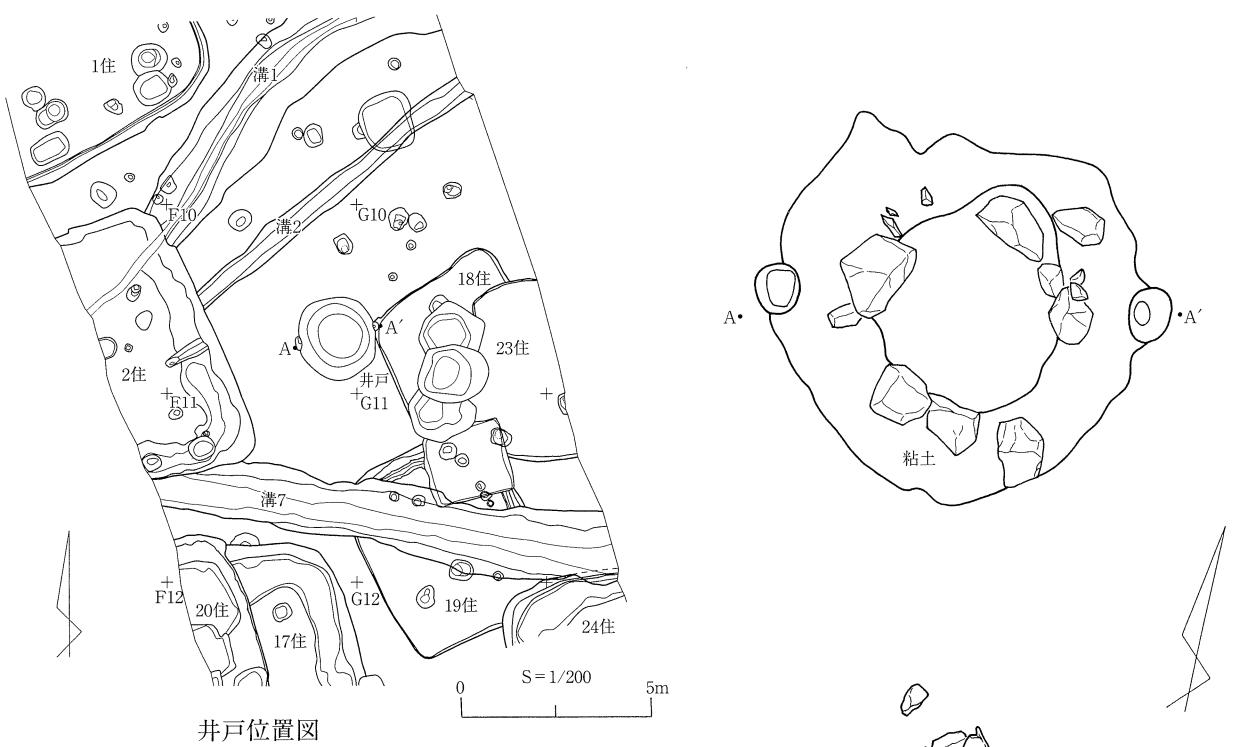
第65図 E6-1号土坑、G11-ピット1、G12-1号土坑 平・断面図



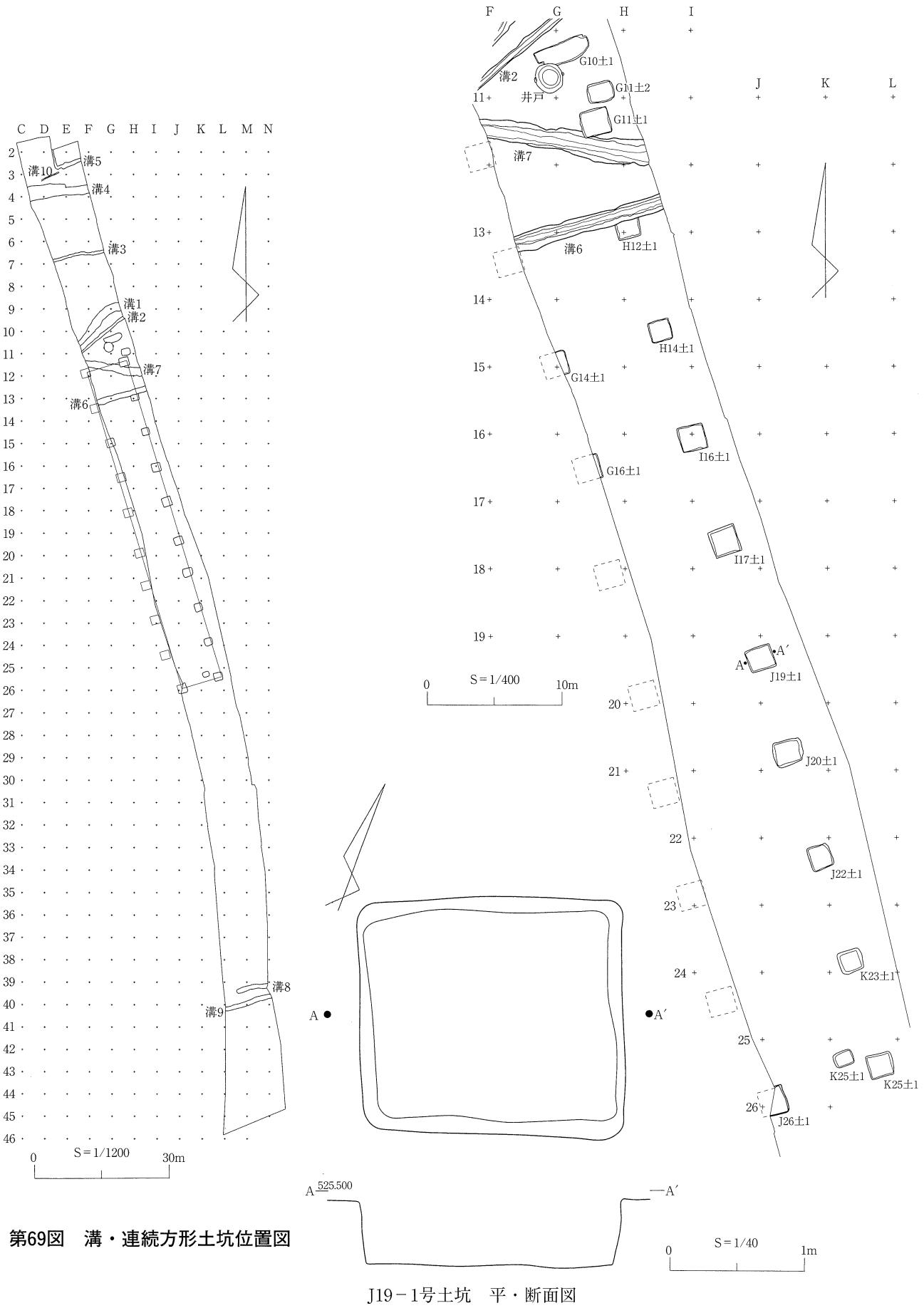
第66図 H17-1・2・3・4号土坑、K21-1・2号土坑 平・断面図



第67図 K31-1号土坑, L31-1・2・3号土坑, K34-1号土坑 平・断面図

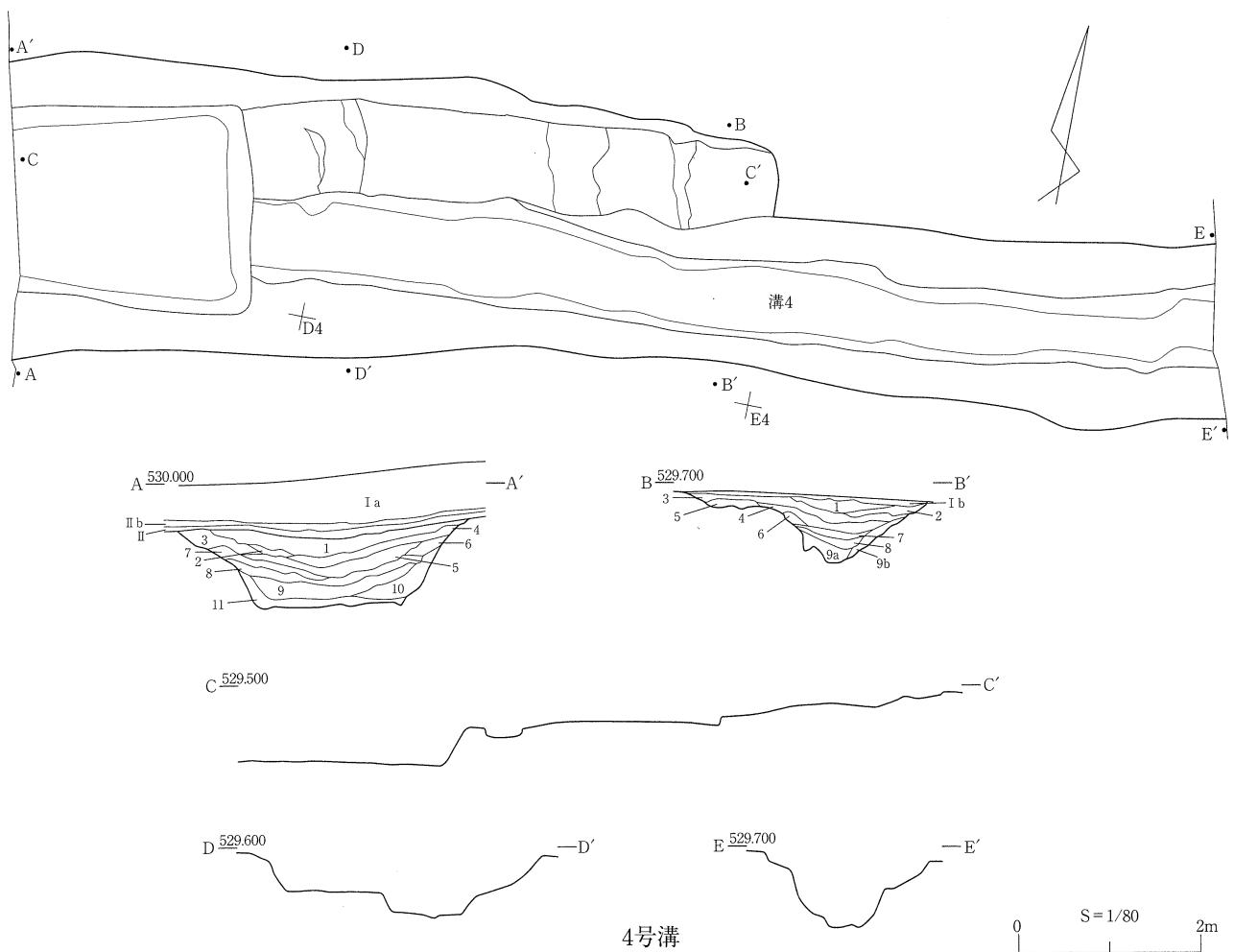
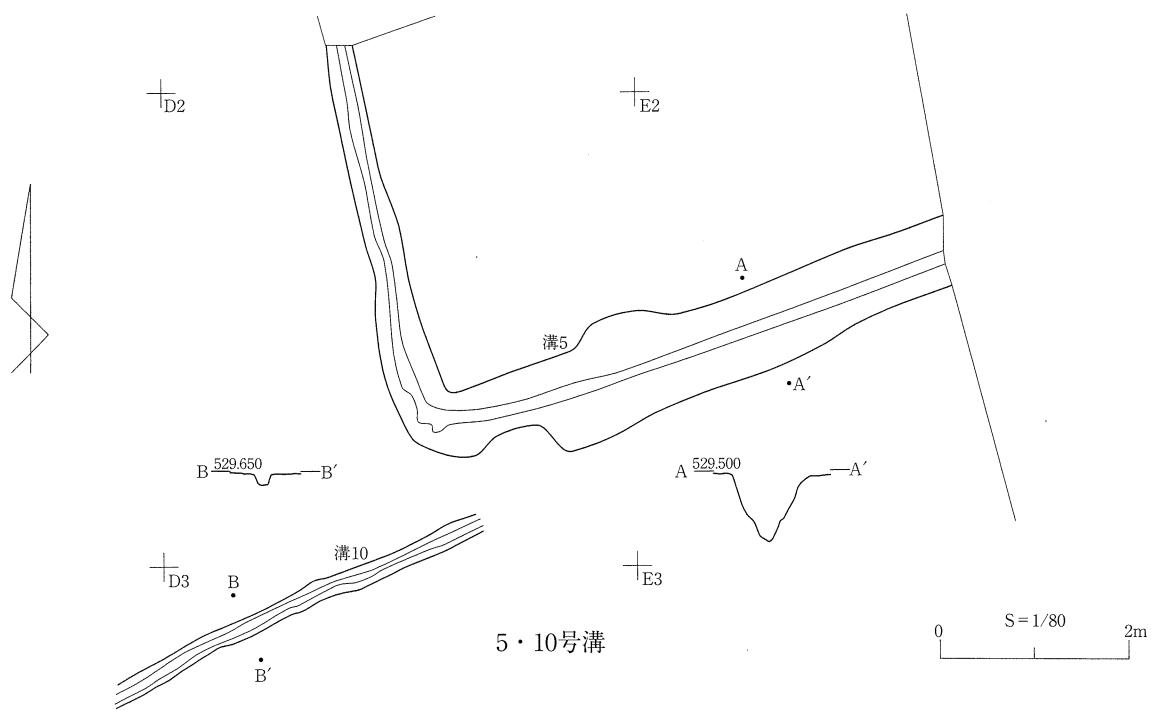


第68図 F10 - 井戸 平・断面図

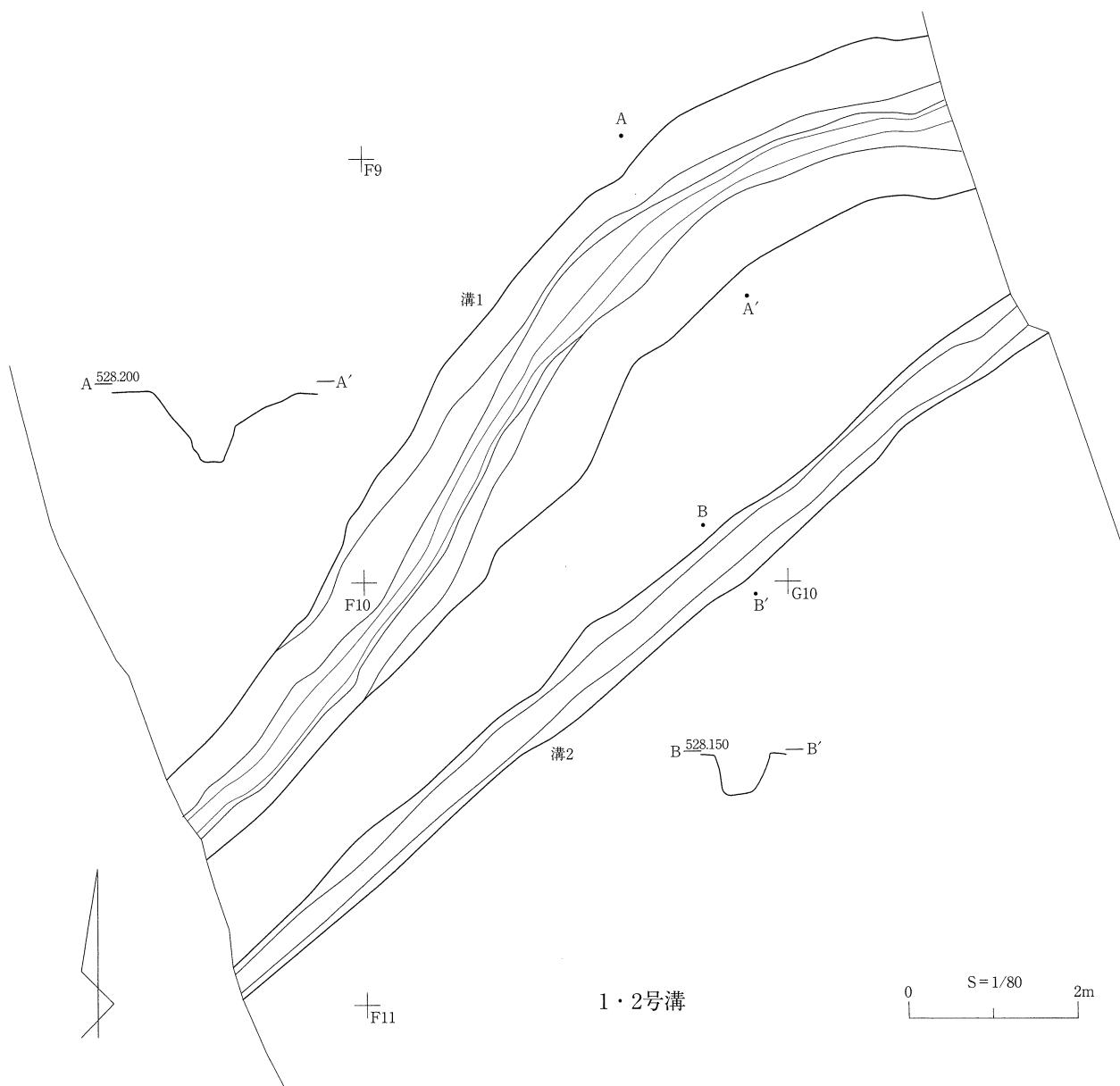
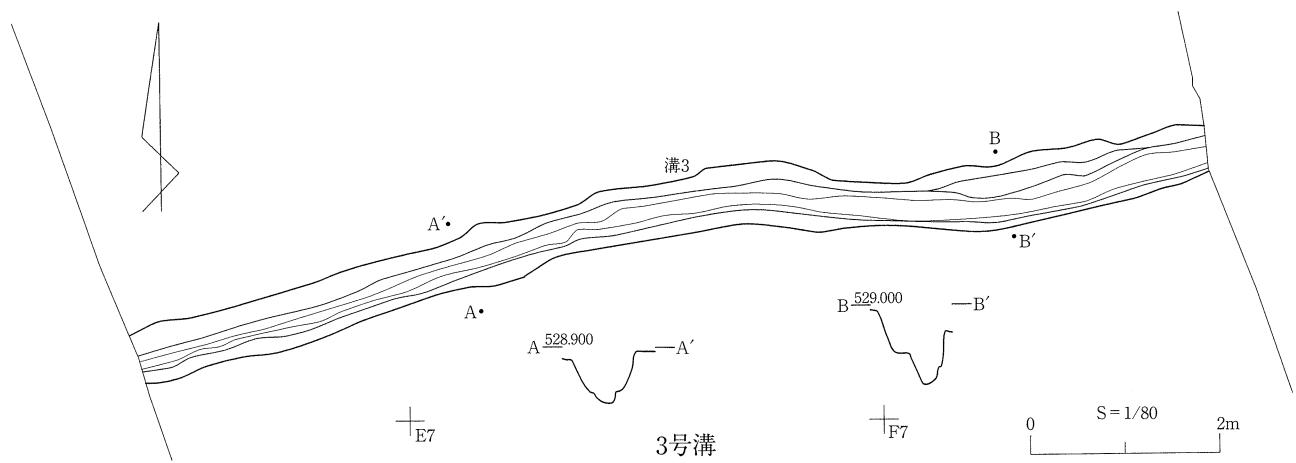


第69図 溝・連続方形土坑位置図

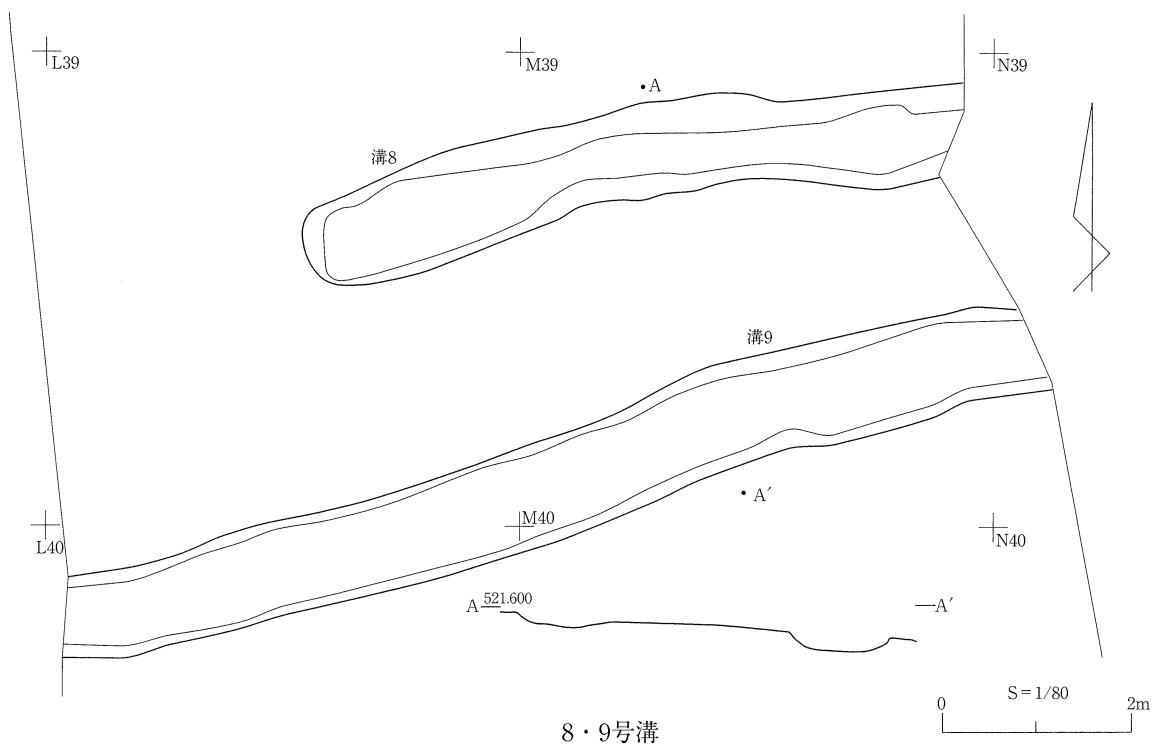
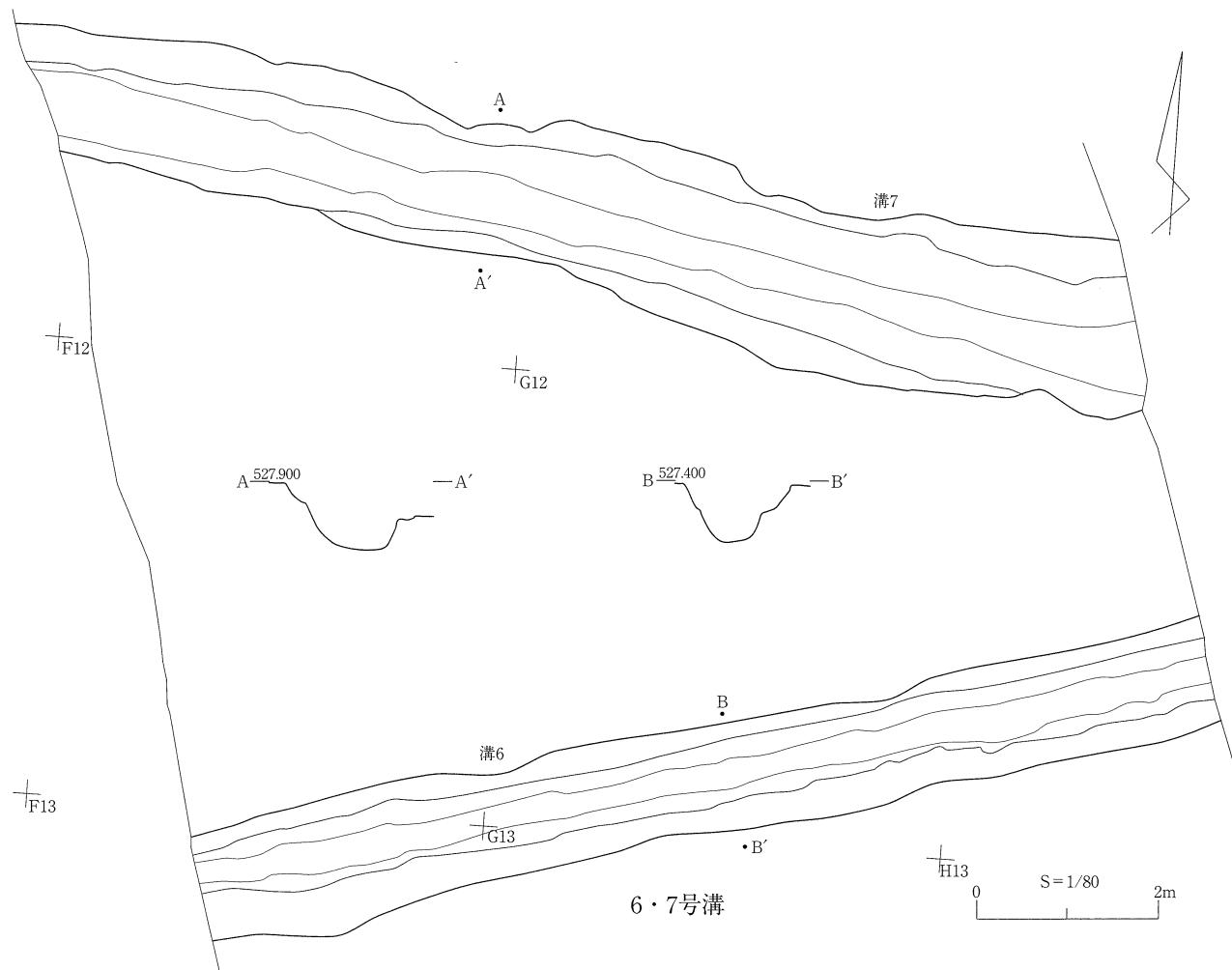
第70図 連続方形土坑図



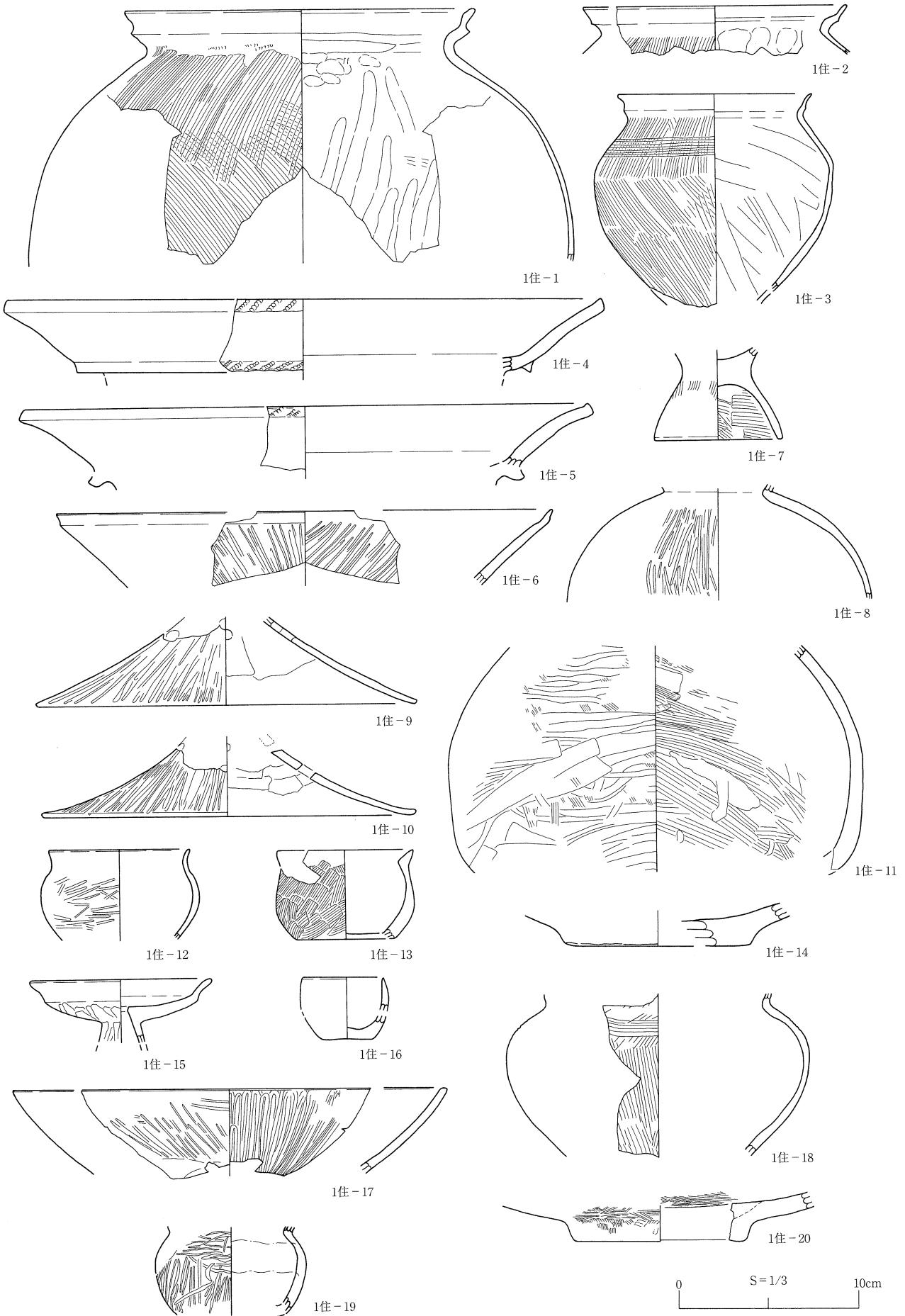
第71図 4・5・10号溝 平・断面図



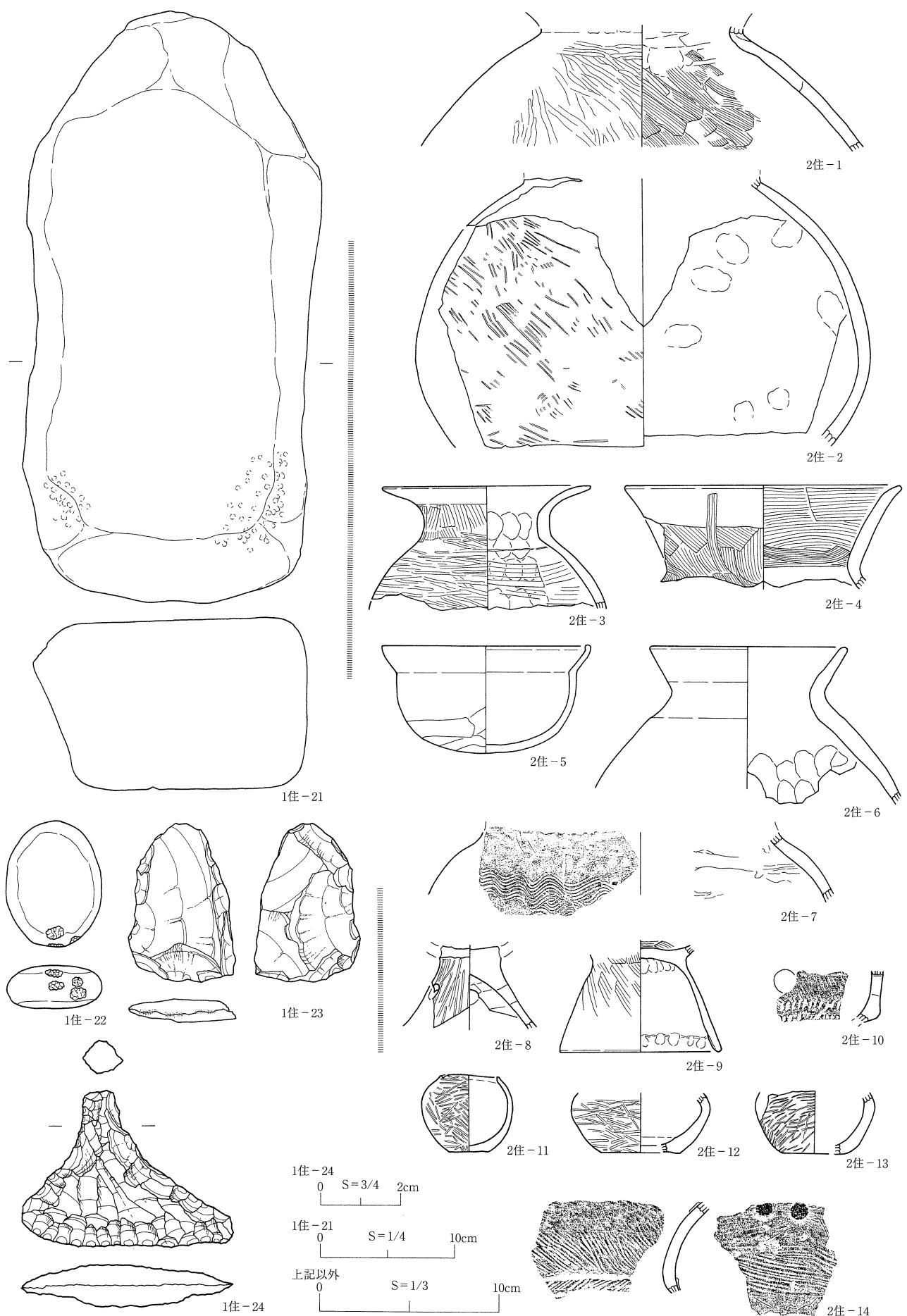
第72図 1・2・3号溝 平・断面図



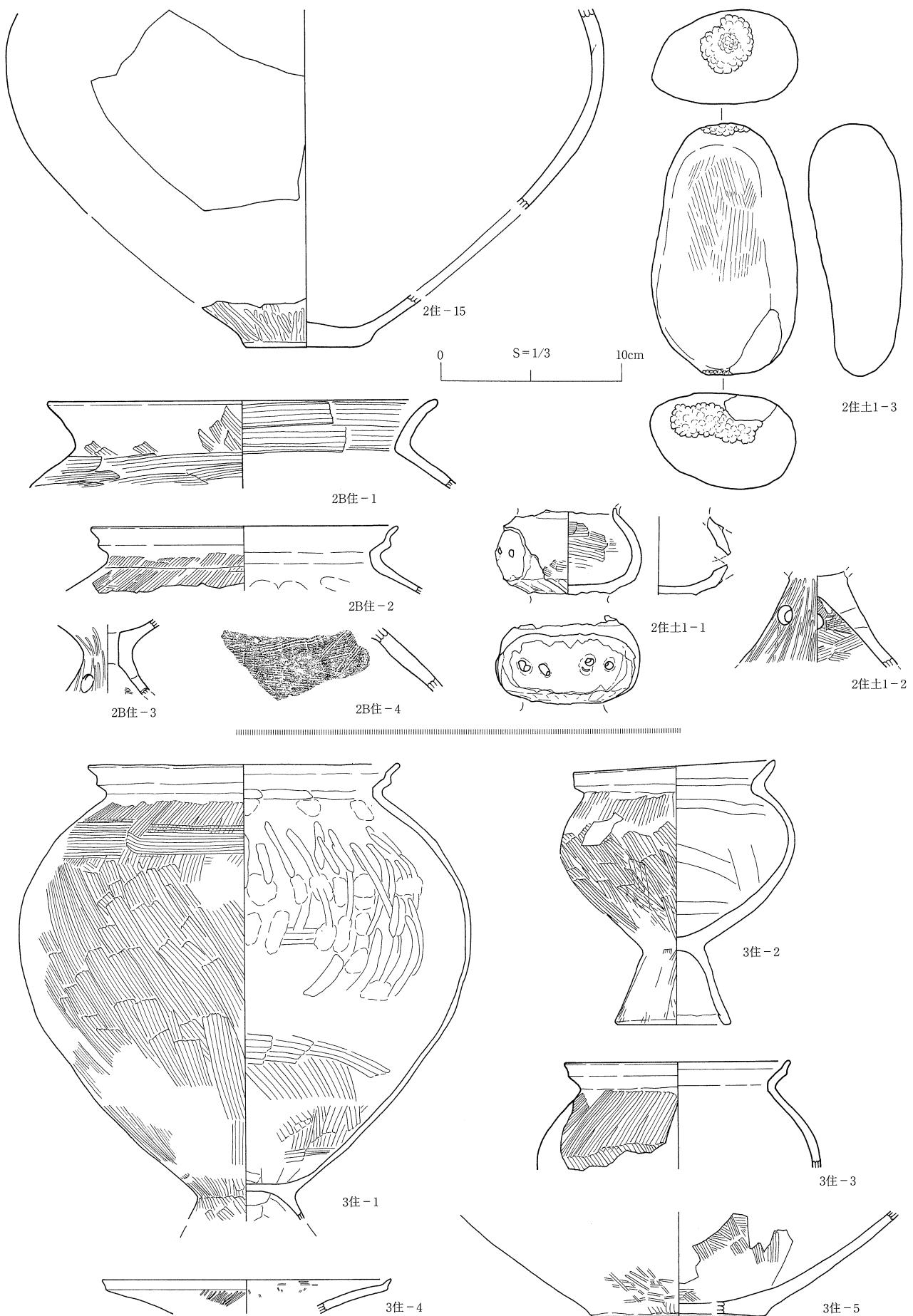
第73図 6・7・8・9号溝 平・断面図



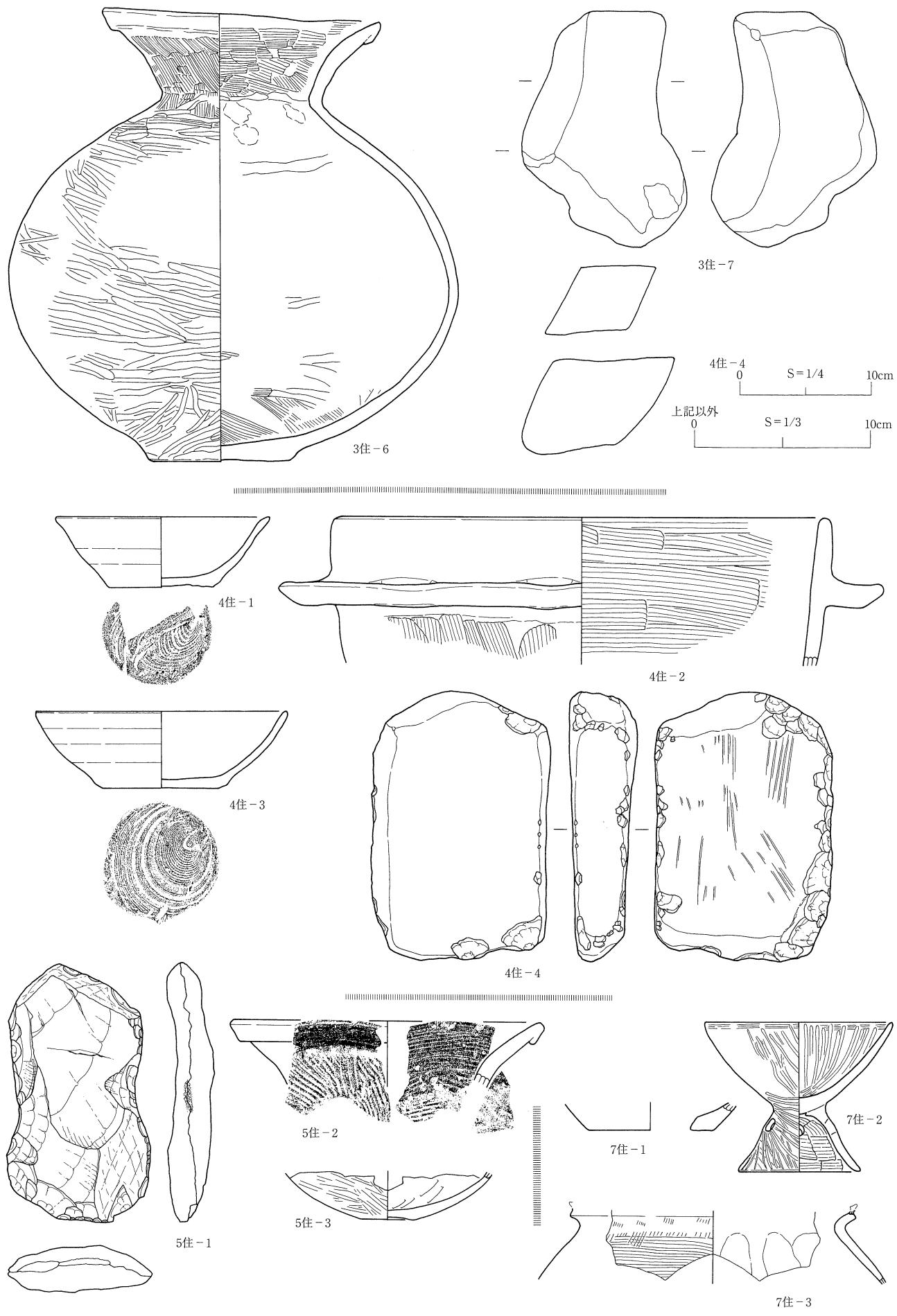
第74図 1号竪穴住居跡出土遺物



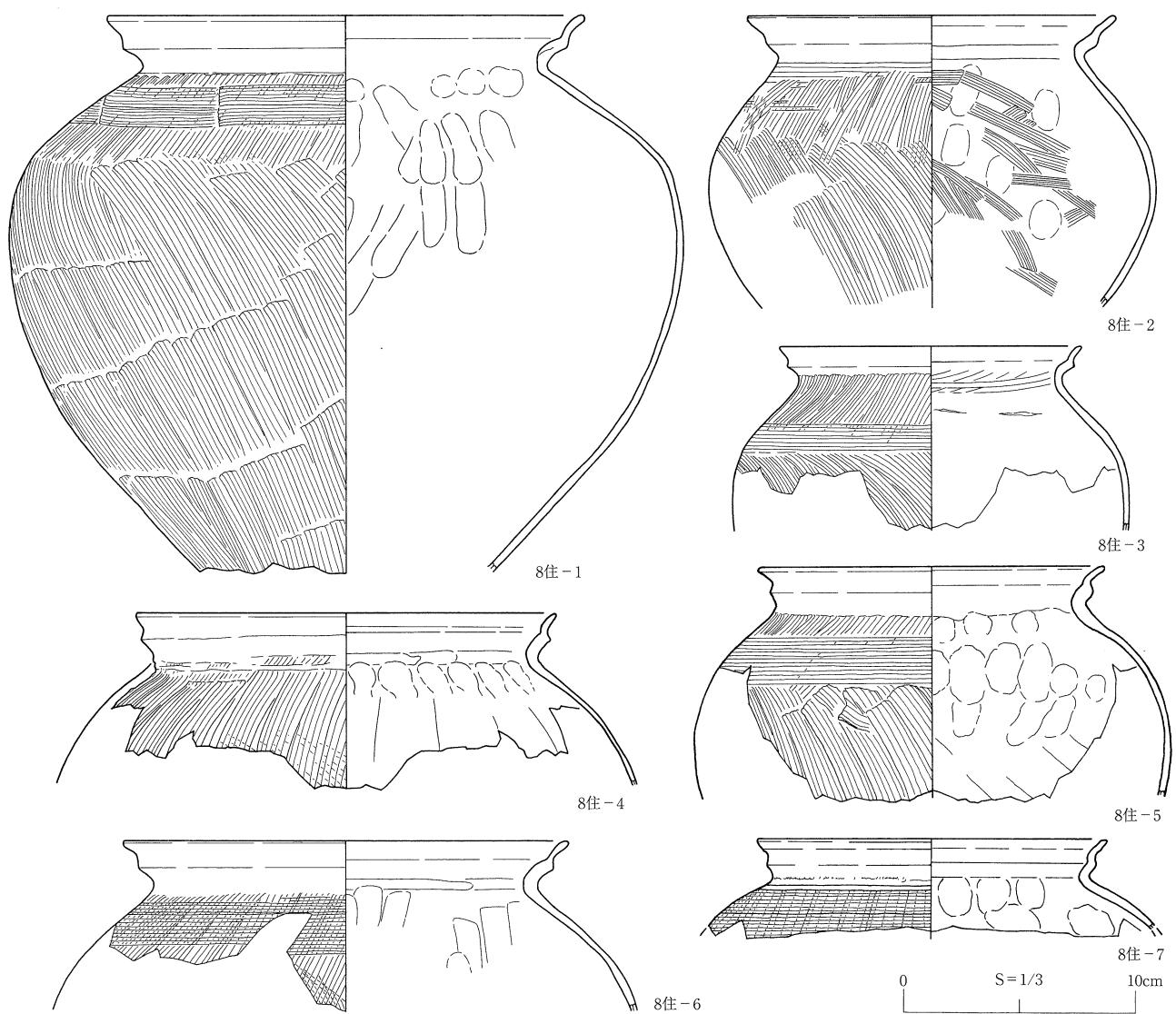
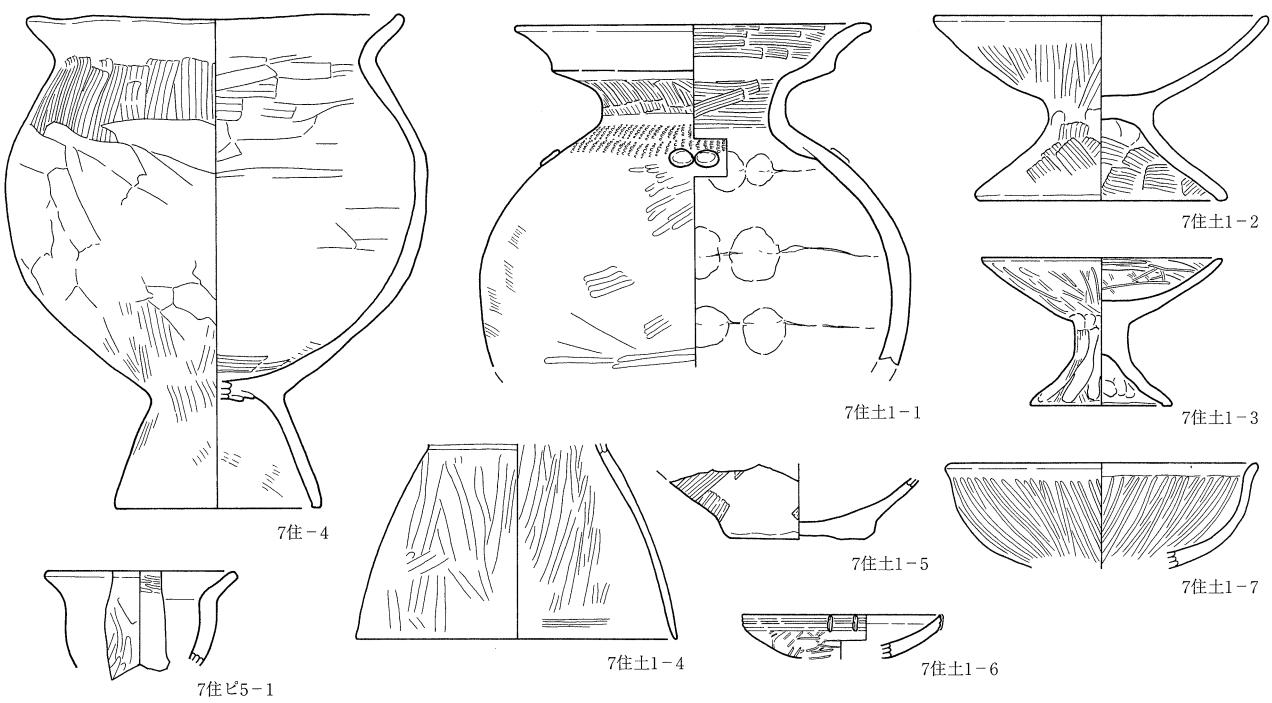
第75図 1・2号竪穴住居跡出土遺物



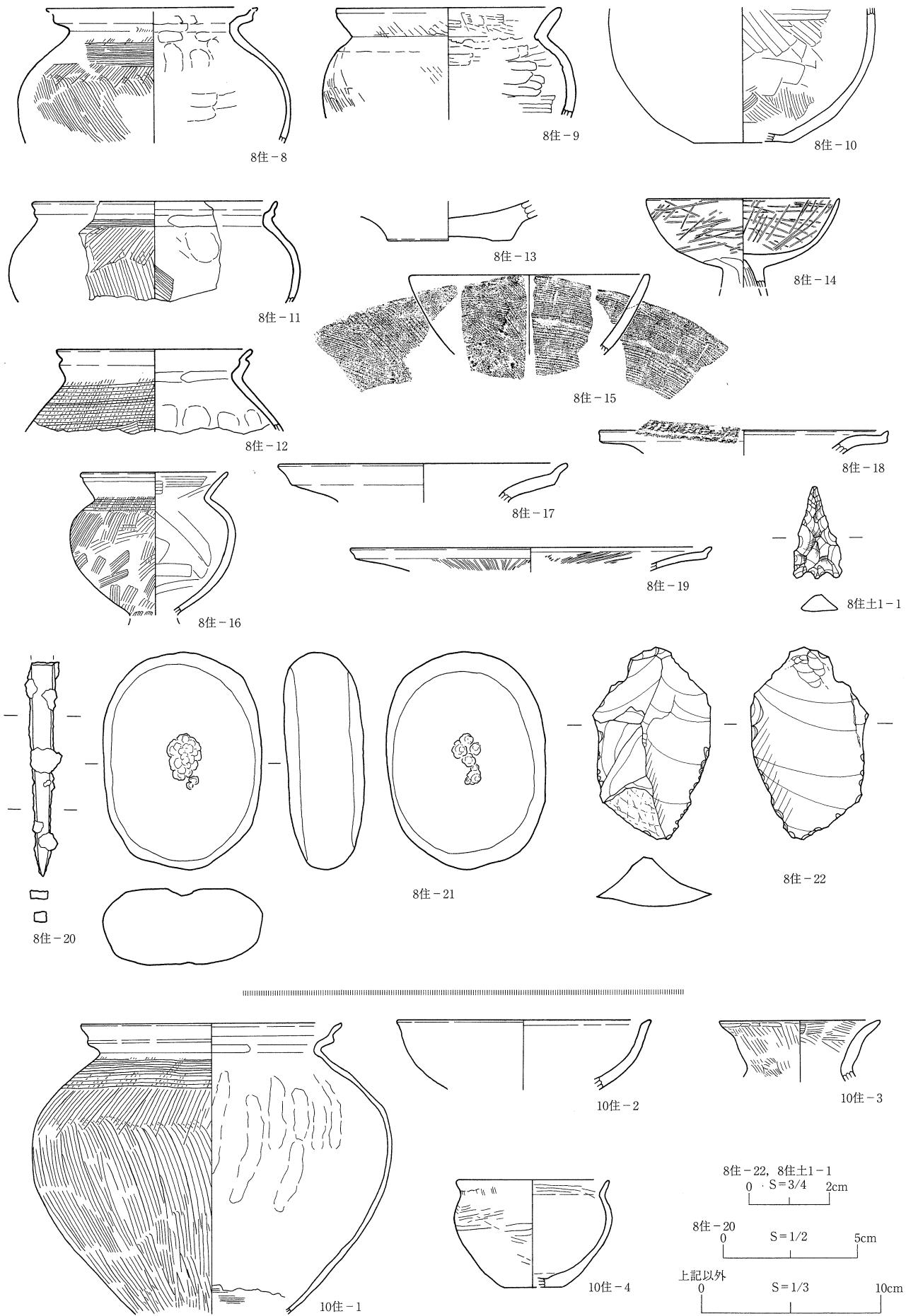
第76図 2・3号竪穴住居跡出土遺物



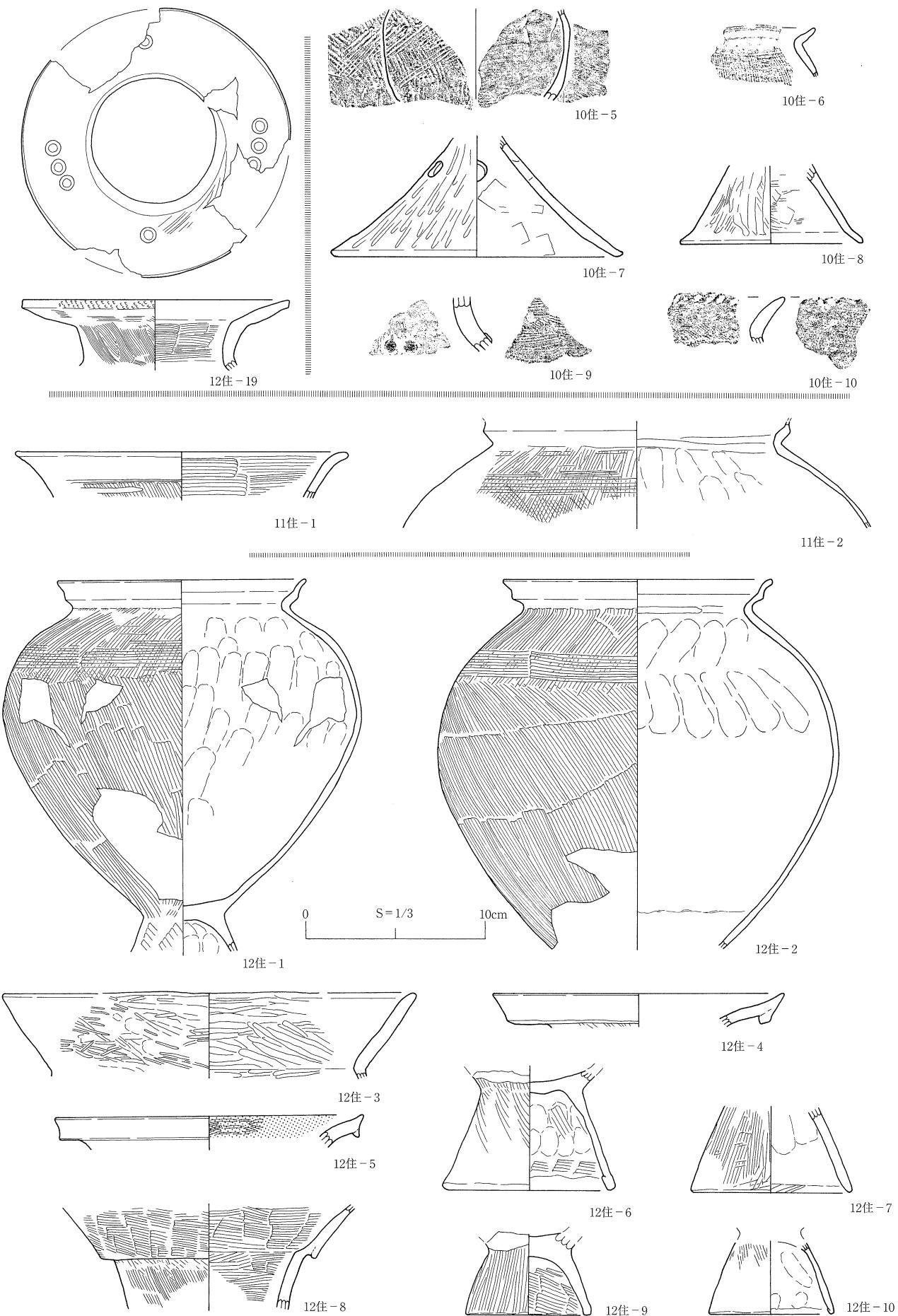
第77図 3・4・5・7号竪穴住居跡出土遺物



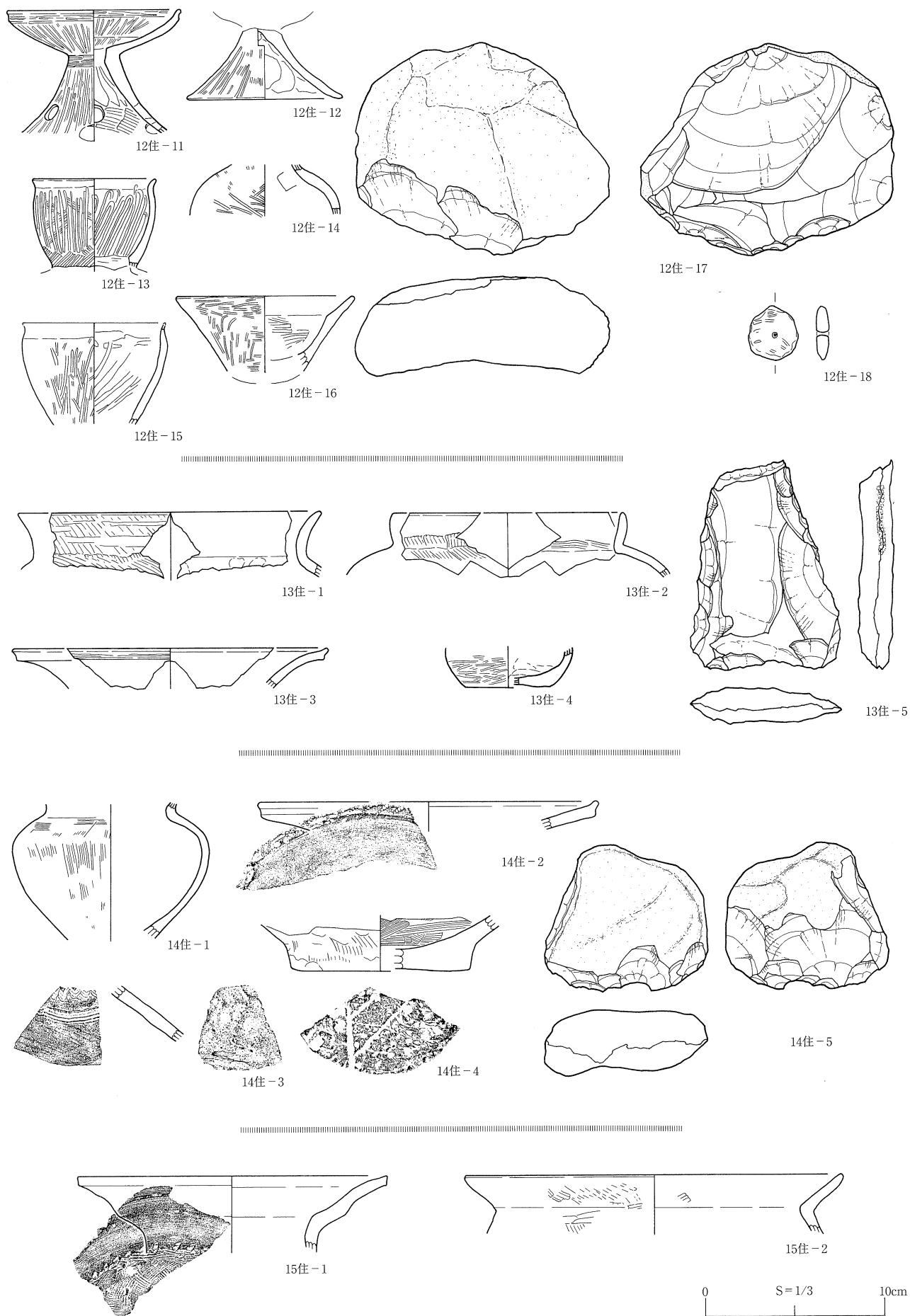
第78図 7・8号竪穴住居跡出土遺物



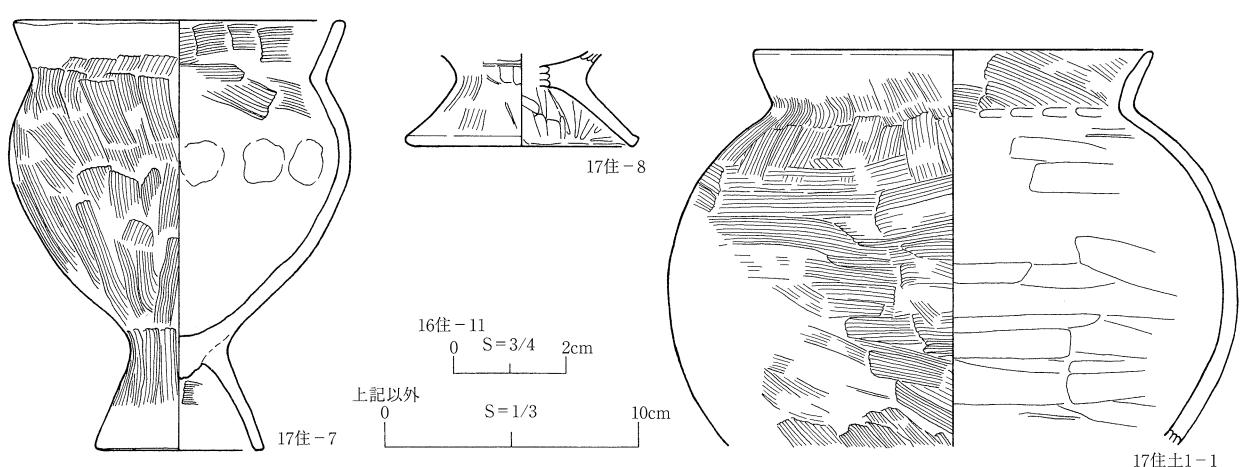
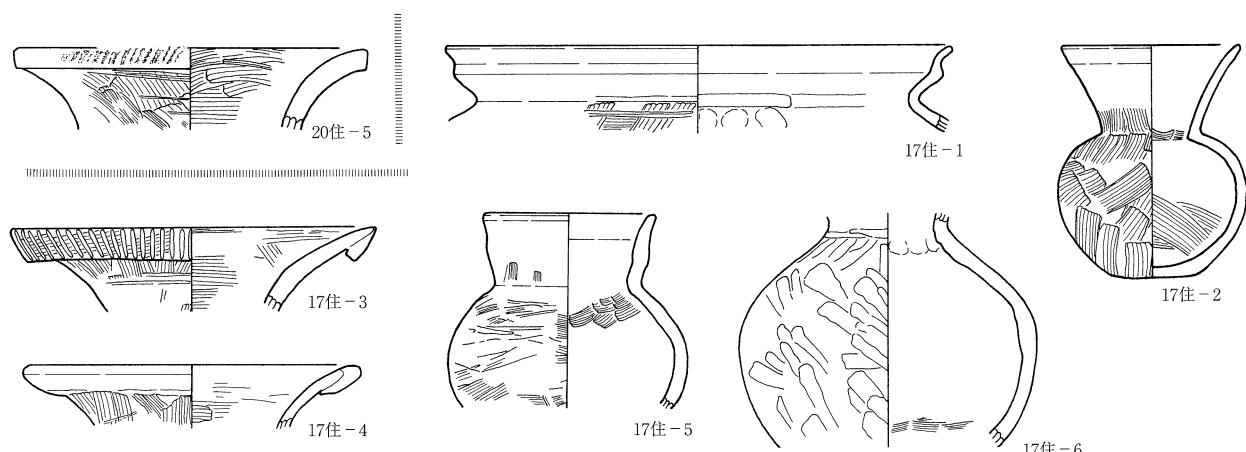
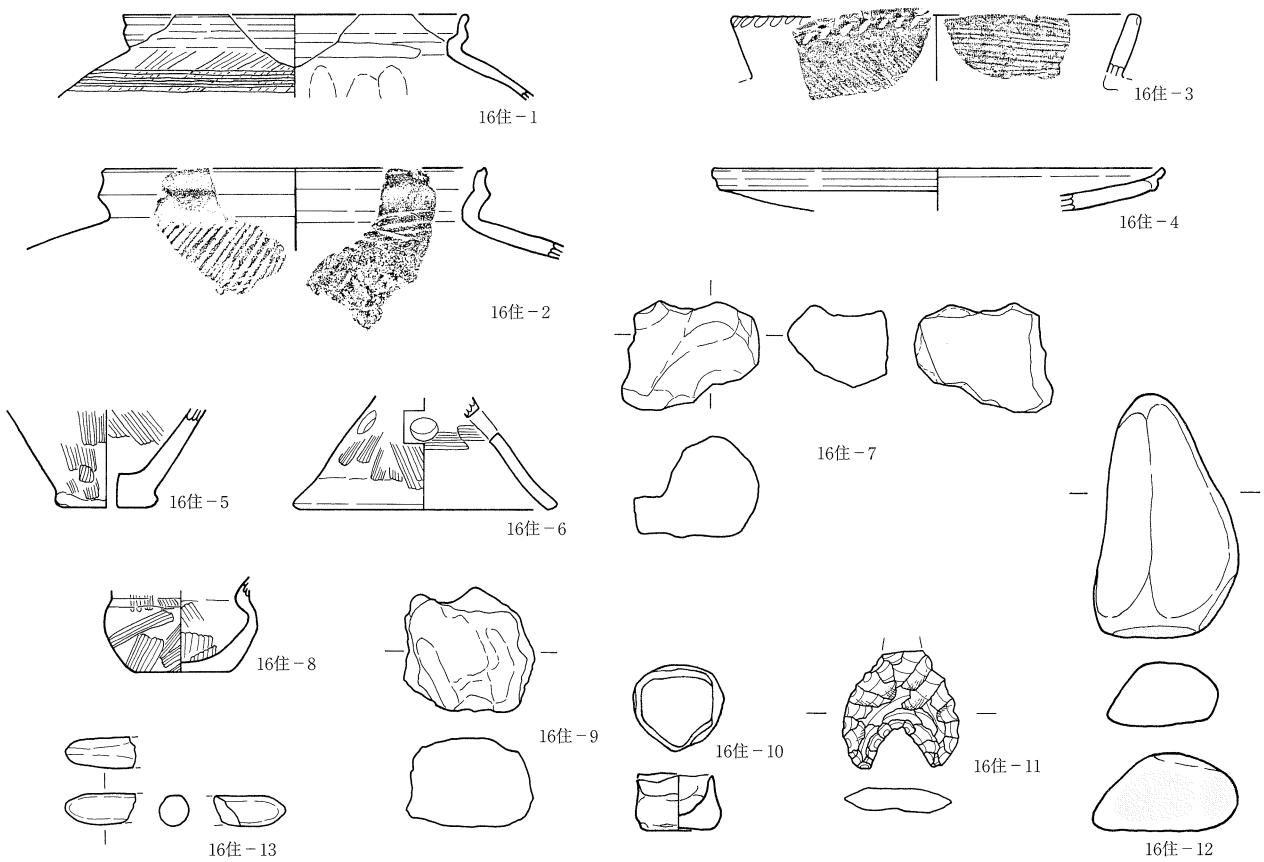
第79図 8・10号竪穴住居跡出土遺物



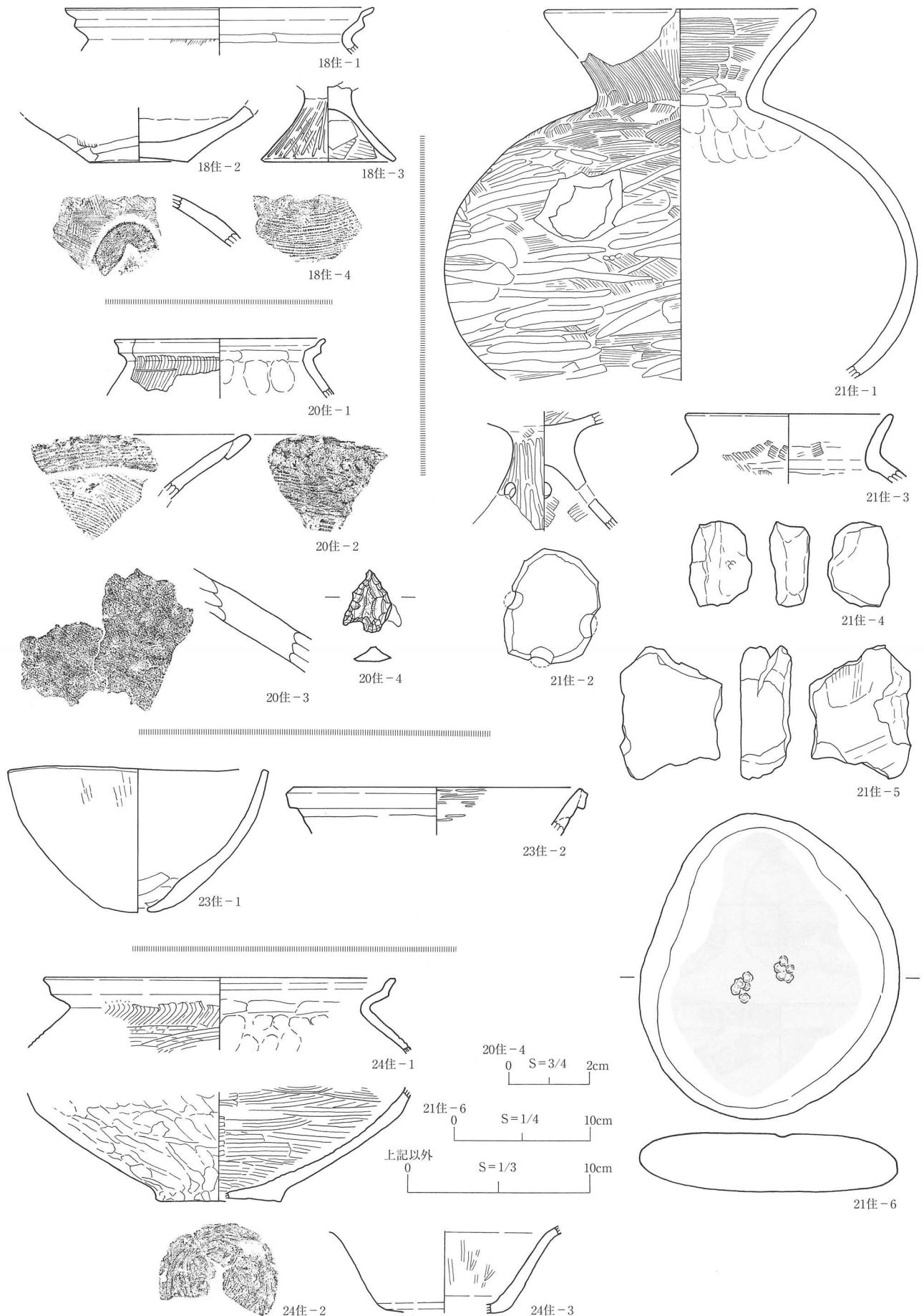
第80図 10・11・12号竪穴住居跡出土遺物



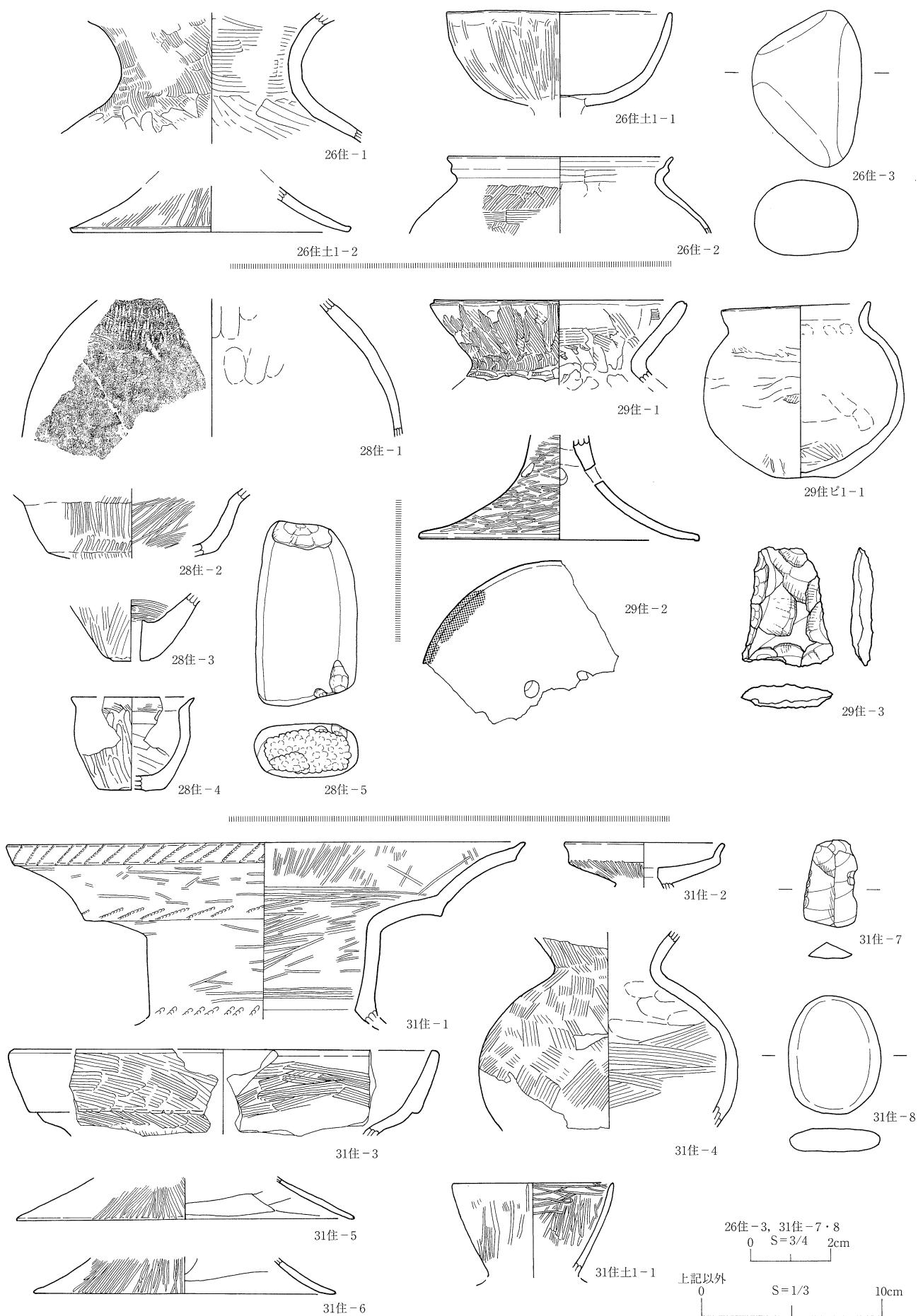
第81図 12・13・14・15号竖穴住居跡出土遺物



第82図 16・17・20号竪穴住居跡出土遺物

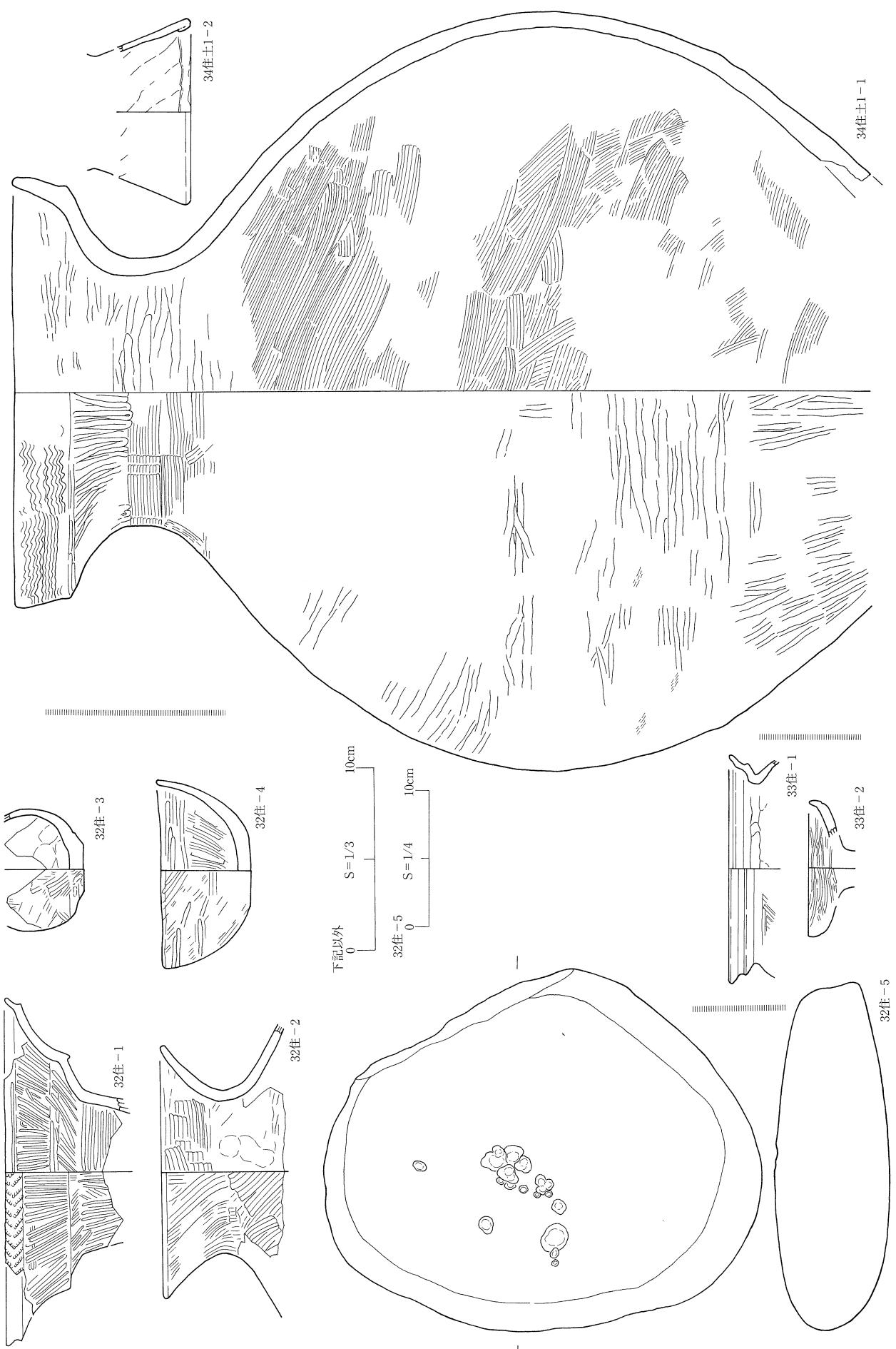


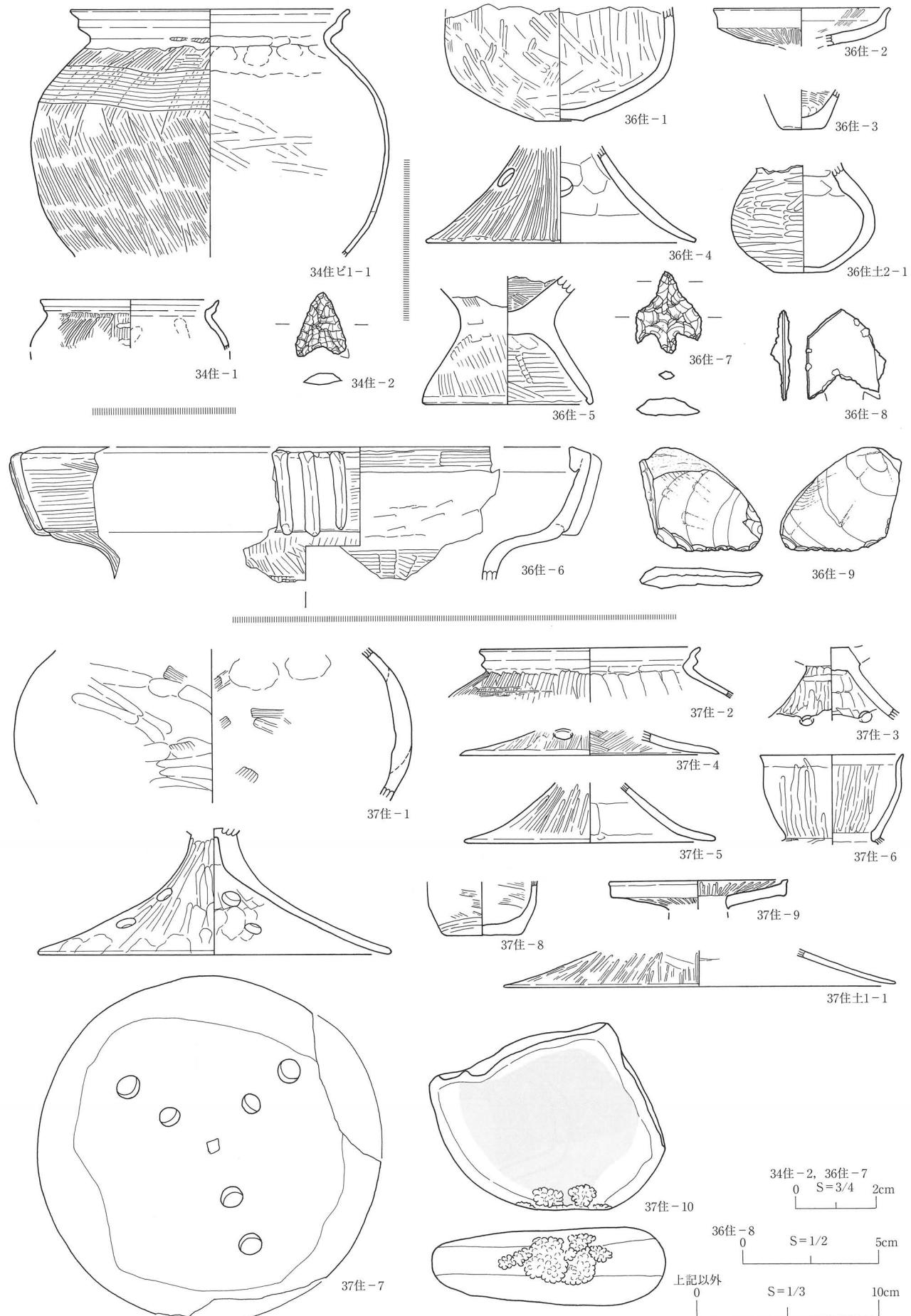
第83図 18・20・21・23・24号竪穴住居跡出土遺物



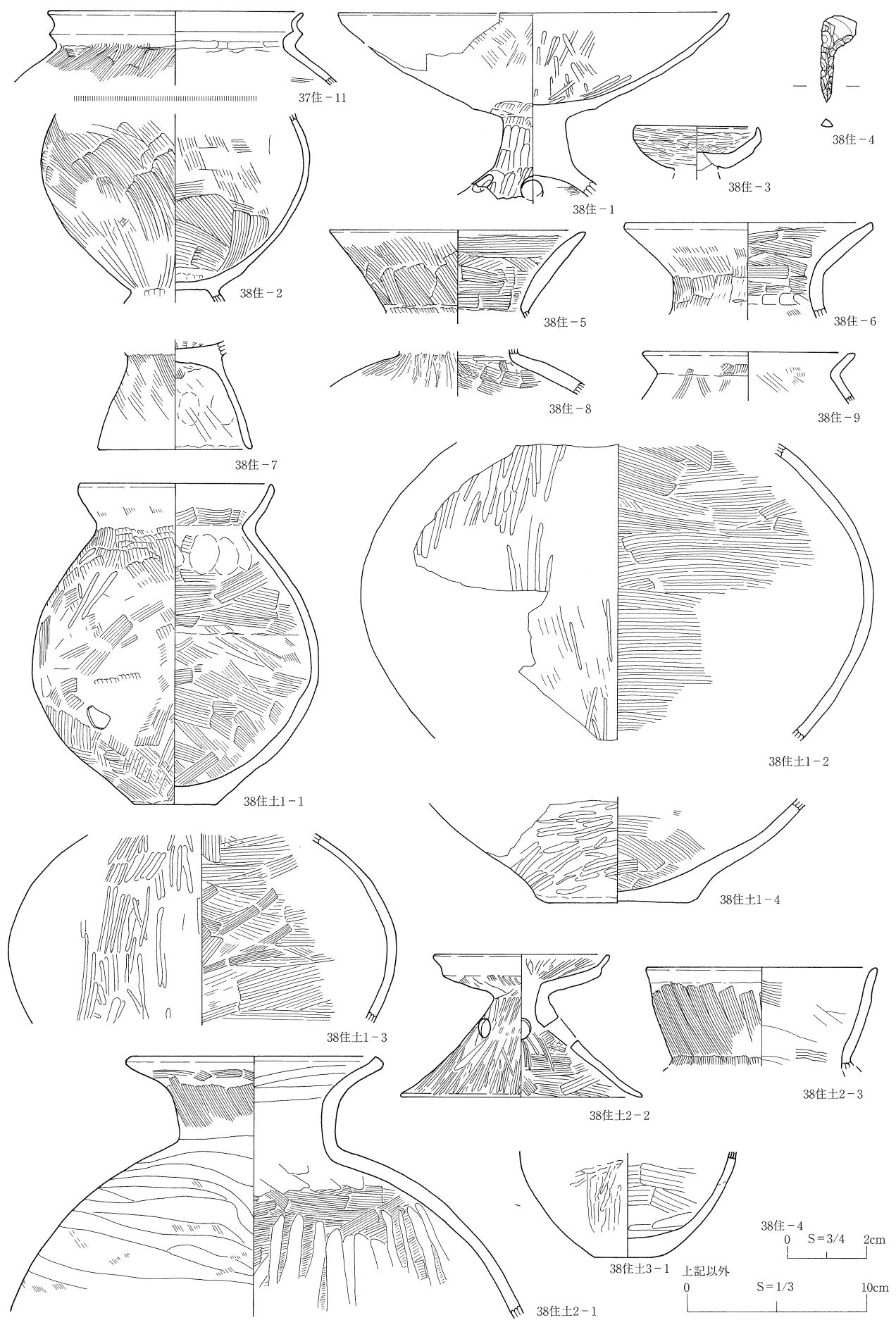
第84図 26・28・29・31号竪穴住居跡出土遺物

第85図 32・33・34号竪穴住居跡出土遺物

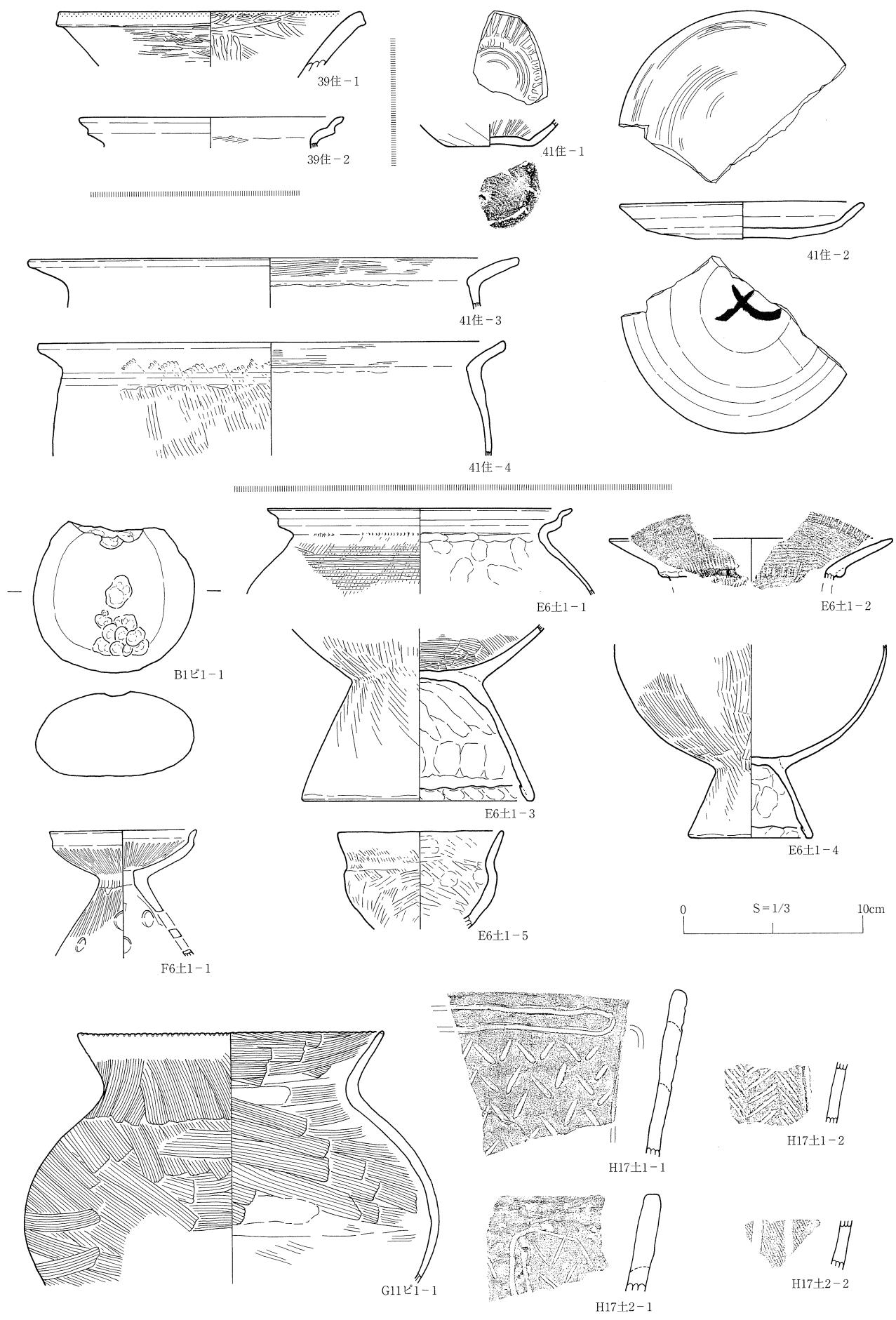




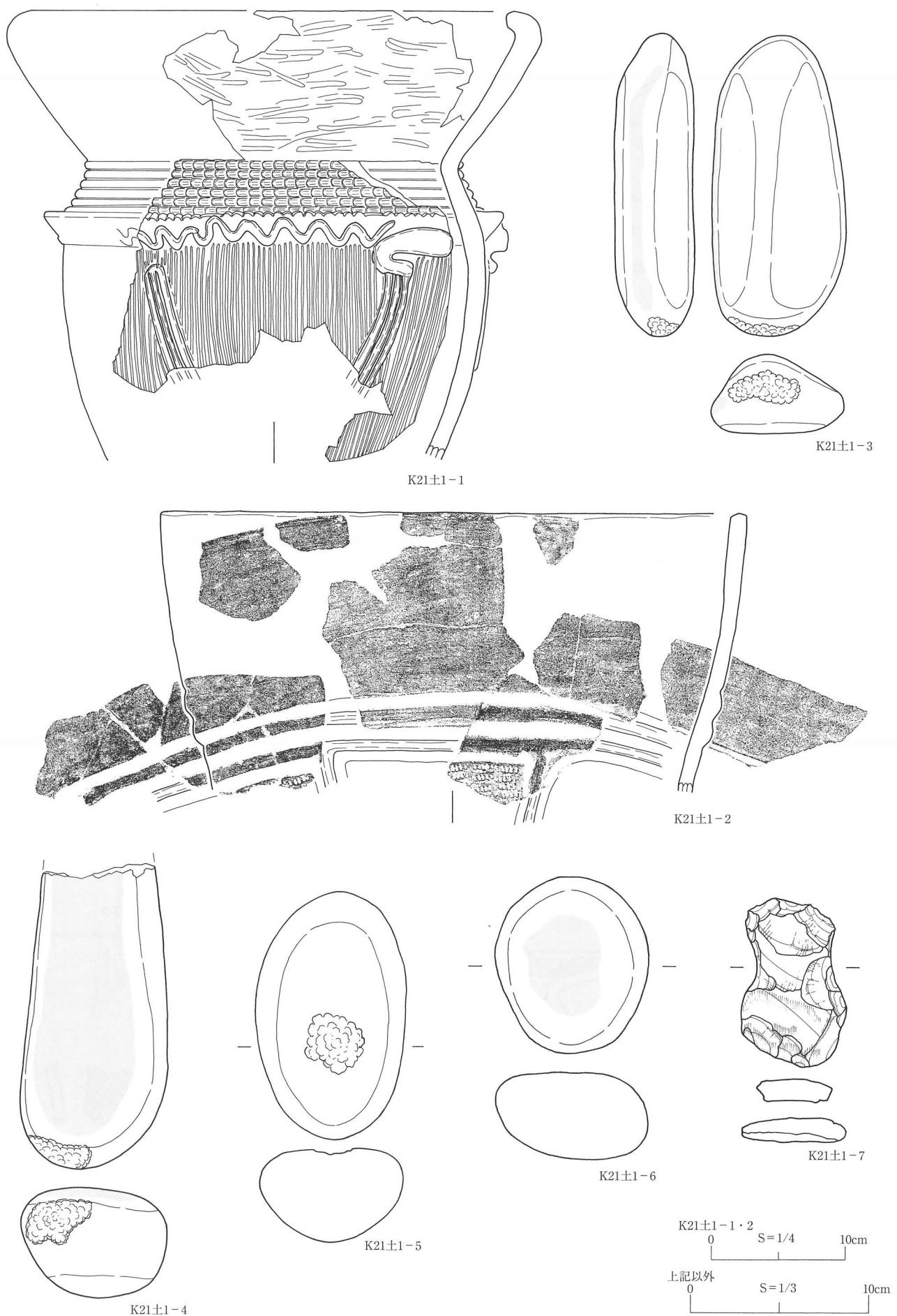
第86図 34・36・37号竪穴住居跡出土遺物



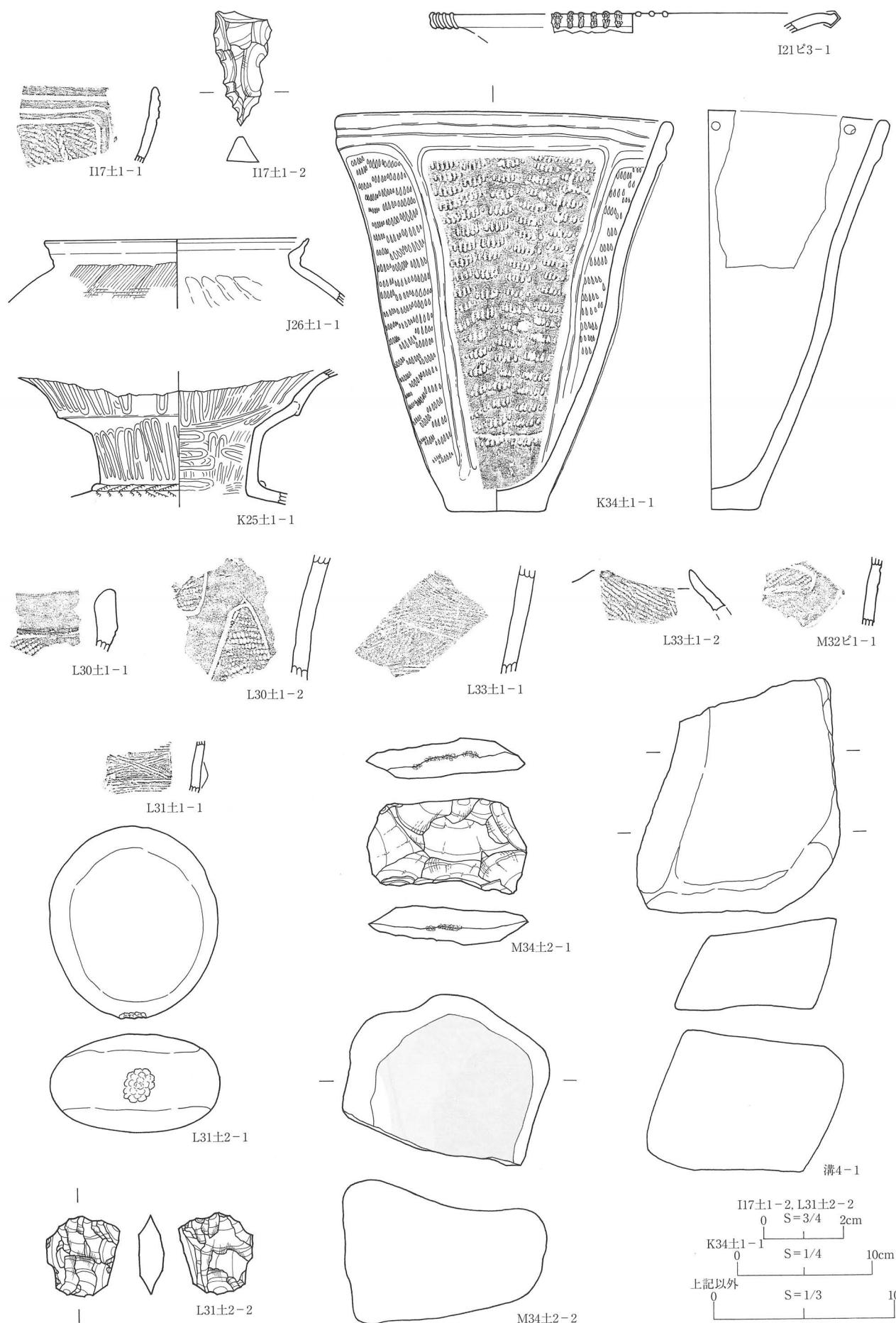
第87図 37・38号竪穴住居跡出土遺物



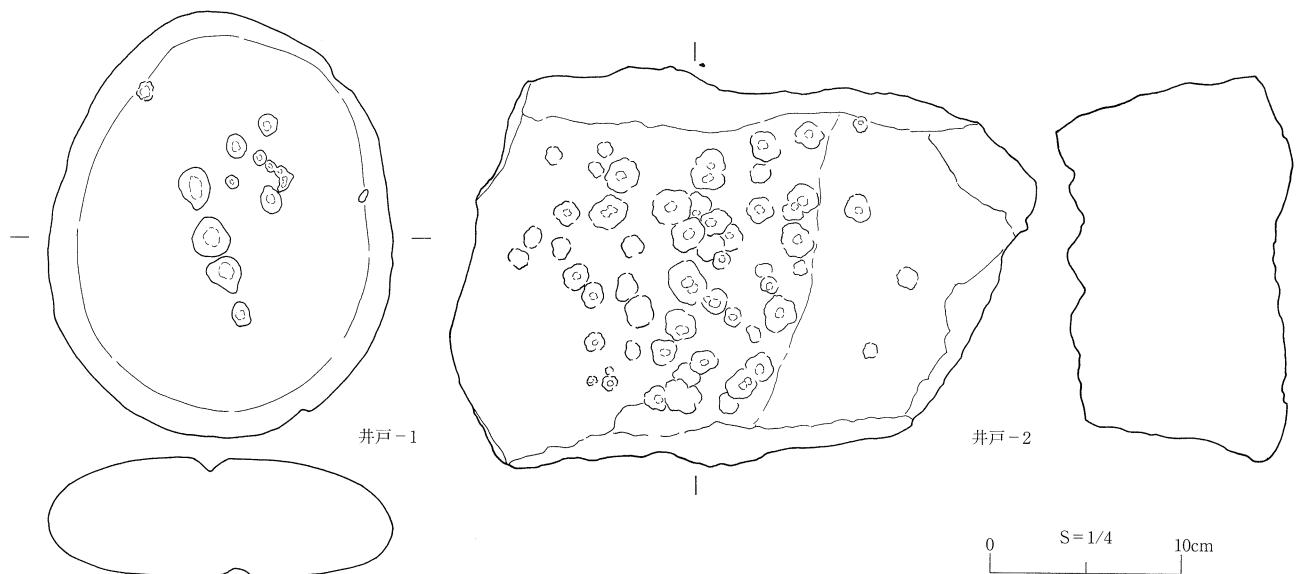
第88図 39・41号竪穴住居跡、グリット土坑・ピット出土遺物 (1)



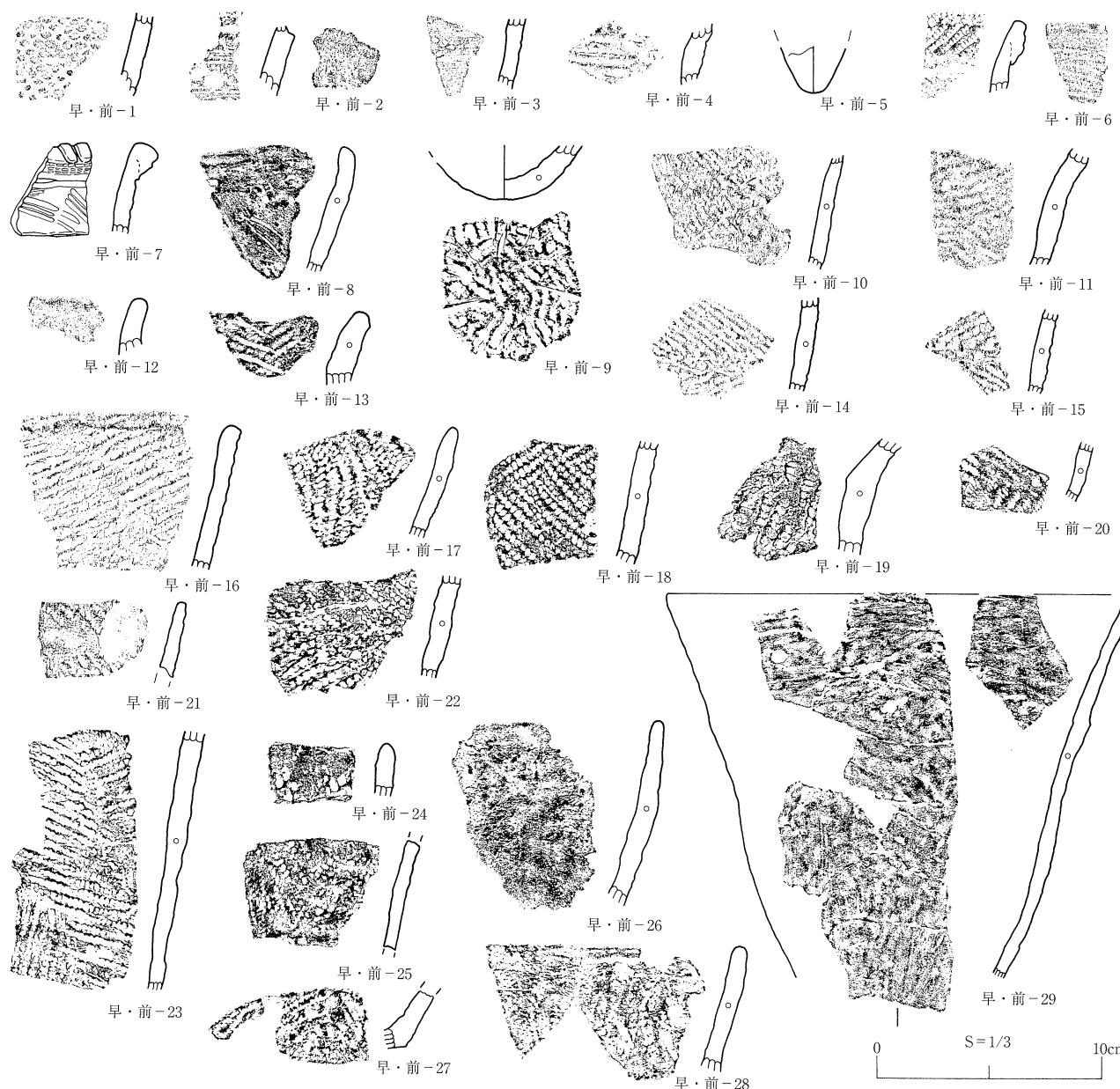
第89図 グリット土坑・ピット出土遺物 (2)



第90図 グリット土坑・ピット出土遺物 (3)



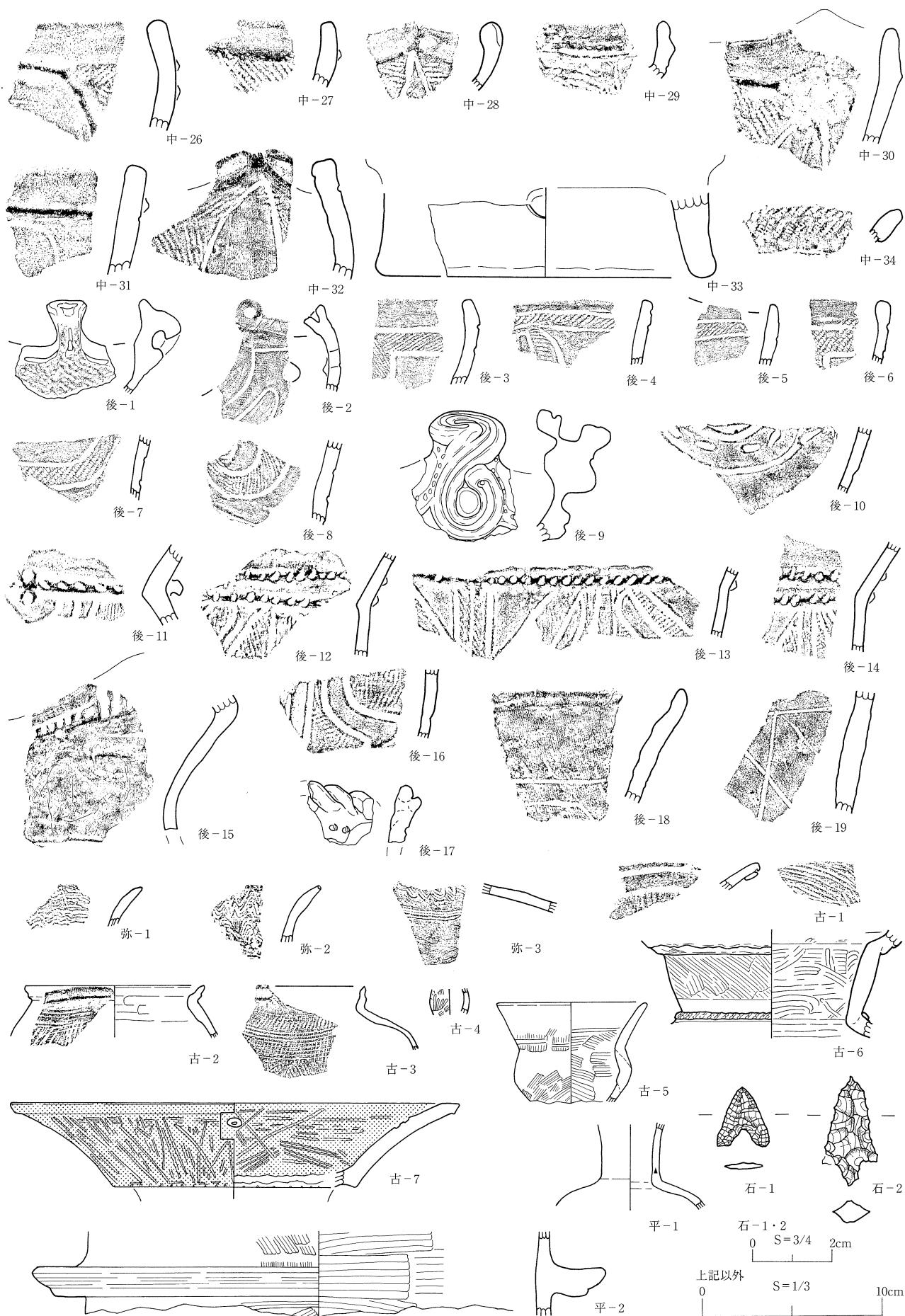
第91図 グリット土坑・ピット出土遺物 (4)



第92図 遺構外出土遺物 (1)



第93図 遺構外出土遺物 (2)



第94図 遺構外出土遺物 (3)

遺構覆土説明表

遺構名	図No.	セク名	層No.	色 調	内 容 物	備 考	遺構名	図No.	セク名	層No.	色 調	内 容 物	備 考
1 住 A	7	A	1	褐色	φ0.1~1mmLRやや多、φ0.1mmFR微	上層	2 住 土 1	9	C	しまり	1, 2, 4>3		
			2	褐色	1層より色調やや暗、φ0.5mmLR微	上層				きめ	3>1>4>2		
			3	褐色	φ0.1~1mmLRやや多、φ0.5mmFR・C微	中層～下層				1	暗褐色	φ1mmLR多、φ1~2mmLB少	
			4	褐色～明褐色	φ2mmLR・φ5~10mmLB少	中層				2	暗黒褐色	φ2~5mmLB多、遺物を多く含む	
			5	褐色～明褐色	4層に似るがLB少	中層				粘性	2>1		
			6a	褐色	φ5~10mmLBやや少、φ0.5mmLR少	下層～壁際				しまり	1>2		
			6b	褐色	6a層に似るがφ5~20mmLBやや少	下層～壁際				きめ	1>2		
			6c	褐色	6b層に似るがLB少	下層～壁際				1	暗褐色	φ0.1~0.5mmLR微	上層
			6d	褐色	6a層に似るがφ0.5mmLRやや多	下層～壁際				2	暗褐色	1層に似るがFR多	上層
			7	褐色～明褐色	φ1mmLR少	壁崩落土				3	暗褐色	φ0.5mmFR・C少	壁際
			8	暗黄褐色	φ1~2mmLRやや多	周溝壁材				4	暗褐色	1層に似るがしまりやや弱	壁崩落土
			9	暗褐褐色		掘り方①				5	褐色～明褐色	φ5~10mmLB多、φ0.5mmC少	床下
			10	明褐色～橙色	φ1~2mmLR・φ5~20mmLB多	掘り方②				6	褐色	5層に似るがしまりやや弱	掘り方
			11	褐色	φ1~2mmLR・φ5mmLBやや多	掘り方③				7	褐色	6層に似るがφ20~50mm灰褐色土ブロックをやや多	掘り方
			12	暗黄褐色	-	柱穴				8	暗褐色	6層に似るがφ0.5~1mmLRやや少、φ0.5mmLB少	掘り方
			13	褐色	φ1~2mmLRやや少	土坑				9	暗褐色	6層に似るがφ1mmLR少	周溝
			14	褐色	13層に似るが色調やや明	土坑				10	暗褐色	φ0.5mmLR微	壁崩落
			粘性	9, 10>6a~6b, 13, 14>8>3, 11, 12>7>1, 2, 4, 5						しまり	7>5, 6, 8, 9, 10>3>1>2		
			きめ	9~11>6>7, 8, 12~14>1~5						きめ	5, 8>6, 7>3, 4, 9, 10>1, 2		
1 住 土 1	7	D	1	暗褐色	φ3~10mmLBやや少、φ1mmLR少		3 住 炉	11	A	きめ	2>1, 6>3, 4, 7, 8, 9, 10>5		
			2	暗褐色	φ1mmやや少、φ2~3mmLB少					1	暗褐色	φ1mmCやや少、φ1mmFR少	
			3a	暗黄褐色	φ10mmLB少					2	暗褐色	φ1~2mmFRやや多、φ1mmC少	
			3b	暗黄褐色	3a層よりやや暗、φ5mmLBやや少					3	暗赤褐色	φ0.5~1mmFR多	
			4	暗褐色	φ2mmLB少					粘性	1, 2>3		
			5	暗褐色	φ1mmLRやや少					しまり	2>1, 3		
			6	暗黄褐色	φ2~5mmLB少					きめ	3>1, 2		
			7	暗褐色	φ1mmLR少					1a	黒褐色	φ0.1~1mmLR少	上層
			粘性	2, 3a, 3b, 6>5, 7>1, 4						1b	黒褐色	1a層に似るが色調やや明	上層
			しまり	1>7>3b>2, 3a, 5, 6>4						2	暗褐色	φ0.2mmFR・φ0.1~1mmLR・φ1~5mmC少	下層
			きめ	4>1, 2, 3a, 3b, 5, 6, 7						3	暗褐色	φ0.1~1mmLR少	壁際
1 住 土 2	7	C	1	暗褐色	φ1~3mmLB少		4 住 A	11	A	4	明褐色	φ2~5mmLBやや少	床面直上
			2	暗褐色	φ1~2mmLRやや少					5	明褐色	4層に似るがしまりが極強	棚構築土
			3	暗黄褐色	φ2~5mmLB・φ1mmLR多					6	明褐色	5層に似るがしまりやや弱	棚構築土
			4	暗黒褐色	φ2mmLR少					7	褐色	III層に若干混合	周溝
			粘性	3>4>1, 2						8	暗褐色	φ0.1~1mmLR少	壁崩落土
1 住 ビ 1	7	E	1a	暗褐色	φ1~3mmLRやや少		4 住 H	12	H	9	黒褐色	φ0.5mmFR微	壁崩落土
			1b	暗褐色	φ3~5mmLBやや少					粘性	5, 6, 7, >3, 4, 8, 9>1, 1b, 2		
			2a	暗黒褐色	φ5mmLB少、φ1mmCやや多					しまり	5>7>4, 6>3>1a, 1b, 2, 8, 9		
2 B 住	9	A	2b	暗黒褐色	2a層より色調やや明					きめ	8, 9>7>1a, 1b, 2, 3, 4, 5, 6		
			3a	暗黄褐色	φ5~10mmLBやや多					1	暗褐色	φ5mmLBやや多、φ1mmLRやや少	
			3b	暗黃褐色	3a層に似るが色調やや暗					2	暗褐色	1層よりやや暗、φ1mmLRやや多、φ5mmLB・φ1mmC少	
			粘性	3a, 3b>1a, 1b>2a, 2b						3	暗黃褐色	φ5mm白色粘土やや多、φ1mmLR少	
			しまり	1a, 1b, 3a, 3b>2b>2a						4	暗褐色		
2 住 A	9	A	きめ	3b>3a>2a, 2b>1a, 1b						5	暗褐色	2層に似る	
			4a	暗褐色	3層に似るがややしまり弱	上層				6	暗黃褐色		
			4b	暗褐色	4a層に似るが黑色土を含まない	下層				7	粘性	3>4, 6>2, 5>1	
			4c	暗褐色	4a層に似るが色調やや明、φ5~10mmLB少	下層				8	しまり	3>4, 6>1, 2, 5	
			4d	暗褐色	φ1mmLR多、φ1mmC・FR微	下層				きめ	1, 2, 5>3>4, 6		
			4e	暗褐色	φ1mm極多、φ5~10mmLBやや少、φ1mmC・FR少	下層				1	暗褐色	φ0.5~1mmLR少	上層
			5	暗黒褐色	φ1~2mmLR少	床面直上				2	暗褐色	1層に似るがしまりやや強	下層
			6a	暗褐色	φ0.5~1mmLR・Cやや多	壁際				3	暗褐色	2層に似るがしまり極強	掘り方
			6b	暗褐色	6a層よりしまりやや強、φ0.5~1mmLR・Cやや多	壁際				4	暗褐色	φ0.5mmFR・FRやや少	掘り方
			7a	暗黒褐色	黒色腐蝕土が混ざる	壁体押さえ				5	褐色	3層に似るがしまりやや弱	掘り方
			7b	暗褐色	III層とIV層の混合	壁体押さえ				6	明褐色	φ0.5mmC微	掘り方
			8a	明黄褐色	III層を少なく含む、φ10~20mmLBやや多	掘り方				7	粘性	6>3>4, 5>2>1	
			8b	暗黄褐色	φ1~2mmLRやや多	掘り方				8	しまり	3>4, 5, 6>2>1	
			8c	明黄褐色	8a層に似るがLB多	掘り方				きめ	1>6>2, 4, 5>3		
			9	赤褐色	IV層・被熱	炉				1	にぶい褐色～明褐色	φ0.5~2mmLRやや多	上層
			粘性	8a, 8b, 8c>6a, 6b>2, 5>1, 3, 4a~4e, 7a, 7b>9						2	にぶい褐色	1層に似るがLRやや多	上層
			しまり	8a, 8c, 9, 3>2, 5>6a, 6b, 7b, 4a~4e, 1>7a						3	にぶい褐色	1層に似るが色調やや暗、しまりやや強	上層
			きめ	8c>8a, 8b, 7b>3>4a>1, 4b~4e, 6a, 6b, 7a>2, 5						4	暗褐色～褐色	3層に似るがφ2~3mmC少	上層
2 住 炭集	9	D	1	赤褐色	焼土ブロック					5	褐色	φ2~5mmLB少、φ1mmC・FR微	下層
			2	暗褐色	φ1~2mmFR・Cやや少					6	暗黒褐色	φ2mmLB・φ1mmC微	床面直上
			3	暗黒褐色	炭化物集中					7	暗褐色～明褐色	φ2~3mmLB少、しまり極弱	周溝
			4	暗褐色	φ1mmLR・φ1mmC少					8	明褐色～橙色	III層とIV層の混合	掘り方
2 住 炭集	9	D	粘性	4>2>3>1						粘性	8>4, 5>1~3>6, 7		
			しまり	8>6>1~5>7						きめ	7>1~5>6, 8		
			きめ	7>1~5>6, 8						1	褐色	φ0.1~0.5mmLRやや少	別住居か
			2	褐色	φ0.1~0.5mmLRやや多、φ1mmC・FRやや少					2	褐色	φ0.1~0.5mmLRやや多、φ1mmC・FRやや少	別住居か

造構名	図No	セク名	層No.	色調	内 容 物	備 考
7住 14 A	A	A	3a	褐色	ø 1~3mmLBやや少、ø 1mmLR少	上層
			3b	褐色	3a層より色調やや暗、ø 1~3mmLBやや少、ø 1mmLR・C少、しまりやや強	上層
			3c	褐色	3a層より色調やや明	上層
			4	暗褐色～褐色	ø 5~10mmLB・ø 1mmC少	中層
			5a	暗褐色	ø 5~10mmLB少	下層
			5b	暗褐色～褐色	ø 5~10mmLBやや少	下層
			5c	暗褐色	ø 2~5mmLB微、しまり極弱	下層
			5d	暗褐色～褐色	ø 2~5mmLB少	下層
			6	暗褐色	ø 2~5mmLB少	壁際堆積
			7	黒褐色～暗褐色	ø 1~2mmLB少、ø 0.5~1mmFR・C微	壁際堆積
			8a	黒褐色～暗褐色	ø 2~5mmLB微、しまり極弱	周溝壁材
			8b	黒褐色～暗褐色	ø 2~5mmLB微、しまり極弱	周溝壁材
			9a	褐色	ø 2~10mmLB多	掘り方周溝部
			9b	褐色	9a層に似るがLB少	掘り方周溝部
			10	にぶい褐色～明褐色	Ⅲ層土を少なく含む	貼床
			11	黒褐色～暗褐色	ø 2~3mmLR・ø 1~2mmC・FR少	床面直上
			12	褐色～明褐色	-	貼床
			13	暗黄褐色	IV層よりきめ粗い	別住居か
8住 16 A	A	E	粘性	9a, 9b, 10, 12, 13>6, 7>11>4, 5a~5d>8a, 8b>1, 2, 3a~3		
			しまり	9a, 10, 11>9b, 12, 13>2, 6, 7>1, 4, 5a~5d>3a~3c>8a, 8b		
			きめ	8a, 8b>3a~3c, 9a, 9b, 12, 13>1, 2, 4, 5a~5d>6, 7, 10, 11		
			1a	暗褐色	ø 2~5mmLB少	上層
			1b	暗褐色	ø 2~10mmLBやや多	上層
			2a	暗褐色	ø 5~10mmLBやや多、黒色腐蝕土少 混合	中層
			2b	暗褐色	2a層に似るがLBを含まない	中層
			2c	暗褐色	ø 3~5mmLB少、ø 1mmC少	中層
			3	暗褐色	黒色腐蝕土主体、ø 2~3mmLR少	壁体腐蝕
			4a	暗褐色	黑色腐蝕土主体、ø 2mmLRやや少	下層
			4b	暗褐色	4a層に似るが色調やや暗、ø 2~3mmLR少	壁際堆積
			4c	暗褐色	4a層に似るが色調やや明	壁崩壊土
			5	暗黄褐色	LB多、ø 1~2mmC微	ベッド状遺構の一部
			6	暗黄褐色	ø 5~10mmLB多、ø 2~3mmLRやや少、 ø 1mmC微	床面①(床面直上に厚さ1mm程度の黒色土が堆積)
			7a	暗黄褐色	黑色腐蝕土主体	掘り方
			7b	暗黄褐色	ø 5~10mmLB多	床面②(床面直上に厚さ1mm程度の黒色土が堆積)
			8a	明黄褐色	ø 5~10mmLB極多	掘り方
			8b	明黄褐色	黑色腐蝕土やや少混合	掘り方
			8c	明黄褐色	8b層に似るが色調やや明、黒色土少	掘り方
			8d	明黄褐色	ø 5~40mmLB多、黒色土少	掘り方
			9	暗赤褐色	火床面	
9住 19 A	A	A	粘性	5~7b>8, 9>4>1, 2>3		
			しまり	5~7b>8, 9>4>1, 2>3		
			きめ	8, 9>4c>5~7b>1~4b		
			1	黄褐色	IV層主体でⅢ層を少なく含む	貼床
			2	暗黄褐色	Ⅲ層+IV層混合土	掘り方
11住 16 A	A	A	3	黄褐色	IV層主体でⅢ層を少なく含む	掘り方
			4	明黄褐色	IV層主体でしまりやや弱、きめ粗い	掘り方
			粘性	2~4>1		
			しまり	1>2~4		
			きめ	2~4>1		
10住 21 A	A	A	1a	暗褐色	II・Ⅲ層混合	上層
			1b	暗褐色	ø 1~2mmLR少	上層
			2	暗褐色	黑色腐蝕土やや多	下層
			3a	暗褐色	黑色硬化ブロックやや多、ø 5mmLB少	床面
			3b	暗黄褐色	ø 2~3mmLR少	掘り方
14住 25 A	A	A	粘性	3a>3b>1, 2		
			しまり	3a>3b>1, 2		
			きめ	3b>1, 2>3a		
			1	暗褐色	ø 50~70mmLBやや少	下層
			2	暗褐色	Cやや多、ø 50~70mmLB少、黒色土 微、FR極微	下層
16住 26 A	A	A	3	暗黄褐色	ø 10~30mmLB多	貼床
			4	暗褐色	C・FRやや少、ø 10~30mmLB微	炉
			粘性	3>4>1, 2		
			しまり	3, 4>1, 2		
			きめ	3, 4>1>2		
			5	暗褐色	C多、ø 10mmLBやや多、ø 10mmLB・ FR微	上層
12住 21 A	A	A	6	暗褐色	C多、ø 10mmLB少、ø 10mmLB・FR微	上層
			7a	暗褐色	C多、ø 10mmLB少	下層
			7b	暗褐色	7a層に似るがLRやや少	下層
			8a	暗黄褐色	ø 5~50mmLB多、C微	
			8b	暗褐色	LR・FR少、C微	炉の掘り方
			9	暗赤褐色	FR多	炉内
			10	暗褐色	ø 30mmLB微	12住ピット
			11	暗褐色	ø 30mmLB微	掘り方
			12	暗褐色	ø 30mmLB微、LR極微	掘り方
			13	暗褐色	LRやや少	ピット
13住 23 A	A	A	14	暗褐色	LR微、しまりなし	周溝
			15	暗褐色	FR・C微	下層
			16	暗褐色	7b層に似るがLB少、LRやや少	壁際堆積
			17	暗黄褐色	LR+LB	掘り方
			18	暗褐色	ø 5~10mmLB少、きめ粗い	掘り方
			19	暗褐色	17層に似るがやわらかく、Ⅲ層やや 多、LBやや少	掘り方
			20	暗褐色	10層に似るがやや固く、LBやや多	掘り方
			21	暗褐色	LBやや少、きめ粗い	掘り方
			22	暗褐色	LBやや多	掘り方
			23	暗褐色	C多、FR微	炉直上層
14住 25 A	A	A	24	暗褐色	6層に似るがC多、LR・LB微	炉掘り方
			粘性	8a>9>17>22>19>16, 21, 8b>20>23>5~7b, 10~15, 18, 24		
			しまり	8a>17>9, 8b>21>22>16>7a, 7b>19>20, 23>5, 6, 10~ 15, 18, 24>14		
			きめ	17, 21>8a, 8b>16, 19, 21, 22>20>9>14>11, 12, 23, 24> 10, 13, 18>5, 6>7a, 7b, 15		
			1	明黄褐色	-	貼床
			2	暗褐色	ø 2~5mmLB少	
			3	明黄褐色	ø 5~10mmLB微	
			4a	明黄褐色	3層よりやや暗、ø 2~5mmLB少	
			4b	明黄褐色	3層よりやや暗、4a層よりややしまり弱	
			4c	明黄褐色	3層よりやや暗、きめ粗い	
15住 23 A	A	A	粘性	4c>4a, 4b>3>1, 2		
			しまり	1>2>4c>4a>2, 4b		
			きめ	4c>4b>2, 3, 4a>1		
			1	暗褐色	ø 1mmLR・C・FR少	上～下層
			2	暗褐色	ø 2~3mmLR少、ø 10mmLB微	上～下層
D 3 ピ 3 23 A	A	A	3	暗褐色	黑色土含む	掘り方
			1a	暗褐色	ø 3~10mmLBやや多、ø 1~2mmLR・ ø 1~2mmFR少	上層
			1b	暗褐色	1a層に似るが色調やや暗、きめやや粗い	上層
			2	暗褐色	ø 1~2mmLR・ø 3~5mmLBやや少	下層
			3	暗褐色	ø 2~3mmLBやや少、ø 1mmLR少	下層
16住 26 A	A	A	粘性	3>1b, 2>1a		
			しまり	2>3>1a, 1b		
			きめ	1a>3>1b, 2		
			①	暗褐色	ø 2~3mmLB微	
			②	暗褐色	ø 2~3mmLBやや少、ø 1mmFR少	
17住 27 A	A	A	③	暗褐色	ø 2~5mmLBやや少	
			④	暗褐色	ø 2~3mmLB少	
			⑤	暗褐色	ø 2~3mmLB多	
			粘性	①, ②, ③>④, ⑤		
			しまり	①, ②, ⑤>③, ④		
			きめ	①, ②>③, ⑤>④		
			1	黒褐色	II層主体	直上層
			2	暗褐色	ø 0.5mmLRやや多、ø 3~5mmLB少	上層
			3	暗褐色	ø 0.5mmLRやや多、ø 3~5mmLB・ø 1mmC少	下層
			4a	暗黄褐色	ø 1~2mmC少	掘り方
18住 28 A	A	A	4b	暗黄褐色	黑色腐蝕土少	掘り方
			4c	暗黄褐色	4b層に似るが色調やや明	掘り方
			4d	暗黄褐色	4b層に似るがきめやや粗い	壁際堆積
			5a	暗黄褐色	黑色腐蝕土を含む、ø 1~2mmLR少	掘り方
			5b	暗黄褐色	-	掘り方
			5c	暗黄褐色	5a層に似る	周溝
			6a	暗褐色	ø 3~5mmLBやや少	床下土坑
			6b	暗褐色	黑色腐蝕土多	床下土坑
			6c	暗褐色	6b層に似るが色調やや明	床下土坑
			粘性	4a~4d, 6a>5a~5c, 6b, 6c>2, 3>1		
19住 29 A	A	A	しまり	4a~4d, 6a>5a~5c, 6b, 6c>3>2>1		
			きめ	1>5b>5a, 5c>6b, 6c>4a~4d, 6a>2, 3		
			1a	暗黄褐色	ø 2~3mmLRやや多、ø 1mmFR微	上層
20住 30 A	A	A	1b	暗黄褐色	1a層に似るが色調やや暗、ø 1~2mm LR多	上層

遺構名	図No.	セク名	層No.	色調	内容物	備考	
16住	26	A	1c	暗黄褐色	1b層に似るが色調やや暗	上層	
			2a	暗褐色	Ø 0.1~1mmLR多、Ø 0.5mmC少	下層	
			2b	暗黄褐色	Ø 1~10mmLR・LB多	下層	
			3a	暗褐色	Ø 0.5mmLRやや多、Ø 1mmFR・Cやや少	周溝	
			3b	暗黄褐色	Ø 2~3mmLR・LBやや多、Ø 2~3mmC	周溝	
			4a	暗黒褐色	Ø 1mmC・LR極多	周溝	
			4b	暗黄褐色	Ø 2~3mmLR・LBやや多、Ø 1mmCやや少	周溝	
			5a	暗黄褐色	Ø 1~2mmLR・Ø 10~50mmLB多	掘り方	
			5b	明黄褐色	IV層よりもややきめ粗い、IV層を斑に含む	掘り方	
			5c	明黄褐色	Ø 10~50mmLB多、III層を若干含む	掘り方	
16住ビ 1・2	26	D,G	5d	暗褐色	Ø 1~3mmLR・LB・Ø 0.5~1mmCやや多	掘り方	
			5e	暗褐色	Ø 1mmLRやや少	掘り方	
			5f	明黄褐色	Ø 1mmC微	掘り方	
			5g	暗黄褐色	Ø 5~10mmLBやや多	掘り方	
			5h	明黄褐色	Ø 10~50mmLB多	掘り方	
			5b>5a, 5c, 5g>5d~5f, 5h, 3b>2b, 2c>1a~1c>4b>4a>>3a				
			5b>5a, 5c, 5g>5d~5f, 5h, 3b>2b, 2c>1a~1c>4b>4a>>3a				
			きめ	5a, 5c, 5h>5g>5f, 5e, 5d>4a>1c, 3a, 3b, 4b>5b>1a, 1b>2a, 2b			
16住マ 1・1	26	D	1a	暗褐色	LR少、C微		
			1b	暗褐色	LR・C微		
			1c	暗褐色	LR少、Ø 10mmLB・C微		
			2	黒褐色	Ø 5~10mmLB・C少		
			3	暗褐色	LRやや多、Ø 30~50mmLB少		
			4a	褐色	LRやや少、Ø 10mmLB少		
			4b	褐色	LRやや多、Ø 10mmLB少		
			粘性	4a, 4b>3>1a, 1b, 1c, 2			
			しまり	3>4a, 4b>1a, 1b, 1c>2			
			きめ	4a, 4b>1c, 3>1a>1b, 2			
16住マ 1・2	26	D	1	暗黄褐色	暗褐色土中にLB・LR極多、固い		
			2	暗黄褐色	I層+3層		
			3	黒褐色	貼床上の黒色の層、C・FR入る、固い		
			4	暗褐色		16住覆土	
			5	暗褐色	C+FR+ほそほそのØ 30~50mmLB		
			6	暗褐色		周溝	
			7	-		貼床	
			粘性	1>2>3>5>4>6			
			しまり	1>2>3>4, 5>6			
			きめ	1>2>5>3>4>6			
16住マ 2	26	E,F	1	黒褐色	C極微	周溝	
			2	暗褐色	Ø 1~5mmLB少、C微		
			3	褐色	広く掘った周溝を床と同じ高さで固めた層。Ø 10~30mmLBやや少		
			4	暗褐色	Ø 5~7mmLBやや少、LR少、C微		
			5	暗褐色	LR少、Ø 20~50mmLB・C微、やわらかめ		
			6	暗褐色	LRやや少、Ø 20~50mmLB少、C微、とても固い		
			7	黄褐色	暗褐色土+LR、固め		
			8	暗褐色	暗褐色土+LR少、きめ細かい		
			9	-	-	貼床	
			粘性	3>6>7>4>5>2, 8>1			
20住	28	A	1	暗褐色	褐色土やや少、C微		
			2	暗褐色	Ø 3~5mmLB・褐色土やや少、C微		
			3	暗褐色	黑色土やや少、Ø 3~5mmLB少、C・褐色土微		
			4	暗褐色	2層+3層。褐色土やや少、C・Ø 3~5mmLB・黑色土微		
			5	暗褐色	褐色土微、C・LB極微		
			6a	暗褐色	褐色土微、C・LB極微		
			6b	暗褐色	6a層+FR微		
			7a	暗褐色	C・LB少、褐色土・FR微		
			7b	暗褐色	7a層+FRやや少		
			8	明黄褐色			
20住 ビ7	28	A	9	暗褐色	褐色土微、Ø 5~7mmLB・C極微		
			10a	暗褐色	褐色土・LB・C微		
20住 ビ2			10b	暗褐色	10a層に似るが褐色土・LB少		
			11	暗黒褐色	C少、褐色土極微		
20住 ビ2			12	暗褐色	6a層+Ø 10~30mmLBやや少		
			13	暗黄褐色	Ø 5~50mmLB・LRやや少		
17住			14	暗褐色	褐色土やや多、C微		
			15	暗褐色	褐色土やや少、Ø 10~30mmLB・C微		
17住			16	暗褐色	C多、褐色土微		
			17	黄褐色		貼床	
17住	28	B,C	18	暗黄褐色	LR+暗褐色土微、13層の様にLBが斑に入るのではなく、とてもしまつている		
			17・ 20住	粘性	8, 17>18>12, 13>10b>10a>7, 16>1~6, 9, 11, 14, 15		
			17住 マ1	しまり	8, 17>12, 13, 18>10b>10a>7, 16>1~6, 9, 11, 14, 15		
			28	きめ	8, 17>13>12>10b>10a>8>1~7, 9, 11, 14~16		
			17住 マ1	1	暗黄褐色	暗褐色土にØ 30~50mmLB・LRやや多、C微、極めて固い	
			2	暗褐色	LR少、C微		
			3	黒褐色	暗褐色土+C・FR多		
			4	暗褐色	LR微、やわらかい		
			5	暗褐色	2層・4層よりLR微、C多		
			6	黄褐色	ほそほそのLB+LR、固い		
23住	28	B,C	7	黒褐色	C多、FR微、極めてしまる		
			8	黄褐色	暗褐色土・LBやや少		
			9	粘性	1>6>8>7>3>2>4, 5		
			10	しまり	1>7>6>8>5>3>2>4		
			11	きめ	6>8>1>2, 3, 4, 5, 7		
			12				
			13				
			14				
			15				
			16				
18住	30	C	17				
			18				
			G 11 土 4				
			20				
			21				
			22				
			23				
			24				
			25			直上層	
			26			上層	
18・23 住、 G 11 土 4	32	A	27				
			粘性	3, 9>20>18>2, 13>17, 27>16>23>24, 26>10, 19>1, 4, 5, 8, 12, 14, 15, 21, 22, 25>11>6, 7			
			しまり	3, 9>2, 20>13>12>17, 18>15, 16>1, 4, 5, 8, 10, 11, 14, 21, 27>6, 19, 23~26>7>22			
			きめ	17, 18, 20>16>3, 9>13>6>1, 2, 4, 7, 8, 10~12, 14, 15, 19, 21~27>5			
			1				
			2				
			3a				
			3b				
			3c				
			4a				
21住	32	A	4b				
			5a				
			5b				
			6a				
			6b				
			6c				
			6d				
			7a				
			7b				
			7c				
21住	32	C	8a				
			8b				
			8c				
			粘性	5a, 5b>2>7a~8c>6a, 6b>4a, 4b>1, 3a~3c>6b>6a			
			しまり	7a~7c>8a~8c>5a, 5b>4a, 4b>2>1, 3a~3c>6b>6a			
			きめ	8a~8c>7a~7c>1, 3a~3c>4a, 4b>6a, 6b>2, 5a, 5b			
			32				
			1				
			2				
			3				

造構名	図No.	セク名	層No.	色調	内 容 物	備 考	造構名	図No.	セク名	層No.	色調	内 容 物	備 考
21住 ビ1			2a	暗褐色	LRやや少、 ϕ 3~7mmLB・C・FR微					3	暗褐色	ϕ 0.5~1mmLRやや多、 ϕ 2~5mmLBやや少	
			2b	暗褐色	2aに似るがしまりやや強					4	暗褐色	ϕ 0.5~1mmLRやや多、 ϕ 2~5mmLBやや少	
			3	暗褐色	LR少、C微					5	暗褐色	4層に似るが色調やや暗	
			4	暗褐色	ϕ 30~50mmLB少(他の層より多い)、LR微、C・FR極微					6	暗褐色	4層に似るが色調やや暗、しまりやや弱	
			5	褐色	LRやや多、C極微					粘性	1>2>3, 4>5, 6		
			6	粘性	5>4>2a, 2b, 3>1					しまり	2b>a>3, 5>4>1		
			7	きめ	4>2a, 2b, 3>1>5					きめ	2>4~6>1>3		
			8	褐色	LB多					1	暗褐色	ϕ 1mmLRやや多、 ϕ 1mmC少	
			9	暗褐色	LR・C微					2a	暗褐色	ϕ 1mmLRやや多、 ϕ 1mmFR・C少	
			10	暗褐色	C多、 ϕ 30~50mmLB少					2b	暗黒褐色	ϕ 1mmLR・FR・Cやや少	
22住 ビ2	32	B	11	黄褐色	LR極多					粘性	1, 2a, 2bは均質		
			12	暗褐色	C微、 ϕ 30mmLB極微、ふかふか					しまり	1, 2a>2b		
			13	褐色	ϕ 30mmLB・LRやや少					きめ	2a, 2b>1		
			14	暗褐色	ϕ 50mmLBやや少、LR少					1	暗褐色	ϕ 1mmLR多、 ϕ 3~5mmLBやや多	
			15	粘性	4>1>6>7>3>2>5					2	暗褐色	1層より色調やや暗、 ϕ 2mmLRやや多	
			16	しまり	1, 4>6>7>3>2, 5					3	暗褐色	1層より色調暗、 ϕ 1mmLR・FRやや少	
			17	きめ	1, 7>6>3>4>2>5					4	暗褐色	ϕ 1mmLR多	グリットPT
			18	9a	暗褐色	褐色土やや少、C微				5	暗褐色	ϕ 1mmLR多、4層より色調やや暗	グリットPT
			19	9b	暗褐色	褐色土やや少、C微、9a層と同じで、しまりさらになし				6	暗褐色	ϕ 1mmLR多、 ϕ 1~2mmFRやや少	グリットPT
			20	暗黄褐色	9a層+14層、LRやや多		粘性			2>1, 3>4~6			
23住 ビ2	30	A	21	暗褐色	褐色土少、C微、しまりなくぼそぼそ					しまり	2>3>1>6>4~5		
			22	粘性	10>9a, 9b>11					きめ	6>4, 5>1, 3>2		
			23	1	暗褐色	褐色土やや少、黒色粒子(粘質)・C微				1a	暗褐色	ϕ 2~3mmLB・LRやや多、 ϕ 1mmCやや少	
			24	2a	暗黃褐色	-				1b	暗褐色	ϕ 2~3mmLR・ ϕ 2~5mmLBやや少	
			25	2b	暗黃褐色	暗褐色土少				2	暗黃褐色	ϕ 1mmLR多、 ϕ 3~5mmLBやや多、 ϕ 1mmCやや少	
			26	2c	暗黃褐色	暗褐色土少+貼床LB微				3a	暗褐色	ϕ 1mmLR・ ϕ 2~3mmLBやや多、 ϕ 1~2mmCやや少	
			27	3	暗褐色	黒め、褐色土少、C微				3b	暗褐色	3a層に似るがCを含まない	
			28	4a	暗褐色	褐色土やや少				4a	暗褐色	ϕ 1mmLRやや多	
			29	4b	暗褐色	褐色土やや多				4b	暗褐色	ϕ 1mmLRやや多、 ϕ 3~5mmLBやや少	
			30	6	暗褐色	褐色土やや少、C微、1層より色調極わずかに明				4c	暗褐色	4b層に似るが色調やや暗、しまりやや強	
24住 ビ2	34	A	31	7	暗褐色	6層+焼土やや少				5	暗黒褐色	ϕ 1~2mmLR・ ϕ 1~2mmCやや多、 ϕ 1mmFR少	
			32	8	にぶい暗褐色	黒め、褐色土少、C微				6	暗褐色	ϕ 1mmLRやや多	
			33	9	にぶい暗褐色	黒め、褐色土微、しまりなくぼそぼ	周溝?			7a	明黄褐色	III層を少なく含む	
			34	10	にぶい暗褐色	黒め、褐色土やや少、C微				7b	明黄褐色	III層をやや多く含む	
			35	11	暗褐色	III層+10層、固め				粘性	7a, 7b>2, 4a~4c>1a, 1b, 3a, 3b, 6>5		
			36	12a	暗褐色	褐色土やや多、C極微				しまり	7a>5, 7b>2, 4c>4a, 4b>1a, 1b, 3a, 3b>6		
			37	12b	暗褐色	12層+13層、LR微				きめ	7a>6>7b>2, 5>1a, 1b>3a~4c		
			38	13a	にぶい暗褐色	黒め、褐色土・C微	H11PT1			1	暗黄褐色	IV層のブロック	
			39	13b	にぶい暗褐色	黒め、13層+LR微、12b層よりやや	H11PT1			2	暗黄赤褐色	ϕ 1~2mmFR多、 ϕ 1mmCやや多	
			40	14a	暗褐色	褐色土やや少、黒色土少				3	暗褐色	ϕ 1~2mmLRやや多、 ϕ 1mmC微	
			41	14b	暗褐色	12層+黒色土極微				4	暗褐色	3層より色調明、 ϕ 1mmLR多、住居上層に類似	
			42	15	粘性	2a>2b>2c>11>a>4b>12b>1, 6, 7, 10, 12a>3, 8, 9>13a, 14a, 14b				5	暗褐色	ϕ 1mmLRやや多、 ϕ 1mmC微	
			43	16	しまり	2a>2b>11>c>4a, 4b, 12b, 13b>10>1, 6, 7, 12a>3, 8, 9>13a, 14a				6	暗褐色	3層より色調やや明、 ϕ 2~3mmLB微	
			44	17	きめ	2a>2b, 12b>2c>4a, 4b, 11>7, 10, 12a, 13b, 14b>1, 3, 6, 8, 9, 13a, 14a				7	暗褐色	3層より色調やや暗、 ϕ 1mmLR・ ϕ 2~3mmFR・Cやや多	
			45	18	暗黃褐色	ϕ 1~2mmLRやや多	上層			粘性	1>3~6>7>2		
			46	19	暗黃褐色	1a層に似るが ϕ 3~10mmLBやや少	上層			しまり	1, 7>2>6>3, 4, 5		
			47	20	暗黃褐色	1a層に似るが色調やや暗	上層			きめ	7>2>4>3, 5, 6>1		
25住 ビ2	35	A	48	21	暗黃褐色	ϕ 1~2mmLRやや多	上層			1	暗褐色	ϕ 1mmLR少	
			49	22	暗褐色	ϕ 1~2mmLR多、 ϕ 0.5~1mmC少				2	暗黒褐色	ϕ 1~2mmLR多、 ϕ 0.5~1mmC少	
			50	23	暗黃褐色	ϕ 1~2mmLR多				3	暗黃褐色	ϕ 1~2mmLR多	
			51	24	粘性	3>1>2				4	暗褐色	3層より色調やや暗、 ϕ 1mmLR・ ϕ 2~3mmFR・Cやや多	
			52	25	しまり	3>1, 2				5	暗褐色	3層より色調やや明、 ϕ 2~3mmLB微	
			53	26	きめ	3>2>1				6	暗褐色	3層より色調やや暗、 ϕ 1mmLR・ ϕ 2~3mmFR・Cやや多	
			54	27	暗褐色	2a層に似るがしまりやや弱	下層①			1a	暗褐色	ϕ 1~2mmLR多、 ϕ 3~5mmLB少	
			55	28	暗褐色	2a層に似るが色調やや暗、しまりやや強	下層①			1b	暗褐色	1a層に似るが色調やや暗、 ϕ 0.5~1mmCやや少	
			56	29	暗褐色	2a層に似るがしまりやや強	下層①			2	暗黃褐色	ϕ 1mmLR多	
			57	30	暗褐色	2c層に似るがしまりやや強	下層①			3	暗褐色	ϕ 1~2mmLRやや多	
			58	31	暗褐色	2d層に似るがしまりやや強	下層①			4	暗褐色	ϕ 1~2mmLR少	
			59	32	暗褐色	2e層に似るがしまりやや強	下層①			5a	暗褐色	ϕ 1~2mmLR多、 ϕ 1mmFR・Cやや少	
			60	33	暗褐色	2f層に似るが色調やや暗、しまりやや強	下層①			5b	暗褐色	5a層に似るが色調やや暗	
			61	34	暗褐色	3a層+10層LB少	下層②			6	暗黒褐色	ϕ 1~2mmC多、 ϕ 1mmFR少	
			62	35	暗褐色	ϕ 2~5mmLBやや多、しまりやや強	下層②			粘性	2>5a, 5b>3, 4>1a, 1b		
			63	36	暗褐色	ϕ 2~3mmLRやや少、しまり弱	下層②			しまり	2, 5a, 5b>3, 4>1a, 1b>6		
			64	37	暗褐色	ϕ 2~5mmLB多	壁際?			きめ	6>1a, 1b>3~5b>2		
			65	38	暗黒褐色	黑色腐植土	床面上						
			66	39	明黄褐色	黑色腐蝕土少、しまり極強	マウンド			1a	暗褐色	ϕ 1~2mmLR多、 ϕ 3~5mmLB少	
			67	40	明黄褐色	III・IV層の混合	掘り方			1b	暗褐色	1a層に似るが色調やや暗、 ϕ 0.5~1mmCやや少	
			68	41	明黄褐色	7a層に似るがIII層の割合が低い	掘り方			2	暗黃褐色	ϕ 1~2mmLR多	
			69	42	明黄褐色	7b層に似るがIV層の割合が低い	掘り方			3	暗褐色	ϕ 1~2mmLR少	
			70	43	明黄褐色	7c層に似るが色調やや暗	掘り方			4	暗褐色	ϕ 1~2mmLR少	
			71	44	粘性	6>1d, 2c, 2d, 2f, 3b, 7b, 7c>1, 2a, 3a, 4, 5, 7a>2b, 2c>3c				5a	暗褐色	ϕ 1~2mmLR多、 ϕ 1mmFR・Cやや少	
			72	45	しまり	6>1d, 2c, 2d, 2f, 3b, 7b, 7c>1, 2a, 3a, 4, 5, 7a>2b, 2c>3c				5b	暗褐色	5a層に似るが色調やや暗	
			73	46	きめ	7>4>1>2>3>5, 6				6	暗黒褐色	ϕ 1~2mmC多、 ϕ 1mmFR少	
			74	47	26住 ビ1	1	暗黃褐色	ϕ 5~10mmLBやや多		粘性	2>5a, 5b>3, 4>1a, 1b>6		
			75	48	26住 ビ1	2	明黄褐色	III層が少なく混ざる		しまり	6>1a, 1b>3~5b>2		

造構名	図No.	セク名	層No.	色調	内容物	備考		
31住 土1	38	H	1	暗褐色	LRやや少、C極微			
			2	暗褐色	黒色粒子やや少、LR少、C極微、極めてしまる			
			粘性	2>1				
			しまり	2>1				
			きめ	2>1				
	38	I	1	暗褐色	Ø 2~3mmLB少			
			2	暗黃褐色	Ø 2~10mmLBやや多			
			3	暗褐色				
			粘性	2>1>3				
			しまり	2>1>3				
	37	E	きめ	1, 2>3				
31住 掘り 方			①	暗黒褐色	Ø 1mmC微、Ø 2~5mmLB少	周溝		
			②	暗黄褐色	Ø 3~5mmLB少	掘り方		
			③	暗黄褐色	Ø 5~10mmLBやや多	掘り方		
			④	暗黄褐色	Ø 5~10mmLB多	マウンド		
			粘性	②>③, ④>①				
			しまり	③, ④>②>①				
			きめ	①>②>③, ④				
39	A	1	褐色	LRやや少、C微				
		2	暗褐色	LR少、Ø 10mmLB微、C極微				
		3a	暗褐色	炭化材多、LR少、Ø 3~7mmLB微				
		3b	暗褐色	LR少、Ø 3~7mmLB微、炭化材極微、プロック状に固くする所あり				
		4	暗褐色	LR少、C・FR微、Ø 3mmLB極微、				
		5a	暗褐色	LR少、C極微、やわらかい				
		5b	暗褐色	LR少、Ø 5mmLR微、C極微、やわらかい				
		6a	暗黄褐色	Ø 5mmLBやや少、極めて固くする	貼床			
		6b	暗黄褐色	6a層ほど固くしまらないが、6a層と同じ色調で、同じレベルでのびる				
		7	暗褐色	LRやや少				
32住 炉	39	C	8a	黒褐色	LR微、C極微			
			8b	黒褐色	LR少、C極微			
			9	暗黄褐色	LRやや多			
			粘性	6a>6b>3a>7, 9>1, 2, 3b, 4, 5a, 5b, 8				
			しまり	6a>3b>6b>7, 9>3a>1, 2, 4, 5a, 5b, 8a, 8b				
	39		きめ	6a>6b>9>3a, 3b>1, 2>4, 5a, 5b, 7, 8a, 8b				
	B	1	赤褐色	貼床が著しく赤化、極めて固い				
		2	暗赤褐色	1層のLRが暗褐色土中に多、FR多				
		3	暗黄褐色	1層のLRが暗褐色土中に多、FR極微				
		4	暗褐色	LBやや多、FR極微				
32住 炉	39	C	5a	暗褐色	黒い、Ø 1~3mmLB少、C微、しまる			
			5b	暗褐色	黒い、Ø 1~3mmLBやや少、C微、しまる			
			6	暗褐色	5層+FR微			
			粘性	1>3>2>4~6				
			しまり	1>2, 3>5a, 5b>6>4				
	39		きめ	1>2, 3>6>4, 5a, 5b				
	A	1	暗黒褐色	Ø 1mmLR多、Ø 1mmC・FR微				
		2a	暗褐色	Ø 2~3mmLRやや少、Ø 3mmLB微				
		2b	暗褐色	Ø 1mmLRやや少、Ø 2~4mmLB少				
		2c	暗褐色	Ø 1mmLR多、Ø 2~3mmLBやや少、Ø 1mmC・FR微				
34住 炉	40	A	2d	暗褐色	Ø 1mmLR・Ø 2~3mmLBやや多			
			3a	暗褐色	Ø 1mmLRやや少、Ø 3mmLB少			
			3b	暗褐色	3a層に似るが色調やや暗			
			3c	暗褐色	3a層に似るが色調やや明、Ø 1mmLR多			
			3d	暗黃褐色	Ø 3~5mmLBやや多、Ø 1mmLRやや少			
	40		4	暗黃褐色	Ø 1mmLR・FR微			
			5a	明黃褐色	Ø 5~10mmLB多			
			5b	明黃褐色	III層を少なく含む			
			5c	明黃褐色	5b層と一緒			
			6	暗黒褐色	Ø 1~2mmFR多、Ø 1mmC少、灰を含む			
34住 炉	40	A	7	暗褐色	-			
			8	暗褐色	2a層に似るが色調やや明			
			9	暗褐色	Ø 1~2mmLRやや多			
			粘性	5a, 5b>4>3c, 3d>3a, 3b, 7>8, 9>1, 2a~2d>6				
			しまり	5a, 5b, 3c, 3d>4>2a~2d, 3a, 3b, 7>8, 9>1>6				
	40		きめ	5a, 5b>6>9>8>3c, 3d>1~3b>4, 7				
	A	①	暗褐色	Ø 2~3mmLB少、Ø 1mmC微				
		②	暗褐色	1層に似るが色調やや明				
		③	暗黃褐色	Ø 3~5mmLB少				
		④	明黃褐色	Ø 3~5mmLBやや多				
34住 炉	40	A	粘性	④>③>①, ②				
			しまり	④>②, ③>①				
			きめ	④>③>②>①				
			1	暗褐色	Ø 1mmFR多			
			2	暗褐色	Ø 1mmFR・Ø 1mmC多			
	40	D	粘性	1, 2 脆弱				
			1	暗褐色	Ø 1mmC微			
			2	暗褐色	Ø 1mmC・FR微			
			3	暗褐色	Ø 1mmC・FR少			
			4	暗褐色	Ø 1mmC・FR多			
34住 炉	45	A	1	暗褐色	Ø 1mmLRやや少	下層		
			2	暗褐色	Ø 2~3mmLBやや多	掘り方		
			3	暗褐色	Ø 1~2mmLRやや少	床下ビット		
			4	明黃褐色	Ø 2~5mmLB多、Ø 10~50mmLBやや多	マウンド		
			5	暗褐色	Ø 5~50mmLB多	床下ビット		
	45	A	6	暗黒褐色	Ø 1~2mmFRやや多	炉内		
			7a	明黃褐色	Ø 10~20mmLB多、Ø 1mmC少	掘り方		
			7b	暗褐色	Ø 2~5mmLB・Ø 1mmLRやや多	掘り方		
			7c	明黃褐色	被熱ローム	炉掘り方		
			7d	暗褐色	Ø 2~3mmLBやや多	掘り方		
34住 炉	45	A	8	暗褐色	Ø 1~2mmLRやや少	床下ビット		
			9	明黃褐色	Ø 2~5mmLB多、Ø 10~50mmLBやや多	マウンド		
			10	暗褐色	Ø 5~50mmLB多	床下ビット		
			11	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや多	炉内		
			12	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや少	炉内		
	45	A	13	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや多	炉内		
			14	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや少	炉内		
			15	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや少	炉内		
			16	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや少	炉内		
			17	暗褐色	Ø 1~2mmFRやや少	炉内		

遺構名	図No.	セク名	層No.	色調	内 容 物	備 考	遺構名	図No.	セク名	層No.	色調	内 容 物	備 考
38住 土 1	46	D	2	暗黒褐色	$\phi 1\text{mmC}$ 多、 $\phi 1\text{mmLR}$ やや多、 $\phi 1\text{mmFR}$ やや少					1c	暗黄褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ やや少	
			3	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB} \cdot \phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少					1d	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ やや少	
			粘性	1>3>2						1e	暗黄褐色	Ⅲ層土主体で認め粗い	
			しまり	1>3>2						1f	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ やや多	
			きめ	2,3>1						1g	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ やや少	
			1	暗黄褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ やや少					1h	暗褐色	色調やや暗、 $\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ 少	
38住 土 2	46	D	2	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB} \cdot \phi 1\text{mmLR}$ やや少					1i	暗黄褐色	IV層土が50%混合	
			3	暗灰黒褐色	$\phi 3\sim 10\text{mmLB}$ やや多					2a	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少	
			4	明黄褐色	$\phi 3\sim 10\text{mmLB}$ 少					2b	暗褐色	2a層に似るがしまりやや強	
			粘性	3>4>1,2						粘性	1a, 1h>1b>1d, 1f~1g, 1i>2a, 2b		
			しまり	3>2,4>1						しまり	1a~1d, 1f~1h>2b>1e, 1i, 2a		
			きめ	2>4>1,3						きめ	1e, 1i>2a>2b>1a~1d, 1f~1h		
38住 土 3	46	D	1	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ やや少、 $\phi 1\text{mmC}$ 少					1	褐色	LRと暗褐色土が斑に混ざる、 $\phi 10\text{mmLB}$ 微	
			2	明黄褐色	$\phi 5\sim 15\text{mmLB}$ 多、 $\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ やや少					2	暗褐色	LR少、C極微	
			3	暗黄褐色	$\phi 5\sim 10\text{mmLB}$ やや少、 $\phi 1\text{mmLR}$ 少					3	褐色	LRやや多、C極微	
			4	暗灰黒褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ 少					4	暗褐色	LRやや少、 $\phi 5\sim 10\text{mmLB}$ 微、C極微	
			5	暗黄褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB} \cdot \phi 1\text{mmLR}$ 少					5	暗褐色	C微、 $\phi 3\sim 10\text{mmLB}$ 極微	
			6	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ 少					6	暗褐色	LBやや少、C微	
39住	48	A	粘性	4>2>3>5>6>1						7	褐色	$\phi 10\text{mmLB}$ 微	
			しまり	4>2,3>1,5,6						粘性	7>3>5>1,2,4,6		
			きめ	2>1,5,6>3,4						しまり	3>1,4,5>7>2,6		
			1	暗褐色	$\phi 5\sim 10\text{mmLB}$ やや少、 $\phi 1\text{mmC}$ 微	下層				きめ	7>6>1>2~5		
			2	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ 少	周溝				1a	暗黄褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ 多	
			3	暗黄褐色	Ⅲ層を少なく含む、 $\phi 5\sim 10\text{mmLB}$ 多	掘り方				1b	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少	
40住	49	A	粘性	3>1,2						1c	暗黒褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB} \cdot \phi 1\text{mmC}$ 微	
			しまり	3>2>1						1d	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少	
			きめ	3>2>1						1e	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少、 $\phi 1\text{mmC}$ 微	
			1	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 多、 $\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ やや多					2a	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR} \cdot \text{C}$ 少	
			2a	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ やや多					2b	暗褐色	2a層より色調やや明、 $\phi 1\text{mmLR}$ やや少、 $\phi 1\text{mmC}$ 微	
			2b	暗褐色	2a層に似るが色調やや暗					粘性	1b, 1d, 2b>1a, 1c, 1e>2a		
41住 カマ ド	50	B	3a	明黄褐色	$\phi 10\sim 20\text{mmLB}$ 多					1a, 1b, 1d, 2b>1c, 1e>2b	しまり	1a, 1b, 1d, 2b>1c, 1e>2a	
			3b	明黄褐色	$\phi 10\sim 20\text{mmLB}$ 多、 $\phi 1\sim 5\text{mmLR}$ やや多					2a	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ やや多	
			4a	明黄褐色	$\phi 5\sim 10\text{mmLB}$ やや少					2b	暗褐色	2a, 1c>1a, 1b, 1d, 1e>2b	
			4b	暗褐色	$\phi 5\sim 10\text{mmLB}$ やや多					1	暗黄褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 多、 $\phi 1\text{mmC}$ 微	
			粘性	2a, 2b>1>3a~4b						2	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少	
			しまり	3a>4a, 4b>3b>2a, 2b>1						3	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ やや多	
C 1 ビ 2	51	C	きめ	3b, 4a>4b>3a>1~2b						4	暗褐色	$\phi 1\text{mmC}$ 微	
			1	赤褐色	焼土	火床				5	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ やや少	
			2a	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmFR}$ やや少、 $\phi 1\text{mmC}$ 微	カマド掘り方				6	暗褐色	IV層・Ⅱ層混合	
			2b	暗褐色	2a層に似るが色調やや暗	カマド掘り方				7	明黄褐色	IV層主体	
			3	暗黄褐色	$\phi 1\text{mmFR}$ やや少	地山？				粘性	6>7>1,3>2,4,5		
			4	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLR}$ 少	地山？				しまり	5, 6, 7>1~4		
D 2 ビ 6	51	D	粘性	3,4>2a, 2b>1						きめ	1~4>5~7		
			しまり	1>3,4>2a, 2b						1a	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 微	
			きめ	3>1>2a, 2b, 4						1b	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLR}$ 少	
			1a	暗黄褐色	$\phi 5\sim 10\text{mmLB} \cdot \phi 1\sim 2\text{mmLR}$ やや多					1c	暗褐色	$\phi 1\text{mmC}$ 微	
			1b	暗褐色	黒色土を含む					1d	暗褐色		
			1c	暗黄黒褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ 少					2	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ やや多、 $\phi 1\text{mmFR}$ 微	柱痕
掘 2 ビ 3	53	B	1d	暗褐色	$\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ やや少、 $\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少					3	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ やや多	あたり
			1e	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLR}$ 少					4	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ やや多	
			2a	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR} \cdot \text{C}$ やや少					粘性	3>4>1d>1a~1c>2		
			2b	暗褐色	2a層に似るが $\phi 3\sim 5\text{mmLB}$ やや少					1a, 1b, 1d, 2b>1a~1b, 1c>2	しまり	3>4>1d>1a>1b, 1c>2	
			粘性	1a, 1b, 1d, 1e>1c>2a, 2b						きめ	2>1d>1a>1b, 1c>4>3		
			しまり	1a~1e>2a>2b						1	暗黒褐色	$\phi 0.1\text{mmFR} \cdot \text{C}$ 微	
H 18 ビ 1	61	D	きめ	2a>2b>1a~1e						2	暗黄褐色	$\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ やや多	
			1a	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少					3	暗黒褐色	$\phi 5\text{mmLB}$ 少	
			1b	暗褐色	$\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ 少					4	暗褐色	$\phi 2\text{mmLR}$ 少	
			1c	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少					5	暗褐色	III層主体	
			2	暗褐色	$\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ やや少					粘性	5>2, 3, 4>1		
			3	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少					1a, 1b, 1d, 2b>1c, 1e>2a	しまり	1, 2>3, 4, 5	
H 17 ビ 2	61	D	4	暗褐色	$\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ 少					きめ	2, 4>1, 3>5		
			5	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少					1a	暗黄褐色	III層・IV層混合	
			2b	暗褐色	$\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ やや暗					1b	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少	
			2c	暗褐色	色調やや暗、 $\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ やや少、					2a	暗褐色	色調やや暗、 $\phi 2\text{mmLR}$ 少、	
			3a	暗黄褐色	$\phi 2\sim 5\text{mmLB}$ 多					2b	暗褐色	色調やや暗、 $\phi 2\text{mmLR}$ 少、	
			3b	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少					3c	暗褐色	$\phi 1\sim 2\text{mmLR}$ 少	
E 4 ビ 1	53	C	3c	暗褐色	$\phi 2\sim 3\text{mmLB}$ 少					4a	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少	
			4	暗褐色	$\phi 4\text{a}$ 層より色調暗、 $\phi 1\text{mmLR}$ 少					4b	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少	
			5	暗褐色	$\phi 4\text{c}$ 層に似る					4c	暗褐色	$\phi 1\text{mmLR}$ 少	
			粘性	2c>2a, 2b>1a, 1b>3b>4a>3c>4a~4c>3a						粘性	2c>2a, 2b>1a, 1b>3b>4c>3a		
			しまり	2a~2c>1a, 1b>3b>4c>3a						しまり	2a~2c>1a, 1b>3b>4c>3a		
			きめ	3a>3c, 4a~4c>1a, 1b, 2a~2c>3b						きめ	3a>3c, 4a~4c>1a, 1b, 2a~2c>3b		
H 17 ビ 1	61	D	1a	暗黄褐色						1a	暗黄褐色		
			1b	暗褐色	1a層に似るが色調やや暗					1b	暗褐色	1a層に似るが色調やや暗	

遺構名	図No.	セク名	層No.	色調	内容物	備考	遺構名	図No.	セク名	層No.	色調	内容物	備考
G 12 土1	65	A	1c	暗褐色	φ 2~3mmLB少		L 31 土2	67	B	1a	暗褐色	LRやや少、φ 3~5mmLB微、C極微	
			1d	暗褐色	φ 5~10mmLB少					1b	暗褐色	LRやや少、φ 3~10mmLB微、C極微	
			1e	暗黄褐色	?					2	暗褐色	LR少、φ 3~10mmLB・C極微	
			2a	暗黒褐色	φ 1mmLR少					3	暗黄褐色	LRやや少、φ 3mmLB少、φ 10mmLB微	
			2b	暗黒褐色	φ 2~3mmLBやや少					粘性	3>1a, 1b>2		
			2c	暗黒褐色	φ 1mmLR微					しまり	3>1a>1b>2		
			粘性	1e>1a>1b~1d>2a~2c						きめ	3>1a>1b>2		
			しまり	1e>1a>1b~1d>2a>2b, 2c						1a	暗褐色	C・FR少、LR微	
			きめ	1b>1c, 1d>1a>2a~2c>1e						1b	暗褐色	LR・C・FR微	
			1	暗褐色	φ 2mmLR少					2a	暗赤褐色	LR・FR少、C極微	
			2	暗褐色	φ 1~2mmLRやや多、φ 1mmC少					2b	暗赤褐色	LR少、FR微、C極微	
			3	暗黄褐色	φ 2~5mmLB少					2c	暗赤褐色	FRやや少、LR少	
			4	暗黒褐色	φ 2~5mmLBやや少、φ 1mmC少					3	暗褐色	LRやや少、C・FR極微	
			5	暗黄褐色						4	暗褐色	LRやや少	
			粘性	1, 3, 5>2>4						粘性	4>3>2a~2c>1a, 1b		
			しまり	4>1, 3>2, 5						しまり	4>3>2a~2c>1b>1a		
			きめ	2>1, 3, 5>4						きめ	4>2a, 2c>1a, 1b, 2b>3		
			連続 方形 土坑	70	A					LB多、ほそぼぞ、下部に灰層有り			
H 17 土1	66	A	1a	暗褐色	LR少、φ 1~0.5mmLB微、φ 3mm黒色土・φ 10~20mm灰色粘土塊・C極微		4溝	71	A	1	暗褐色	φ 0.5~1mmLRやや多	
			1b	暗褐色	LRやや少、φ 0.5mmLB・C極微					2	暗黒褐色	黒色土極多、mm層やや少、φ 1mmC微	
			2a	暗褐色	LRやや多、φ 0.3~0.5mmLB・C極微					3	暗黒褐色	2層に似るが色調やや明	
			2b	暗褐色	LRやや少、LB・C極微、φ 70mm粘土塊1つ入る					4	暗黒褐色	黒色土極多、φ 0.5~1mmLRやや多、Ⅲ層やや少	
			2c	暗褐色	LR少、φ 10mmLB微、C極微					5	暗褐色	Ⅲ層極多、黒色土やや少、φ 1mmLR少	
			2d	暗褐色	LRやや少、C微、φ 30mmLB極微					6	暗褐色	—	
			粘性	2a>2d>2b>1a, 1b, 2c						7	暗褐色	5層に似るが色調やや明、φ 0.5~1mmLR多	
			しまり	2a, 2b>2d<1b<1a<2c						8	暗黒褐色	黒色土極多、炭化物の土壤化少	
			きめ	2b>2d>1b, 2c>1a, 2a						9	暗褐色	5層に似るがきめやや細かい	
			1	暗褐色	LRやや少、φ 3~5mmLB少、黒色土微、C極微					10	暗褐色	φ 2~3mmLR・φ 3~5mm黒色土プロックやや多	
H 17 土2	66	A	2a	暗黄褐色	LRやや多、黒色土微、C極微					11	明黄褐色	φ 5~10mmLB・φ 2mmLRやや多	
			2b	暗黄褐色	LRやや多、LB少、C極微					粘性	10, 11>8>2~7, 9>1		
			3	暗褐色	LRやや少、φ 3~5mm黒色土・C極微					しまり	7>11>1~6, 8~10		
			4	暗褐色	LR少、LB微、C・黒色土極微					きめ	11>1>2~7, 9~10>8		
			5	暗褐色	LRやや少、φ 5mmLB少、黒色土微					1	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや多	
			6	褐色	LRやや少、φ 50mm灰色粘土1つ入る、さらさら					2	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや多	
			7	褐色	LRやや少、φ 70~100mmLB・C極微					3	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや少	
			8	地山						4	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや少	
			粘性	2a, 2b>5>1>7>3, 6>4						5	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや少	
			しまり	2a, 2b>5>1>7>3, 6>4						6	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや少	
K 31 土1	67	A	2a	暗褐色	φ 1mmLRやや多					7	暗黒褐色土	φ 0.5mmLRやや少	
			2b	暗褐色	φ 10mmLB微、φ 2~3mmLB少					8	暗黒褐色土	色調一番暗い、φ 0.1~0.5mmLR少	
			2c	暗褐色	φ 1~3mmLBやや多、φ 1~2mmC少					9a	暗褐色土	φ 1~5mmLB少	
			2d	暗褐色	φ 2~3mmLBやや少、φ 1mmC微					9b	暗褐色土	φ 1~5mmLB少	
			2e	暗褐色	φ 1~2mmLRやや多					粘性	9a, 9b>7, 8>2~6>1		
			2f	暗褐色	φ 2~3mmLRやや多					しまり	5>1, 2, 3>4, 6>8, 9a, 9b>7		
			3	暗黄褐色	φ 2~3mmLB少					きめ	1, 2>5>3, 4, 6, 7>9a, 9b>8		
			4a	暗黄褐色	φ 1~2mmLR多、φ 3~5mmLBやや多					1	暗褐色	φ 5~10mmLB・LR少、C・FR微	
			4b	暗褐色	φ 1~2mmLR・φ 3~5mmLB多、φ 1~2mmCやや多					2	暗褐色	LR少	
			粘性	1, 2a~2e, 3, 4a, 4b>2f						3	暗黄褐色	暗褐色土+LR	
L 31 土1	67	A	1	暗褐色	LR少、C極微					4	暗褐色	黒色粒子・C微、最も黒い	
			2	暗褐色	LR少、φ 3~15mmLB微、C極微					5	暗褐色	LRやや少、黒色粒子・C微	
			3	暗褐色	LRやや少、φ 5mmLB微、C極微					6		直上のG11-SD1の底面の白い灰が多く入る、しまりなくほそぼぞ	カクラン
			粘性	2>1>3						粘性	1>3>5>2>4, 6		
			しまり	1>2>3						しまり	1>2>5, 3>4, 6		
			きめ	2>1>3						きめ	1>2~6>4		

出土土器観察表

報告No	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土	部位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時期	備考		
1住-1	74	S字甕	にぶい褐色	にぶい褐色	金色・白・赤・黒	口縁・胴部	6/8	-	19.3	-	古墳	口縁部横撫で／内面刷毛後指撫で／外縁、斜め方向刷毛
1住-2	74	S字甕	灰褐色	にぶい赤褐色	金色・白・黒光・赤	口縁部	3/8	-	14.8	-	古墳	内面指痕痕／外縁刷毛・横撫で
1住-3	74	S字甕	浅黄橙色	浅黄橙色	赤・金色	口縁・胴部	7/8	-	10.8	-	古墳	内面口縁横撫で・胴部斜め刷毛／外縁口縁横撫で・胴部刷毛
1住-4	74	壺	橙色	橙色	乳白色・金色・透明・黒光	口縁部	1/8	-	31.0	-	古墳	外縁口唇部櫛状工具による刺突文・隆帯
1住-5	74	壺	橙色	橙色	金色・乳白色・赤・黒光	口縁部	1/8	-	31.4	-	古墳	内面指撫で／外縁刺突文・指撫で
1住-6	74	高坏	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	赤・金色・乳白色	口縁部	1/8	-	27.6	-	古墳	内外面磨き
1住-7	74	台付甕	浅黄色	橙色	白・赤・黒	脚部	8/8	-	-	7.0	古墳	内外面刷毛
1住-8	74	壺	にぶい褐色	明赤褐色	白・金色・赤	肩部・胴部	1/8	-	-	-	古墳	内面撫で／外縁肩部横撫で・胴部縱撫で・赤褐色を着色
1住-9	74	器台	明赤褐色	明赤褐色	赤・乳白色・金色	脚部	3/8	-	-	21.0	古墳	内面ヘラ削り／外縁磨き
1住-10	74	器台	明赤褐色	明赤褐色	赤・乳白色・金色	脚部	3/8	-	-	20.8	古墳	内面指撫で・磨き／外縁削り
1住-11	74	壺	にぶい褐色	にぶい褐色	白・赤・黒・金色	胴部	3/8	-	-	-	古墳	内面斜め刷毛／外縁刷毛後磨き

報告No	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎 土	部 位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時 期	備 考
1住-12	74	ミニチュア	黄褐色	にぶい黄褐色	乳白色・金色・黒光	口縁部	1/8	-	7.6	-
1住-13	74	小型甕	浅黄色	浅黄色	金色・白・赤・黒	口縁～胴部	2/8	5.0	7.6	5.4
1住-14	74	壺	にぶい黄橙色	浅黄橙色	白・赤・金色	底部	3/8	-	-	10.5
1住-15	74	器台	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・赤	器受部	1/8	-	10.0	-
1住-16	74	ミニチュア	黒褐色	黒褐色	白・黒・赤	口縁～底部	5/8	3.5	4.4	2.8
1住-17	74	高坏	灰褐色	橙色	赤・金色・白	坏部	1/8	-	24.2	-
1住-18	74	S字甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤	頸部～胴部	1/8	-	-	-
1住-19	74	小型鉢	暗灰黄色	にぶい黄色	白・乳白色・黒光	胴部	2/8	-	-	-
1住-20	74	壺	黒褐色	黒褐色	金色・白・赤	底部	1/8	-	-	9.5
2住-1	75	壺	浅黄橙色	明黄褐色	白・金色・黒・赤	頸部～胴部	1/8	-	-	-
2住-2	75	壺	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白色・赤・黒光・透明	胴部	3/8	-	-	-
2住-3	75	壺	浅黄橙色	黄橙色	白・黒	口縁部	5/8	-	11.6	-
2住-4	75	甕	浅黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤	口縁部	2/8	-	15.2	-
2住-5	75	埴	にぶい橙色	橙色	赤・黒	口縁～胴部	2/8	6.0	11.4	3.8
2住-6	75	壺	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白色・茶・金・黒光・透明	口縁～胴部	3/8	-	11.0	-
2住-7	75	甕	明黄褐色	にぶい黄橙色	白・黒・赤	胴部	1/8	-	-	-
2住-8	75	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・金色	脚部	1/8	-	-	-
2住-9	75	S字甕	橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・金色・黒	脚部	8/8	-	-	9.6
2住-10	75	壺	浅黄橙色	浅黄橙色	白・赤・黒・金色	頸部	-	-	-	-
2住-11	75	ミニチュア	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・金色・黒	完形	8/8	4.4	3.2	2.2
2住-12	75	ミニチュア	灰黄色	橙色	黒・赤・白	胴部～底部	3/8	-	-	4.5
2住-13	75	ミニチュア	黒褐色	灰黄色	乳白色・透 明・赤・金色・黒光	底部	3/8	-	-	3.6
2住-14	75	壺	橙色	橙色	白・黒・赤・金色	頸部	-	-	-	-
2住-15	76	甕	浅黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・赤・黒・金色・黒光	胴部～底部	1/8	-	-	5.0
2住B-1	76	甕	浅黄橙色	浅黄橙色	乳白色・白・金・黒・赤	口縁部	2/8	-	20.6	-
2住B-2	76	S字甕	橙色	黒褐色	白・黒・金色・赤	口縁部	5/8	-	16.8	-
2住B-3	76	器台	黒褐色	明赤褐色	白・赤・黒・金色	脚部	1/8	-	-	-
2住B-4	76	甕	にぶい黄褐色	褐色	白・透明・黒・赤・金色	胴部	1/8	-	-	-
2住1-1	76	三連S字甕	浅黄橙色	浅黄橙色	白・赤・金色・黒	胴部	7/8	-	-	-
2住1-2	76	器台	浅黄橙色	浅黄橙色	白・黒・赤・金色	脚部	3/8	-	-	-
3住-1	76	S字甕	明赤褐色	明赤褐色	白・金色・赤	口縁～脚部	6/8	-	17.0	-
3住-2	76	台付小型甕	赤褐色	橙色	白・黒・赤・金色	口縁～脚部	5/8	14.3	11.2	6.3
3住-3	76	S字甕	橙色	橙色	白・乳白色・黒・黒光・金色・赤	口縁部	5/8	-	12.4	-
3住-4	76	器台	橙色	橙色	赤・白・黒	口縁部	1/8	-	16.0	-
3住-5	76	壺	橙色	にぶい橙色	乳白色・赤・透 明・金色・黒光	底部～胴部	3/8	-	-	9.6
3住-6	77	壺	黒褐色	にぶい黄橙色	金色・白・赤	完形	8/8	25.5	15.7	8.0
4住-1	77	坏	橙色	橙色	白・赤・黒	口縁～底部	6/8	4.0	12.0	6.0
4住-2	77	羽釜	明赤褐色	明赤褐色	金色・白・黒・赤	口縁部	1/8	-	27.5	-
4住-3	77	坏	黒褐色	黒褐色	白・黒・黒光	口縁～底部	2/8	4.4	14.2	6.5
5住-2	77	壺	にぶい褐色	にぶい黄褐色	乳白色・金色・黒光・赤	口縁部	1/8	-	19.0	-
5住-3	77	壺	暗灰黄色	にぶい褐色	乳白色・透 明	底部	8/8	-	-	3.0
7住-1	77	甕	黄灰色	黄灰色	白・乳白色・黒光・赤・金色	底部	1/8	-	-	7.0
7住-2	77	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・黒光・赤	口縁～脚部	4/8	8.5	10.8	6.8
7住-3	77	壺	にぶい褐色	灰褐色	金色・乳白色・黒光・透 明	胴部	1/8	-	-	-
7住-4	78	台付甕	灰黄褐色	にぶい黄橙色	赤・白・黒光	口縁～脚部	4/8	19.2	14.7	8.0
7住1-1	78	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・透 明・乳白色	口縁～胴部	4/8	-	13.6	-
7住1-2	78	高坏	明黄褐色	明黄褐色	黒・白・茶・金色	口縁～脚部	6/8	7.3	13.3	10.0
7住1-3	78	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・金色・黒光	口縁～脚部	3/8	5.8	9.4	5.6
7住1-4	78	高坏	明赤褐色	明赤褐色	乳白色・金色・透 明	脚部	1/8	-	-	12.5
7住1-5	78	甕	にぶい橙色	褐灰色	乳白色・白・黒光・赤・金色	底部	6/8	-	-	5.2
7住1-6	78	器台	にぶい橙色	にぶい橙色	白・乳白色・黒光・金色	器部	2/8	-	7.8	-
7住1-7	78	高坏	橙色	明褐色	乳白色・透 明・黒光	口縁～胴部	3/8	-	12.4	-
7住5-1	78	埴	橙色	橙色	白・黒・赤・乳白色・金色	口縁部	1/8	-	7.4	-
8住-1	78	S字甕	明黄褐色	明黄褐色	黑・赤・金色・白	口縁部	7/8	-	20.6	-
8住-2	78	S字甕	にぶい褐色	明褐色	白・黒・赤・金色	口縁～胴部	2/8	-	16.0	-
8住-3	78	S字甕	にぶい橙色	にぶい橙色	赤・黒・白・乳白色・金色	口縁部	7/8	-	13.2	-
8住-4	78	S字甕	橙色	橙色	白・金色・赤・黒	口縁部	8/8	-	18.0	-
8住-5	78	S字甕	橙色	橙色	黒・赤・白・乳白色・金色	口縁部	8/8	-	14.8	-
8住-6	78	S字甕	明黄褐色	橙色	白・黒・赤・金色・黒光	口縁部	5/8	-	19.2	-
8住-7	78	S字甕	にぶい黄褐色	黄褐色	金色・黒光・白・赤	口縁部	7/8	-	15.2	-
8住-8	79	S字甕	橙色	橙色	金色・白・赤・黒	胴部	2/8	-	-	-
8住-9	79	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・金色・黒	口縁部	3/8	-	12.5	-
8住-10	79	甕	橙色	橙色	白・金色・黒光・黒・赤	胴部	3/8	-	-	5.4
8住-11	79	S字甕	橙色	黒褐色	白・乳白色・黒光・金色・赤	口縁部	2/8	-	13.4	-
8住-12	79	S字甕	明赤褐色	明赤褐色	金色・黒・乳白色	口縁～胴部	2/8	-	10.8	-

報告No.	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土	部位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時期	備考
8住-13	79	壺	にぶい黄橙色	橙色	白・乳白色・黒・赤	底部	8/8	- - 6.9	古墳	内面撫で／外面底部外周撫で
8住-14	79	高坏	橙色	橙色	白・赤・黒	坏部	7/8	- 10.8	古墳	内面磨き／外面磨き・坏下部ヘラ削り
8住-15	79	壺	にぶい黄橙色	明黄褐色	黒・白・赤	口縁部	3/8	- 13.4	古墳	内面横刷毛／外面縦刷毛
8住-16	79	小型台付甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・黒・金色	口縁～胴部	7/8	- 8.2	古墳	内面口縁横刷毛・ヘラ撫で／外面縦刷毛後横刷毛
8住-17	79	壺	橙色	明赤褐色	白・金色・赤・黒	口縁部	1/8	- 16.0	古墳	内外面ともに撫で
8住-18	79	壺	橙色	橙色	白・黒・金色・赤	口縁部	1/8	- 16.0	古墳	外面口唇部に櫛歯状工具による刺突文
8住-19	79	高坏	橙色	橙色	金色・赤・白	口縁部	1/8	- 20.1	古墳	内外面撫で後斜め磨き
10住-1	79	S字甕	橙色	橙色	金色・白・黒・赤	口縁～胴部	6/8	- 14.5	古墳	口縁横刷で／内面上部指頭による縦撫で・下部横刷で・刷毛撫で／外面肩部横刷毛・胴部縦刷毛
10住-2	79	高坏	橙色	褐色	金色・白・赤	口縁～胴部	2/8	- 14.1	古墳	内外面ともに磨滅により不鮮明
10住-3	79	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・黒・赤	口縁部	2/8	- 9.0	古墳	内面刷毛・頸部横撫で／外面刷毛後撫で・頸部刷毛
10住-4	79	小型甕	黄橙色	黄橙色	赤・白・金色・黒	口縁～底部	3/8	6.0 8.4 3.4	古墳	内面口縁部刷毛後横撫で・胴部撫で／外面口縁部横撫で・頸部縦刷毛後撫で・胴部刷毛後撫で
10住-5	80	台付甕	にぶい黄色	浅黄色	白・黒・赤・金色	胴部		- - -	古墳	内面ヘラ撫で／外面刷毛
10住-6	80	S字甕	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤・金色	口縁部		- - -	古墳	外面刷毛
10住-7	80	高坏	橙色	橙色	黒・赤	脚部	4/8	- - 16.2	古墳	内外面丁寧な磨き・脚部に3単位の円孔有り
10住-8	80	台付甕	橙色	橙色	白・赤・金色・黒	脚部	3/8	- - 10.1	古墳	内面刷毛後撫で／外面刷毛後磨き
10住-9	80	壺	明褐色	暗褐色	白・黒・赤	胴部		- - -	古墳	内面横刷毛／外面刷毛・ボタン状貼付文
10住-10	80	壺	明黄褐色	橙色	白・黒・赤・金色	口縁部		- - -	古墳	口唇部櫛歯状工具による刺突文／内面横刷毛／外面刷毛
11住-1	80	甕	明褐色	黒色	赤・黒・透明・白	口縁部	2/8	- 18.6	古墳	内面刷毛／外面刷毛・撫で
11住-2	80	S字甕	橙色	橙色	白・金色・赤・黒	口縁～胴部		- - -	古墳	内面指頭痕／外面斜め刷毛後縦刷毛
12住-1	80	S字甕	赤褐色	黒褐色	白・黒・赤・金色	口縁～胴部	4/8	- 13.8	古墳	内面指頭痕／外面縦刷毛後横刷毛
12住-2	80	S字甕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒・白・金色・乳白色	口縁部	2/8	- 14.8	古墳	内面指頭痕・輪積み痕／外面口縁部横撫で・胴部刷毛
12住-3	80	甕	灰黄褐色	にぶい黄橙色	白・赤・金色	口縁部	2/8	- 22.8	古墳	内面丁寧な磨き／外面撫で後粗い磨き
12住-4	80	壺	橙色	橙色	赤・白・金色	口縁部	2/8	- 16.2	古墳	内面撫で磨滅により不鮮明／外面口縁撫で・頸部磨き
12住-5	80	壺	赤色	にぶい橙色	白・金色・赤・黒	口縁部	1/8	- 17.1	古墳	内面磨き・赤彩／外面横撫で
12住-6	80	台付甕	橙色	にぶい橙色	白・黒光・金色	脚部	8/8	- - 9.0	古墳	内面指頭痕・縦刷毛／外面斜め刷毛
12住-7	80	甕	浅黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒光・黒・赤・金色	脚部	4/8	- - -	古墳	内面指頭痕・横刷毛／外面縦刷毛後横刷毛
12住-8	80	壺	橙色	にぶい橙色	金色・白・赤	口縁	3/8	- - -	古墳	内面横刷毛／外面口縁横刷毛・頸部縦刷毛
12住-9	80	台付甕	にぶい黄橙色	明黄褐色	黒光・白・金色	脚部	8/8	- - 7.0	古墳	内面斜め刷毛／外面縦刷毛
12住-10	80	台付甕	橙色	橙色	金色・白・赤	脚部	7/8	- - 7.0	古墳	内面指撫で／外面撫で・上部刷毛・底部折り返し
12住-11	81	器台	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	黒・金色・白・赤	口縁～脚部	3/8	- 9.8	古墳	内面磨き・ヘラ削り・刷毛／外面磨き
12住-12	81	高坏	橙色	橙色	金色・赤・白	脚部	4/8	- - 8.6	古墳	内面削り・下部横撫で／外面丁寧な縦磨き
12住-13	81	ヒサゴ壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・赤・黒	口縁部	8/8	- 6.7	古墳	内面縦方向の磨き／外面刷毛・縦磨き
12住-14	81	小型壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤	胴部		- - -	古墳	内面ヘラ撫で／外面磨き
12住-15	81	ヒサゴ壺	にぶい黄橙色	明黄褐色	白・黒・赤・金色	口縁部		- - -	古墳	内面ヘラ磨き／外面磨き
12住-16	81	埴	黒褐色	にぶい黄褐色	金色・白・赤	口縁～胴部	2/8	- 9.9	古墳	内面口縁横撫で・胴部刷毛撫で／外面丁寧な磨き
12住-18	81	紡錘車	褐灰色		白・黒・赤	ほぼ完形		- - -	古墳	表面は磨かれているようだが不鮮明（縦3.0cm横2.7cm厚み7.0cm）
12住-19	80	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒光・金色・赤	口縁部	5/8	- 14.9	古墳	口唇部櫛歯状工具による刺突文／内面口縁部刷毛後円形刺突文・頸部細かい刷毛／外面口縁部刷毛後撫で・頸部細かい刷毛
13住-1	81	甕	にぶい橙色	灰褐色	金色・黒光・赤・白	口縁部	1/8	- 16.8	古墳	内面口縁横撫で・肩部刷毛撫で／外面口縁刷毛後横撫で・肩部刷毛
13住-2	81	壺？	橙色	にぶい褐色	白・乳白色・赤・黒	口縁部	1/8	- 12.6	古墳	内面横刷毛／外面縦刷毛
13住-3	81	壺	橙色	橙色	黒・黒光・赤・白	口縁部	1/8	- 17.6	古墳	外面口縁横刷毛
13住-4	81	小型壺	黒褐色	にぶい橙色	金色・赤・白	底部	4/8	- - 5.0	古墳	内面指撫で・内面黒色土器／外面削り後磨き
14住-1	81	S字甕	橙色	明赤褐色	白・黒・赤・黒光・金色	胴部	1/8	- - -	古墳	外面刷毛
14住-2	81	壺	橙色	橙色	金色・黒光・白・赤・黒	口縁部	3/8	- 18.6	古墳	内外横撫で／外面口唇部に櫛歯状工具による刺突文
14住-3	81	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤・金色	肩部破		- - -	古墳	内面上部に指頭痕・下部磨き／外面上部に櫛歯状工具による波状文と簾状文・下部に磨き有り
14住-4	81	甕	灰黄褐色	にぶい黄橙色	白・乳白色・・金色	底部	2/8	- - 10.0	古墳	内面横刷毛／外面縦刷毛
15住-1	81	壺	にぶい褐色	黒褐色	金色・白・赤	口縁部	2/8	- 17.2	古墳	内面横撫で／外面横撫で・頸部刷毛と櫛歯状工具による刺突文
15住-2	81	甕	明黄褐色	橙色	白・金色・黒・黒光・乳白色	口縁部	1/8	- 20.8	古墳	内面口縁上半横撫で・口縁下半～肩部刷毛後横撫で／外面口縁上半横撫で・口縁下半～頸部刷毛後横撫で・胴部縦刷毛
16住-1	82	S字甕	にぶい黄褐色	灰黄褐色	金色・黒・白・赤	口縁部	1/8	- 13.6	古墳	内面横撫で・指頭痕／外面横撫で・刷毛
16住-2	82	S字甕	にぶい黄橙色	褐灰色	黒・白・赤	口縁部	1/8	- 15.0	古墳	内面撫で・刷毛／外面横撫で・刷毛
16住-3	82	甕	橙色	にぶい橙色	白・黒・赤	口縁部	1/8	- 16.2	古墳	口唇部刻み／内面横刷毛／外面斜め刷毛
16住-4	82	器台	明黄褐色	明黄褐色	黒・白・赤・金色	口縁部	1/8	- 18.0	古墳	外面磨き
16住-5	82	甕	にぶい黄橙色	灰黄褐色	黒・白・赤	底部	4/8	- - 4.0	古墳	内面横撫で・刷毛／外面刷毛／底部に直径約1cmの穿孔有り
16住-6	82	高坏	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・黒・金色・赤	脚部	4/8	- - 10.4	古墳	内面撫で・横刷毛／外面横撫で・縦刷毛・撫で／脚部に3単位の円孔有り
16住-7	82	粘土	黄灰色		白・黒・金色			- - -		
16住-8	82	小型甕	にぶい黄褐色	黒褐色	黒・白	底部	8/8	- - 3.8	古墳	内面頸部横撫で・胴部～底部刷毛／外面頸部横撫で・胴部刷毛
12住-9	80	台付甕	にぶい黄橙色	明黄褐色	黒光・白・金色	脚部	8/8	- - 7.0	古墳	内面斜め刷毛／外面縦刷毛
12住-10	80	台付甕	橙色	橙色	金色・白・赤	脚部	7/8	- - 7.0	古墳	内面指撫で／外面撫で・上部刷毛・底部折り返し
12住-11	81	器台	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	黒・金色・白・赤	口縁～脚部	3/8	- 9.8	古墳	内面磨き・ヘラ削り・刷毛／外面磨き
12住-12	81	高坏	橙色	橙色	金色・赤・白	脚部	4/8	- - 8.6	古墳	内面削り・下部横撫で／外面丁寧な縦磨き
12住-13	81	ヒサゴ壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・赤・黒	口縁部	8/8	- 6.7	古墳	内面縦方向の磨き／外面刷毛・縦磨き
12住-14	81	小型甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤	胴部		- - -	古墳	内面ヘラ撫で／外面磨き
12住-15	81	ヒサゴ壺	にぶい黄橙色	明黄褐色	白・黒・赤・金色	口縁部		- - -	古墳	内面ヘラ磨き／外面磨き
12住-16	81	埴	黒褐色	にぶい黄褐色	金色・白・赤	口縁～胴部	2/8	- 9.9	古墳	内面口縁横撫で・胴部刷毛撫で／外面丁寧な磨き
12住-18	81	紡錘車	褐灰色		白・黒・赤	ほぼ完形		- - -	古墳	表面は磨かれているようだが不鮮明（縦3.0cm横2.7cm厚み7.0cm）
12住-19	80	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒光・金色・赤	口縁部	5/8	- 14.9	古墳	口唇部櫛歯状工具による刺突文／内面口縁部刷毛後円形刺突文・頸部細かい刷毛／外面口縁部刷毛後撫で・頸部細かい刷毛
13住-1	81	甕	にぶい橙色	灰褐色	金色・黒光・赤・白	口縁部	1/8	- 16.8	古墳	内面口縁横撫で・肩部指頭痕／外面口縁刷毛後横撫で・肩部刷毛
13住-2	81	甕？	橙色	にぶい褐色	白・乳白色・赤・黒	口縁部	1/8	- 12.6	古墳	内面横刷毛／外面縦刷毛
13住-3	81	壺	橙色	橙色	黒・黒光・赤・白	口縁部	1/8	- 17.6	古墳	外面口縁横刷毛
13住-4	81	小型甕	黒褐色	にぶい橙色	金色・赤・白	底部	4/8	- - 5.0	古墳	内面指撫で・内面黒色土器／外面削り後磨き
14住-1	81	S字甕	橙色	明赤褐色	白・黒・赤・黒光・金色	胴部	1/8	- - -	古墳	外面刷毛
14住-2	81	壺	橙色	橙色	金色・黒光・白・赤・黒	口縁部	3/8	- 18.6	古墳	内外横撫で／外面口唇部に櫛歯状工具による刺突文
14住-3	81	壺	にぶい黄橙色	明黄褐色	黒・白・赤・金色	肩部		- - -	古墳	内面上部に波状文と簾状文・下部に磨き有り
14住-4	81	小型甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	金色・赤・白	底部	4/8	- - 5.0	古墳	内面指撫で・内面黑色土器／外面削り後磨き
14住-5	81	S字甕	橙色	明赤褐色	白・黒・赤・黒光・金色	胴部	1/8	- - -	古墳	外面刷毛

報告No	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土	部位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時期	備考
14住-2	81	壺	橙色	橙色	金色・黒光・白・赤・黒	口縁部	3/8	- 18.6 -	古墳	内外横撫で・外面口唇部に櫛齒状工具による刺突文
14住-3	81	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤・金色	肩部破	- - -	-	古墳	内面上部に指頭痕・下部磨き／外面上部に櫛齒状工具による波状文と簾状文・下部に磨き有り
14住-4	81	甕	灰黄褐色	にぶい黄橙色	白・乳白色・金色・赤・黒	底部	2/8	- - 10.0	古墳	内面横刷毛／外面縦刷毛
15住-1	81	壺	にぶい褐色	黒褐色	金色・白・赤	口縁部	2/8	- 17.2 -	古墳	内面横撫で・外面横撫で・頸部刷毛と櫛齒状工具による刺突文
15住-2	81	甕	明黄褐色	橙色	白・金色・黒・黒光・乳白色	口縁部	1/8	- 20.8 -	古墳	内面口縁上半横撫で・口縁下半～肩部刷毛後横撫で／外面口縁上半横撫で・口縁下半～頸部刷毛後横撫で・胴部綱刷毛
16住-1	82	S字甕	にぶい黄褐色	灰黄褐色	金色・黒・白・赤	口縁部	1/8	- 13.6 -	古墳	内面横撫で・指頭痕／外面横撫で・刷毛
16住-2	82	S字甕	にぶい黄橙色	褐褐色	白・黒・赤	口縁部	1/8	- 15.0 -	古墳	内面撫で・刷毛／外面横撫で・刷毛
16住-3	82	甕	橙色	にぶい橙色	白・黒・赤	口縁部	1/8	- 16.2 -	古墳	口唇部刻み／内面横刷毛／外面斜め刷毛
16住-4	82	器台	明黄褐色	明黄褐色	黒・白・赤・金色	口縁部	1/8	- 18.0 -	古墳	外面上磨き
16住-5	82	甕	にぶい黄橙色	灰黄褐色	黒・白・赤	底部	4/8	- - 4.0	古墳	内面横撫で・刷毛／外面刷毛／底部に直径約1cmの穿孔有り
16住-6	82	高坏	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・黒・金色・赤	脚部	4/8	- - 10.4	古墳	内面撫で・横刷毛／外面横撫で・縦刷毛・撫で／脚部に3単位の円孔文有り
16住-7	82	粘土	黄灰色		白・黒・金色		- -			
16住-8	82	小型甕	にぶい黄褐色	黒褐色	黒・白	底部	8/8	- - 3.8	古墳	内面頸部横撫で・胴部～底部刷毛／外面頸部横撫で・胴部刷毛
16住-9	82	土壁?	にぶい赤褐色		白・黒・赤・金色		- -			
16住-10	82	ミニチュア	にぶい黄褐色	にぶい褐色	黒・白	口縁～底部	1/8	2.2 2.6 2.6	古墳	手捏土器／内外ともに指頭痕
16住-13	82	土偶	にぶい褐色		黒・白・金色・赤	手	- -	-		
17住-1	82	S字甕	褐色	褐色	白・黒・赤	口縁部	1/8	- 20.0 -	古墳	内面口縁部撫で・頸部指頭痕／外面口縁部撫で・肩部刷毛
17住-2	82	埴	にぶい橙色	にぶい橙色	白・赤・金色	完形	8/8	9.1 7.0 3.4	古墳	内面頸部横刷毛・胴下部斜め刷毛／外面頸部・胴下部綱刷毛・中位横刷毛・口縁横撫で
17住-3	82	壺	橙色	灰黄褐色	白・黒・赤	口縁部	2/8	- 14.4 -	古墳	内面撫で・刷毛／外面口縁部刷毛後刻み・刷毛
17住-4	82	壺	褐色	黒褐色	金色・白・黒	口縁部	1/8	- 13.4 -	古墳	内面刷毛後撫で／外面口縁部撫で・刷毛
17住-5	82	ヒサゴ壺	にぶい橙色	にぶい橙色	白・赤・金色・黒	口縁部～胴部	4/8	- 6.8 -	古墳	内面刷毛・撫で／外面刷毛・口縁部撫で
17住-6	82	壺	褐灰色	褐灰色	白・金色・赤・黒	胴部	3/8	- -	古墳	内面指頭痕・撫で／外面磨き・撫で
17住-7	82	台付甕	褐灰色	褐灰色	白・金色・黒	口縁部～底部	3/8	17.0 13.0 6.6	古墳	内面横刷毛・指頭痕／外面口縁横撫で・胴部縦刷毛・脚部横撫で
17住-8	82	壺	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤	脚部	3/8	- - 9.2	古墳	内面磨き／外面刷毛後撫で
17住-1-1	82	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・黒・金色	口縁～胴部	3/8	- 15.8 -	古墳	内面横撫で・口縁部刷毛後撫で／外面胴上半・下半綱刷毛・胴中位横刷毛・口縁部横撫で
18住-1	83	S字甕	にぶい黄褐色	褐灰色	黒・白・金色・赤	口縁部	1/8	- 17.0 -	古墳	内面横削り／外面刷毛・横撫で
18住-2	83	甕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤・金色	底部	5/8	- -	5.2	古墳 内面輪積み痕・ヘラ削り／外面刷毛・ヘラ撫で削り
18住-3	83	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・赤・白・金色	底部	6/8	- -	7.4	古墳 内面輪積み痕・ヘラ削り／外面刷毛・磨き
18住-4	83	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・金色・白・赤	胴部	- -	-	古墳	内面横刷毛／外面縦・横刷毛
20住-1	83	S字甕	灰黄褐色	にぶい褐色	白・黒・赤・金色	口縁部	2/8	- 11.6 -	古墳	内面横撫で・ヘラ削り・指頭痕／外面横撫で・縦刷毛
20住-2	83	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・赤・白・金色	口縁部	- -	-	古墳	内面横刷毛／外面横・斜め刷毛・撫で
20住-3	83	甕	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤	胴部	- -	-	古墳	内外ともに横撫で
20住-5	82	壺	暗灰黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・金色	口縁部	1/8	- 14.0 -	古墳	内面横刷毛／外面口縁部刷毛による押引き文
21住-1	83	壺	にぶい橙色	灰褐色	白・金色・黒・赤・黒光	口縁～胴部	6/8	- 15.0 -	古墳	内面口縁部横刷毛後撫で・頸部ヘラ撫で・肩部指頭痕／外面口縁部横撫で・頸部刷毛・胴部刷毛後磨き・穿孔有り
21住-2	83	高坏	灰黄褐色	灰褐色	白・金色・黒	脚部	4/8	- -	-	古墳 坏部～内面磨き／外面刷毛後撫で。脚部～内面刷毛・撫で／外面磨き
21住-3	83	甕	にぶい黄褐色	灰黄褐色	白・黒・金色	口縁部	1/8	- 11.6 -	古墳	内面撫で／外面頸部刷毛・撫で
21住-4	83	土壁?	にぶい褐色		白・黒・赤		- -	-		勘入りか？
21住-5	83	土壁?	橙色		白・黒・赤		- -	-		勘入りか？
23住-1	83	甕	暗灰褐色	にぶい黄橙色	白・金色・赤	口縁～底部	4/8	8.0 14.2 1.0	古墳	内面撫で・みこみ部削り／外面刷毛後撫で・底部穿孔有り／内外ともに雑な調整
23住-2	83	甕	黒褐色	黒褐色	金色・白・赤	口縁部	1/8	- 16.3 -	古墳	内面横磨き／外面撫で
24住-1	83	S字甕	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	白・金色・赤	口縁部	2/8	- 19.8 -	古墳	口縁内外横撫で／内面頸部横削り・肩部指頭痕／外面縦・横刷毛
24住-2	83	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・赤	底部	4/8	- -	6.7	古墳 内面横刷毛／外面ヘラ撫で
24住-3	83	器台	橙色	橙色	赤・白・金色	胴部	1/8	- -	-	古墳 内面僅かに縦方向磨きが見られる／外面磨滅により不鮮明
26住-1	84	壺	にぶい黄橙色	灰黄褐色	金色・白・赤・黒	頸部	4/8	- -	-	古墳 内面頸部横刷毛・肩部巾広刷毛／外面頸部細かい刷毛・胴部近く僅かな削り
26住-2	84	S字甕	にぶい褐色	にぶい黄褐色	金色・白・赤	口縁部	1/8	- 12.5 -	-	古墳 口縁横撫で／内面頸部ヘラ削り・胴部撫で／外面刷毛
26住1-1	84	高坏	橙色	橙色	白・金色・透明・赤	坏部	8/8	- 12.5 -	-	古墳 内面磨滅により不鮮明／外面ヘラ削り後磨き
26住1-2	84	高坏	橙色	橙色	白・金色・赤	脚部	2/8	- -	15.4	古墳 内面撫で／外面撫で後縦磨き
28住-1	84	壺	にぶい褐色	褐色	白・赤・黒・黒光	胴部	- -	-	-	古墳 内面指頭痕／外面肩部に櫛齒状工具による波状文
28住-2	84	高台坏	橙色	橙色	赤・白・金色	胴部	- -	-	-	古墳 内外丁寧な磨き
28住-3	84	甕	にぶい黄橙色	赤褐色	白・赤・黒・黒光	胴部～底部	- -	-	-	古墳 内面横刷毛／外面縦刷毛／底部に穿孔有り
28住-4	84	ミニチュア	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・金色・黒光	口縁～底部	2/8	- -	-	古墳 内面横撫で／外面頸部刷毛・胴部縦磨き
29住-1	84	壺	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・金色・赤・黒	口縁部	2/8	- 14.0 -	-	古墳 内面口縁刷毛後撫で・肩部指撫で／外面縦細かい刷毛後撫で・細かい刷毛・肩部はその上に磨きが入る
29住-2	84	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・赤	脚部片	2/8	- -	15.4	古墳 内面撫で／外面細かい磨き
29住ビ-1	84	小型壺	灰黄褐色	灰黄褐色	白・赤・金色・黒	ほぼ完形	8/8	9.6 8.1 3.3	古墳 口縁内外横撫で／内面頸部指頭後撫で・上部撫で・下部刷毛後撫で／外面刷毛後磨き	
31住-1	84	壺	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤・金色	口縁部	8/8	- 28.8 -	-	古墳 内面縦・横位の磨き／外面櫛齒状工具による刺突文・磨き
31住-2	84	器台	明褐色	褐色	白・赤・黒	器受部	-	8.8 -	-	古墳 内面磨き／外面磨き
31住-3	84	壺	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	白・金色・黒・赤	口縁部	-	23.4 -	-	古墳 内面刷毛／外面折り返し口縁・刷毛
31住-4	84	壺	明赤褐色	橙色	白・赤・黒光・黒	胴部	1/8	- -	-	古墳 内面横位の指撫で・横刷毛／外面刷毛
31住-5	84	高坏	橙色	橙色	白・赤・黒・金色	脚部	- -	-	18.8	古墳 内面ヘラ削り／外面磨き
31住-6	84	高坏	橙色	橙色	赤・白・黒	脚部	- -	-	16.8	古墳 内面ヘラ撫で／外面磨き
31住1-1	84	ヒサゴ壺	橙色	黄橙色	白・赤・黒光	口縁部	-	8.9 -	-	古墳 内外面磨き
32住-1	85	有段付壺	灰褐色	明赤褐色	白・赤・黒・金色	口縁部	1/8	- 19.1 -	-	古墳 内外面磨き／外面口縁部櫛齒状工具による連続刺突文
32住-2	85	壺	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・赤・金色	口縁部	4/8	- 13.8 -	-	古墳 内面横刷毛・輪積み・指頭痕有り／外面縦刷毛
32住-3	85	ミニチュア	にぶい黄色	浅黄橙色	黒・白・赤	底部	8/8	- -	2.8	古墳 内面横撫で・指頭痕／外面縦撫で
32住-4	85	碗	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤	完形	8/8	5.0 10.4 2.3	古墳 内面縦方向のヘラ痕・横磨き／外面斜方向の刷毛痕・横磨き	
33住-1	85	S字甕	にぶい黄橙色	橙色	赤・金色・白・黒	口縁部	1/8	- 12.4 -	-	古墳 内外口縁横撫で／内面頸部削り・胴部撫で／外面刷毛

報告No.	國版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土	部位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時期	備考
33住-2	85	高坏	明黄褐色	にぶい黄褐色	白・金色・赤	口縁部	2/8	-	7.4	-
34住-1	86	S字甕	橙色	橙色	白・金色・赤	口縁部	2/8	-	9.8	-
34住1-1	85	壺	明黄褐色	橙色	白・乳白色・赤・金色	口縁～胴部	4/8	-	23.4	-
34住1-2	85	S字甕	にぶい橙色	にぶい橙色	白・金色・赤・黒	脚部	3/8	-	-	10.4
34住ビ1-1	86	S字甕	にぶい黄褐色	黒褐色	金色・白・赤	口縁～胴部	3/8	-	15.3	-
36住-1	86	不明	にぶい橙色	橙色	白・乳白色・黒・赤	底部	8/8	-	-	2.7
36住-2	86	器台	黃橙色	橙色	黒・白・赤	器受部	2/8	-	9.8	-
36住-3	86	ミニチュア	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・黒・赤・金	底部	8/8	-	-	2.2
36住-4	86	高坏	橙色	橙色	白・黒・金色・赤	脚部	2/8	-	-	15.0
36住-5	86	台付甕	明赤褐色	灰黄褐色	白・黒・乳白色	脚部	8/8	-	-	9.0
36住-6	86	壺	橙色	橙色	白・乳白色・黒光・金	口縁部	1/8	-	29.4	-
36住2-1	86	小型壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・金・赤	底部	8/8	-	-	3.0
37住-1	86	甕	にぶい橙色	褐灰色	白・黒・赤	胴部	1/8	-	-	-
37住-2	86	S字甕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤・金色	口縁部	2/8	-	12.4	-
37住-3	86	高坏	橙色	橙色	白・赤・金色	脚部	2/8	-	-	-
37住-4	86	高坏	明黄褐色	明黄褐色	黒・白・赤	底部	1/8	-	-	14.4
37住-5	86	高坏	にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・赤	脚部	1/8	-	-	14.0
37住-6	86	ヒサゴ壺	灰褐色	褐灰色	白・赤	口縁部	2/8	-	10.0	-
37住-7	86	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・金色・赤	脚部	7/8	-	-	19.6
37住-8	86	小壺	浅黄色	浅黄色	白・黒・赤	底部	4/8	-	-	4.4
37住-9	86	器台	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤	器受部	1/8	-	10.0	-
37住-11	87	S字甕	にぶい褐色	にぶい橙色	白・黒・赤・金色	口縁部	2/8	-	14.4	-
37住1-1	86	高坏	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	赤・黒・白	脚部	1/8	-	-	22.0
38住-1	87	高坏	にぶい黄橙色	にぶい褐色	白・黒・赤・金色	口縁～脚部	3/8	-	22.0	-
38住-2	87	台付甕	にぶい褐色	灰褐色	白・黒・赤	胴部	2/8	-	-	-
38住-3	87	高坏	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・赤	坏部	2/8	-	7.0	-
38住-5	87	壺	にぶい黄橙色	暗灰黄色	白・黒・金色	口縁部	6/8	-	14.4	-
38住-6	87	壺	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	白・黒・金色・赤	口縁部	1/8	-	12.4	-
38住-7	87	台付甕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・金色	脚部	3/8	-	-	8.8
38住-8	87	壺	にぶい黄橙色	黒褐色	白・赤・金色	肩部	1/8	-	-	-
38住-9	87	甕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	黒・白・赤	口縁部	1/8	-	12.0	-
38住1-1	87	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤・金色	完形	8/8	17.9	10.2	4.6
38住1-2	87	甕	灰黄褐色	褐灰色	白・金色・黒	胴部	1/8	-	-	-
38住1-3	87	甕	灰褐色	黒褐色	金色・白・黒・赤	胴部	1/8	-	-	-
38住1-4	87	壺	橙色	橙色	白・赤・黒・金色	底部	8/8	-	-	8.0
38住2-1	87	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤・金色	口縁～肩部	8/8	-	13.7	-
38住2-2	87	器台	にぶい黄橙色	明黄褐色	白・金色・黒・赤・黒光	口縁～脚部	5/8	8.0	9.7	13.4
38住2-3	87	壺	にぶい黄橙色	浅黄橙色	白・赤・黒・金色	口縁部	3/8	-	12.8	-
38住3-1	87	小型鉢	にぶい褐色	橙色	白・黒・赤	底部	8/8	-	-	3.9
39住-1	88	壺	黑色	黒褐色	白・赤・金色	口縁部	2/8	-	17.0	-
39住-2	88	S字甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤	口縁部	1/8	-	14.8	-
41住-1	88	坏	橙色	橙色	赤・黒・金色	底部	2/8	-	-	4.8
41住-2	88	皿	橙色	橙色	赤・金色・黒	口縁～底部	3/8	2.0	13.6	5.3
41住-3	88	甕	明赤褐色	明赤褐色	金色・白・黒・赤	口縁	1/8	-	27.3	-
41住-4	88	甕	明褐色	褐色	金色・白・黒	口縁	1/8	-	26.1	-
E6土1-1	88	S字甕	にぶい黄橙色～黒褐色	灰褐色	白・金色	口縁部	3/8	-	17.0	-
E6土1-2	88	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	金色・赤・白	口縁部	1/8	-	15.8	-
E6土1-3	88	S字甕	橙色	橙色	金色・黒光・白	脚部	4/8	-	-	13.0
E6土1-4	88	S字甕	橙色・脚部灰褐色	橙色・脚部灰褐色	白・金色・黒	脚部	8/8	-	-	6.8
E6土1-5	88	培	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・黒・金色	口縁～胴部	2/8	-	9.2	-
F6土1-1	88	器台	明褐色	明褐色	白・赤・金色	器部～脚部	3/8	-	8.2	-
G11ビ1-1	88	甕	灰黄褐色	黒褐色	白・赤・黒・金色・黒光	口縁～胴部	2/8	-	17.0	-
H17土1-1	88	深鉢	橙色	灰黄褐色	白・金色・赤・黒	口縁部	1/8	-	-	-
H17土1-2	88	深鉢	にぶい黄橙色	褐灰色	白・乳白色・金色・赤	胴部	1/8	-	-	-
H17土2-1	88	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	金色・白・乳白色・赤・黒	口縁部	1/8	-	-	-
H17土2-2	88	深鉢	にぶい黄褐色	褐灰色	白・金色・赤・黒	胴部	1/8	-	-	-
K21土1-1	89	深鉢	にぶい赤褐色～部褐灰色	にぶい赤褐色～部褐灰色	赤・白・黒	口縁部	2/8	-	36.0	-
K21土1-2	89	深鉢	にぶい褐色～灰褐色	にぶい褐色～灰褐色	白・金色・乳白色・黒・赤	口縁部	2/8	-	44.0	-
H17土1-1	90	深鉢	にぶい黄褐色	灰黄褐色	白・金色・黒光・赤	口縁部	1/8	-	-	-
I21ビ3-1	90	壺	赤色	赤色	白・黒・金色	口縁部	1/8	-	23.1	-
J26土1-1	90	S字甕	橙色	明黄褐色	白・黒・赤・金色・黒光	口縁部	1/8	-	14.6	-

報告No	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎 土	部 位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時 期	備 考
K25土1-1	90	壺	橙色	明赤褐色	白・金色・黒・赤	頸部	3/8	- - -	-	古墳時代 内・外面磨き
K34土1-1	90	深鉢	黒褐色	灰褐色~赤褐色	白・黒・赤・金色	完形	8/8	29.8 24.5	7.0	曾利後半 外面沈線→刺突文、補修孔あり
L30土1-1	90	深鉢	にぶい黄橙色	黒褐色	白・金色・赤	口縁部	1/8	- - -	-	加曾利 E4 内面磨き状撫で／外面口縁部磨き状撫で、胴部単節縄文
L30土1-2	90	深鉢	明赤褐色	黒褐色	白・金色・赤	胴部	1/8	- - -	-	加曾利 E4 内面磨き状撫で／單節縄文→竹管外皮による沈線文
L31土1-1	90	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・赤・乳白色・金色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 終末 内面撫で／外面单節縄文→半截竹管内皮による沈線文
L33土1-1	90	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・金色・黒・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面单節縄文→縄文→半截竹管内皮による沈線文
L33土1-2	90	深鉢	黒褐色	にぶい黄橙色~黒褐色	白・金色・赤・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面無節縄文→沈線
M32ビ1-1	90	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	乳白色・赤・白・黒・金色	胴部	1/8	- - -	-	縄文中期 後半(大木) 内面磨き状撫で／外面撫で→無節縄文→竹管外皮による沈線文
早・前-1	92	深鉢	褐色	にぶい褐色	白・金色・黒・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面撫で／外面押型文
早・前-2	92	深鉢	明褐色	明褐色	白・黒・赤・乳白色	口縁部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面撫で／外面貝殻条痕文
早・前-3	92	深鉢	にぶい赤褐色	黒褐色	白・金色・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面撫で／外面横撫で→貝殻刺突文
早・前-4	92	深鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	金色・白・黒・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面撫で／外面貝殻条痕文
早・前-5	92	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・赤	底部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面剥離／外面撫で
早・前-6	92	深鉢	明褐色	黄橙色	白・金色・赤・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文早期 内・外面貝殻条痕文
早・前-7	92	深鉢	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・金色・赤	口縁部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面横撫で／外面貝殻条痕文
早・前-8	92	深鉢	黒褐色	にぶい黄橙色	黒・白・乳白色・黒光・赤	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面無節縄文、繊維やや含む
早・前-9	92	深鉢	明赤褐色	にぶい赤褐色	乳白色・黒・白	底部	8/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面無節縄文、繊維多く含む
早・前-10	92	深鉢	黒褐色	明赤褐色	白・金色・赤・黒	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面横撫で／外面無節縄文、繊維やや含む
早・前-11	92	深鉢	灰黄褐色	明黄褐色	白・金色・赤・黒光・乳白色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面磨き状横撫で／外面無節縄文、繊維やや含む
早・前-12	92	深鉢	赤褐色	赤褐色	金色・透明・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文早期 内面横撫で／外面撫で
早・前-13	92	深鉢	にぶい褐色	褐色	白・黒・金色・赤	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面無節縄文、繊維多く含む
早・前-14	92	深鉢	黒褐色	明褐色	白・金色・赤・黒	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面横撫で／外面無節縄文、繊維やや含む
早・前-15	92	深鉢	にぶい橙色	褐色	白・金色・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面横撫で／外面無節縄文、繊維やや含む
早・前-16	92	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・金色・赤・黒光・乳白色	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面横撫で／外面無節縄文、繊維なし
早・前-17	92	深鉢	にぶい赤褐色	赤褐色	透明・乳白色・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維やや含む
早・前-18	92	深鉢	明赤褐色	にぶい赤褐色	透明・白・金色・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維やや含む
早・前-19	92	深鉢	橙色	橙色	黑・白・乳白色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維多く含む
早・前-20	92	深鉢	明赤褐色	赤褐色	白・黒・乳白色・金色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維やや含む
早・前-21	92	深鉢	にぶい黄橙色~灰黄褐色~明赤褐色	白・赤・金色・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面横撫で／外面無節縄文、繊維なし	
早・前-22	92	深鉢	黒褐色	明褐色	白・黒・金色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維多く含む
早・前-23	92	深鉢	にぶい褐色	褐色	白・黒・乳白色・透明	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維多く含む
早・前-24	92	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・黒光・赤	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維なし
早・前-25	92	深鉢	暗赤褐色	にぶい赤褐色	金色・黒・白	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維なし
早・前-26	92	深鉢	黃褐色	暗褐色	黒・白・乳白色・黒光・赤	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面無節縄文、繊維多く含む
早・前-27	92	深鉢	にぶい褐色	にぶい黄褐色	黒・白・金色	底部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面单節縄文、繊維なし
早・前-28	92	深鉢	褐色	暗褐色	乳白色・黒・赤・黒光	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 初頭 内面撫で／外面無節縄文、繊維多く含む
早・前-29	92	深鉢	にぶい赤褐色	赤褐色	乳白色・白・黒・赤・金色	口縁部~胴部	2/8	-	27.8	縄文前期 初頭 内面撫で／外面無節縄文、繊維多く含む
前-1	93	深鉢	橙色	明黄褐色	白・金色・乳白色・赤・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 内面横撫で／外面横撫で→半截竹管内皮による連続押引き文
前-2	93	深鉢	赤褐色	明赤褐色	乳白色・黒光・金色・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 内面横撫で／外面半截竹管内皮による連続刺突文
前-3	93	深鉢	赤褐色	黒褐色	乳白色・金色・黒	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 内面横撫で／外面半截竹管内皮による沈線文
前-4	93	深鉢	浅黄橙色	浅黄橙色	白・赤・金色	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期 内面磨き状撫で／外面单節縄文→半截竹管内皮による沈線文
前-5	93	深鉢	にぶい黄褐色	明赤褐色	白・金色・黒・赤	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面縄文→半截竹管内皮による沈線文
前-6	93	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	金色・白・赤・黒	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面撫で→半截竹管内皮による沈線文
前-7	93	深鉢	橙色	明黄褐色	白・乳白色・金色・赤・黒	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面削り状撫で→半截竹管内皮による沈線文
前-8	93	深鉢	赤褐色	明褐色	白・黒・赤・金色・黒光	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面磨き状撫で／外面縄文→半截竹管内皮による沈線文
前-9	93	深鉢	褐色	明褐色	金色・白・赤・乳白色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面縄文→半截竹管内皮による沈線文
前-10	93	深鉢	にぶい黄褐色	橙色	金色・白・赤・乳白色	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面单節縄文→半截竹管内皮による沈線文
前-11	93	深鉢	にぶい赤褐色	明赤褐色	白・金色・乳白色・赤	底部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面撫で→半截竹管内皮による沈線文
前-12	93	深鉢	明褐色	明赤褐色	白・金色・赤・黒・乳白色	底部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面撫で／外面縄文→半截竹管内皮による沈線文
前-13	93	深鉢	明赤褐色	にぶい黄褐色	白・赤・金色	口縁部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面磨き状撫で／外面单節縄文
前-14	93	深鉢	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・金色・赤・黒	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面磨き状撫で／外面無節縄文→磨き状撫で
前-15	93	深鉢	赤褐色	黒褐色	乳白色・黒光・黒	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 内面横撫で／外面单節縄文
前-16	93	有孔土器	明褐色	褐色	金色・黒・乳白色・赤	胴部	1/8	- - -	-	縄文前期(諸磯) 円錐型
中-1	93	浅鉢	明褐色	明褐色	黒・白・金色	口縁部	1/8	- - -	-	縄文中期 初頭(五領ヶ台) 内面半截竹管外皮による押引き／外面横撫で

報告No	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土	部位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時期	備考
中-2	93	深鉢	褐色	褐色	白・黒	胴部	1/8	-	-	縄文中期 初頭(勝坂)
中-3	93	深鉢	にぶい黄橙色	黄橙色	乳白色・白・黒・黒光・赤・金色	胴部	1/8	-	-	縄文中期 初頭(勝坂)
中-4	93	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤	胴部	1/8	-	-	曾利前半
中-5	93	深鉢	にぶい黄褐色	褐色	白・乳白色・透明・黒	胴部	1/8	-	-	曾利前半
中-6	93	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・黒	胴部	1/8	-	-	縄文中期 後半
中-7	93	深鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	金色・白・乳白色	口縁部	1/8	-	-	縄文中期 後半
中-8	93	深鉢	にぶい褐色	暗褐色	白・黒・赤	口縁部	1/8	-	-	縄文中期 後半
中-9	93	深鉢	にぶい黄橙色～褐灰色	にぶい黄橙色～褐灰色	金色・白・乳白色・黒	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-10	93	深鉢	にぶい黄橙色～褐灰色	にぶい黄橙色	金色・黒・乳白色・白・赤	口縁部	1/8	-	-	曾利後半
中-11	93	鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・透明	口縁部	1/8	-	-	曾利後半
中-12	93	深鉢	にぶい橙色	にぶい褐色	白・乳白色・黒光・金色	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-13	93	深鉢	褐灰色	橙色	黒・赤・白・黒光	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-14	93	深鉢	にぶい橙色	橙色	乳白色・白・金色・黒・赤	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-15	93	深鉢	にぶい黄橙色～黒褐色	橙色～にぶい黄	白・乳白色・金色・黒	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-16	93	深鉢	橙色	にぶい橙色	白・乳白色・黒・透明	口縁部	1/8	-	-	曾利後半
中-17	93	深鉢	橙色～にぶい橙色	橙色～にぶい橙色	乳白色・白・赤・黒	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-18	93	深鉢	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒光・白・乳白色	胴部	1/8	-	-	曾利後半
中-19	93	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	黒・白・赤	胴部	1/8	-	-	縄文中期 加曾利E
中-20	93	深鉢	黄橙色	明黄褐色	黒・白・乳白色・黒光	胴部	1/8	-	-	縄文中期 加曾利E
中-21	93	深鉢	黄褐色	明褐色	黒・白・金色	口縁部	1/8	-	-	縄文中期 加曾利E
中-22	93	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・赤・黒・乳白色	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-23	93	深鉢	橙色	橙色	白・乳白色・黒	胴部	1/8	-	-	曾利終末
中-24	93	深鉢	明褐色	暗褐色～橙色	黒・乳白色・金色	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-25	93	深鉢	橙色～にぶい橙色	橙色～にぶい橙色	白・乳白色・赤・黒	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-26	94	深鉢	にぶい黄橙色～黒褐色	橙色～にぶい黄橙色	白・乳白色・黒	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-27	94	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色一部褐灰色	白・黒	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-28	94	深鉢	橙色一部黒色	橙色一部黒色	黒・白・透明	口縁部	1/8	-	-	縄文中期 加曾利E
中-29	94	深鉢	明黄褐色	黄褐色	黒・乳白色・金色・黒光	口縁部	1/8	-	-	縄文中期 加曾利E
中-30	94	深鉢	にぶい赤褐色～にぶい赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～	白・乳白色・金色・黒・赤	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-31	94	深鉢	にぶい橙色	にぶい褐色	白・乳白色・黒	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-32	94	深鉢	橙色～にぶい赤	橙色～にぶい橙色	赤・乳白色・黒	口縁部	1/8	-	-	曾利終末
中-33	94	器台	橙色～にぶい褐色	橙色	黒・白・赤・乳白色	底部	3/8	-	19.0	縄文中期 内・外面横撫で
中-34	94	浅鉢	にぶい橙色	橙色	白・黒・乳白色・黒光・赤	口縁部	1/8	-	-	曾利後半
後-1	94	深鉢	灰黄褐色	黑褐色	白・赤・黒光	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-2	94	深鉢	浅黄橙色	浅黄橙色	白・赤・金色・黒	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-3	94	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・金色・赤	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-4	94	深鉢	橙色	にぶい赤褐色	白・赤・金色	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-5	94	深鉢	橙色	にぶい黄褐色	白・金色・黒光	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-6	94	深鉢	にぶい赤褐色	橙色	白・金色・乳白色・赤	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-7	94	深鉢	明赤褐色	明褐色	白・金色・黒	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-8	94	深鉢	橙色	にぶい黄橙色	白・金色・赤	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-9	94	深鉢	にぶい橙色一部	にぶい橙色	白・黒・赤	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-10	94	深鉢	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	黒・赤・白・金色・乳白色	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-10	94	深鉢	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	黒・赤・白・金色・乳白色	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-11	94	深鉢	にぶい黄橙色～	にぶい黄橙色～	黒・白・乳白色	頸部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-12	94	深鉢	浅黄色	黒褐色	黒・白・乳白色・金色	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-13	94	深鉢	明黄褐色	明黄褐色	黒・白・乳白色・金色	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-14	94	深鉢	にぶい黄橙色	淡黄色	黒・白・乳白色・金色	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-15	94	深鉢	にぶい褐色	褐色	白・黒・赤	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (称名寺)
後-16	94	深鉢	橙色	黄橙色	黒・白・乳白色・黒光・赤	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-17	94	深鉢	明褐色	にぶい褐色	白・赤・金色・黒	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-18	94	深鉢	明黄褐色	暗黃褐色	黒・白・乳白色・金色・赤	口縁部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
後-19	94	深鉢	橙色	黄褐色	黒・白・赤・金色	胴部	1/8	-	-	縄文後期 (堀之内)
弥-1	94	壺	灰褐色	灰黄褐色	白・黒・金色	口縁部	1/8	-	-	弥生時代
弥-2	94	壺	暗灰黄色	暗灰黄色	白・黒・金色	口縁部	1/8	-	-	弥生時代
弥-3	94	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・赤・白	頸部	1/8	-	-	弥生時代

報告No	図版番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土	部位	残存率	法量(器高・口径・底径)	時期	備考
古-1	94	壺	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・赤・金色	口縁部	1/8	- - -	古墳時代	内面刷毛目／外面粘土紐貼付、刷毛目
古-2	94	S字甕	黒褐色	褐灰色	白・金色・黒・赤	口縁部	1/8	- 10.0 -	古墳時代	内面横撫で、ヘラ削り／外面横撫で、縦刷毛目→横撫で
古-3	94	S字甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤・金色	口縁部	1/8	- - -	古墳時代	内面刷毛、横撫で／外面口縁部横撫で、縦刷毛目→横刷毛目
古-4	94	ミニチュア	灰黄褐色	暗灰黄色	白・黒・金色	胴部	1/8	- - -	古墳時代	手捏土器／内面撫で／外面刷毛目→磨き
古-5	94	埴	にぶい褐色～赤色	にぶい黄橙色	白・透明・黒光	口縁～胴部	2/8	- 8.4 -	古墳時代	内面赤彩、横刷毛目／外面口縁部は縦刷毛目→横撫で、胴部は横刷毛目→上半部横撫で
古-6	94	壺	にぶい橙色	にぶい黄橙色	白・乳白色・黒・金色	頸部	1/8	- - -	古墳時代	内面刷毛目→磨き／外面斜め刷毛目、頸部に粘土紐(櫛齒状工具？による連續刺突文あり)が植1本巡る
古-7	94	壺	赤色	赤色	白・金色・黒光	口縁	1/8	- 25.1 -	古墳時代	赤彩／内面横刷毛目→横撫で／外面横刷毛目→縦撫で
平-1	94	長頸壺	灰黄褐色	灰オリーブ色	白・黒・赤	胴部	2/8	- - -	平安時代	クロコ成形／内面上部に釉がかかる／外面全体に釉がかかる
平-2	94	羽釜	明赤褐色	橙色～赤褐色	金色・白・黒	胴部(錫部)	1/8	- - -	平安時代	内面横刷毛目／外面錫部横刷毛目、胴部横～斜め刷毛目

出土石器観察表

報告No	図 No	器種	被熱	石材	法量(長さcm・幅cm・厚さcm・重量)				備考
1住-21	75	枕石	○	花崗岩	44.0	20.3	12.7	1,760.0	
1住-22	75	磨石	○	安山岩	7.0	5.3	2.4	110.0	
1住-23	75	横歯石器	×	頁岩	8.8	6.0	1.2	80.0	
1住-24	75	石匙	×	チャート	3.9	4.3	1.0	20.0	
2住土1-3	76	磨石	○	安山岩	13.9	8.1	5.2	910.0	先端部を敲石として使用
3住-7	77	砥石	○		13.5	6.4	3.7	720.0	
4住-4	77	砥石	○	安山岩	20.5	13.2	4.2	2,340.0	刃痕鮮明
5住-1	77	打製石斧	×	頁岩	14.8	6.6	2.5	340.0	
8住-20	79	鉄鏃	×		8.0	0.8	0.3	10.4	
8住-21	79	磨石	○	安山岩	12.1	9.0	4.2	670.0	
8住-22	79	剥片石器	×	黒曜石	4.8	2.9	1.3	14.3	
8住土1-1	79	石鏃	×	黒曜石	2.3	1.2	0.4	0.7	
12住-17	81	礫器	×	フォルンフェルス	11.4	14.1	4.6	980.0	
13住-5	81	打製石斧	×	フォルンフェルス	11.6	8.4	2.0	220.0	
14住-5	81	礫器	×	フォルンフェルス	8.2	9.1	3.2	300.0	
16住-11	82	石鏃	×	黒曜石	2.0	1.9	0.4	1.2	
16住-12	82	磨石	○	砂岩	9.5	4.5	3.0	196.0	
20住-4	83	石鏃	×		1.6	1.4	0.4	0.1	
21住-6	83	台石	×	安山岩	22.5	19.2	4.3	2,540.0	
26住-3	84	玉石	×		3.9	2.7	1.8	28.7	
28住-5	84	磨石	×	安山岩	9.9	5.6	3.0	320.0	
29住-3	84	打製石斧	×	フォルンフェルス	6.7	5	1.3	44.0	
31住-7	84	剥片石器	×	黒曜石	2.1	1.2	0.4	1.3	
31住-8	84	玉石	×	頁岩	3.0	2.3	0.6	6.5	
32住-5	85	台石	×	安山岩	32.3	26.0	8.5	11,000.0	中央部に敲打痕
34住-2	86	石鏃	×	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.5	
36住-7	86	石鏃	×	黒曜石	2.0	1.6	0.4	0.8	
36住-8	86	鉄鏃	×		3.3	2.7	0.1	6.3	
36住-9	86	打製石包丁	×	頁岩	5.5	6.0	1.0	40.0	
37住-10	86	敲石	○	安山岩	9.9	12.2	4.2	910.0	
38住-4	87	石錐	×	黒曜石	2.2	0.3	0.2	0.4	
B1ビ1-1	88	凹石	×	安山岩	8.0	9.0	4.6	420.0	
K21土1-3	89	磨石、敲石	×	砂岩	17.0	7.4	4.5	860.0	
K21土1-4	89	磨石、敲石	×	砂岩	17.0	8.2	6.1	1,480.0	
K21土1-5	89	凹石	×	安山岩	13.8	8.1	5.1	760.0	
K21土1-6	89	磨石	×	安山岩	9.8	8.5	4.8	520.0	
K21土1-7	89	打製石斧	×	頁岩	8.9	5.8	1.3	90.0	
I17土1-2	90	石錐	×	黒曜石	2.8	0.8	0.6	2.5	
L31土2-1	90	磨石	×	花崗岩	10.6	9.2	5.3	750.0	
L31土2-2	90	楔形石器	×	黒曜石	2.0	1.8	0.7	2.5	
M34土2-1	90	横歯石器	×	砂岩	4.5	8.9	1.9	11.5	
M34土2-2	90	砥石	×	安山岩	9.5	11.4	7.9	1,080.0	
溝4-1	90	砥石	×	花崗岩	13.0	11.3	7.8	1,400.0	
井戸-1	92	台石	×	安山岩	18.3	22.5	6.3	3,410.0	
井戸-2	92	凹石	○	安山岩	26.0	20.4	12.5	9,500.0	
石-1	94	石鏃	×	黒曜石	1.5	1.3	0.2	0.3	
石-2	94	石鏃	×	黒曜石	2.8	1.4	0.6	1.3	

住居以外出土土器重量破片数 (1)

グリッド	遺構名	古墳		縄文		早期		前期		中期		後期		晩期		不明		中・近世	時期
		重量 (g)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)	—													
D 3	ビ 2	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 3	ビ 5	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 3	ビ 7	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 3	ビ 8	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 4	ビ 8	37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 4	ビ 9	55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 5	ビ 1	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 6	土 1	2,393	79	3	20	1	—	—	59	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
F 6	土 1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
L10	土 2	—	77	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	77	3	—	—	
G11	ビ 1	300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H17	土 1	—	286	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
H17	土 2	—	647	30	—	—	—	—	496	29	—	—	—	—	193	10	—	曾利V	
H17	土 3	—	228	11	—	—	—	—	228	11	—	—	—	—	99	2	—	曾利II～III	
H17	ビ 5	307	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
I17	ビ 1	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
I17	土 1	90	260	11	—	—	—	—	244	10	16	1	—	—	—	39	—	—	
H18	ビ 1	—	7	1	—	—	—	—	7	1	—	—	—	—	—	—	—	古墳前	
I18	ビ 1	—	47	2	—	—	—	—	47	2	—	—	—	—	—	—	—	古墳前	
J21	土 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	1	—	—	
I21	ビ 3	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	3	—	—	
K22	ビ 1	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
J22	土 1	20	145	5	—	—	—	—	145	5	—	—	—	—	—	—	—	加曾利E 4	
I22	土 1	58	348	14	—	—	—	—	348	14	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
I22	ビ 1	2	66	2	—	—	—	—	66	2	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
J23	土 1	6	175	4	—	—	—	—	175	4	—	—	—	—	33	3	—	曾利後半	
K25	土 2	308	214	12	—	—	—	—	214	12	—	—	—	—	74	13	—	加曾利E 4	
K25	土 1	219	221	8	—	—	—	—	221	8	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
K25	ビ 1	22	12	1	—	—	—	—	12	1	—	—	—	—	—	—	—	曾利後半	
J26	土 1	194	117	4	—	—	—	—	117	4	—	—	—	—	—	—	—	加曾利E 4	
J26	ビ 1	—	24	2	—	—	—	—	—	24	2	—	—	—	—	—	—	称名寺	
J26	ビ 2	4	109	3	—	—	—	—	109	3	—	—	—	—	—	—	—	加曾利E 4	
K29	土 1	—	202	4	—	—	—	—	202	4	—	—	—	—	—	—	—	加曾利E 4	
L30	土 1	—	658	21	—	—	—	—	658	21	—	—	—	—	—	—	—	加曾利E 4	
L30	土 2	—	74	3	—	—	—	—	74	3	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
K30	ビ 1	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
K30	ビ 4	—	17	2	—	—	—	—	17	2	—	—	—	—	—	—	—	曾利II	
K30	ビ 3	78	40	8	—	—	—	—	—	40	8	—	—	—	—	—	—	称名寺	
K31	土 1	—	305	7	—	—	—	—	305	7	—	—	—	—	—	—	—	曾利IV	
L31	土 1	—	206	16	—	—	26	1	180	15	—	—	—	—	—	—	—	曾利IV	
L31	土 2	—	50	5	—	—	—	—	50	5	—	—	—	—	—	—	—	曾利後半	
L31	土 4	28	59	2	—	—	—	—	59	2	—	—	—	—	—	—	—	曾利IV	
L31	ビ 1	—	227	3	—	—	—	—	227	3	—	—	—	—	—	—	—	曾利後半～終末	
L31	ビ 2	—	73	3	—	—	—	—	73	3	—	—	—	—	—	—	—	曾利後半	
M32	ビ 4	4	127	9	—	—	—	—	76	6	51	3	—	—	76	15	—	称名寺	
M32	ビ 5	6	102	9	—	—	—	—	85	4	17	2	—	—	25	5	—	称名寺	
M32	ビ 11	—	36	3	—	—	—	—	36	3	—	—	—	—	14	3	—	曾利後半	
M32	ビ 6	—	37	5	—	—	—	—	37	5	—	—	—	—	9	3	—	曾利後半	
M32	ビ 1	—	13	4	—	—	—	—	7	2	6	2	—	—	62	9	—	称名寺	
M33	ビ 1	—	4	1	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	—	—	—	曾利後半	
M33	ビ 2	—	25	2	—	—	25	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	諸磯b	
L33	土 1	—	101	3	—	—	101	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	諸磯b	
K34	土 1	—	3	33	—	—	—	—	3	33	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
L34	土 1	2	25	3	—	—	—	—	25	3	—	—	—	—	—	—	—	—	
M34	土 1	—	20	1	—	—	20	1	—	—	—	—	—	—	—	—	近世4.7	諸磯b	
M34	土 2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	1	近世29.7	—	
M35	ビ 2	—	11	1	—	—	—	—	11	1	—	—	—	—	—	—	—	曾利後半	
L36	土 1	—	107	8	—	—	—	—	107	8	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
L36	ビ 2	—	70	3	—	—	—	—	70	3	—	—	—	—	—	—	—	曾利V	
M36	ビ 1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
MZ 1	—	330	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	287	8	近世2730	—	
MZ 4	—	5,080	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	310	29	—	—	
MZ 5	—	206	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	143	3	—	—	
MZ 3	—	785	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	1	近世68.8	—	
MZ 6	—	539	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	201	9	—	—	
井戸	—	149	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	近世48.1	
G15	—	7	2	7	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H16	—	67	1	—	—	—	—	—	67	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
C 1	—	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C 2	—	761	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D 2	—	212	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 2	—	192	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C 3	—	632	47	1	—	—	—	—	—	—	30	—	—	—	—	—	—	—	
D 3	—	746	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 3	—	1,335	81	6	—	—	—	—	65	4	16	2	—	—	—	—	—	—	
C 4	—	134	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D 4	—	698	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 4	—	1,006	—	—	—	—	—	—	—	3	1	71	2	—	—	—	—	—	
F 4	—	656	75	3	—	—	—	—	8	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
D 4	—	396	8	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

住居以外出土器重量破片数 (2)

グリッド	遺構名	古墳		縄文		早期		前期		中期		後期		晩期		不明		中・近世	時期
		重量 (g)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)	—													
D 5		983	120	3	—	—	—	—	77	2	44	1	—	—	15	2	—	—	
E 5		550	25	1	—	—	—	—	25	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
F 5		95	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
E 6		895	162	4	—	—	—	—	162	4	—	—	—	—	—	—	—	—	
C 6		108	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D 6		538	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
F 6		543	3	1	—	—	—	—	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
J19		69	10	1	—	—	—	—	10	1	—	—	—	—	—	—	近世4	—	
I20		242	48	3	—	—	—	—	48	3	—	—	—	—	80	3	中世33	—	
I17		40	150	12	—	—	—	—	135	11	15	1	—	—	—	—	近世1.3	—	
J20		153	300	24	—	—	—	—	300	24	—	—	—	—	—	—	—	—	
J21		29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
I21		194	35	2	—	—	24	1	11	1	—	—	—	—	11	1	—	—	
I21	土1	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
K21		7	18	2	—	—	—	—	18	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
I22		35	28	4	—	—	—	—	28	4	—	—	—	—	—	—	—	—	
J22		14	35	2	—	—	—	—	12	1	23	1	—	—	—	—	—	—	
K22		27	113	4	—	—	—	—	48	3	65	1	—	—	—	—	—	—	
I23		75	194	11	—	—	—	—	194	11	—	—	—	—	87	14	—	—	
J23		49	184	13	—	—	—	—	184	13	—	—	—	—	43	8	近世2.9	—	
K23		43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
J24		277	436	30	—	—	—	—	436	30	—	—	—	—	—	—	近世44	—	
I24		206	212	21	—	—	—	—	212	21	—	—	—	—	—	—	—	—	
K24		107	94	8	—	—	—	—	94	8	—	—	—	—	6	1	—	—	
L25		65	4	—	—	—	—	—	65	4	—	—	—	—	—	—	—	—	
K25		135	153	6	—	—	—	—	153	6	—	—	—	—	99	8	—	—	
J26		100	163	7	—	—	—	—	163	7	—	—	—	—	—	—	—	—	
K26		98	323	20	—	—	—	—	288	18	35	2	—	—	—	—	—	—	
L26		43	102	10	—	—	—	—	102	10	—	—	—	—	—	—	—	—	
K28		19	162	5	—	—	—	—	162	5	—	—	—	—	—	—	—	—	
L28		16	122	7	—	—	—	—	122	7	—	—	—	—	—	—	—	—	
K29		2	133	5	—	—	—	—	133	5	—	—	—	—	12	2	—	—	
L29		75	484	15	—	—	—	—	467	14	17	1	—	—	48	3	—	—	
L31		14	53	4	—	—	—	—	53	4	—	—	—	—	—	—	—	—	
K32		7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
K34		2,673	33	—	—	—	—	—	2,673	33	—	—	—	—	—	—	—	—	
表採		1,088	987	44	—	—	13	2	920	36	54	6	—	—	428	45	平安79.4	—	
L32		10	4	1	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	35	3	—	—	
L34		—	18	1	—	—	—	—	18	1	—	—	—	—	—	—	近世14	—	
L35		—	23	2	—	—	—	—	6	1	17	1	—	—	—	—	—	—	
M35		3	27	1	—	—	—	—	27	1	—	—	—	—	34	3	近世3.9	—	
L36		12	83	8	—	—	—	—	83	8	—	—	—	—	—	—	—	—	
L37		76	63	3	—	—	—	—	63	3	—	—	—	—	—	—	—	—	
M37		66	64	7	—	—	—	—	64	7	—	—	—	—	—	—	近世43	—	
M38		25	41	2	—	—	—	—	41	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
L38		362	1,124	59	—	—	—	—	1,092	57	32	2	—	—	189	27	平安6.3	—	
M39		489	664	41	—	—	15	1	624	38	24	2	—	—	341	37	近世108.1	—	
L39		309	664	48	—	—	—	—	664	48	—	—	—	—	496	42	—	—	
L40	—	330	787	66	127	7	87	5	573	54	—	—	—	—	320	43	平安43.3 近世25.2	—	
N40		—	57	5	—	—	—	—	57	5	—	—	—	—	—	—	—	—	
M40		3	64	2	—	—	—	—	38	1	26	1	—	—	—	—	—	—	
M41		23	55	2	—	—	—	—	55	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
N41		—	33	2	—	—	—	—	33	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
M42		19	36	2	—	—	—	—	36	2	—	—	—	—	—	—	近世17	—	
L43		—	1,142	56	802	46	—	—	340	10	—	—	—	—	—	—	—	—	
L42		206	2,663	168	1,500	105	160	15	780	41	222	7	—	—	234	22	—	—	
M43		137	121	9	32	3	78	5	11	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
M44		—	159	10	77	5	59	3	—	—	23	2	—	—	—	—	—	—	
L45		—	396	21	298	16	81	3	18	2	—	—	—	—	—	—	—	—	

住居内出土土器重量破片数 (1)

遺構名1	遺構名2	層位	古墳時代		縄文時代		早期		前期		中期		後期		不明			
			重量	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	
1住		直上層	1,737	76	6					13	2	63	4					
		上層	3,495	280	14					143	9	131	5					
		下層	5,330	340	11					273	9	36	2					
		床直	1,500															
		床下	540															
		一括	110	10	1							10	1					
	1土		580															
	2土		520	20	2					20	2							
	1ビ		25															
	4ビ	上層	10															
	5ビ	上層	6															
	炉		80															
	周溝		50															
	南東△		320															
2住		上層	290	20	1							20	1					
		下層	1,310	420	14					152	6			268	8			
		床直	2,079	127	3					127	3							
		床下	50															
		一括	30	90	1							90	1					
	炭化物集中		230															
	土器集中2		160															
	1土		245															
		上層	50															
		下層	200	50	1					50	1							
2住B		一括	700	60	1					60	1							
		直上層	340															
		上層	270	65	2					65	2							
		下層	910	32	1							32	1					
		床直	1,540	18	1					18	1							
		一括	1,240															
		一括	20															
		周溝	60															
	土器集中1		60															
4住	土器集中3		1,230	60	1					60	1							
		下層	695	98	3					69	2	22	1					
		床直	206	158	1					158	1							
	土1		20															
		床直	190															
5住		床下	910	90	3							27	1	63	1			
		一括	600	140	6							50	3	90	3			
		周溝	90															
	6住	一括	42	16	1					16	1							
7住		上層	1,600	100	3							100	3					
		下層	480	15	1					15	1							
		床直	350															
		床下	50															
	土1		990															
	ビ3		20															
	ビ5		50															
	周溝		20															
	一括		1,680	160	1					160	1							
		直上層	1,428	20	2					20	2							
8住		上層	3,420	150	10				20	2	130	8						
		下層	2,580	38	4				27	3	9	1						
		床直	2,670	158	4				144	3			10	1				
		床下	155															
		一括	368	40	1							40	1					
	土1		1,030															
	ビ2		8															
	ビ3		30															
10住	ビ4		20															
	ビ6		40															
	炉内		340															
		直上層	280															
		上層	2,320	60	4					60	4							
11住		下層	330															
		床直	130															
		一括	1,680															
		上層	200															
12住		下層	140															
		床下	40															
		一括	390	20	1					20	1							
		上層	1,480															
		下層	1,180	60	2							60	2					
		床直	300															
		床下	50															
	土器集中1		250															
	土器集中2		290															
	土器集中3		880	60	1											60	1	
	周溝		20															

住居内出土土器重量破片数 (2)

遺構名 1	遺構名 2	層 位	古墳時代		繩文時代		早期		前期		中期		後期		不明	
			重量	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	
	一括		2,910													
13住		下層	1,380													
		床直	420	32	2					20	1	12	1			
		床下	200													
	ビ 3		40													
	ビ 4		120													
14住		直上層	138													
		上層	130													
		床下	180													
	一括		200													
	ビ 1		60													
	ビ 2		180													
15住	一括		550	198	3					174	2	24	1			
16住		直上層	225	54	4					54	4					
		上層	3,236	986	67					699	46	23	1	264	20	
		下層	672	648	34					635	33	13	1			
		床直	205	24	3					24	3					
		床下	227	249	19					249	19					
	一括		1,743	1,538	34					1,538	34					
	周溝		215	51	2					51	2					
	ビ 1		35													
	ビ 2		36	1						36	1					
	ペ 1		69	47	1					47	1					
	ペ 2		30	2						30	2					
17住		上層	1,157	289	15					289	15					
		下層	687	463	28					445	26	18	2			
		床下	111	19	1					19	1					
	一括		2,434	189	3					189	3					
	土 1		364													
	土 2		12													
	ビ 1		17													
	ビ 2		7													
18住		下層	555	100	3					100	3					
		床下	97	44	2					44	2					
		床直	542	83	2					63	1	20	1			
	一括		604	105	7					88	5	17	2			
19住		床直	147	4	1							4	1			
		床下	5	29	1					29	1					
	土 1															
20住	一括		39													
		上層	91	14	1					14	1					
		床直	490	10	2					10	2					
		床下	71	21	3					21	3					
21住	一括		384													
		下層	440	934	72					524	35			410	37	
		床直	89	68	5					36	2			32	4	
		床下	318	84	4					84	4					
	一括		1,017	407	10					235	7			172	3	
	ペ内		2	7	1					7	1					
	ビ 1		13	45	4							10	1	35	3	
22住		下層	24	191	15					182	14	7	1			
		床直	3													
	一括		35	231	5					231	5					
23住		下層	197	45	1					45	1					
		床直	66	57	2	19	1			38	1					
		床下	64	38	3					38	3					
24住		上層	231	59	1					59	1					
		下層	446	1,149	47					1,134	44	6	1			
		床直	225	171	4					171	4					
		床下	17	129	2					129	2					
	ビ 3		13													
25住		床下		29	1					29	1					
26住		下層	394	483	35					347	25			130	10	
		床下	119	151	6					151	6					
	一括		351	463	15					283	8			180	7	
	土 1		32	13	1					13	1					
27住	一括			267	4											
	土 1		7	3,134	29					3,134	29					
28住		上層	63	126	7					126	7					
		下層	264	329	17					244	12	85	4			
		床直	13	85	5					59	4	26	1			
		床下	767	365	21					365	21					
	搅乱		2	90	3					54	2	36	1			
	一括		1,049	1,625	77					1,581	76	44	1			
	ビ 5		47													
29住		上層	1,468	4,256	217	11	1	36	3	2,855	122	356	14	998		
		下層	243	823	52					580	29	42	2	201	21	
		床直	53	84	5					84	5					
		床下		10	1								10	1		
	一括		682	623	16				43	1	438	12	142	3		

住居内出土土器重量破片数 (3)

遺構名 1	遺構名 2	層 位	古墳時代	繩文時代		早期		前期		中期		後期		不明	
			重量	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数
	ビ 1		264												
	ビ 2			33	1									33	1
31住	上層	513	960	42						740	25	65	1	155	16
	下層	215	350	14			18	1	302	12	30	1			
	床直	83	41	4										41	4
	床下	62	94	4					94	4					
	一括	2,275	446	30					446	29	12	1			
	炉		28	10	1				10	1					
	土 1		60	31	3									31	3
	土 2			88											
32住	上層	364	917	38					643	24	30	1	244	13	
	下層	68	87	8					87	8					
	床直	101	521	27			6	1	185	10	28	2	302	14	
	床下	66	117	8			6	1	99	6			12	1	
	一括		422												
33住	上層	322	263	9					133	4			130	5	
	上層	655	1,476	97	22	1	57	3	1,221	83					
	下層	671	532	37			17	1	488	34	22	2			
	床直	53	122	6					122	6					
	床下	22	325	25			10	1	315	24					
34住	炉		7												
	土 1	5,279	370	36			7	1	272	27	91	3			
	ビ 1		207	66	4				66	4					
	ビ 2			28	3				28	3					
	ビ 6		15												
	一括		81	187	4				149	3	38	1			
	床直	431	712	39					508	26	43	3	143	10	
35住	床下	306	418	22			27	1	340	15	22	1	32	5	
	上層	130	1,964	150					1,405	80			560	70	
	下層	150	1,620	79					1,160	47			505	30	
	床直	170	169	12					169	12					
	床下	24	2,596	155					2,477	152	119	3			
36住	土 2		192	145	9				145	9					
	ビ 3			17	1						17	1			
	ビ 4		1	6	1				6	1					
	ビ 6			37	3				37	3					
	ビ 8		16	39	2				39	2					
	ビ 9		4	203	6				203	6					
	ペ 1		5	37	3				37	3					
	一括		781	489	13				489	13					
	上層	1,530	1,470	94			63	5	970	58	128	8	313	23	
	下層	426	479	20			27	3	328	19	71	2	85	7	
37住	床直	219	92	6			26	1	25	2			32	3	
	掘り方	550	438	26					373	22	65	4			
	搅乱		383	89	10				40	4			53	6	
	一括		1,035	840	17			87	2	613	11	140	4		
	土 1		170	305	10				305	10					
	ビ 3	上層	50												
	上層		192	4			84	1	108	3					
38住	下層	920	1,227	75	17	1	128	5	619	41	145	3	318	25	
	床直	200	338	23					243	13	10	1	84	9	
	床下	177	102	10					44	4			88	5	
	一括		2,453	8	1				8	1					
	土 1		1,061	247	10				170	6			70	4	
	土 2		1,466	66	7				66	7					
	土 3		259	66	3				66	3					
	ビ 6		6	36	2								36	2	
39住	下層	313	791	66					682	56	111	10			
	床下	142	1,148	91					850	66	303	21			
41住	下層	124	48	2					48	2					
	カマド		86												
掘 1	西側掘り方		137	12	1								12	1	
	掘り方一括		171												

第4章 自然科学分析

本章では、宿尻第2遺跡で出土した炭化物、古墳時代前期の土器・粘土等の胎土分析ならびに動物遺体の分析結果報告を行なう。自然科学分析についてはすべて委託し、報告を受けている。本来であれば、報告されたものをそのまま掲載すべきであるが、紙面の都合上、文意が変わらないことに留意して編集することをご了承願いたい。

第1節 2号竪穴住居跡内出土の炭化物

1 出土状況と試料

出土状況は第3章第1節の2号竪穴住居跡で報告したのでここでは省略する。試料は炭化物が集中して出土した竪穴内南東隅の種実遺体混じりの土壌である。試料は調査時に洗浄した移植コテを用いて採取したものであり、大小ビニール袋31点に納めた。分析時には便宜上、試料番号として（仮No. 1～31）を付しているが、集中部における詳細な採取場所については記録をとらず、集中部を一ブロックとして捉えたことから、以下の報告による植物遺体数量等はすべて仮試料単位を加算してある。

2 分析方法

試料を水に一晩浸し、試料の泥化を促した。0.5 mmの篩を通して水洗し残滓を集め、双眼実体顕微鏡により観察し、種実遺体の形態的特徴を現生標本（石川茂雄1994『原色日本植物種子写真図鑑』・中山至大ほか2000『日本植物種子図鑑』）と比較し、種類を同定した。なお、細片を含み個数推定が困難である種類は表中に「+」と、数字の個数以上が推定される種類は「数字+」と表示した。分析後の植物遺体は、48時間40℃で乾燥後、乾燥剤とともに種類毎にビン詰めし保存した。未炭化個体であった試料1点については蒸留水による液浸保存とした。

3 分析結果

種実遺体は1点を除き全て炭化しており、遺存状態は良好ではない。種実は落葉広葉樹のオニグルミとモモの計2種類が同定された。この他に、炭化材は5 mm以下の細片を中心に検出された。不明炭化物は、木材組織が認められない部位・種類不明の炭化物を示すが、オニグルミやモモの細片の可能性が高い。

・オニグルミ（クルミ科クルミ属）

核の完形、破片が検出された。完形個体は未炭化で灰褐色を呈する。破片個体は全て炭化しており、黒色を呈する。核は直径25～30 mm程度の大きさの広卵形で、先端部がややとがる。明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れている個体が多い。表面には溝状の薄い彫文が縦方向に走り凸凹している。内部には隔壁と子葉が入る大きな2つの窪みがあり、表面は平滑である。破片には頂部や側部などを欠損する個体がみられる。

なお、完形の未炭化個体は、他の検出個体と比較して遺存状態が極めて良好である。分析処理中に核が縫合線に沿って半分に割れ、内部に黄白色の子葉が認められた。低湿地遺跡などの特別な状況下を除けば、炭化していない限り種実は残存しない場合が多く、解析に関しては炭化種子以外を除外すべきという見解がある（吉崎昌一1992「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナルNo.355』）。また、オニグルミはリスやネズミなどによる動物散布型種実で、貯蔵のために土中に埋められることが知られている。以上のことから、未炭化個体は後代からの混入の可能性がある。

・モモ（バラ科サクラ属）

核（内果皮）の完形、破片が検出された。いずれも炭化しており、黒色を呈し、広楕円形でやや扁平

種類名	オニグルミ				モモ				炭化材	不明炭化物	備考			
部位	核				核									
状態	未炭化		炭化		未炭化		炭化							
	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片						
1	-	-	245+	-	-	85	125+	+	+	未炭化は後代混入か？				

*「+」は、細片を含むため個体数推定が困難であることを示す
*「数字+」は、数字以上の個体数が推定されることを示す
種実遺体同定表

である。先端部はわずかにとがり、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。長さ20~25 mm、幅19~22 mm、厚さ14~18 mm程度であり、現在のモモ核よりも小型で丸みを帯びる。一方の側面には縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体がみられた。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の窪みがあり、全体として粗いしづら状に見える。

4 考察

オニグルミは、沢沿いなどの湿地に自生する落葉高木である。堅果の収穫は多く、長期保存・生食が可能であることから、縄文時代以来の植物質食糧として日本各地の遺跡から検出されている。

今回検出された多量の核破片について、鳥浜貝塚（福井県）などの低湿地遺跡の報告（畠中清隆1981「クルミの形状別分類と欠損部位」『鳥浜貝塚1980年度調査概報』福井県教育委員会・南木睦彦1991「栽培植物」『古墳時代の研究4』雄山閣）例を検討すると、核頂部を破損する打撃痕を有する試料が認められる。

一方、モモは中国からの渡来系栽培植物とされ、観賞用のほか、果実や核の中にある仁（種子）などが食用・薬用等に利用される。モモの最も古い出土例は、縄文時代前期の伊木力遺跡とされるが、弥生時代以降になると出土例が増加する（南木前掲・粉川昭平1988「穀物以外の植物食」『弥生文化の研究2』雄山閣など）。山梨県下では、身洗沢遺跡の弥生時代後期に比定される谷部からの検出例が知られている（渡辺誠1990「植物遺体」『身洗沢遺跡・一町五反遺跡』山梨県教育委員会）。

今回の炭化物集中から検出された種実は、有用植物のオニグルミ・モモに限定されることや、竪穴住居跡内から出土していることなどを考慮すると、本遺跡周辺で栽培あるいは採取され、利用後の残滓が炭化し残存した状況が窺われる。なお、これらオニグルミ・モモの核の残存状況を観察すると、オニグルミの核は破片のみであるのに対し、モモの核では完形のものが全体の約1/3を占めている。また、オニグルミの核の中には打撃痕を有するものが認められることから、核の残滓状況はこれら有用植物の利用形態を示している可能性がある。オニグルミは核内の子葉を食用とし、モモは果実を中心に食用とした状況が窺われる。

山梨県内では種実遺体分析成果（櫛原功一1999「炭化種実から探る食生活」『食の復元 遺物・遺

跡から何を読みとるか』岩田書院）、花粉分析・植物珪酸体分析結果から、縄文時代以降の古植生や植物質食糧の変遷等について様々な成果が蓄積されている。今回の分析ではイネは確認されなかったが、宮ノ前遺跡（韮崎市）や油田遺跡（甲西町）などでは弥生時代に相当する水田遺構や水稻耕作の傍証となりうる石器・木器などが出土し、自然科学分析成果などから、当該期にすでに植物質食糧としてイネの利用も考えられる。

以上のことから、少なくとも当該期においても縄文時代以来の植物質食糧であるオニグルミや、栽培植物のモモが食用資源として利用されていた状況が確認された。（株式会社パリノ・サーヴェイ）

第2節 土師器の胎土分析

1 はじめに

宿尻第2遺跡は、八ヶ岳南麓の火山麓扇状地に連続する韮崎台地上に位置している集落遺跡である。古墳時代前期のS字状口縁付甕（以下S字甕）や同時期の土師器などが多く出土している。周辺の伊藤窪第2遺跡での土師器の分析では、ほとんどの試料が花崗岩類の含有で特徴づけられる搬入土器であることが推定されている（河西学1991「伊藤窪第2遺跡出土土器の胎土分析」『伊藤窪第2遺跡』韮崎市教育委員会）。ここでは、宿尻第2遺跡から出土した土師器を竪穴住居跡床面直上から出土した粘土塊あるいは伊藤窪第2遺跡などと比較すること目的として胎土分析を行ったので、以下に報告する。

2 分析試料

分析試料は、第1表に示す。土師器試料Nos.1~6は、2・8・12・31号竪穴住居跡から出土した個体である。粘土試料Nos.7~8は、8・21号竪穴住居跡の床面直上から出土した粘土塊の一部である。

3 分析方法

土器試料は、以下の方法で薄片を作製した。土器試料は、切断機で3×2.5 cm程度の大きさに切断し、残りの試料は保存した。脆弱な試料はエポキシ樹脂を含浸させて補強し、岩石薄片と同じ要領で土器の器壁に平行する薄片を作製した。さらにフッ化水素酸蒸気でエッティングし、コバルチ亜硝酸ナトリウム飽和溶液に浸してカリ長石を黄色に染色しプレパラートとした。次に以下の方法で岩石鉱物成分のモード分析を行なった。偏光顕微鏡下において、ボ

イントカウンタを用い、ステージの移動ピッチを薄片長辺方向に0.33 mm、同短辺方向に0.40 mm とし、各薄片で2,000ポイントを計測する。計数対象は、粒径0.05 mm 以上の岩石鉱物粒子、およびこれより細粒のマトリックス（粘土）部分とし、植物珪酸体はすべてマトリックスに含めた。

4 分析結果

分析結果を第2表に示す。試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリックスの割合（粒子構成）、砂粒子の岩石鉱物組成および重鉱物組成を第1図に示す。重鉱物組成では右側に基数を表示した。

変質火山岩類・玄武岩・安山岩・デイサイト（デイサイト・流紋岩を含む珪長質火山岩の総称とする）・花崗岩類・变成岩類（含ホルンフェルス）・砂岩・泥岩・珪質岩・炭酸塩岩のポイント数の総数を基数とし、各岩石の構成比を折れ線グラフに示した（第2図）。折れ線グラフのピークに基づいて土器を便宜的に分類した（第3表）。

折れ線グラフと同様の10種の岩石データを用い、甲府盆地および八ヶ岳南麓地域の河川砂、伊藤窪第2遺跡・村前東A遺跡（南アルプス市）出土S字甕などとの比較のためにクラスター分析を行った（第3図）（河西学1989「甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成－土器胎土分析のための基礎データー」『山梨考古学論集Ⅱ』山梨県考古学協会、河西学・櫛原功一・大村昭三1989「八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告1』、河西学1999「村前東A遺跡出土土師器の胎土分析」『村前東A遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第157集）。クラスター分析での非類似度は、ユークリッド平方距離を用い、最短距離法によって算出した。第3図のクラスターには便宜的に1～18の番号を付し、クラスター3ではさらに細分した。

以下に胎土の特徴と推定産地について以下に述べ

る。

No.1（単純口縁壺）

粒子構成に占める砂粒子の含有率（含砂率）は、14%である。赤褐色粒子は0.9%と低率である。

岩石鉱物組成は、斜長石・石英・花崗岩類が多く、泥岩・ホルンフェルス・デイサイト・安山岩・変質火山岩類などを伴う。重鉱物含有率は低率で、黒雲母と不透明鉱物をわずかに伴う。第3表ではG群に、第3図では、笛吹川河川砂などとともにクラスター3 bに含まれる。主として花崗岩類が分布する地域に原料産地が推定される。類似性の認められる笛吹川流域や釜無川あるいは塩川流域などが候補地として考えられる。

No.2（単純口縁小型台付甕）、No.4（単純口縁装飾壺）、No.5（器台）

含砂率は、9～22%と試料ごとに多様である。赤褐色粒子は低率である。

岩石鉱物組成は、斜長石・石英・花崗岩類が多く、泥岩がこれに続く。No.2, 4では、安山岩・ホルンフェルス・砂岩・変質火山岩類などを伴い、重鉱物が普通に含まれ、重鉱物組成では、黒雲母が主体で、角閃石・酸化角閃石・单斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などを伴う。No.5は、重鉱物含有率が低く、角閃石がわずかに計数されている。No.2, 4, 5は、第3表でG-md群に、第3図では、笛吹川水系および釜無川水系の河川砂などとともにクラスター3 cを構成している。花崗岩類を主体とし泥岩などが混ざり合うような地域に原料産地が推定される。産地候補は、遺跡の立地する韋崎台地に接する釜無川流域・塩川流域が可能性が高いが、笛吹川流域なども可能性がある。

No.3（S字状口縁台付甕）

含砂率は17%である。赤褐色粒子は低率である。

岩石鉱物組成は、斜長石・石英・花崗岩類が多く、デイサイトがこれに続き、安山岩・ホルンフェ

第1表 分析資料表

分析番号	時 期	器 種	出土地点	図版番号
No.1	古墳時代前期	単純口縁壺	2号竪穴住居跡	JU 2-6
No.2	古墳時代前期	単純口縁小型台付甕	8号竪穴住居跡	JU 8-16
No.3	古墳時代前期	S字状口縁台付甕	8号竪穴住居跡	JU 8-6
No.4	古墳時代前期	単純口縁装飾壺	12号竪穴住居跡	JU 12-19
No.5	古墳時代前期	器台	31号竪穴住居跡	JU 31-2
No.6	古墳時代前期	折返し口縁壺	31号竪穴住居跡	JU 31-3
No.7	古墳時代前期	床面直上の粘土	8号竪穴住居跡	JU 8-228
No.8	古墳時代前期	床面直上の板状粘土塊	21号竪穴住居跡	JU 21床直

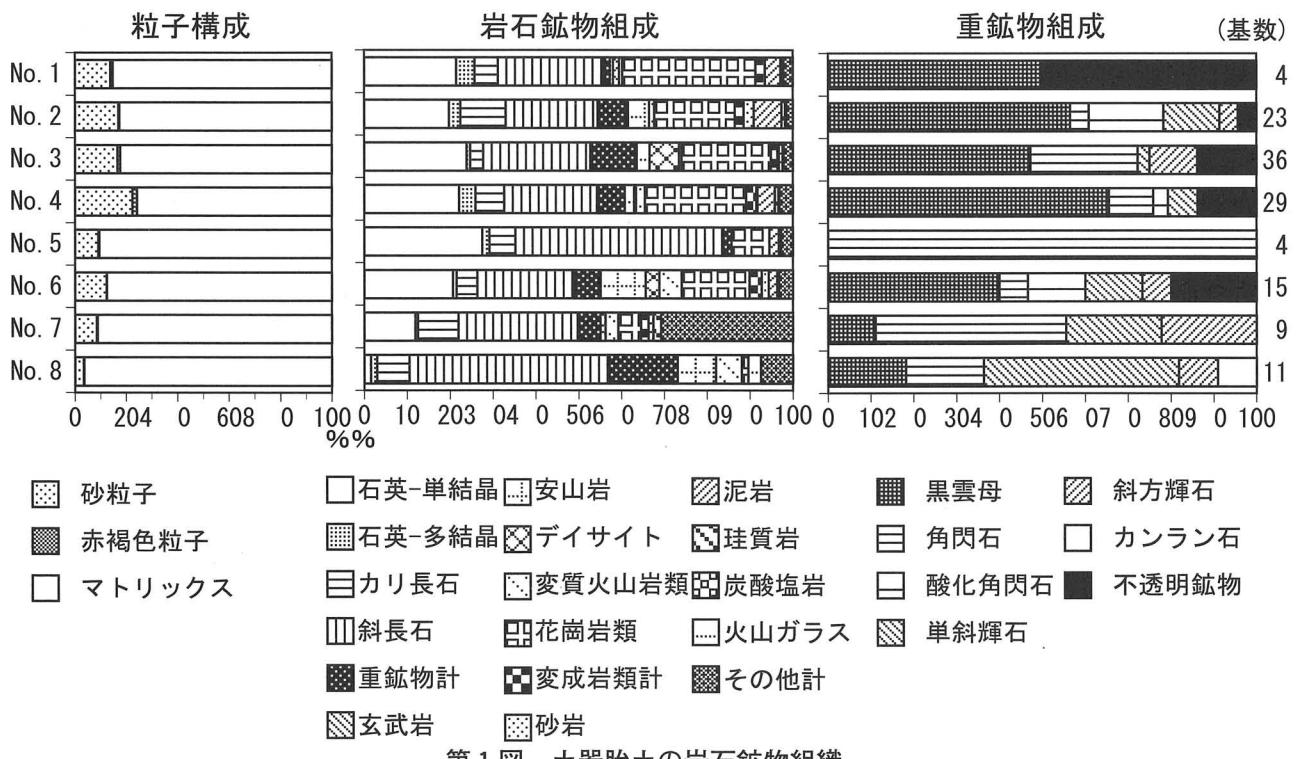
第2表 土器胎土中の岩石鉱物（数字はポイント数を、十は計数以外の検出を示す）

鉱物：bi 黑雲母、mu 無色雲母，ho 角閃石，oxyho 酸化角閃石，cpx 單斜輝石，opx 斜方輝石，

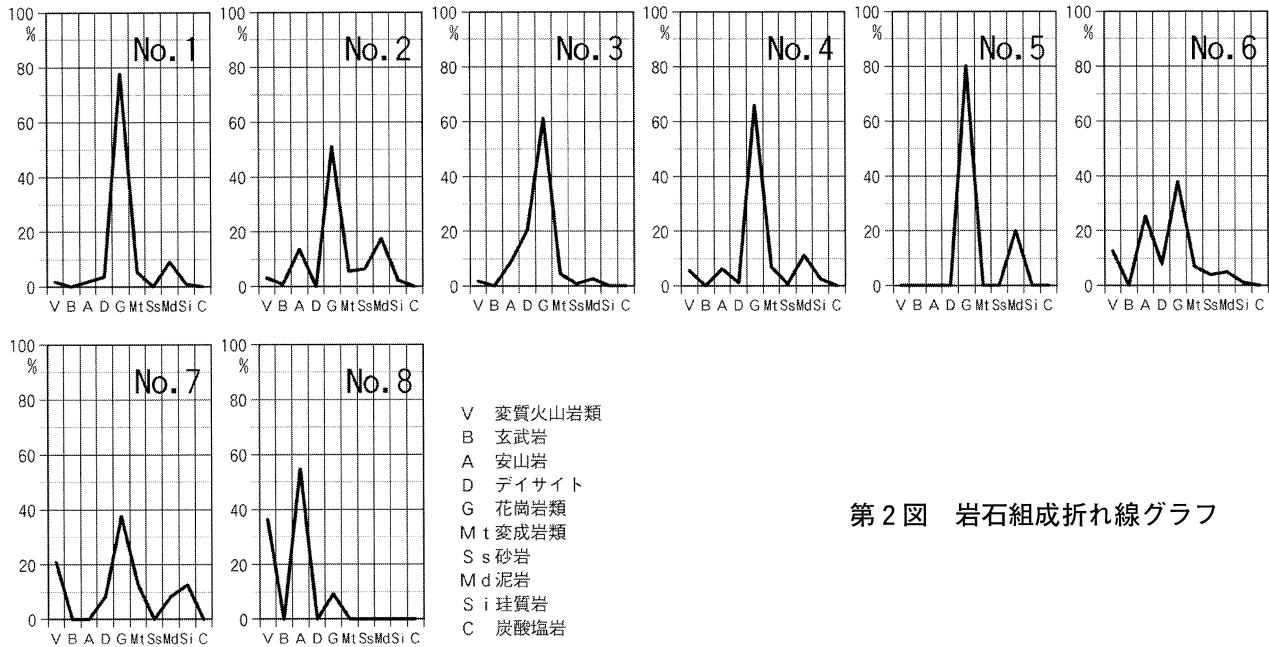
opq 不透明鉱物

変質火山岩類：AD 安山岩質～デイサイト質，D デイサイト質

火山ガラス形態：A'泡壁型 Y 字状，B 塊狀，C 中間型



第1図 土器胎土の岩石鉱物組織



第2図 岩石組成折れ線グラフ

第3表 折れ線グラフによる土器分類

分類	折れ線グラフの特徴		試料番号
A - v 群	安山岩の第1ビーグ	変質火山岩類の第2ビーグ	8
G 群	花崗岩類の第1ビーグ	顕著な第1ビーグ	1
G - v 群		変質火山類の第2ビーグ	7
G - a 群		安山岩の第2ビーグ	6
G - d 群		デイサイトの第2ビーグ	3
G - m d 群		泥岩の第2ビーグ	2, 4, 5

ルス・泥岩・変質火山岩類などをわずかに伴う。重鉱物はやや多く含まれ、重鉱物組成では、黒雲母が主体で、角閃石・単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などを伴う。なおデイサイトは、角閃石・酸化角閃石・単斜輝石などの斑晶を伴う。No. 3は、第3表でG-d群に、第3図では、荒川河川砂などとともにクラスター3 dを構成している。花崗岩類を主体としデイサイトが混ざり合うような地域に原料产地が推定される。遺跡周辺では花崗岩類を主体とする甲府岩体とデイサイト・安山岩から主としてなる黒富士火山とが流域に存在する荒川・塩川流域が原料の産地候補としてまず考えられる。伊藤窪第2遺跡や村前東A遺跡のS字甕の多くがこのクラスターに含まれていて、関連性が想定される。

No. 6 (折返し口縁壺)

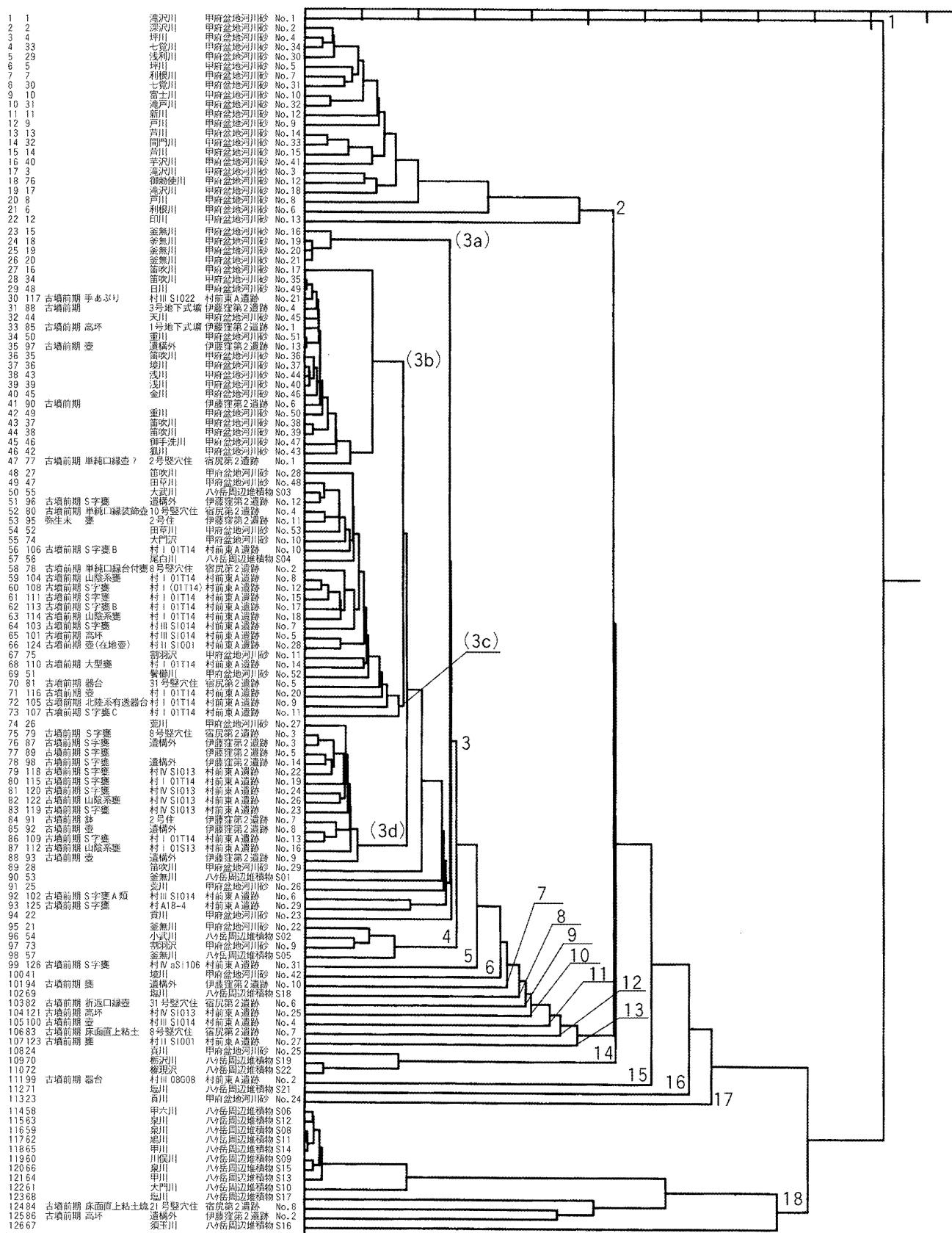
含砂率は12%である。赤褐色粒子は低率である。岩石鉱物組成は、斜長石・石英・カリ長石・変質鉱物が多い。安山岩がこれに続き、変質火山岩類・デイサイト・ホルンフェルス・泥岩・砂岩などを伴う。重鉱物は普通に含まれ、重鉱物組成では、黒雲母が主体で、酸化角閃石・角閃石・単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などを伴う。第3表では、G-a群に、第3

図では、単独でクラスター9を構成する。第3図では他の土器や河川砂との直接的な類似性は認められない。しかし第1・2図などの傾向からNo. 6は、花崗岩類を主体とし安山岩ほかの多様な岩石が含まれる点で釜無川の組成に類似する。原料产地としては釜無川流域がより可能性が高いが、塩川流域についても可能性は残る。

No. 7 (8号竪穴住居跡床面直上の粘土)

含砂率は8%と低く、赤褐色粒子は極めて少ない。

岩石鉱物組成は、斜長石・石英・カリ長石・変質鉱物が多い。試料が粘土質なので粘土化によって生じたと思われる変質鉱物が多く含まれる。岩石では花崗岩類・変質火山岩類・ホルンフェルス・珪質岩・泥岩・デイサイトなどをわずかに伴う。重鉱物は普通に含まれ、重鉱物組成では、角閃石・単斜輝石・斜方輝石・黒雲母が検出されている。第3表では、G-v群に、第3図では、単独でクラスター12を構成する。No. 7は、安山岩が検出されない点で韭崎台地および八ヶ岳南麓地域の地質とは異質であるといえる。含砂率も低く粘土化が進んでいることからはっきりしないが、おそらく釜無川流域・塩川



第3図 土器のクラスター分析樹形図

流域などと関連性が高い試料であると推定される。

No. 8 (21号竪穴住居跡床面直上の板状粘土塊)

含砂率は8%と低く、赤褐色粒子は極めて少ない。

岩石鉱物組成は、斜長石・重鉱物・安山岩などが多い。岩石では、変質火山岩類・火山ガラスなどが続き、花崗岩類をわずかに伴う。重鉱物含有率がやや高く、単斜輝石・斜方輝石・黒雲母・角閃石・カンラン石などが検出されている。第3表では、A-v群に、第3図では、八ヶ岳南麓河川砂などとクラスター18を構成している。No. 8は、韋崎市穴山町字重久での御岳第一軽石 On-pm 1下位の暗褐色粘土試料 C 04 (河西ほか1989前掲)とも類似性の認められる岩石鉱物組成を示す。韋崎台地において在地的な地質試料であると考えられる。わずかな花崗岩類の含有は、韋崎岩屑流の流下時あるいはそれ以降の釜無川・塩川堆積物の影響が韋崎台地形成後にもおよんでいることによるものと考えられる。

5 考察

古墳前期の土師器は、甲府盆地西部の本遺跡・伊藤窪第2遺跡・村前東A遺跡などを比較した場合、花崗岩類を主体とする岩石組成を示す土器が大部分である点で共通している。第3図でのクラスター3は花崗岩類を主体とする試料の集合であり、主要な土器試料は、各遺跡とも3b・3c・3dの小クラスターに分類された。これらの小クラスターは、それぞれ異なる複数の原料産地に対応するものと考えられる。また同一クラスター内においても複数の原料産地が存在する可能性がある。これらの原料産地は、笛吹川流域の影響も考慮しなければならないが、釜無川流域および塩川・荒川流域など遺跡に近接する地域に推定されることは重要である。また伊藤窪第2遺跡での縄文中期土器は、安山岩を主体としデイサイト・花崗岩類を伴うなど、八ヶ岳南麓から韋崎台地の地質をより反映した胎土組成を示している点で古墳前期土師器の胎土組成とは明らかに異なり、土器作りの違いが認められる。近接する本遺跡・伊藤窪第2遺跡ばかりでなく村前東A遺跡まで同様な傾向が認められることは、古墳前期におけるこの地域の土師器生産と移動のシステムが類似あるいは共通したものであった可能性が考えられる。

住居跡内から出土した粘土試料Nos. 7, 8は、遺跡出土土器との直接的な類似性は認められなかつた。しかし、No. 7は、韋崎台地および八ヶ岳南麓地域の地質とは異質であり、花崗岩類を主体とする

点で本遺跡分析土器試料との類似性が認められる。

No. 8は韋崎台地において地元の堆積物である可能性が高い。混和について仮定すると、複数の堆積物の組成と混合比率で多様な岩石組成が想定できる。したがって粘土質堆積物について、土器原料としての利用の可能性を否定するのは多くの場合難しい。No. 7中の変質鉱物は、粘土鉱物と考えられる。これらの粘土鉱物は、土器胎土の素地として調整されたものであれば、マトリックス中に分散して計数対象にならないことが予想されることから、No. 7は調整済みの素地として存在していた可能性は低く、おそらく採取された自然に近い状態で存在していた可能性が考えられる。No. 7は、含砂率がやや低く、岩石鉱物組成も土器とは一致しない点があることから、もしNo. 7が土器原料として利用されるような場合には、砂分の混和などの調整が行われた可能性が想定できる。堆積物が土器原料として利用されていたかについて考える場合、土器製作に関わる他の考古学的事実が重要であると思われる。

6 おわりに

宿尻第2遺跡での分析で、古墳前期土器のほとんどが花崗岩類を主体とする組成を示し、地元の地質原料で作られたものではないことが明らかになった。住居跡床面直上の粘土では、搬入されたものと地元の粘土とが区別された。(河西学)

第3節 動物遺体について

宿尻第二遺跡からは、表土直下よりブタが3体分出土した。これらの遺体には骨とともに毛がわずかに残り、さらにNo. 3とした個体には「子L」と刻印されたプラスチック製の札が伴ったことから、現代に帰属する資料であることは明らかであった。

3体分のブタは、1.5×4 m程の範囲内にまとめて出土した。遺体に、西側から順にNo. 1、No. 2、No. 3と仮の番号をふり、個体ごとに取り上げた。以下に、個々の説明を行う。それぞれの残存部位については第4表に示した。

No. 1の個体は、左半身を上にした状態で出土した。歯の萌出は全て完了しており、咬耗も全歯において認められるが、四肢骨の中には関節の融合がなされていない部位もある。Sus (イノシシ属) の四肢骨関節の融合時期のデータ (Elisabeth Schmid 1972 *Atlas of Animal Bones*, Elsevier Publishing Company.) を参考にすれば、生後3歳半程度の個体とみなせる。

第4表 個体別残存部位

No.1	No.2	No.3
雄	雌	雌
年齢段階IV	年齢段階IV	年齢段階III
頭蓋骨	頭蓋骨	頭蓋骨
上顎骨 L (I123CP1234M123)	上顎骨 L (I123CP1234M123)	上顎骨 L (I12×CP1234M123)
R (I123CP1234M123)	R (I123CP1234M123)	R (I12×CP1234M123)
下顎骨 L (I123C×P234M1×M3)	下顎骨 L (I123CP234M123)	下顎骨 L (I123CP1234M123)
R (I12×CP1234M123)	R (I123CP234M123)	R (×××C) (×P34M123)
肩甲骨 L/R	肩甲骨 L/R	肩甲骨 L/R
上腕骨 L/R	上腕骨 L/R	橈骨 L/R
橈骨 L/R	橈骨 L/R	尺骨 L/R
尺骨 L/R	尺骨 L/R	脛骨 R
寛骨 L/R	寛骨 L/R	腓骨 R
大腿骨 L/R	大腿骨 L/R	膝蓋骨 R
脛骨 L/R	脛骨 L/R	距骨 R
腓骨 L/R	腓骨 L/R	踵骨 R
膝蓋骨 R	膝蓋骨 L/R	中手骨・中足骨 10
距骨 L/R	距骨 L/R	第一指骨 10
踵骨 L/R	踵骨 L/R	第二指骨 7
中手骨・中足骨 16	中手骨・中足骨 16	第三指骨 8
第一指骨 12	第一指骨 15	手根骨・足根骨・種子骨 17
第二指骨 7	第二指骨 12	胸椎 14
第三指骨 10	第三指骨 12	腰椎 1
手根骨・足根骨・種子骨 20	手根骨・足根骨・種子骨 40	尾椎 2
環椎 (第一頸椎)	胸椎 16	肋骨 L 15
軸椎 (第二頸椎)	腰椎 7	胸骨 5
頸椎 5	仙椎	
胸椎 16	肋骨 L 16/R 9	
腰椎 6	胸骨 6	
仙椎		
尾椎 5		
肋骨 L 16/R 15		

年齢段階は Hayashi et al. (1977) に基づく
L:左側、R:右側

なお、野生イノシシについては、歯の咬耗の程度からより詳細な年齢段階の推定が可能であるが、食性の影響を強く受けるため、飼育ブタである本資料に適用可能かどうかは疑問の余地を残す。年齢推定法 (Hayashi Yoshihiro, Nishida Takao and Mochizuki Koshi 1977 Sex and Age Determination of the Japanese Wild Boar (*Sus scrofa leucomystax*) by the Lower Teeth, *Jap. J.Vet. Sci.*, 39, 165–174.) に基づいた観察では、年齢段階IV (生後43–44ヶ月) に相当した。この個体は犬歯の大きさから雄であることが明らかである。骨格は、指骨などの小さな骨を除いてほとんど全てが揃っていた。

No.2の個体は、右半身を上にした状態で出土した。歯の萌出はすべて完了しており、咬耗も認められるが、No.1に比べて咬耗の程度は低く、四肢骨の中で関節が融合していない部位も多い。*Sus* (イノシシ属) の四肢骨関節の融合時期のデータ (Elisabeth 前掲) を参考にすれば、この個体は生後2歳半程度であったとみなせるが、全歯が萌出を完

了し、咬耗も認められることからすれば、Hayashi et al.による年齢段階IV (生後43–44ヶ月) に相当することとなり、部位によって推定年齢に齟齬をきたす。犬歯の大きさからすれば、雌であることは明らかである。頸椎が全く認められていない以外は、ほぼ全身の骨が揃っている。

No.3の個体は、右半身を上にした状態で出土した。上顎・下顎ともに第三後臼歯 (M3) が最後縁までは萌出しておらず、上記の2個体より若い個体と判断できる。Hayashi et al.による年齢段階III (生後31–32ヶ月) に相当する。前述したように、「子L」という札が伴っていたことも、若い個体であることの傍証となろう。この個体は、頸骨、腰椎の大半と左右の上腕骨、大腿骨、左の下肢骨などといった多くの部位を欠いている。そのため四肢骨の関節融合に基づいた年齢推定には限界がある。犬歯の大きさから雌であることは明らかである。

これらの資料は飼育ブタであるとみられるが、解剖学的位置を保っていたことから、解体が施されな

い、すなわち肉の利用がなされずに遺棄されたものと判断できる。食肉用に飼育されたであろうブタが雌雄ともに3体もまとめて遺棄された理由を明らかにすることはできないが、病気の発生等が背景にあったのかもしれない。また、ここで出土しなかつた部位は、遺棄後にイヌなどによって移動されられ

た可能性が考えられる。なお、現在では通常生後6ヶ月程度の個体が食肉用として出荷されることから（田中智夫2001『ブタの動物学』東京大学出版会）、これらの資料は現在とは異なるブタ利用が当地で行われていたことの証左となろう。（内山幸子）

第5章 成果と課題

第1節 古墳時代前期の遺物について

① 土器

S字状口縁台付甕B・C類併行期にあたる県史Ⅱ期（本節では混乱を避けるため県史の時期区分については「県史〇期」とする）の時期細分について、遺構の重複関係を重視し、その可能性を指摘しておきたい。

1 宿尻第2遺跡内の県史Ⅱ期細分事例

すでに報告したとおり、県史Ⅱ期の遺構同士で重複関係にあり、かつその前後関係が明らかであるものに10・12号竪穴住居跡を挙げることができる。

12号住が古く、10号住が新しいことは土層観察により把握されている。10号住の遺物は少なく、器種組成での相違を指摘することは控えておく。

10住-1は床面から出土し、脚部を欠く。口唇部内面直下に沈線が巡る。口縁部直下に横位のハケ目があり、内面は胴部中半から上半にまで伸びるやや長めの指によるナデ調整が観察できる。県史Ⅱ期の中でも古い様相をもつ。

12住-1は床面から出土した。肩部上位に横位ハケ目があり、内面は下半から上半にかけて指頭痕が短く連続的に観察できる。12住-2は床面から出土した。器形は肩の張りが弱く胴部全体に丸みがある。肩部上位に横位ハケ目があり、内面は中半から上半にかけて指頭痕が観察できる。口唇部は端部でやや膨らむ。県史Ⅱ期の中で新しい様相をもっている。

これまで、指摘してきたS字状口縁台付甕の型式的变化と逆行したものといえる。

遺構の重複の状況も隣接して重複した状況ではなく、入れ子状であり、10号住の竪穴内に土の堆積がほぼ終了し、ややくぼむ程度となってから12号住の掘削がされている。10号住の覆土形成が自然埋没、埋め戻しまたは埋め戻し後自然埋没のいずれである

かの判定はできないが、少なくとも一般的に考えられる人為的な埋め戻しの土という印象はない。12号住の建替えた結果が10号住ということだけは少なくともない。

以上のことから、覆土堆積に一定の時間差が認められるにもかかわらず、土器型式的にその変化を把握することは非常に困難であることが分かる。

次に、竪穴住居内出土の共伴例として1・3・8号竪穴住居跡の検討を加えておく。

1住-1はS字甕C類相当の特徴である口縁部端部内面が面取りと体部内面にハケ目調整が一部に見られる。一方で、外縁の横ハケは省略され、D類相当の特徴である。このようにC類とD類の両方の特徴を兼ね備えたものといえる。新しい要素をもってして時期を決定すべきであるので、D類併行期の県史Ⅲ期ということになる。1住-3は口縁部端部がやや尖るとともに横ハケがあることからC類相当の特徴であり、県史ⅢⅡといえる。両者は床面に近い位置で出土していることから共伴といえる。

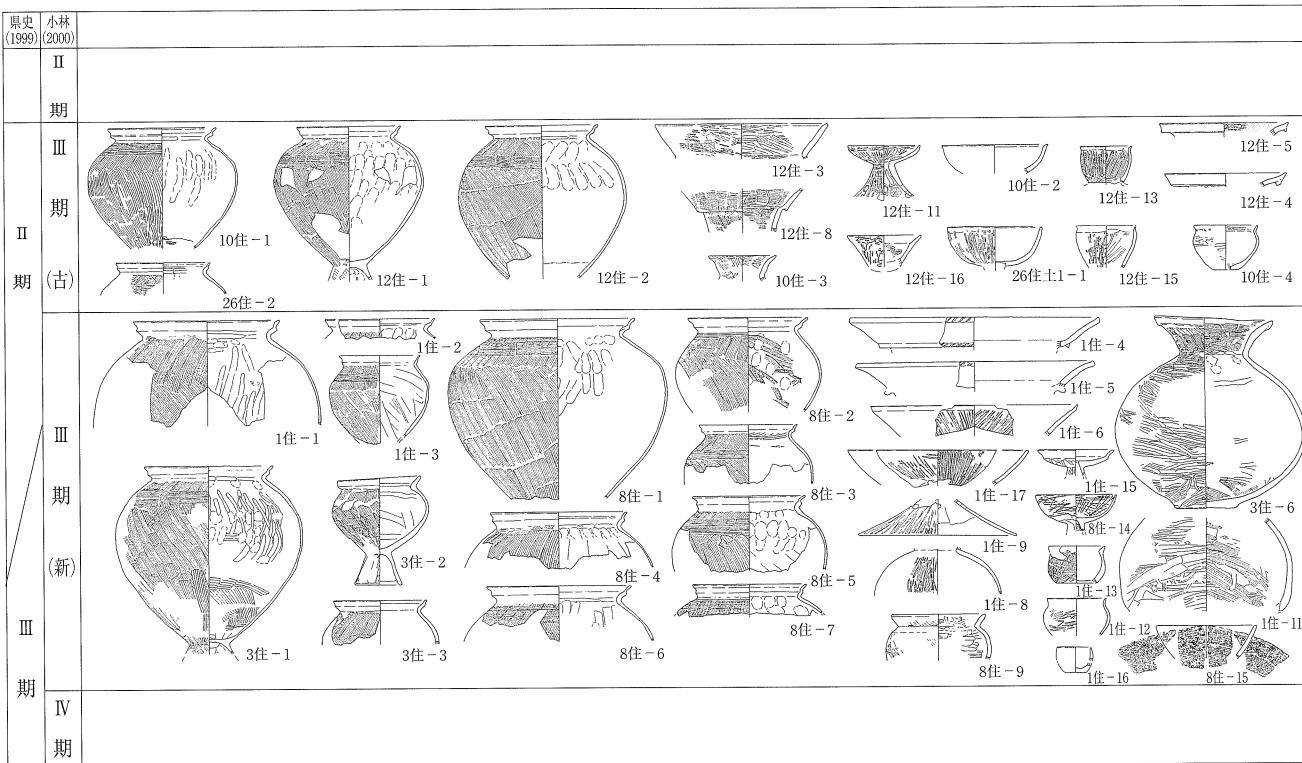
3住-1は内面にハケ目調整を大きく残す他はC類相当の特徴を持つ。3住-2は口縁部のS字状は不明瞭であり、肩部の横ハケは省略されおりD類相当の特徴を持つ。床面に接し、出土位置も近接していることから共伴といえる。

8住-1～3・5～8は胴部最大径がやや下半にあり撫で肩状の器形でありC類相当の中でもやや新しい特徴である。8住-4は肩部の横ハケが見られずD類の特徴を持つ。床面および南東隅付近から出土しており、その状況から共伴といえる。

このように、C類相当とD類相当が混在する状況が時間幅として存在していることが確認できる。もちろん覆土中の出土遺物であり、広義の廃棄行為の結果であることから完全な同時性ともいえず、セットとして捉えることが妥当であるかは今後も出土状況を吟味していくなければならない。そのことを考

慮しても、今回の出土状況は共伴性が高く、またD類相当のフォルムもD類相当のみで構成される住居覆土内資料と比較しても、丸みを帯びており、より古段階の様相を呈している。

よって、B・C類相当のみで構成される段階とC類相当とD類相当で構成される段階の少なくとも2細分が可能であり、県史Ⅱ期と県史Ⅲ期との間に一段階の時期を設定しうる。(第95図)



第95図 宿尻第2遺跡土器変遷図

次に、当遺跡以外を検討することで、指摘した型式内容が当遺跡のみに当てはまるのか、広範囲での現象かを検証しておきたい。やはり、遺構の重複関係と遺物出土位置を重視して検討する。対象とした遺跡は、宿尻第2遺跡と比較的近い距離にある久保屋敷遺跡・坂井南遺跡・伊藤窪第2遺跡・後田遺跡・立石遺跡（韮崎市）である。検証の結果、横ハケを持つ形態と持たない形態が共伴事例として報告されているものではなく、これらの遺跡では宿尻第2遺跡でみられる段階を設定し得ない状況である。

最後に、県史Ⅱ期の細分に関して、先行研究を簡単にまとめ、本遺跡の出土事例との整合性を示しておく。

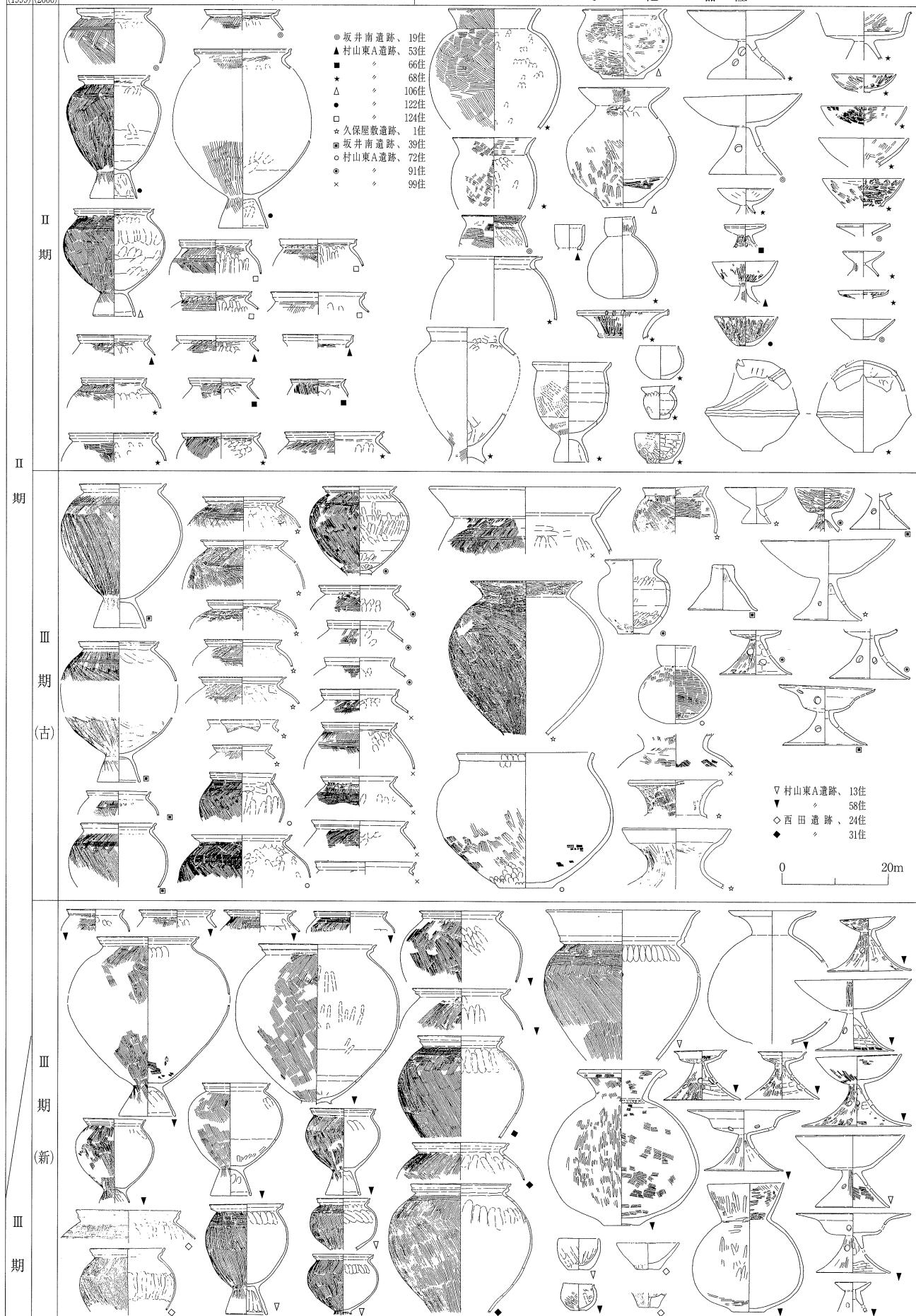
本期の細分については『坂井南遺跡』の中で、B・C類相当が2細分の可能性が指摘されている（山下孝司1988『坂井南』韮崎市教育委員会）。その後、坂井南遺跡第4～6次調査の中で同じく2細分の可能性が指摘されている（小林健二1998『坂井南Ⅲ』韮崎市教育委員会）。小林健二氏は東海考古学フォーラムの中で、南アルプス市（旧櫛形町）の村

前東A遺跡の出土例等を検討する中で、「B類中段階併行期（小林Ⅱ期）」・「B類新段階～C類併行期（小林Ⅲ期）」の大きく2期を設定し、さらに後半段階を古相と新相に細分している。これまで少なかったB類中段階の資料の増加により、「B群中段階併行期（小林Ⅱ期）」が現実的な時間幅として認識されたことによる。新古相については、横ハケを消失しながら体部球胴という古い様相を持つ形態と横ハケのある形態との共存が、村前東A遺跡や西田遺跡で出土状況を検討する中で把握されたことによる（小林健二2000「甲斐のS字甕を考える」『S字甕を考える』東海考古学フォーラム）。この小林氏による2大別3細分（「小林Ⅱ期・小林Ⅲ期古相・小林Ⅲ期新相」）が近年の研究の中で最も時間細分されている（第96図）。

宿尻第2遺跡では、小林Ⅱ期と小林Ⅲ期古相をわける積極的な資料は得られていないが、小林Ⅲ期の新古の細分は前述のとおり時間幅として十分細分が可能と考えられる。一方で本遺跡において小林Ⅲ期（B類新段階～C類併行期）と小林Ⅳ期（D類併行

S字甕

その他の器種



第96図 県内のⅡ期～Ⅲ期の土器変遷図（小林2000を元に作成）

期)が継続しているにもかかわらず、本遺跡と比較的距離の近い坂井南遺跡ではC類相当とD類相当の共伴事例がないなど、小林Ⅲ期の細分が不分明な遺跡があることも事実である。遺跡ごとの時間幅の違いをどのように位置づけていくのかが今後の課題となろう。

②住居跡内出土の石器について

古墳時代前期の堅穴住居跡内から石器が出土している。すでに報告したように、堅穴住居跡覆土内から当該期以外の土器の出土はまれであり、出土石器は古墳時代前期の所産の可能性が高い。これまでの研究で取り扱われることの少ない古墳時代前期の石器について、韮崎市内の例を取り上げ、若干の見解を述べておきたい。

ここでは出土状況の把握が可能なものを基本的に取り上げることとする。取り上げる遺跡は坂井南遺跡・宿尻遺跡・後田遺跡・立石遺跡・伊藤窪第2遺跡と本遺跡の計6遺跡である。

坂井南遺跡は本遺跡と同じく七里岩台地上に占地する。

Ⅲ-7号堅穴住居跡で出土位置は不明だが石包丁と球形の磨石が出土している(以下「I」は1・2次調査報告書『坂井南』1986山下孝司・「II」は3次調査報告書『坂井南』1988山下孝司・「III」は4~6次調査報告書『坂井南遺跡Ⅲ』1997山下孝司他を示す)。

Ⅲ-12号堅穴住居跡では砥石1点、凹石1点と錐状石器2点が報告されている。錐状石器については出土位置が不明であることから分析から除外する。砥石は壺形土器の胴下半部の内部から出土している。凹石は図面および写真から判断すると壺形土器と同位置で床面に接した状況で出土している。出土土器の多くが床面より高い位置から出土していることを考えると本住居が使用されていた段階ないしは廃棄直後の遺物といえる。凹石を観察したところ縄文時代の遺構から出土する凹石との違いを認めることができない。しかし、同住居跡の覆土から縄文土器の出土はなく、凹石の出土を縄文時代の遺物の混入と断定することはできない。

この他に出土位置が不明だが、やや小ぶりの川原石を磨石として使用した石器はⅢ-16・19・22号住居跡、打製石斧状の石器はⅢ-1・10・14号住居跡、球形の磨石もしくは叩き石はⅢ-1号住居跡から出土している。

坂井南遺跡は縄文時代の集落跡として著名な坂井遺跡の南側に位置することから、縄文時代の石器が

混入することも十分ありうるが、出土状況を確認したⅢ-12号住居跡などは古墳時代前期の石器として認識すべきである。

伊藤窪第2遺跡は七里岩台地上に占地し、本遺跡から東に2km先にある。堅穴住居跡が1軒確認されているが、石器の報告はない。

立石遺跡は七里岩台地と塩川にはさまれた通称藤井平に位置し、七里岩台地上に所在する遺跡との比高差は約100mである。2軒の堅穴住居跡を確認している。いずれもⅣ期に相当する。6号住居跡では床面に接して「平石」(台石か)3点が出土している。7号住居跡では炉に関連するが枕石2点と「平石」1点が出土している。この例は炉の構築物として取り扱うべきかも知れない。なお、資料についての詳細は報告されていない。

後田遺跡は立石遺跡の南に位置し、塩川の低位段丘面上に占地する。2軒の堅穴住居跡を確認している。いずれもⅠ期に相当する。C区5号住居跡の炉には枕石が用いられている。遺物出土状況写真から堅穴内に礫など出土しているが石器かどうかは不明である。

出土状況等が不明であり、住居に伴うものであるか判断しかねる事例が多いものの、住居内土坑や住居床面から出土する事例も確実に存在する。

以上のように古墳時代の石器として積極的に取り扱うべき種類としては、編石状石器(出土状況の検討が不可欠である。特に氾濫原など遺跡内の地山に礫が含まれる場合などは安易に編石状石器とすべきではない。細長い礫が地山に含まれない地域で出土した場合には少数の出土であっても積極的に石器として捉えるべきである)・叩石・磨石・凹石・打製石斧・石包丁・砥石・台石などを挙げることができる。

器種組成の特徴としては、石包丁や砥石など穀物類の収穫や鉄製品の加工など原始狩猟採集民では使用されない道具が含まれることである。一方で從前から使用された道具も見られる。叩石・磨石・凹石・台石などである。縄文時代以来の器種であり、古墳時代の堅穴住居跡から出土した場合に、混入という扱いを受けるかまたは対象物に違いがあることが想定されている。

古墳時代前期といえば稻作がもたらされてから時は経ち、北巨摩地域でも稻作が開始されていたことは宮ノ前遺跡で弥生時代の水田跡が発掘されていること(『宮ノ前遺跡』1992)からも疑う余地はない。しかし、集落の居住者が完全に稻作に依拠していた

か、また北巨摩地域のほぼ全域が稻作可能であったのかは不明な点が多い。

まず、水田跡は確認されているものの極めて少ない、調査精度の問題もあるがそれを加味しても少ないことは厳然たる事実として認めざるをえない。また、水耕作に適した藤井平において古墳時代の集落跡は非常に少なく、七里岩台地上で坂井南遺跡や宿尻第2遺跡など規模の大きい集落跡が確認されている。居住地・墓域と生産域が現在のように空間的に広範囲に及ぶことも考える必要もある。しかし、七里岩台地上の遺跡と藤井平との距離は、日常的な生活上の効率性からかけ離れており、生業の中心が稻作であったことを現状の資料では積極的に評価できない。

北巨摩地域ではS字甕D類相当を伴う段階以降に遺跡の分布が広がる。S字甕A類～C類相当を伴う古い段階の遺跡は韋崎市の北限とほぼ重なり、八ヶ岳山麓・茅ヶ岳山麓・甲斐駒岳山麓ではみられない。ちなみに、用水施設の整った現在にあっても、北巨摩地域での水稻耕作は限定されている。

山梨県内での遺跡の分布状況を検討すると、弥生時代後期では曾根丘陵上・旧御勅使川扇状地・藤井平に遺跡が見られる。その後、古墳時代に入り、徐々に山間部（高標高）にまで遺跡が拡大する傾向がある。水耕作に適した低位段丘面を中心に遺跡があることは、水耕に依拠していたことを間接的に示している。しかし、北巨摩地域の場合現在の状況をみてもわかるが、決して水稻耕作に適した土地が多いわけではない。

北巨摩地域において古墳時代前期の遺跡が多くないことは、それだけ自然に対する開発行為の少なかったことを示すとともに無謀なことではな

い。そのような環境の中で、稻作依存型食糧獲得システムとは異なるシステム（畑作・管理栽培・狩猟採集など）の存在を考えることはできないだろうか。

第2節 古墳時代前期の集落様相

すでに報告したとおり、古墳時代前期（県史Ⅱ～Ⅲ期）に集中しており、その前後する段階の遺構・遺物は調査区内では確認されなかった。第5表は出土器から判断した各住居の所属時期を示したものである。「Ⅱ」はS字甕B・C類相当及びC類・D類相当が堅穴内で混在する段階を示し、出土遺物内容から細分にいたらず、大枠としての時期区分である。「Ⅱ～Ⅲ」はS字甕B・C類相当からD類相当の段階と考えられるが、細分しきれないものであり、「Ⅱ」よりもさらに大きな枠組みとして捉えざるをえない時期区分である。「古墳前」は古墳時代前期（S字甕の使用が認められる段階）全般を示す。なお、S字甕A類相当は今回の調査で出土していないことから「Ⅱ～Ⅲ」と捉えることも可能であるが、時期決定根拠が薄いことから分けておく。「Ⅱ新」は前節で示したS字甕C類の中でもやや新しい要素がみられる段階であり、「Ⅱ」を細分できたものである。同様に「Ⅱ新～Ⅲ古」は「Ⅱ」を細分できたものであり、前節で示したS字甕B・C類相当とD類相当が混在する。

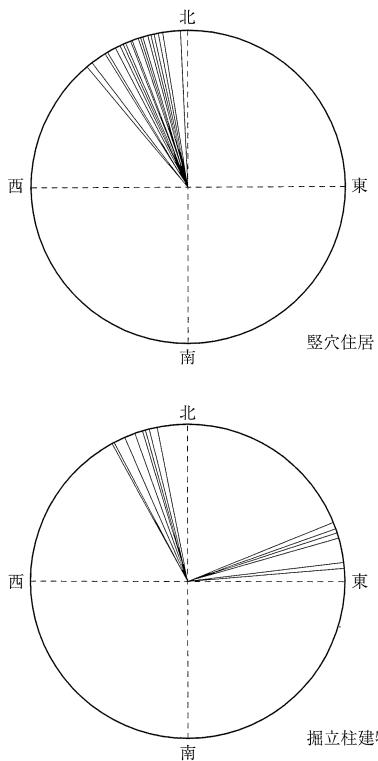
このように、土器細分に対比しきれない住居跡の存在、掘立柱建物跡所属細分時期の不確定や土器細分内での重複関係の存在などから、細分時期ごとの集落様相を提示することは非常に困難なことは認めざるをえない。そこで、Ⅱ期（Ⅲ期前半も含めて）という限定された時期の住居及び掘立柱建物の傾向

遺構名	時期（県史）	深浅
1住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
2住	Ⅱ	深
2B住	Ⅲ古	浅
3住	Ⅱ新～Ⅲ古	浅
5住	Ⅲ	浅
6住	古前	深
7住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
8住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
9住	古前	浅
10住	Ⅱ新	浅
11住	Ⅱ	浅
12住	Ⅲ古	深
13住	Ⅱ	浅

遺構名	時期（県史）	深浅
14住	Ⅱ	浅
15住	Ⅱ～Ⅲ	深
16住	Ⅱ新	深
17住	Ⅱ新	深
18住	Ⅱ～Ⅲ	浅
19住	古前	浅
20住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
21住	Ⅱ～Ⅲ	深
22住	Ⅱ～Ⅲ	浅
23住	Ⅱ～Ⅲ	浅
24住	Ⅱ新	深
26住	Ⅱ新～Ⅲ古	浅
28住	Ⅱ～Ⅲ	浅

遺構名	時期（県史）	深浅
29住	Ⅱ～Ⅲ	深
30住	古前	浅
31住	Ⅱ～Ⅲ	深
32住	Ⅱ～Ⅲ	深
33住	Ⅱ～Ⅲ	浅
34住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
35住	Ⅱ～Ⅲ	浅
36住	Ⅱ～Ⅲ	深
37住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
38住	Ⅱ新～Ⅲ古	深
39住	Ⅱ～Ⅲ	浅
40住	古前	浅

第5表 住居別時期



第97図 豊穴住居・掘立柱建物主軸方位

をまとめることとする。

豊穴住居跡

形態は隅のやや丸い方形であることは共通している。床面までの深さは浅いものと深いものの2種類に分けることが可能である（古墳時代の生活面がほぼ残っている地点は違いが明瞭であるが、残っていない地点では感覚的な違いであることは否めない）。深いもの19軒、浅いもの19軒と同数である。床面までの深度以外の構造も異なり、浅いものは床面が極めて脆弱であり柱穴の確認できない場合が大多数を占める。豊穴内の遺物も少なく、深度の違いによる豊穴の役割の違いが存在する可能性がある。

主軸方位は第97図に示したように概ね同一方向である。掘立柱建物跡の主軸方位が東西方向と南北方向の大きく2つに分かれることに対して、豊穴の主軸の一貫性が認められる。

掘立柱建物跡

16棟を確認している。掘立柱建物跡とは確定できていないものの類似した柱跡があり、さらに数棟の掘立柱建物が調査区内に存在したものと考えられる。掘立柱建物跡の柱の掘り方は方形である。これまで山梨県内で方形の掘り方は奈良・平安時代以降の遺跡で確認されることが多く、古墳時代では円形が主体であり、方形は管見ではない。さらに古墳時代前期の掘立柱建物自体確認例が極端に少ない。弥

生時代後期段階を含めても少なく、静岡県東部の同時期の遺跡と同様に、豊穴住居と掘立柱建物の比率が8:1程度である（『山梨県史』）。これに対し、当遺跡では調査区範囲が道幅と限定されるものの、38軒に対し16棟であり、高い比率で存在する。再確認の意味で掘立柱建物跡の所属時期決定の判断基準を示しておきたい。

古墳時代前期の豊穴住居跡と重複し、明らかに古いこと（貼床をはずした段階で柱穴の平面プランを確認した場合）が把握できるものである。弥生時代にまで遡る可能性もあるが、調査区内から典型的な弥生土器は出土していないことから、遡っても弥生時代終末であり、概ね豊穴住居の時期と併行するといえる。また、豊穴住居跡と重複していないことから時期決定が困難なものに関しては、周辺の出土遺物が古墳時代前期にほぼ限定されることや豊穴住居跡と重複するものと構造的に類似することなどから、同時期と捉えることができる。

共伴する遺物が皆無であることから詳細な時期決定には至らないが、古墳時代前期（S字甕B・C類相当の段階前後）に方形の掘り方を伴う掘立柱建物跡が甲斐国内に存在することを把握した。このような構造を持つ同時期の掘立柱建物跡は県内では確認されていない。掘り方を方形に掘削するという行為の系譜が明らかになることで、土器以外の文化要素の流れが見えてくるのではないだろうか。また、布堀を持つ掘立柱建物跡があるが、報文中に示したとおり、古墳時代前期では全国的にも少ない。規模は異なるが弥生時代に盛行した大型掘立柱建物跡にその形態の類似する例（日本考古学協会編2003『2003年滋賀大会資料集』）もあり、関連性の検討は今後必要であろう。

このように、他遺跡と比較して遺存状況が良好であったことから、浅い住居と深い住居が共存する可能性、さらに方形の掘り方を持つ掘立柱建物も共存する可能性が見えてきた。また、今後の検証も必要であるが、豊穴内から土壁ないしは土屋根の燃焼したものと捉えることのできる焼成粘土塊などが出土しており、建物構造に迫る資料もある。

第3節 胡桃と桃の種子について

2号豊穴住居跡の南東隅から大量に炭化種子が出土している。その状況は第3章で報告したとおりである。当遺跡に限らず桃や胡桃の炭化種子が出土す

ることは決して珍しいことではない。山梨県内では、新津氏がまとめたように、桃に関しては弥生時代前半から確実に存在していたことが知られている（新津健1999「遺跡から出土するモモ核について」『論集IV』山梨県考古学協会）。桃という主食とは成りえない食料という点や桃以外の種子がほとんど出土しない点などから、神聖な食物として捉えられている。これは、考古学的な立場ではなくても、文献史学側でも論じられていることであり、『古事記』や『日本書紀』中の、よもつひら坂の話はあまり有名である。

神聖な食物であるが、遺跡からこのような種子が出た際にその意味を考えたとき、前述した神話に必要以上に強く影響されていないであろうか。もちろん神聖な食物として取り扱われたこと自体を否定するわけではないが、果たして単一的な見解で理解するだけよいのか。

オニグルミは周知のとおり食用として縄文時代以降食されてきたものである。桃は果実を食すが種子を食用としないということが一般概念として存在している。しかし、自然科学分析の中で指摘されているとおり、核の中にある仁（種子）が食用とされている事実がある。このように、桃は果実部分の食用や神聖な食物として存在する以外に、種子食用の可能性がある。

今回の出土例は竪穴住居跡の隅からまとめて大量に出土しており、周辺にミニチュア土器があるなど祭祀性が強いことも否定できない。一方で、大量出土であることから、竪穴内から数個出土する通常の祭祀と同一視することはできない。ミニチュア土器とも一旦切り離して考え、食用食物としての貯蔵といった視点で検討を試みることとする。

2号竪穴住居跡の炭化物集中地点の土壤サンプル分析の結果、オニグルミ245点以上と桃210点以上の存在が報告された。土壤中には不明の炭化材が含まれていたが、穀物類などの他の種子は検出されていない。このことから、オニグルミと桃を選択してひとまとめりとしていたといえる。炭化物集中の意味を考えていく上で重要なことは、種子の状態なのか果実の状態であったのかである。

炭化している以上、果実の柔らかい部分はすでに残っておらず、確認しようがない。そこで、果実であった場合、報告された最低点数でのおよその容量がどの程度になるかを検討した。

現生種の果実の大きさは直径5～7cmである

（北村四郎・村田源1979『原色日本植物図鑑・木本編II』保育社）。体積は1個あたり65～175cm³で、210個以上となると13,650～36,750cm³の量になる。出土品等をいれる通常のプラ箱でほぼ1箱分ということになる。果実同士の隙間や重みによる損傷を回避することを考えれば、それ以上となる。いかに保管しても、この量が被熱し崩れた結果を想定すると、発掘した状況とはなり得ないことは容易に想像がつく。保管の状況としては種子の状態ということになる。共伴するオニグルミは秋に収穫されることから、保管時期は秋以降と考えられる。桃果実の採取時期は夏で、オニグルミ採取時期の秋まで果実のまま保管することは不可能なことは明らかである。保管時期が同時と考えるのであれば、やはり核の状況での保管と考えた方が妥当といえる。

食料として貯蔵されていたのであれば、これだけの量が残っていることを考慮すると貯蔵直後から冬の間に、炭化する状況が起きたのではないか。炭化する状況として想定できるのは大きく分けて次の5つである。

- 1 故意に貯蔵物を焼く
- 2 不慮の事故による貯蔵物の焼失
- 3 故意に竪穴住居を焼失させた際に焼けた
- 4 故意に竪穴住居跡を焼失させた際に焼けた
- 5 不慮の事故による竪穴住居焼失の際に焼けた

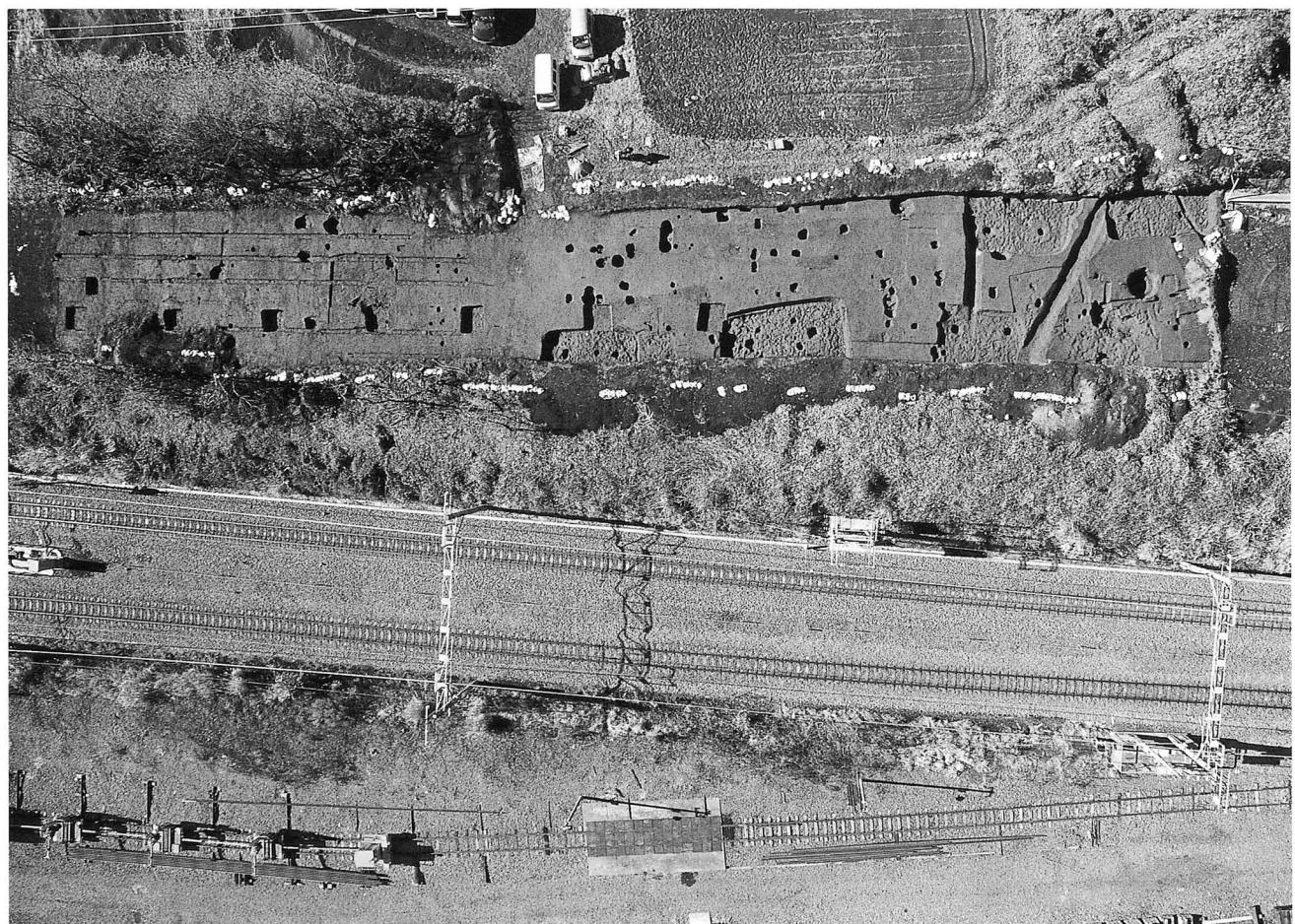
竪穴住居跡内から垂木などの上部構造を示す木材の炭化したものは見られず、貯蔵物の炭化と竪穴住居（跡）の上屋構造物の炭化は同時ではないといえ、3～5の状況は考えにくい（上屋構造物の完全焼失が考えられないこともないが、その場合貯蔵物も当然遺存しないであろう）。2の場合、竪穴内で小規模な火事が発生したことになるが、竪穴住居への延焼を防ぎ消火したことになる。消火後に竪穴内に住まうには当然焼けたものは片付けると想定できることから、この状況も考えられない。消去法であるが、1の故意に貯蔵物を焼いたことが想定できる。

いくつかの点について指摘したが、本遺跡に内在する意義は以上に取り上げた内容のみでない。例えば、布掘の掘立柱建物跡の位置づけ、長さ70cmを越す竪穴住居の建物構造や隣接する遺跡との関係などである。これらについては時間的な都合でまとめられないが、遺跡の歴史的な位置づけを行なうためには必要不可欠であり、来年度以降実施予定の穴山バイパス建設予定地における発掘調査成果も踏まえながら今後の検討課題としたい。

写 真 図 版



調査区北部 全景（北から）

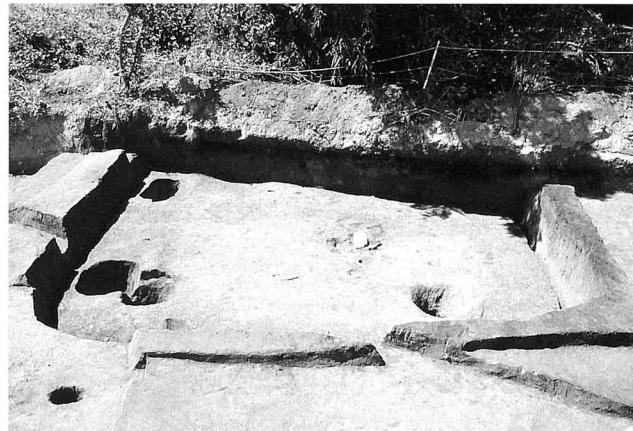


調査区中央部 全景（東から）

図版 2



調査区南部 全景（北から）



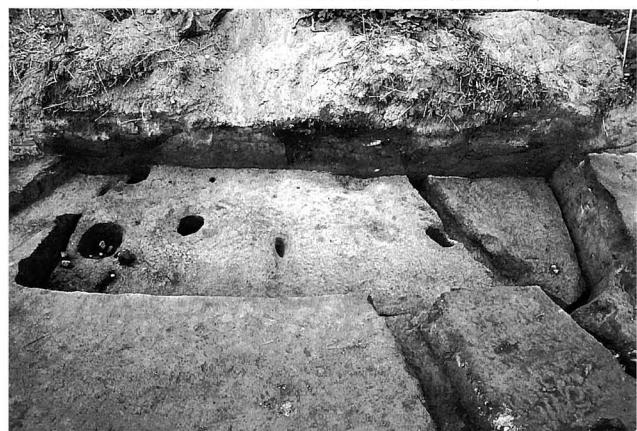
1号竖穴住居跡 全景（東から）



1号竖穴住居跡 掘り方全景（東から）



1号竖穴住居跡 炉（南から）



2号竖穴住居跡 全景（東から）



2号竪穴住居跡 南東隅炭化物出土状況（北から）



2号竪穴住居跡 南東隅炭化物出土状況近接（北から）



3号竪穴住居跡 全景（東から）



3号竪穴住居跡 遺物出土状況（北から）



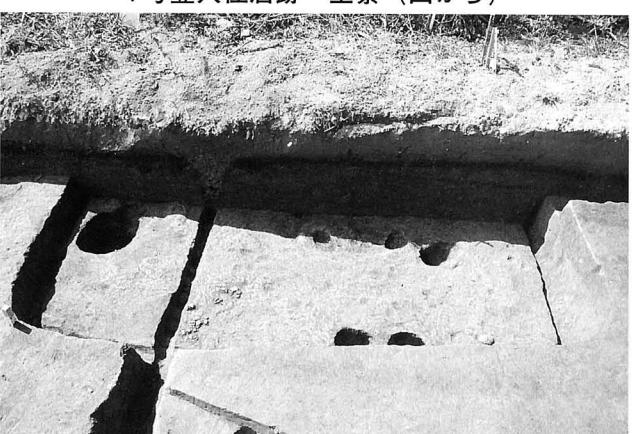
3号竪穴住居跡 掘り方全景（西から）



4号竪穴住居跡 全景（西から）

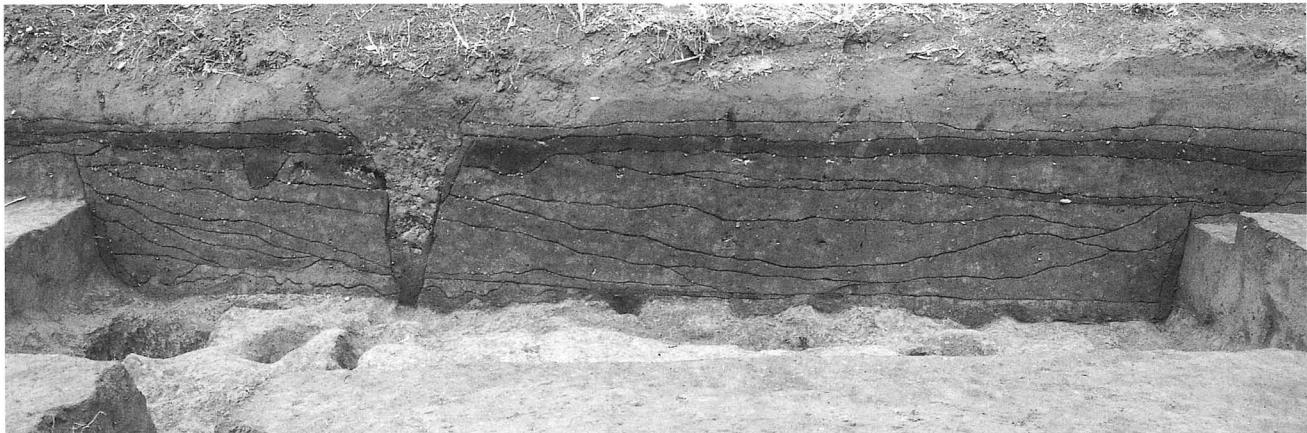


5号竪穴住居跡 掘り方全景（西から）



7号竪穴住居跡 全景（東から）

図版 4



7号竪穴住居跡 埋土堆積状況（東から）



7号竪穴住居跡 1号土坑遺物出土状況（北から）



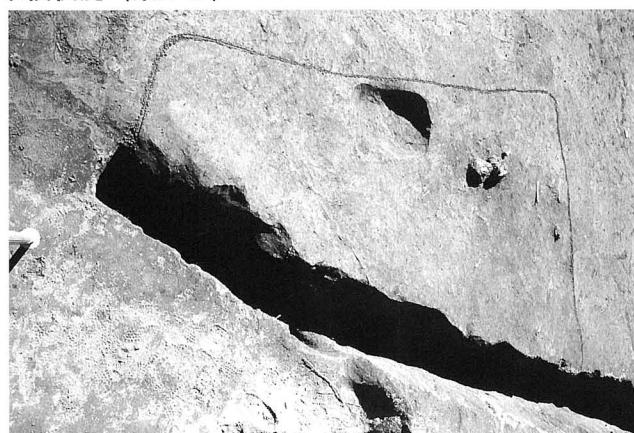
8号竪穴住居跡 全景（東から）



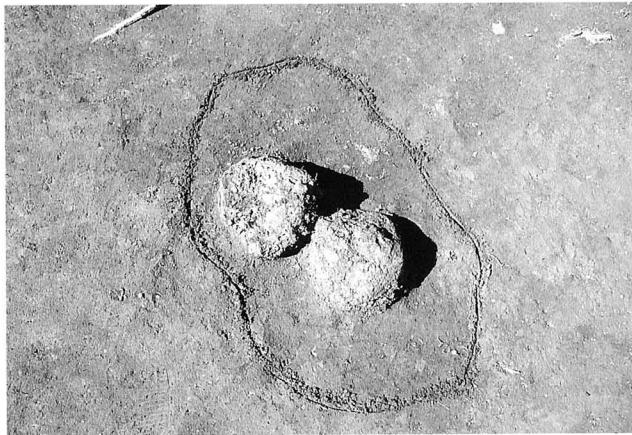
8号竪穴住居跡 埋土堆積状況（東から）



8号竪穴住居跡 遺物出土状況（北から）



9号竪穴住居跡 全景（東から）



9号竪穴住居跡 生粘土塊出土状況（南から）



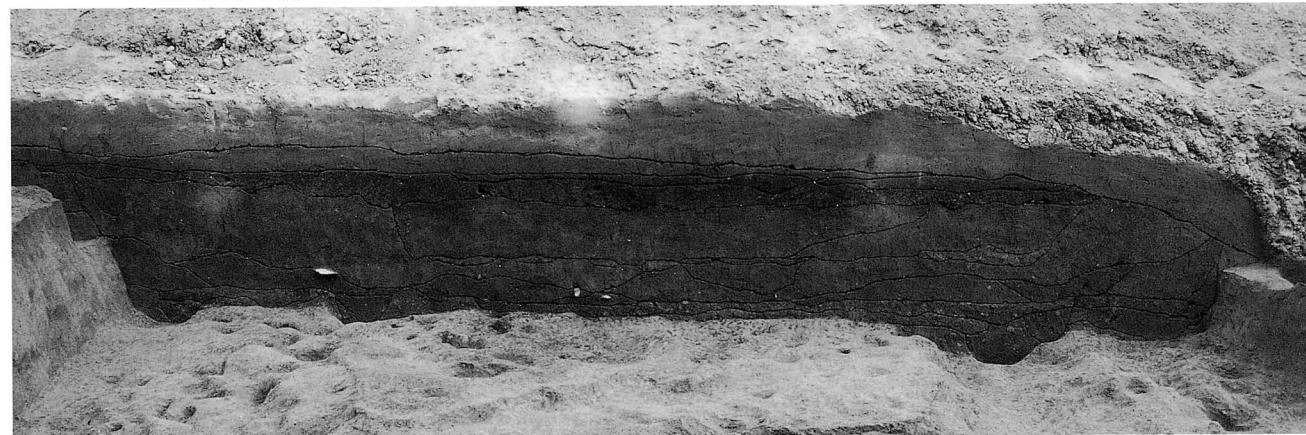
11号竪穴住居跡 掘り方全景（東から）



12号竪穴住居跡 全景（西から）



12号竪穴住居跡 掘り方全景（東から）



10・12号竪穴住居跡 埋土堆積状況（西から）

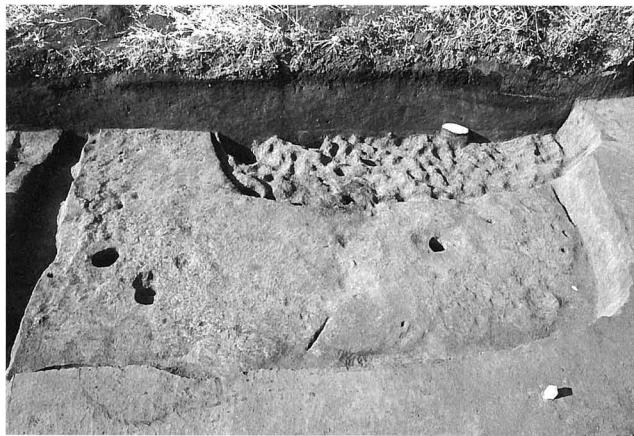


16号竪穴住居跡 全景（西から）



16号竪穴住居跡 掘り方全景（南東から）

図版 6



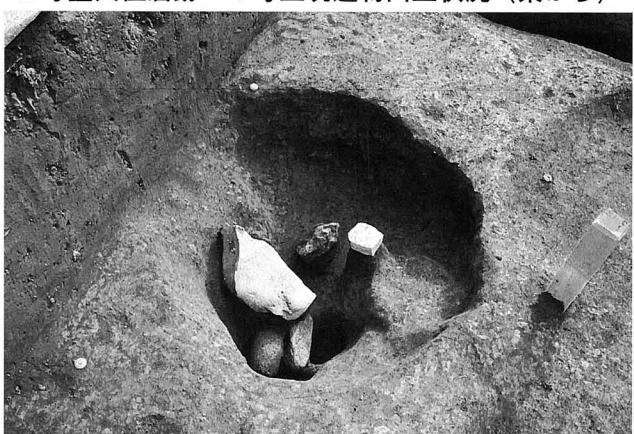
17・20号竪穴住居跡 掘り方全景（東から）



17号竪穴住居跡 1号土坑遺物出土状況（東から）



21号竪穴住居跡 全景（西から）



21号竪穴住居跡 1号ピット遺物出土状況（西から）



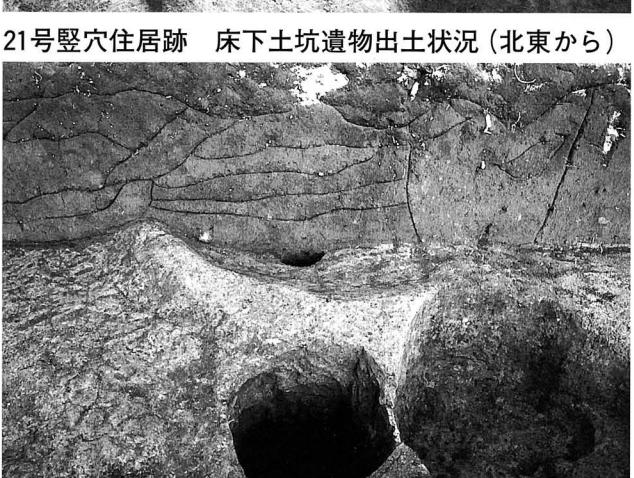
21号竪穴住居跡 2号ピット遺物出土状況（西から）



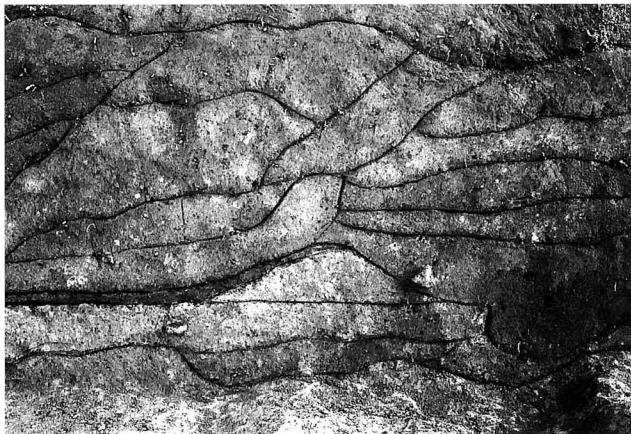
21号竪穴住居跡 床下土坑遺物出土状況（北東から）



25号竪穴住居跡 全景（西から）



25号竪穴住居跡 南部埋土堆積状況（西から）



25号竪穴住居跡 南部埋土堆積状況近接（西から）



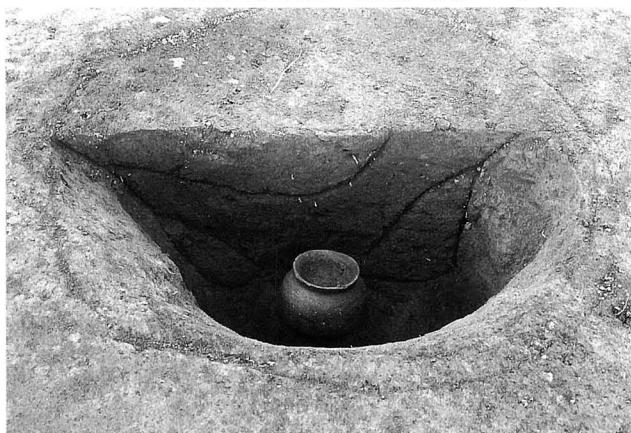
28号竪穴住居跡 全景（東から）



29～31号竪穴住居跡 全景（南から）



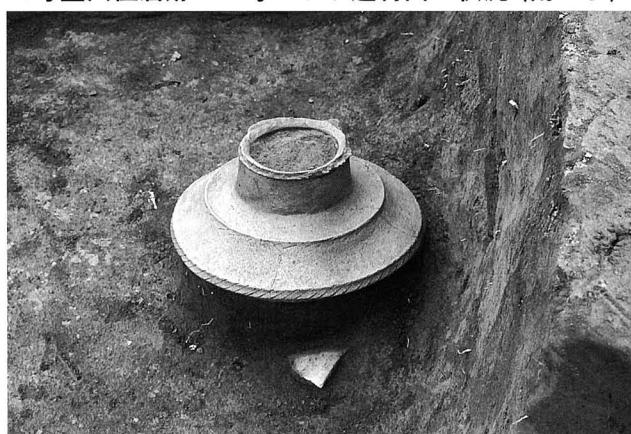
29号竪穴住居跡 全景（西から）



29号竪穴住居跡 1号ピット遺物出土状況（南から）



31号竪穴住居跡 全景（南西から）



31号竪穴住居跡 北壁周辺遺物出土状況（北から）



32号竪穴住居跡 全景（東から）

図版 8



34号竪穴住居跡 全景（西から）



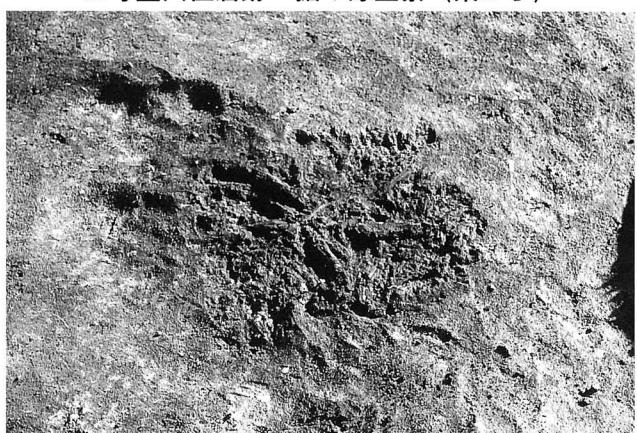
34号竪穴住居跡 1号土坑遺物出土状況（西から）



35号竪穴住居跡 掘り方全景（東から）



36号竪穴住居跡 全景（東から）



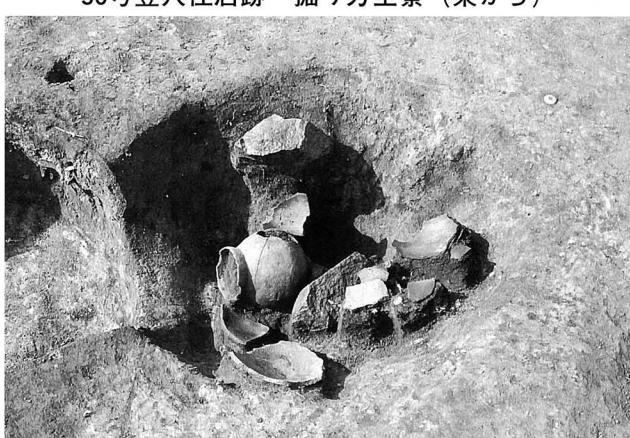
36号竪穴住居跡 南東隅周辺の炭化物出土上状況（西から）



36号竪穴住居跡 掘り方全景（東から）



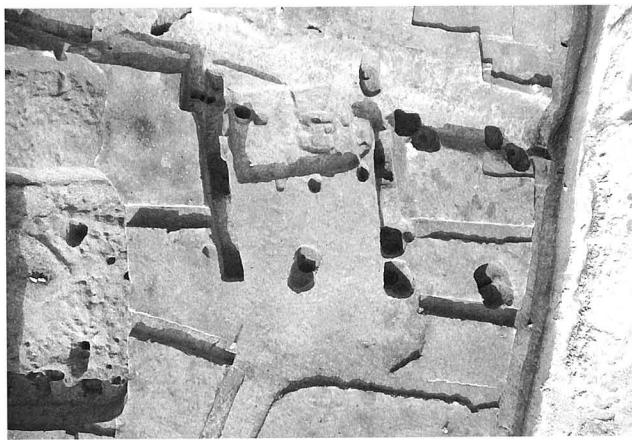
37・38号竪穴住居跡 全景（東から）



38号竪穴住居跡 1号土坑遺物出土状況（東から）



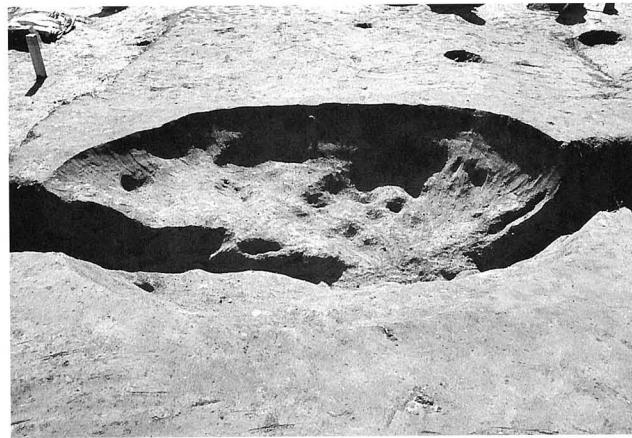
1号掘立柱建物跡 全景（北から）



2～4号掘立柱建物跡 全景（北から）



11号掘立柱建物跡 全景（南から）



E 6グリッド内1号土坑 全景（北から）



K 34グリッド内1号土坑 遺物出土状況（東から）



井戸跡 石組み状況（南から）



4号溝 埋土堆積状況（東から）



G 10グリッド内1号土坑 全景（北から）

図版10



4号溝 全景（西から）



4号溝階段状遺構（西から）



1・2号竪穴住居跡内出土遺物



3号竪穴住居跡内出土遺物



7号竪穴住居跡内出土遺物



8・10・12号竪穴住居跡内出土遺物



17・21号竪穴住居跡内出土遺物



29・31・32・23号竪穴住居跡内出土遺物



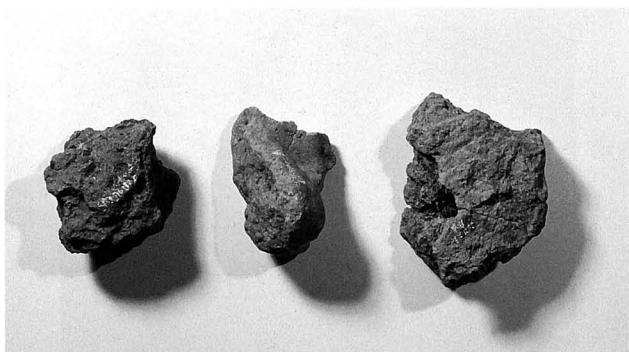
34号竪穴住居跡内出土遺物



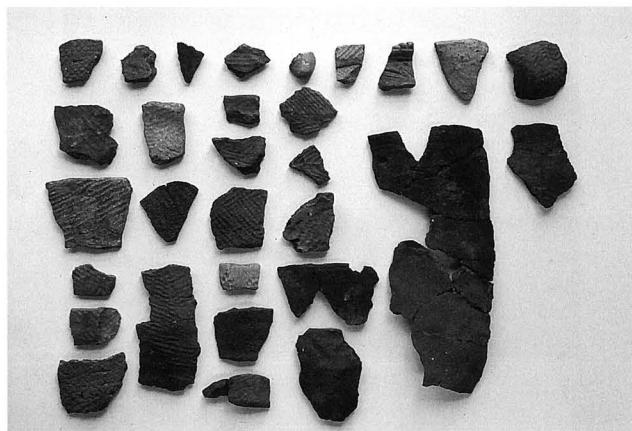
36・38号竪穴住居跡内出土遺物



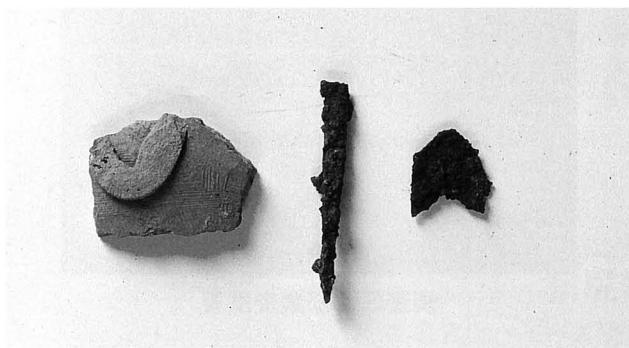
34 K グリッド内 1号土坑出土土器



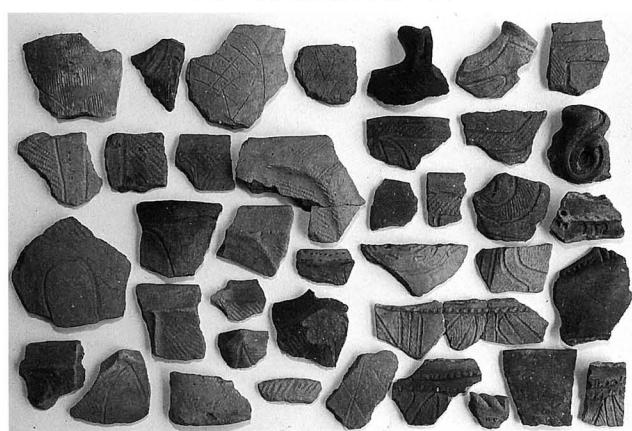
16・21号竪穴住居跡内出土土壁状焼成粘土塊



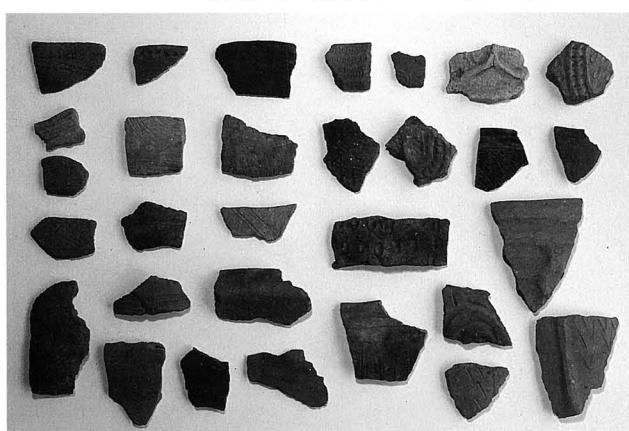
縄文時代前期初頭土器



18・8・36号竪穴住居跡出土 土器・鉄鎌



縄文時代中～後期土器



縄文時代中期土器

図版12



31号竪穴住居調査風景



29号竪穴住居周辺調査風景



8号竪穴住居跡調査風景



調査区北部調査風景



29号竪穴住居跡 1号ピット調査風景



参加調査メンバー

報告書抄録

ふりがな	しゅくじりだいにいせき								
書名	宿尻第2遺跡								
副書名	県道茅野小淵沢峠崎線（穴山バイパス）建設に伴う緊急発掘調査報告書								
編著者名	閨間俊明、河西学、内山幸子、パリノ・サーヴェイ株式会社								
編集機関	峠崎市教育委員会								
発行機関	峠崎市教育委員会								
住所	〒407-8501 山梨県峠崎市水神1丁目3番1								
発行年月日	2004(平成16)年3月25日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号						
しゅくじりだい にいせき	にらさきしあな やまちょうあざ しゅくじり	19207	S-1	35°45'12"	138°24'46"	2002年4月 1日～ 2004年3月 31日 (整理等含む)	2,600m ²	県道建設	
宿尻 第2遺跡	峠崎市穴山 町字宿尻								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項			
宿尻 第2遺跡	集落跡	縄文時代	土坑		縄文土器・石器他				
		古墳時代	竪穴住居跡・掘立柱建物 跡・溝		土師器・石器	布掘立柱建物跡・建物 構造に関連する焼成粘土 塊など			
		平安時代	竪穴住居跡		土師器・石器				
	耕地等	近世以降	土坑・溝		陶磁器他	連続方形土坑			

Shukujiri No.2 Site

宿尻第2遺跡

県道穴山バイパス建設に伴う発掘調査報告書

発行日 平成16(2004)年3月31日

発行 峠崎市教育委員会

〒407-8501 山梨県峠崎市水神1-3-1

TEL 055-22-1111 (内224)

印刷 株式会社 サンニチ印刷

〒400-0058 山梨県宮原町608-1

TEL 055-241-1111

